

基本計画書

基本計画									
事項	記入欄								備考
計画の区分	学部の学科の設置								
フリガナ設置者	カクヨウホジツン コウナンガクエン 学校法人 甲南学園								
フリガナ大学の名称	コウナンダいがク 甲南大学								
大学本部の位置	兵庫県神戸市東灘区岡本八丁目9番1号								
大学の目的	学術の府として広くかつ深く学芸を教授研究するとともに、学生一人ひとりの天賦の特性を啓発し人物教育率先の甲南学園建学の理念を実現することを目的とする。								
新設学部等の目的	専門的な知識と量子技術を持つ技術者として、宇宙産業や半導体産業に加え、通信・医療・交通・金融など、理工系の枠を超えた幅広い分野で活躍できる人材を養成することを目的とする。								
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位	学位の分野	開設時期及び開設年次	所在地
	理工学部	年	人	年次人	人			年 月 第 年次	
	宇宙理学・量子 物理工学科 計	4	45	—	180	学士（理学又は工学）	理学関係 工学関係	令和8年4 月第1年次	兵庫県神戸市東 灘区岡本8丁目9 番1号
同一設置者内における 変更状況 （定員の移行、 名称の変更等）	<p>○学部等設置</p> <p>理工学部</p> <p style="padding-left: 20px;">物質化学科 (45) (令和7年4月届出予定)</p> <p style="padding-left: 20px;">環境・エネルギー工学科 (40) (令和7年4月届出予定)</p> <p>○研究科等設置</p> <p>自然科学研究科</p> <p style="padding-left: 20px;">環境・エネルギー工学専攻(M) (3) (令和7年4月届出予定)</p> <p style="padding-left: 20px;">環境・エネルギー工学専攻(D) (1) (令和7年4月届出予定)</p> <p>○入学定員変更</p> <p>経済学部</p> <p style="padding-left: 20px;">経済学科〔定員減〕(△10) (令和8年4月)</p> <p>経営学部</p> <p style="padding-left: 20px;">経営学科〔定員減〕(△10) (令和8年4月)</p> <p>○廃止</p> <p>理工学部</p> <p style="padding-left: 20px;">物理学科 (廃止) (△50)</p> <p style="padding-left: 20px;">機能分子化学科 (廃止) (△60)</p> <p style="padding-left: 20px;">※令和8年4月学生募集停止</p>								

	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数				
		講義	演習	実験・実習	計					
教育課程	理工学部 宇宙理学・量子物理工学科 (宇宙理学コース)	218科目	11科目	15科目	244科目	128単位				
	理工学部 宇宙理学・量子物理工学科 (量子物理工学コース)	218科目	11科目	15科目	244科目	128単位				
	理工学部 宇宙理学・量子物理工学科 (文理融合コース)	218科目	13科目	15科目	246科目	128単位				
学部等の名称		基幹教員					助手	基幹教員以外の教員 (助手を除く)		
		教授	准教授	講師	助教	計				
新設	理工学部 宇宙理学・量子物理工学科	7 (9)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	8 (10)	0 (0)	273 (288)		
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	7 (9)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	8 (10)	/	/		
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの (aに該当する者を除く)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)				
	小計 (a～b)	7 (9)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	8 (10)				
	c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの (a又はbに該当する者を除く)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)				
	d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの (a, b又はcに該当する者を除く)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)				
	計 (a～d)	7 (9)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	8 (10)				
	理工学部 物質化学科	6 (7)	1 (1)	1 (1)	0 (0)	8 (9)			0 (0)	264 (295)
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	6 (7)	1 (1)	1 (1)	0 (0)	8 (9)			/	/
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの (aに該当する者を除く)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)				
小計 (a～b)	6 (7)	1 (1)	1 (1)	0 (0)	8 (9)					
c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの (a又はbに該当する者を除く)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)					
d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの (a, b又はcに該当する者を除く)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)					
計 (a～d)	6 (7)	1 (1)	1 (1)	0 (0)	8 (9)					

大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数 6人

令和7年4月届出済み(予定)

大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数 6人

新 設 分	理工学部 環境・エネルギー工学科	7 (7)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	8 (8)	0 (0)	263 (284)	令和7年4月届出 済み(予定) 大学設置基準別 表第一イに定め る基幹教員数の 四分の三の数 6 人
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、主要授業科目を担当するもの	7 (7)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	8 (8)			
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの(aに該当する者を除く)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	小計(a~b)	7 (7)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	8 (8)			
	c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当す るもの(a又はbに該当する者を除く)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、か つ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事す る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	計(a~d)	7 (7)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	8 (8)			
計	20 (23)	3 (3)	1 (1)	0 (0)	24 (27)	0 (0)			— (—)
既 設 分	文学部 日本語日本文学科	9 (9)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	9 (9)	0 (0)	448 (448)	大学設置基準別 表第一イに定め る基幹教員数の 四分の三の数 5 人
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、主要授業科目を担当するもの	9 (9)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	9 (9)			
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの(aに該当する者を除く)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	小計(a~b)	9 (9)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	9 (9)			
	c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当す るもの(a又はbに該当する者を除く)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、か つ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事す る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの(a、b又はcに該当する者を除く)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	計(a~d)	9 (9)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	9 (9)			
文学部 英語英米文学科	8 (8)	1 (1)	2 (2)	0 (0)	11 (11)	0 (0)			404 (404)
a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、主要授業科目を担当するもの	8 (8)	1 (1)	2 (2)	0 (0)	11 (11)				
b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの(aに該当する者を除く)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)				
小計(a~b)	8 (8)	1 (1)	2 (2)	0 (0)	11 (11)				
c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当す るもの(a又はbに該当する者を除く)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)				
d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、か つ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事す る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)				
計(a~d)	8 (8)	1 (1)	2 (2)	0 (0)	11 (11)				

設	文学部 社会学科	9 (9)	1 (1)	2 (2)	0 (0)	12 (12)	0 (0)	422 (422)	大学設置基準別表第一イに定める 基幹教員数の 四分の三の数 5 人
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	9 (9)	1 (1)	2 (2)	0 (0)	12 (12)			
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	小計（a～b）	9 (9)	1 (1)	2 (2)	0 (0)	12 (12)			
	c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	計（a～d）	9 (9)	1 (1)	2 (2)	0 (0)	12 (12)			
	文学部 人間科学科	12 (12)	1 (1)	2 (2)	0 (0)	15 (15)	0 (0)	443 (443)	大学設置基準別表第一イに定める 基幹教員数の 四分の三の数 5 人
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	12 (12)	1 (1)	2 (2)	0 (0)	15 (15)			
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	小計（a～b）	12 (12)	1 (1)	2 (2)	0 (0)	15 (15)			
	c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	計（a～d）	12 (12)	1 (1)	2 (2)	0 (0)	15 (15)			
	文学部 歴史文化学科	8 (8)	1 (1)	1 (1)	0 (0)	10 (10)	0 (0)	452 (452)	大学設置基準別表第一イに定める 基幹教員数の 四分の三の数 5 人
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	8 (8)	1 (1)	1 (1)	0 (0)	10 (10)			
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	小計（a～b）	8 (8)	1 (1)	1 (1)	0 (0)	10 (10)			
	c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
計（a～d）	8 (8)	1 (1)	1 (1)	0 (0)	10 (10)				
理工学部 生物学科	8 (8)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	9 (9)	0 (0)	380 (380)	大学設置基準別表第一イに定める 基幹教員数の 四分の三の数 6 人	
a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	8 (8)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	9 (9)				
b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)				
小計（a～b）	8 (8)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	9 (9)				
c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)				
d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)				
計（a～d）	8 (8)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	9 (9)				
分									

既	経済学部 経済学科	18 (18)	6 (6)	3 (3)	0 (0)	27 (27)	0 (0)	434 (434)	大学設置基準別表第一イに定める 基幹教員数の 四分の三の数 15人
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	18 (18)	6 (6)	3 (3)	0 (0)	27 (27)			
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	小計（a～b）	18 (18)	6 (6)	3 (3)	0 (0)	27 (27)			
	c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
計（a～d）	18 (18)	6 (6)	3 (3)	0 (0)	27 (27)				
設	法学部 法学科	26 【6】 (26)	7 【4】 (7)	1 【0】 (1)	0 【0】 (0)	34 【10】 (34)	0 【0】 (0)	445 【0】 (445)	大学設置基準別表第一イに定める 基幹教員数の 四分の三の数 15人 【】の中の数は 学部等連係課程 実施基本組織と 連係協力学部等 を兼ねる教員の 数。
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	26 【6】 (26)	7 【4】 (7)	1 【0】 (1)	0 【0】 (0)	34 【10】 (34)			
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	0 【0】 (0)	0 【0】 (0)	0 【0】 (0)	0 【0】 (0)	0 【0】 (0)			
	小計（a～b）	26 【6】 (26)	7 【4】 (7)	1 【0】 (1)	0 【0】 (0)	34 【10】 (34)			
	c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	0 【0】 (0)	0 【0】 (0)	0 【0】 (0)	0 【0】 (0)	0 【0】 (0)			
	d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 【0】 (0)	0 【0】 (0)	0 【0】 (0)	0 【0】 (0)	0 【0】 (0)			
計（a～d）	26 【6】 (26)	7 【4】 (7)	1 【0】 (1)	0 【0】 (0)	34 【10】 (34)				
分	経営学部 経営学科	21 (21)	5 (5)	3 (3)	0 (0)	29 (29)	0 (0)	439 (439)	大学設置基準別表第一イに定める 基幹教員数の 四分の三の数 15人
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	21 (21)	5 (5)	3 (3)	0 (0)	29 (29)			
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	小計（a～b）	21 (21)	5 (5)	3 (3)	0 (0)	29 (29)			
	c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
	d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)			
計（a～d）	21 (21)	5 (5)	3 (3)	0 (0)	29 (29)				

既	知能情報学部 知能情報学科	11 (11)	4 (5)	2 (2)	0 (0)	17 (18)	0 (0)	281 (281)	大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数 12人				
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	11 (11)	4 (5)	2 (2)	0 (0)	17 (18)							
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)							
	小計（a～b）	11 (11)	4 (5)	2 (2)	0 (0)	17 (18)							
	c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)							
	d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)							
計（a～d）	11 (11)	4 (5)	2 (2)	0 (0)	17 (18)								
設	マネジメント創造学部 マネジメント創造学科	13 【4】 (13)	5 【0】 (5)	1 【1】 (1)	0 【0】 (0)	19 【5】 (19)	0 【0】 (0)	406 【0】 (406)	大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数 11人 【】の中の数は学部等連係課程実施基本組織と連係協力学部等を兼ねる教員の数。				
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	13 【4】 (13)	5 【0】 (5)	1 【1】 (1)	0 【0】 (0)	19 【5】 (19)							
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	0 【0】 (0)	0 【0】 (0)	0 【0】 (0)	0 【0】 (0)	0 【0】 (0)							
	小計（a～b）	13 【4】 (13)	5 【0】 (5)	1 【1】 (1)	0 【0】 (0)	19 【5】 (19)							
	c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）	0 【0】 (0)	0 【0】 (0)	0 【0】 (0)	0 【0】 (0)	0 【0】 (0)							
	d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）	0 【0】 (0)	0 【0】 (0)	0 【0】 (0)	0 【0】 (0)	0 【0】 (0)							
	計（a～d）	13 【4】 (13)	5 【0】 (5)	1 【1】 (1)	0 【0】 (0)	19 【5】 (19)							
	分	フロンティアサイエンス学部 生命化学科	9 (10)	4 (4)	0 (0)	1 (1)				14 (15)	0 (0)	234 (234)	大学設置基準別表第一イに定める基幹教員数の四分の三の数 9人
		a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、主要授業科目を担当するもの	9 (10)	4 (4)	0 (0)	1 (1)				14 (15)			
		b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（aに該当する者を除く）	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)				0 (0)			
		小計（a～b）	9 (10)	4 (4)	0 (0)	1 (1)				14 (15)			
c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a又はbに該当する者を除く）		0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)							
d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事する者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、かつ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当するもの（a、b又はcに該当する者を除く）		0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)							
計（a～d）	9 (10)	4 (4)	0 (0)	1 (1)	14 (15)								

既設	学部等連係課程実施基本組織 グローバル教養学環		10 【10】 (10)	4 【4】 (4)	1 【1】 (1)	0 【0】 (0)	15 【15】 (15)	0 【0】 (0)	391 【0】 (391)	大学設置基準別表第一イに定める 基幹教員数の 四分の三の数 9 人 【】の中の数は 学部等連係課程 実施基本組織と 連係協力学部等 を兼ねる教員の 数。
	a. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、主要授業科目を担当するもの		10 【10】 (10)	4 【4】 (4)	1 【1】 (1)	0 【0】 (0)	15 【15】 (15)			
	b. 基幹教員のうち、専ら当該学部等の教育研究に従事 する者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの（aに該当する者を除く）		0 【0】 (0)	0 【0】 (0)	0 【0】 (0)	0 【0】 (0)	0 【0】 (0)			
	小計（a～b）		10 【10】 (10)	4 【4】 (4)	1 【1】 (1)	0 【0】 (0)	15 【15】 (15)			
	c. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当す るもの（a又はbに該当する者を除く）		0 【0】 (0)	0 【0】 (0)	0 【0】 (0)	0 【0】 (0)	0 【0】 (0)			
	d. 基幹教員のうち、専ら当該大学の教育研究に従事す る者以外の者又は当該大学の教育研究に従事し、か つ専ら当該大学の複数の学部等で教育研究に従事す る者であって、年間8単位以上の授業科目を担当 するもの（a、b又はcに該当する者を除く）		0 【0】 (0)	0 【0】 (0)	0 【0】 (0)	0 【0】 (0)	0 【0】 (0)			
	計（a～d）		10 【10】 (10)	4 【4】 (4)	1 【1】 (1)	0 【0】 (0)	15 【15】 (15)			
分	計		162 【10】 (163)	40 【4】 (41)	18 【1】 (18)	1 【0】 (1)	221 【15】 (223)	0 【0】 (0)	— 【—】 (—)	
	合 計		182 (186)	43 (44)	19 (19)	1 (1)	245 (250)	0 (0)	— (—)	
職 種		専 属			そ の 他			計		
事 務 職 員		205 (205)			99 (99)			304 (304)		人
技 術 職 員		0 (0)			0 (0)			0 (0)		人
図 書 館 職 員		3 (3)			0 (0)			3 (3)		人
そ の 他 の 職 員		0 (0)			0 (0)			0 (0)		人
指 導 補 助 者		0 (0)			0 (0)			0 (0)		人
計		208 (208)			99 (99)			307 (307)		人
校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用			計			
	校 舎 敷 地	190,104.4 m ²	— m ²	— m ²			190,104.4 m ²		借用地 西宮キャンパス 2,512.2 m ² 52年2か月	
	そ の 他	4,4743.3 m ²	— m ²	— m ²			4,4743.3 m ²			
	合 計	194,578.7 m ²	— m ²	— m ²			194,578.7 m ²			
校 舎		専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用			計			
		126,853.8 m ² (126,465.8 m ²)	— m ² (— m ²)	— m ² (— m ²)			126,853.8 m ² (126,465.8 m ²)			
教 室 ・ 教 員 研 究 室		教 室	525 室	教 員 研 究 室			227 室		大学全体	

図書・設備	新設学部等の名称	図書		学術雑誌		機械・器具 点	標本 点	学部等単位での特定不能なため、大学全体の数		
		[うち外国書] 冊	電子図書 [うち外国書] 冊	[うち外国書] 種	電子ジャーナル [うち外国書] 種					
	理工学部 宇宙理学・量子理工学科	829,000 [192,000] (794,000 [184,000])	10,000 [4,000] (7,000 [3,000])	11,000 [4,000] (11,000 [4,000])	38,000 [34,900] (39,000 [36,900])	7,225 (7,225)	72 (72)			
	計	829,000 [192,000] (794,000 [184,000])	10,000 [4,000] (7,000 [3,000])	11,000 [4,000] (11,000 [4,000])	38,000 [34,900] (39,000 [36,900])	7,225 (7,225)	72 (72)			
スポーツ施設等		スポーツ施設		講堂		厚生補導施設		大学全体 講堂と体育館を兼用 (4,004.47 m ²)		
		0 m ²		4,004.47 m ²		10,365.1 m ²				
経費の見積り及び維持方法の概要	区分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	図書費には電子ジャーナル、データベースの整備費(その他運用経費を含む)を含む。	
		教員1人当り研究費等		1,440千円	1,440千円	1,440千円	1,440千円	— 千円		— 千円
		共同研究費等		3,994千円	3,994千円	3,994千円	3,994千円	— 千円		— 千円
		図書購入費	6,718千円	6,718千円	6,718千円	6,718千円	6,718千円	— 千円		— 千円
	設備購入費	1,963千円	1,963千円	1,963千円	1,963千円	1,963千円	— 千円	— 千円		
	学生1人当り納付金			第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次		第6年次
			1,571千円	1,570千円	1,570千円	1,570千円	— 千円	— 千円		
学生納付金以外の維持方法の概要		手数料収入(入学検定料等)、寄付金収入、補助金収入(私立大学等経常費補助金等)、付随事業・収益事業収入、受取利息・配当金収入、雑収入等								
既設大学等の状況	大学等の名称	甲南大学								
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	収容定員充足率	開設年度	所在地	
	文学部	年	人	年次人	人		倍		兵庫県神戸市東灘区岡本8丁目9番1号	
	日本語日本文学科	4	70	—	280	学士(文学)	1.21	昭和32年度		
	英語英米文学科	4	90	—	360	学士(文学)	1.20	昭和32年度		
	社会学科	4	90	—	360	学士(社会学)	1.17	昭和32年度		
	人間科学科	4	95	—	380	学士(文学)	1.18	平成8年度		
	歴史文化学科	4	60	—	240	学士(文学)	1.15	平成13年度		
	理工学部						1.13		同上	
	物理学科	4	50	—	200	学士(理学)又は学士(理工学)	1.13	平成13年度		
生物学科	4	45	—	180	学士(理学)	1.21	平成13年度			
機能分子化学科	4	60	—	240	学士(理工学)	1.06	平成13年度			
経済学部								同上		
経済学科	4	345	—	1,380	学士(経済学)	1.14	昭和27年度			
法学部								同上		
法学科	4	330	—	1,320	学士(法学)	1.17	昭和35年度			

既設大学等の状況	経営学部 経営学科	4	345	—	1,380	学士（経営学）	1.16	昭和35年度	同上	※令和8年度入学定員減(10人)
	知能情報学部 知能情報学科	4	120	—	480	学士（知能情報学）	1.16	平成20年度	同上	
	マネジメント創造学部 マネジメント創造学科	4	170	—	680	学士（マネジメント）	1.14	平成21年度	兵庫県西宮市高松町8番地33	
	フロンティアサイエンス学部 生命化学科	4	45	—	180	学士（理工学）	1.16	平成21年度	兵庫県神戸市中央区港島南町7丁目1番20	
	学部等連携課程実施基本組織 グローバル教養学環	4	25	—	50	学士（グローバル教養）	1.00	令和6年度	兵庫県神戸市東灘区岡本8丁目9番1号	
大学等の名称	甲南大学大学院									
学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	収容定員充足率	開設年度	所在地		
【修士課程】 人文科学研究科						0.46		兵庫県神戸市東灘区岡本8丁目9番1号		
日本語日本文学専攻	2	5	—	10	修士（文学）	0.40	昭和39年度			
英語英米文学専攻	2	6	—	12	修士（文学）	0.66	昭和39年度			
応用社会学専攻	2	5	—	10	修士（社会学）	0.40	昭和39年度			
人間科学専攻	2	10	—	20	修士（文学）	0.40	平成11年度			
自然科学研究科						1.44		同上		
物理学専攻	2	12	—	24	修士（理学）	0.87	昭和39年度			
化学専攻	2	12	—	24	修士（理学）	1.54	昭和39年度			
生物学専攻	2	5	—	10	修士（理学）	3.60	昭和39年度			
知能情報学専攻	2	10	—	20	修士（知能情報学）	0.95	平成5年度			
社会科学研究科						0.22		同上		
経済学専攻	2	10	—	20	修士（経済学）	0.30	昭和40年度			
経営学専攻	2	10	—	20	修士（経営学）	0.15	昭和40年度			
フロンティアサイエンス研究科 生命化学専攻	2	15	—	30	修士（理工学）	1.23	平成21年度	兵庫県神戸市中央区港島南町7丁目1番20		

既設大学等の状況	【博士後期課程】 人文科学研究科						0.26		兵庫県神戸市東灘区岡本8丁目9番1号
	日本語日本文学専攻	3	2	—	6	博士（文学）	0.16	昭和46年度	
	英語英米文学専攻	3	3	—	9	博士（文学）	0.00	昭和39年度	
	応用社会学専攻	3	2	—	6	博士（社会学）	0.16	昭和46年度	
	人間科学専攻	3	3	—	9	博士（文学）	0.66	平成13年度	
	自然科学研究科						0.25		同上
	物理学専攻	3	3	—	9	博士（理学）	0.22	昭和39年度	
	生命・機能科学専攻	3	3	—	9	博士（理学）	0.33	平成2年度	
	知能情報学専攻	3	2	—	6	博士（知能情報学）	0.16	平成7年度	
	社会科学研究科								同上
経営学専攻	3	3	—	9	博士（経営学）	1.11	昭和46年度		
フロンティアサイエンス研究科									兵庫県神戸市中央区港島南町7丁目1番20
生命化学専攻	3	2	—	6	博士（理工学）	1.66	平成21年度		
附属施設の概要	該当なし								

- (注)
- 1 共同学科の認可の申請及び届出の場合、「計画の区分」、「新設学部等の目的」、「新設学部等の概要」、「教育課程」及び「新設分」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
 - 2 「新設分」及び「既設分」の備考の「大学設置基準別表第一イ」については、専門職大学にあつては「専門職大学設置基準別表第一イ」、短期大学にあつては「短期大学設置基準別表第一イ」、専門職短期大学にあつては「専門職短期大学設置基準別表第一イ」にそれぞれ読み替えて作成すること。
 - 3 「既設分」については、共同学科等に係る数を除いたものとする。
 - 4 私立の大学の学部又は短期大学の学科の収容定員に係る学則の変更の届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「教室・教員研究室」、「図書・設備」及び「スポーツ施設等」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
 - 5 大学等の廃止の認可の申請又は届出を行おうとする場合は、「教育課程」、「校地等」、「校舎」、「教室・教員研究室」、「図書・設備」、「スポーツ施設等」及び「経費の見積もり及び維持方法の概要」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
 - 6 「教育課程」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。
 - 7 空欄には、「—」又は「該当なし」と記入すること。

教 育 課 程 等 の 概 要																
(理工学部宇宙物理学・量子物理工学科 宇宙物理学コース)																
科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		基幹(助手を除く)以外の教員
基礎共通科目(人文科学系)	A群 リベラルアーツ	哲学	1前		2		○							1	オムニバス	
		倫理学	1前		2		○							1		
		心理学	1前・後		2		○							3		
		歴史学	1前		2		○							1		
		文学	1前		2		○							3		
		哲学プラクティス	1後		2		○							1		
		女性学	1後		2		○							1		
		現代の芸術	1前		2		○							1		
		宗教学	1後		2		○							1		
	B群 人間を学ぶ	生態人類学	1前		2		○							1	オムニバス	
		環境と文学	1前		2		○							1		
		芸術と社会	1前		2		○							1		
		生命と倫理	1前		2		○							1		
		人権(同和)の問題	1後		2		○							1		
		感情・人格心理学	1後		2		○							2		
		DE&I入門	1後		2		○							9		
	C群 文化を学ぶ	ことばと社会	1前		2		○							3	オムニバス	
		コミュニケーション論	1後		2		○							1		
		イメージと文化	1後		2		○							1		
		日本語の諸相	1前		2		○							1		
		比較文化	1後		2		○							1		
		芸術学基礎論	1後		2		○							1		
		現代思想	1後		2		○							1		
		近現代の文学	1後		2		○							1		
		日本研究	1前		2		○							1		
		越境する文化と文学	1後		2		○							3		
	伝統文化を学ぶ	1後		2		○							5			
	D群 歴史を学ぶ	社会思想史	1前		2		○							1	オムニバス・共同(一部)	
		歴史と文化	1前		2		○							1		
		文学と歴史	1後		2		○							1		
		地域と文化	1後		2		○							1		
		芸術史	1前		2		○							1		
		歴史とメディア	1前		2		○							1		
国際化の歴史		1後		2		○							1			
生活の歴史		1前		2		○							1			
小計(35科目)	-	-	0	70	0	-	-	-	-	0	0	0	0	0	50	-
基礎共通科目(社会科学系)	A群 アーベラル	社会学	1前		2		○							1		
		法学	1後		2		○							1		
		経済学	1後		2		○							1		
		経営学	1前		2		○							1		
		政治学	1後		2		○							1		
		地理学	1前		2		○							1		
		国際関係論	1前		2		○							1		
		B群 経済を学ぶ	産業と経済	1前		2		○								1
	企業と情報		1前		2		○							1		
	歴史と経済		1後		2		○							1		
	現代社会と企業		1後		2		○							1		
	世界と経済		1前		2		○							1		
	暮らしと経済		1前		2		○							1		
	福祉と経済		1後		2		○							1		
	社会とファイナンス	1前		2		○							1			
SDGsとISO国際標準	1後		2		○							1				

科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		基幹教員以外 の教員
基礎共通科目（社会科学系）	C群 社会を学ぶ	現代社会論	1前		2		○								1	共同（一部）
		現代都市論	1前		2		○								1	
		公共哲学	1後		2		○								1	
		環境人間学	1後		2		○								1	
		社会福祉論	1前		2		○								1	
		家族関係論	1後		2		○								1	
		歴史と社会	1前		2		○								1	
		ボランティア論	1前		2		○								1	
		グローバル化と文化	1前		2		○								1	
		地域連携入門	1後		2		○								1	
	地域とメディア	1後		2		○								2		
	D群 法と政治を学ぶ	日本国憲法	1前・後		2		○								1	
		社会生活と法	1前		2		○								1	
		現代政治論	1後		2		○								1	
		法と情報	1前		2		○								1	
		環境法学	1後		2		○								1	
		家族関係と法	1前・後		2		○								1	
		少子高齢社会と法	1前・後		2		○								2	
		財産と法	1前・後		2		○								1	
		消費者問題	1前・後		2		○								1	
市場と法		1後		2		○								1		
組織と法	1前		2		○								1			
まちづくりと行政	1後		2		○								1			
地域創生	1前		2		○								1			
小計（40科目）				—	—	0	80	0	—	—	—	—	—	—	—	—
基礎共通科目（自然科学系）	A群 アーベラル	数学	1前		2		○								1	オムニバス・共同（一部）
		物理学	1後		2		○				1				1	
		化学	1後		2		○								1	
		生物学	1前		2		○								1	
		地学	1前		2		○								1	
		生命化学	1後		2		○								7	
	B群 史自然を学ぶ	地球の歴史	1後		2		○								1	オムニバス
		生物の歴史	1後		2		○								1	
		自然と人間	1前		2		○								1	
		自然科学史	1前		2		○								1	
		技術の歴史	1前		2		○								1	
	環境と地理	1後		2		○								1		
	C群 現代科学を学ぶ	現代生活と物理学	1前		2		○								4	オムニバス
		現代生活と生物学	1後		2		○								1	
		現代生活と数理学	1後		2		○								1	オムニバス
		現代生活と最先端科学	1前		2		○								3	
		核と環境	1後		2		○								1	オムニバス
		環境の化学	1後		2		○								1	
		大気と海洋	1前		2		○								1	
		国際化と情報ネットワーク	1後		2		○								1	
		国際社会における最先端科学	1後		2		○								3	
		現代生活と生命化学	1後		2		○								8	
	Science in the World Today	1前		2		○								1		
	Science, Technology and SDGs	1後		2		○								1		
	Science News	1後		2		○								1		
	D群 学情報を	知能情報	1後		2		○								1	
生体情報		1後		2		○								1		
感性情報		1後		2		○								1		
生命情報		1後		2		○								2		
認知科学		1後		2		○								1		
小計（30科目）				—	—	0	60	0	—	—	—	—	—	—	—	—

科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		基幹教員以外 の教員
基礎共通科目	ケアの倫理	1後			2		○								1	オムニバス
	ライフプラン教育	1後			2		○								2	
	癒しの諸相	1前・後			2		○								9	
	自己の探求	1後			2		○								5	
	心の健康科学	1前			2		○								1	
	保健衛生	1後			2		○								1	
	人体の構造と機能及び疾病	1後			2		○								1	
	環境教育の実践	1前			2		○								5	
	食品科学	1前			2		○								1	
	フロントランナー講座	1後			2		○								13	
	情報社会のセキュリティ	1前・後			2		○								1	
	社会を読み解く（クリティカルシンキング）	1後			2		○								1	
	文章表現論	1前・後			2		○								1	
小計（13科目）	—	—	—	0	26	0	—	—	—	—	—	—	—	—	39	—
国際言語文化系	ヨーロッパの文化を学ぶ	1前			2		○								1	オムニバス
	アジアの文化を学ぶ	1前			2		○								1	
	ヨーロッパの言語と社会	1後			2		○								1	
	アジアの言語と社会	1後			2		○								1	
	国際理解	1前・後			2		○								1	
	国際理解English	1後			2		○								1	
	日本理解	1後			2		○								1	
	Japan Topics	1前			2		○								1	
	Culture Topics I	1後			2		○								1	
	Culture Topics II	1後			2		○								1	
	English for Science	1前			2		○								1	
	Science Writing	1後			2		○								1	
小計（12科目）	—	—	—	0	24	0	—	—	—	—	—	—	—	—	7	—
スポーツ健康系	スポーツ心理学	1前			2		○								1	オムニバス
	スポーツ運動学	1前			2		○								1	
	スポーツ文化論	1後			2		○								1	
	スポーツマネジメント	1後			2		○								1	
	生涯スポーツ論	1後			2		○								1	
	スポーツ社会学	1後			2		○								1	
	スポーツ医学	1後			2		○								1	
	運動生理学	1前			2		○								1	
	健康と生命科学	1後			2		○								1	
	スポーツコーチング論	1前			2		○								4	
	トレーニング論	1後			2		○								1	
	基礎スポーツ健康科学	1後			2		○								1	
小計（12科目）	—	—	—	0	24	0	—	—	—	—	—	—	—	—	8	—
導科目共通	甲南大学と平生飢三郎	1前・後	○		2		○								4	オムニバス
	共通基礎演習	1前・後	○		2			○							15	共同
	A I・データサイエンス入門	1後	○		2		○								3	オムニバス
小計（3科目）	—	—	—	0	6	0	—	—	—	—	—	—	—	—	18	—

科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考				
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		基幹教員以外の教員			
外国語科目 (基礎外国語)	英語 Skill-based	College English Reading	1前・後	○	1			○								11			
		College English Writing	1前・後	○	1			○								11			
		College English Listening	1前・後	○	1				○							5			
		College English Speaking	1前・後	○	1				○							5			
	Content/ Project-based	College English Topics I	1前	○		1			○							2			
		College English Topics II	1後	○		1			○							2			
		College English Project I	1前	○		1			○							2			
		College English Project II	1後	○		1			○							2			
	ドイツ語	基礎ドイツ語 I	1通	○		2			○							2			
		基礎ドイツ語 II	1通	○		2			○							2			
	フランス語	基礎フランス語 I	1通	○		2			○							1			
		基礎フランス語 II	1通	○		2			○							2			
	中国語	基礎中国語 I	1通	○		2			○							2			
		基礎中国語 II	1通	○		2			○							4			
	韓国語	基礎韓国語 I	1通	○		2			○							5			
		基礎韓国語 II	1通	○		2			○							5			
	日本語	大学日本語入門 I	1通・前	○		2			○							1			
		大学日本語入門 II	1通・後	○		2			○							1			
		小計 (18科目)	—	—	4	24	0		—				0	0	0	0	0	46	—
	育保 科健 目体	スポーツ健康マネジメント演習 I	1前	○	1						○						4		
スポーツ健康マネジメント演習 II		1後	○	1						○						8			
小計 (2科目)		—	—	2	0	0		—				0	0	0	0	0	8	—	
合計 (165科目)		—	—	6	314	0		—				1	0	0	0	0	220	—	
専門 教育 科目	必修 科目	基礎物理学実験	1前	○	1						○	7	1				5	オムニバス、共同 (一部)	
		物理学実験 1	1後	○	2						○	2	1				7	共同	
		物理学実験 2	2前	○	2						○	4					6	共同	
		物理学実験 3	2後	○	2						○	6					2	オムニバス、共同	
		力学 I	1後		2				○								1		
		力学 II	2前		2				○			1							
		電磁気学 I	1後		2				○			1							
		電磁気学 II	2前		2				○			1							
		量子論入門	2後		2				○			1							
		天文学入門	2後		2				○								1		
		物理学卒業研究	4通	○	8						○	7	1				2	共同	
	小計 (11科目)	—	—	27	0	0		—			7	1	0	0	0	13	—		
	選択 必修 科目 A	トピカル・フィジックス	1前			2			○			7	1				4	オムニバス	
		力学基礎	1前			2			○				1						
		電磁気学基礎	1前			2			○								1		
		振動・波動	1後			2			○								1		
		微分積分学 I	1前			2			○								1		
		微分積分学 II	1後			2			○								1		
		線形代数学 I	1前			2			○								1		
		線形代数学 II	1後			2			○								1		
プログラミング・AIのためのIT入門		1後			2					○	1					1	共同		
ベクトル解析		2前			2											1			
複素関数論	2後			2											1				
解析力学	2後			2						1									
電磁気学 III	2後			2											1				
熱・統計力学	2後			2											1				
プログラミング・AI実習 I	2後			2					○		1				2	共同			
小計 (15科目)	—	—	0	30	0		—			7	1	0	0	0	10	—			

科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		基幹教員以外の教員
専門教育科目	選択必修科目B	統計力学Ⅰ	3前		2		○			1					1	共同
		統計力学Ⅱ	3後		2		○			1						
		量子力学Ⅰ	3前		2		○			1						
		量子力学Ⅱ	3後		2		○			1						
		相対性理論	3前		2		○								1	
		電気・電子回路	3前		2		○								1	
		特殊関数論	3前		2		○			1						
		物性物理学Ⅰ	3後		2		○			1						
		物性物理学Ⅱ	4前		2		○			1						
		流体力学Ⅰ	3後		2		○								1	
		流体力学Ⅱ	4前		2		○								1	
		プログラミング・AI実習Ⅱ	3前		2				○		1				2	
		英語で学ぶ物理学	3後		2				○							
		科学英語	4前		2				○						1	
小計(14科目)	—	—	0	28	0	—	—	—	4	0	0	0	0	8	—	
コース別科目	C1	素粒子物理学	3・4後		2		○				1				1	隔年
		原子核物理学	3・4前		2		○								1	隔年
		天文学概論	3・4後		2		○			1					1	隔年
		宇宙物理学	3・4前		2		○								1	隔年
		量子線計測学	3・4前		2		○			1					1	隔年
		宇宙理学リサーチ	3後	○	4		○			3	1				2	共同
小計(6科目)	—	—	0	14	0	—	—	—	3	1	0	0	0	2	—	
少人数・参加型科目		数学演習Ⅰa	1前		1		○			4					7	共同
		数学演習Ⅰb	1後		1		○			4					6	共同
		力学・電磁気学演習Ⅰ	1後		1		○			1					1	オムニバス・共同(一部)
		力学・電磁気学演習Ⅱ	2前		1		○			2					2	オムニバス・共同(一部)
		ワークショップⅡa	2前		1		○			4					7	共同
		ワークショップⅡb	2後		1		○			4					6	共同
		ワークショップⅢa	3前		1		○			4					7	共同
		ワークショップⅢb	3後		1		○			4					6	共同
		ワークショップⅣa	4前		1		○			4					7	共同
		ワークショップⅣb	4後		1		○			4					6	共同
		天体観測ワークショップ	2休		2				○						2	共同
		プログラミング・AI実践	3後		3				○		1				1	共同
小計(12科目)	—	—	0	15	0	—	—	—	6	0	0	0	0	10	—	
選択科目		電子物性工学	3・4前		2		○								1	隔年
		光・量子エレクトロニクス	3・4前		2		○			1						隔年
		量子情報工学	3・4前		2		○			1						隔年
		光物性工学	3・4後		2		○			1					1	隔年・共同(一部)
		半導体デバイス	3・4後		2		○								1	隔年・共同(一部)
		確率統計学Ⅰ	2前		2		○								1	
		確率統計学Ⅱ	2後		2		○								1	
		解析学Ⅰ	3前		2		○								1	
		解析学Ⅱ	3後		2		○								1	
		コンピュータサイエンス	2前		2		○								1	
		地学通論Ⅰ	1前		2		○								1	
		地学通論Ⅱ	1後		2		○								1	
		化学通論Ⅰ	1前		2		○								1	
		化学通論Ⅱ	1後		2		○								1	
		生物学通論Ⅰ	2前		2		○								2	オムニバス
		生物学通論Ⅱ	2後		2		○								1	
		地学実験	2通		3										3	オムニバス・共同(一部)
		基礎化学実験	2前		3										4	共同
		基礎生物学実験	2前		3										11	オムニバス・共同(一部)
博物館資料論	2休		2			○							2	共同		
博物館情報・メディア論	3休		2			○							2	共同		
小計(21科目)	—	—	0	45	0	—	—	—	3	0	0	0	0	27	—	
合計(79科目)		—	—	27	132	0	—	—	7	1	0	0	0	49	—	

学位又は称号	学士(理学)	学位又は学科の分野	理学関係、工学関係																				
卒業・修了要件及び履修方法		授業期間等																					
<p>1 理工学部宇宙物理学・量子物理工学科学宇宙物理学コースの学生は、次に定めるところに従って合計128単位以上修得しなければならない。</p> <table border="0"> <tr> <td>基礎共通科目</td> <td>16単位(*1)</td> </tr> <tr> <td>外国語科目</td> <td>8単位(*2)</td> </tr> <tr> <td>保健体育科目</td> <td>2単位(*3)</td> </tr> <tr> <td>専門教育科目</td> <td>102単位以上</td> </tr> <tr> <td> 必修科目</td> <td>27単位</td> </tr> <tr> <td> 選択必修科目A</td> <td>20単位以上</td> </tr> <tr> <td> 選択必修科目B</td> <td>8単位以上</td> </tr> <tr> <td> コース別科目C-1</td> <td>8単位以上</td> </tr> <tr> <td> 少人数・参加型科目</td> <td></td> </tr> <tr> <td> 選択科目</td> <td></td> </tr> </table> <hr/> <p>合計 128単位以上</p> <p>(*1) (1) 人文科学系、社会科学系、自然科学系の授業科目の中から、それぞれ4単位 (2) 学際融合系、国際言語文化系、スポーツ健康系の授業科目の中から、2単位 (3) 導入共通科目「甲南大学と平生鈞三郎」「共通基礎演習」「AI・データサイエンス入門」の中から、2単位</p> <p>(*2) (1) 基礎外国語のうち、英語 (Skill-based) 4単位を修得しなければならない。 (2) 基礎外国語のうち、英語 (Content/Project-based)、ドイツ語、フランス語、中国語、韓国語について1外国語4単位を修得しなければならない。 (3) 上記(2)にかかわらず、外国人留学生(正規留学生)入学試験に合格して入学した学生は、基礎外国語のうち、英語 (Skill-based) 4単位及び日本語4単位を修得しなければならない。</p> <p>(*3) 「スポーツ健康マネジメント演習Ⅰ」及び「スポーツ健康マネジメント演習Ⅱ」2単位を修得しなければならない。</p> <p>2 中級英語、「外国留学科目Ⅰ～Ⅳ」、「English RegionsⅢ・Ⅳ」、「海外語学講座Ⅰ・Ⅳ」、「エアスタディーズⅠ～Ⅹ」、「大学日本語中級Ⅰ・Ⅱ」、「大学日本語上級Ⅰ・Ⅱ」、「海外ボランティアⅠ・Ⅱ」については、専門教育科目として8単位以内を卒業必要単位数に充てることができる。ただし、必修又は選択必修のいずれの単位数にも充ててはできない。</p> <p>3 大学日本語科目(大学日本語入門Ⅰ・Ⅱ、大学日本語中級Ⅰ・Ⅱ、大学日本語上級Ⅰ・Ⅱ)は、外国人留学生(正規留学生)入学試験に合格して入学した学生及び日本語を母語としない学生が履修することができる。</p> <p>4 「IT基礎」、「ベーシック・キャリアデザイン」及び「データサイエンス基礎」については、専門教育科目として卒業必要単位数に充てることができる。ただし、必修又は選択必修のいずれの単位数にも充ててはできない。</p> <p>5 宇宙物理学コースの卒業要件を充足した者には「学士(理学)」を授与する。</p> <p>(履修科目の登録の上限：年間49単位以内)</p>		基礎共通科目	16単位(*1)	外国語科目	8単位(*2)	保健体育科目	2単位(*3)	専門教育科目	102単位以上	必修科目	27単位	選択必修科目A	20単位以上	選択必修科目B	8単位以上	コース別科目C-1	8単位以上	少人数・参加型科目		選択科目		1 学年の学期区分	2学期
基礎共通科目	16単位(*1)																						
外国語科目	8単位(*2)																						
保健体育科目	2単位(*3)																						
専門教育科目	102単位以上																						
必修科目	27単位																						
選択必修科目A	20単位以上																						
選択必修科目B	8単位以上																						
コース別科目C-1	8単位以上																						
少人数・参加型科目																							
選択科目																							
		1 学期の授業期間	15週																				
		1 時限の授業の標準時間	90分																				

(注)

- 学部等、研究科等若しくは高等専門学校等の学科の設置又は大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には、授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等、研究科等若しくは高等専門学校等の学科(学位の種類及び分野の変更等に関する基準(平成十五年文部科学省告示第三十九号)別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。)についても作成すること。
- 私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。
- 開設する授業科目に応じて、適宜科目区分の枠を設けること。
- 「主要授業科目」の欄は、授業科目が主要授業科目に該当する場合、欄に「○」を記入すること。なお、高等専門学校等の学科を設置する場合は、「主要授業科目」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 「単位数」の欄は、各授業科目について、「必修」、「選択」、「自由」のうち、該当する履修区分に単位数を記入すること。
- 「授業形態」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。
- 「授業形態」の欄は、各授業科目について、該当する授業形態の欄に「○」を記入すること。ただし、専門職大学等又は専門職学科を設ける大学若しくは短期大学の授業科目のうち、臨地実務実習については「実験・実習」の欄に「臨」の文字を、連携実務演習等については「演習」又は「実験・実習」の欄に「連」の文字を記入すること。
- 「基幹教員等の配置」欄の「基幹教員等」は、大学院の研究科又は研究科の専攻の場合は、「専任教員等」と読み替えること。
- 「基幹教員等の配置」欄の「基幹教員以外の教員(助手を除く)」は、大学院の研究科又は研究科の専攻の場合は、「専任教員以外の教員(助手を除く)」と読み替えること。
- 課程を前期課程及び後期課程に区分する専門職大学若しくは専門職大学の学部等を設置する場合又は前期課程及び後期課程に区分する専門職大学の課程を設置し、若しくは変更する場合は、次により記入すること。
 - 各科目区分における「小計」の欄及び「合計」の欄には、当該専門職大学の全課程に係る科目数、「単位数」及び「基幹教員等の配置」に加え、前期課程に係る科目数、「単位数」及び「基幹教員等の配置」を併記すること。
 - 「学位又は称号」の欄には、当該専門職大学を卒業した者に授与する学位に加え、当該専門職大学の前期課程を修了した者に授与する学位を併記すること。
 - 「卒業・修了要件及び履修方法」の欄には、当該専門職大学の卒業要件及び履修方法に加え、前期課程の修了要件及び履修方法を併記すること。
- 高等専門学校等の学科を設置する場合は、高等専門学校設置基準第17条第4項の規定により計算することのできる授業科目については、備考欄に「☆」

教 育 課 程 等 の 概 要																
(理工学部宇宙物理学・量子物理工学科 量子物理工学コース)																
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授 業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考	
				必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・実 習	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		基 幹 教 員 以 外 の 教 員
基礎 共通 科目 (人文 科学 系)	A 群 リ ベ ラ ル ア ー ツ	哲学			2		○								1	オムニバス
		倫理学	1前		2		○								1	
		心理学	1前・後		2		○								3	
		歴史学	1前		2		○								1	
		文学	1前		2		○								3	
		哲学プラクティス	1後		2		○								1	
		女性学	1後		2		○								1	
		現代の芸術	1前		2		○								1	
		宗教学	1後		2		○								1	
	B 群 人 間 を 学 ぶ	生態人類学	1前		2		○								1	オムニバス
		環境と文学	1前		2		○								1	
		芸術と社会	1前		2		○								1	
		生命と倫理	1前		2		○								1	
		人権(同和)の問題	1後		2		○								1	
		感情・人格心理学	1後		2		○								2	
		DE&I入門	1後		2		○								9	
	C 群 文 化 を 学 ぶ	ことばと社会	1前		2		○								3	オムニバス
		コミュニケーション論	1後		2		○								1	
		イメージと文化	1後		2		○								1	
		日本語の諸相	1前		2		○								1	
		比較文化	1後		2		○								1	
		芸術学基礎論	1後		2		○								1	
		現代思想	1後		2		○								1	
		近現代の文学	1後		2		○								1	
		日本研究	1前		2		○								1	
		越境する文化と文学	1後		2		○								3	
	伝統文化を学ぶ	1後		2		○								5		
	D 群 歴 史 を 学 ぶ	社会思想史	1前		2		○								1	オムニバス・共同(一部)
		歴史と文化	1前		2		○								1	
		文学と歴史	1後		2		○								1	
		地域と文化	1後		2		○								1	
		芸術史	1前		2		○								1	
		歴史とメディア	1前		2		○								1	
		国際化の歴史	1後		2		○								1	
生活の歴史		1前		2		○								1		
小計(35科目)	—	—	0	70	0	—	—	—	—	—	—	—	—	50	—	
基礎 共通 科目 (社会 科学 系)	A 群 ア ー リ ベ ラ ル	社会学	1前		2		○								1	
		法学	1後		2		○								1	
		経済学	1後		2		○								1	
		経営学	1前		2		○								1	
		政治学	1後		2		○								1	
		地理学	1前		2		○								1	
		国際関係論	1前		2		○								1	
	B 群 経 済 を 学 ぶ	産業と経済	1前		2		○								1	
		企業と情報	1前		2		○								1	
		歴史と経済	1後		2		○								1	
		現代社会と企業	1後		2		○								1	
		世界と経済	1前		2		○								1	
		暮らしと経済	1前		2		○								1	
		福祉と経済	1後		2		○								1	
		社会とファイナンス	1前		2		○								1	
SDGsとISO国際標準	1後		2		○								1			

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授 業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考		
				必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教授	講 師	助 教	助 手		基 幹 教 員 以 外 の 教 員 (助 手 を 除 く)	
基礎共通科目（社会科学系）	C群 社会を学ぶ	現代社会論	1前		2		○								1	共同（一部）	
		現代都市論	1前		2		○								1		
		公共哲学	1後		2		○								1		
		環境人間学	1後		2		○								1		
		社会福祉論	1前		2		○								1		
		家族関係論	1後		2		○								1		
		歴史と社会	1前		2		○								1		
		ボランティア論	1前		2		○								1		
		グローバル化と文化	1前		2		○								1		
		地域連携入門	1後		2		○								1		
	地域とメディア	1後		2		○								2			
	D群 法と政治を学ぶ	日本国憲法	1前・後		2		○								1		
		社会生活と法	1前		2		○								1		
		現代政治論	1後		2		○								1		
		法と情報	1前		2		○								1		
		環境法学	1後		2		○								1		
		家族関係と法	1前・後		2		○								1		
		少子高齢社会と法	1前・後		2		○								2		
		財産と法	1前・後		2		○								1		
		消費者問題	1前・後		2		○								1		
市場と法		1後		2		○								1			
組織と法	1前		2		○								1				
まちづくりと行政	1後		2		○								1				
地域創生	1前		2		○								1				
小計（40科目）		—	—	0	80	0	—	—	—	0	0	0	0	0	36	—	
基礎共通科目（自然科学系）	A群 アービタル	数学	1前		2		○							1	オムニバス・共同（一部）		
		物理学	1後		2		○			1				1			
		化学	1後		2		○							1			
		生物学	1前		2		○							1			
		地学	1前		2		○							1			
		生命化学	1後		2		○							7			
	B群 史を学ぶ	地球の歴史	1後		2		○									1	
		生物の歴史	1後		2		○									1	
		自然と人間	1前		2		○									1	
		自然科学史	1前		2		○									1	
		技術の歴史	1前		2		○									1	
	環境と地理	1後		2		○								1			
	C群 現代科学を学ぶ	現代生活と物理学	1前		2		○									4	オムニバス
		現代生活と生物学	1後		2		○									1	
		現代生活と数理学	1後		2		○									1	
		現代生活と最先端科学	1前		2		○									3	オムニバス
		核と環境	1後		2		○									1	
		環境の化学	1後		2		○									1	
		大気と海洋	1前		2		○									1	
		国際化と情報ネットワーク	1後		2		○									1	
国際社会における最先端科学		1後		2		○								3	オムニバス		
現代生活と生命化学		1後		2		○								8	オムニバス		
Science in the World Today	1前		2		○								1				
Science, Technology and SDGs	1後		2		○								1				
Science News	1後		2		○								1				
D群 学情報を	知能情報	1後		2		○								1	オムニバス		
	生体情報	1後		2		○								1			
	感性情報	1後		2		○								1			
	生命情報	1後		2		○								2			
	認知科学	1後		2		○								1			
小計（30科目）		—	—	0	60	0	—	—	—	1	0	0	0	0	44	—	

科目 区分	授業科目の名称	配当年次	主要授 業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考	
				必 修	選 択	自 由	講 義	演 習	実 験・ 実習	教 授	准 教授	講 師	助 教	助 手		基 幹 教 員 以 外 の 教 員 (助 手 を 除 く)
基礎 共通 科目	学際 融合 系	ケアの倫理	1後		2		○								1	オムニバス
		ライフプラン教育	1後		2		○								9	
		癒しの諸相	1前・後		2		○								2	
		自己の探求	1後		2		○								5	
		心の健康科学	1前		2		○								1	
		保健衛生	1後		2		○								1	
		人体の構造と機能及び疾病	1後		2		○								1	
		環境教育の実践	1前		2		○								5	
		食品科学	1前		2		○								1	
		フロンランナー講座	1後		2		○								13	
		情報社会のセキュリティ	1前・後		2		○								1	
		社会を読み解く(クリティカルシンキング)	1後		2		○								1	
		文章表現論	1前・後		2		○								1	
小計(13科目)	—	—	0	26	0	—	—	—	0	0	0	0	0	39	—	
国際 言語 文化 系	国際 言語 文化 系	ヨーロッパの文化を学ぶ	1前		2		○								1	
		アジアの文化を学ぶ	1前		2		○								1	
		ヨーロッパの言語と社会	1後		2		○								1	
		アジアの言語と社会	1後		2		○								1	
		国際理解	1前・後		2		○								1	
		国際理解English	1後		2		○								1	
		日本理解	1後		2		○								1	
		Japan Topics	1前		2		○								1	
		Culture Topics I	1後		2		○								1	
		Culture Topics II	1後		2		○								1	
		English for Science	1前		2		○								1	
		Science Writing	1後		2		○								1	
小計(12科目)	—	—	0	24	0	—	—	—	0	0	0	0	0	7	—	
スポ ーツ 健康 系	スポ ーツ 健康 系	スポーツ心理学	1前		2		○								1	オムニバス
		スポーツ運動学	1前		2		○								1	
		スポーツ文化論	1後		2		○								1	
		スポーツマネジメント	1後		2		○								1	
		生涯スポーツ論	1後		2		○								1	
		スポーツ社会学	1後		2		○								1	
		スポーツ医学	1後		2		○								1	
		運動生理学	1前		2		○								1	
		健康と生命科学	1後		2		○								1	
		スポーツコーチング論	1前		2		○								4	
		トレーニング論	1後		2		○								1	
		基礎スポーツ健康科学	1後		2		○								1	
小計(12科目)	—	—	0	24	0	—	—	—	0	0	0	0	0	8	—	
導 入 目 共 通	導 入 目 共 通	甲南大学と平生鈞三郎	1前・後	○	2		○								4	オムニバス
		共通基礎演習	1前・後	○	2			○							15	共同
		A I・データサイエンス入門	1後	○	2		○								3	オムニバス
		小計(3科目)	—	—	0	6	0	—	—	—	0	0	0	0	0	18

科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考		
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		基幹教員以外(助手を除く)の教員	
外国語科目(基礎外国語)	英語 Skill-based	College English Reading	1前・後	○	1			○								11	
		College English Writing	1前・後	○	1			○								11	
		College English Listening	1前・後	○	1				○							5	
		College English Speaking	1前・後	○	1				○							5	
	Content/ Project-based	College English Topics I	1前	○		1			○							2	
		College English Topics II	1後	○		1			○							2	
		College English Project I	1前	○		1			○							2	
		College English Project II	1後	○		1			○							2	
	ドイツ語	基礎ドイツ語 I	1通	○		2			○							2	
		基礎ドイツ語 II	1通	○		2			○							2	
	フランス語	基礎フランス語 I	1通	○		2			○							1	
		基礎フランス語 II	1通	○		2			○							2	
	中国語	基礎中国語 I	1通	○		2			○							2	
		基礎中国語 II	1通	○		2			○							4	
	韓国語	基礎韓国語 I	1通	○		2			○							5	
		基礎韓国語 II	1通	○		2			○							5	
	日本語	大学日本語入門 I	1通・前	○		2			○							1	
		大学日本語入門 II	1通・後	○		2			○							1	
	小計(18科目)	—	—	4	24	0		—			0	0	0	0	0	46	—
育保科 健体	スポーツ健康マネジメント演習 I	1前	○	1						○					4		
	スポーツ健康マネジメント演習 II	1後	○	1						○					8		
	小計(2科目)	—	—	2	0	0		—			0	0	0	0	0	8	—
	合計(165科目)	—	—	6	314	0		—			1	0	0	0	0	220	—
専門教育科目	必修科目	基礎物理学実験	1前	○	1					○	7	1				5	オムニバス、共同(一部)
		物理学実験 1	1後	○	2					○	2	1				7	共同
		物理学実験 2	2前	○	2					○	4					6	共同
		物理学実験 3	2後	○	2					○	6					2	オムニバス、共同
		力学 I	1後		2			○								1	
		力学 II	2前		2			○			1						
		電磁気学 I	1後		2			○			1						
		電磁気学 II	2前		2			○			1						
		量子論入門	2後		2			○			1						
		天文学入門	2後		2			○								1	
		物理学卒業研究	4通	○	8					○	7	1				2	共同
	小計(11科目)	—	—	27	0	0		—		7	1	0	0	0	13	—	
	選択必修科目 A	トピカル・フィジクス	1前			2			○			7	1			4	オムニバス
		力学基礎	1前			2			○				1				
		電磁気学基礎	1前			2			○							1	
		振動・波動	1後			2			○							1	
		微分積分学 I	1前			2			○							1	
		微分積分学 II	1後			2			○							1	
線形代数学 I		1前			2			○							1		
線形代数学 II		1後			2			○							1		
プログラミング・AIのためのIT入門		1後			2				○	1					1	共同	
ベクトル解析		2前			2			○							1		
複素関数論	2後			2			○							1			
解析力学	2後			2			○		1								
電磁気学 III	2後			2			○							1			
熱・統計力学	2後			2			○							1			
プログラミング・AI実習 I	2後			2				○		1				2	共同		
小計(15科目)	—	—	0	30	0		—		7	1	0	0	0	10	—		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考			
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		基幹教員以外の教員		
専門教育科目	選択必修科目B	統計力学Ⅰ	3前		2		○								1	共同		
		統計力学Ⅱ	3後		2		○			1								
		量子力学Ⅰ	3前		2		○			1								
		量子力学Ⅱ	3後		2		○			1								
		相対性理論	3前		2		○								1			
		電気・電子回路	3前		2		○								1			
		特殊関数論	3前		2		○			1								
		物性物理学Ⅰ	3後		2		○			1								
		物性物理学Ⅱ	4前		2		○			1								
		流体力学Ⅰ	3後		2		○								1			
		流体力学Ⅱ	4前		2		○								1			
		プログラミング・AI実習Ⅱ	3前		2				○						2			
		英語で学ぶ物理学	3後		2			○			1							
		科学英語	4前		2			○							1			
小計(14科目)	—	—	0	28	0	—	—	—	4	0	0	0	0	8	—			
コース別科目	C-2	電子物性工学	3・4前		2		○								1	隔年		
		光・量子エレクトロニクス	3・4前		2		○			1						隔年		
		量子情報工学	3・4前		2		○			1						隔年		
		光物性工学	3・4後		2		○			1					1	隔年、共同(一部)		
		半導体デバイス	3・4後		2		○								1	隔年、共同(一部)		
		量子物理学リサーチ	3後	○	4		○			4						1	共同	
小計(6科目)	—	—	0	14	0	—	—	4	0	0	0	0	0	3	—			
少人数・参加型科目		数学演習Ⅰa	1前		1			○		4						7	共同	
		数学演習Ⅰb	1後		1			○		4						6	共同	
		力学・電磁気学演習Ⅰ	1後		1			○		1						1	オムニバス・共同(一部)	
		力学・電磁気学演習Ⅱ	2前		1			○		2							オムニバス・共同(一部)	
		ワークショップⅡa	2前		1			○		4							7	共同
		ワークショップⅡb	2後		1			○		4							6	共同
		ワークショップⅢa	3前		1			○		4							7	共同
		ワークショップⅢb	3後		1			○		4							6	共同
		ワークショップⅣa	4前		1			○		4							7	共同
		ワークショップⅣb	4後		1			○		4							6	共同
		天体観測ワークショップ	2休		2				○								2	共同
		プログラミング・AI実践	3後		2				○		1						1	共同
小計(12科目)	—	—	0	15	0	—	—	6		0	0	0	0	10	—			
選択科目		素粒子物理学	3・4後		2		○								1	隔年		
		原子核物理学	3・4前		2		○									1	隔年	
		天文学概論	3・4後		2		○			1							隔年	
		宇宙物理学	3・4前		2		○									1	隔年	
		量子線計測学	3・4前		2		○			1							隔年	
		確率統計学Ⅰ	2前		2		○									1		
		確率統計学Ⅱ	2後		2		○									1		
		解析学Ⅰ	3前		2		○									1		
		解析学Ⅱ	3後		2		○									1		
		コンピュータサイエンス	2前		2		○									1		
		地学通論Ⅰ	1前		2		○									1		
		地学通論Ⅱ	1後		2		○									1		
		化学通論Ⅰ	1前		2		○									1		
		化学通論Ⅱ	1後		2		○									1		
		生物学通論Ⅰ	2前		2		○									2	オムニバス	
		生物学通論Ⅱ	2後		2		○									1		
		地学実験	2通		2				○							3	オムニバス・共同(一部)	
		基礎化学実験	2前		3				○							4	共同	
		基礎生物学実験	2前		3				○							11	オムニバス・共同(一部)	
		博物館資料論	2休		2			○								2	共同	
		博物館情報・メディア論	3休		2			○								2	共同	
小計(21科目)	—	—	0	45	0	—	—	2	1	0	0	0	0	26	—			
合計(79科目)		—	—	27	132	0	—	—	7	1	0	0	0	49	—			

学位又は称号	学士（理工学）	学位又は学科の分野	理学関係、工学関係																				
卒業・修了要件及び履修方法		授業期間等																					
<p>1 理工学部宇宙物理学・量子物理工学科量子物理工学コースの学生は、次に定めるところに従って合計128単位以上修得しなければならない。</p> <table> <tr> <td>基礎共通科目</td> <td>16単位（*1）</td> </tr> <tr> <td>外国語科目</td> <td>8単位（*2）</td> </tr> <tr> <td>保健体育科目</td> <td>2単位（*3）</td> </tr> <tr> <td>専門教育科目</td> <td>102単位以上</td> </tr> <tr> <td> 必修科目</td> <td>27単位</td> </tr> <tr> <td> 選択必修科目A</td> <td>20単位以上</td> </tr> <tr> <td> 選択必修科目B</td> <td>8単位以上</td> </tr> <tr> <td> コース別科目C-2</td> <td>8単位以上</td> </tr> <tr> <td> 少人数・参加型科目</td> <td></td> </tr> <tr> <td> 選択科目</td> <td></td> </tr> </table> <hr/> <p>合計 128単位以上</p> <p>（*1） (1) 人文科学系、社会科学系、自然科学系の授業科目の中から、それぞれ4単位 (2) 学際融合系、国際言語文化系、スポーツ健康系の授業科目の中から、2単位 (3) 導入共通科目「甲南大学と平生鈞三郎」「共通基礎演習」「AI・データサイエンス入門」の中から、2単位</p> <p>（*2） (1) 基礎外国語のうち、英語（Skill-based）4単位を修得しなければならない。 (2) 基礎外国語のうち、英語（Content/Project-based）、ドイツ語、フランス語、中国語、韓国語について1外国語4単位を修得しなければならない。 (3) 上記（2）にかかわらず、外国人留学生（正規留学生）入学試験に合格して入学した学生は、基礎外国語のうち、英語（Skill-based）4単位及び日本語4単位を修得しなければならない。</p> <p>（*3） 「スポーツ健康マネジメント演習Ⅰ」及び「スポーツ健康マネジメント演習Ⅱ」2単位を修得しなければならない。</p> <p>2 中級英語、「外国留学科目Ⅰ～Ⅳ」、「English RegionsⅢ・Ⅳ」、「海外語学講座Ⅰ・Ⅳ」、「エリアスタディーズⅠ～Ⅹ」、「大学日本語中級Ⅰ・Ⅱ」、「大学日本語上級Ⅰ・Ⅱ」、「海外ボランティアⅠ・Ⅱ」については、専門教育科目として8単位以内を卒業必要単位数に充てることができる。ただし、必修又は選択必修のいずれの単位数にも充てることができない。</p> <p>3 大学日本語科目（大学日本語入門Ⅰ・Ⅱ、大学日本語中級Ⅰ・Ⅱ、大学日本語上級Ⅰ・Ⅱ）は、外国人留学生（正規留学生）入学試験に合格して入学した学生及び日本語を母語としない学生が履修することができる。</p> <p>4 「IT基礎」、「ベーシック・キャリアデザイン」及び「データサイエンス基礎」については、専門教育科目として卒業必要単位数に充てることができる。ただし、必修又は選択必修のいずれの単位数にも充てることができない。</p> <p>5 量子物理工学コースの卒業要件を充足した者には「学士（理工学）」を授与する。 （履修科目の登録の上限：年間49単位以内）</p>		基礎共通科目	16単位（*1）	外国語科目	8単位（*2）	保健体育科目	2単位（*3）	専門教育科目	102単位以上	必修科目	27単位	選択必修科目A	20単位以上	選択必修科目B	8単位以上	コース別科目C-2	8単位以上	少人数・参加型科目		選択科目		1 学年の学期区分	2学期
基礎共通科目	16単位（*1）																						
外国語科目	8単位（*2）																						
保健体育科目	2単位（*3）																						
専門教育科目	102単位以上																						
必修科目	27単位																						
選択必修科目A	20単位以上																						
選択必修科目B	8単位以上																						
コース別科目C-2	8単位以上																						
少人数・参加型科目																							
選択科目																							
		1 学期の授業期間	15週																				
		1 時限の授業の標準時間	90分																				

（注）

- 1 学部等、研究科等若しくは高等専門学校等の学科の設置又は大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には、授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等、研究科等若しくは高等専門学校等の学科（学位の種類及び分野の変更等に関する基準（平成十五年文部科学省告示第三十九号）別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。）についても作成すること。
- 2 私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。
- 3 開設する授業科目に応じて、適宜科目区分の枠を設けること。
- 4 「主要授業科目」の欄は、授業科目が主要授業科目に該当する場合、欄に「○」を記入すること。なお、高等専門学校の学科を設置する場合は、「主要授業科目」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 5 「単位数」の欄は、各授業科目について、「必修」、「選択」、「自由」のうち、該当する履修区分に単位数を記入すること。
- 6 「授業形態」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。
- 7 「授業形態」の欄は、各授業科目について、該当する授業形態の欄に「○」を記入すること。ただし、専門職大学等又は専門職学科を設ける大学若しくは短期大学の授業科目のうち、臨地実務実習については「実験・実習」の欄に「臨」の文字を、連携実務演習等については「演習」又は「実験・実習」の欄に「連」の文字を記入すること。
- 8 「基幹教員等の配置」欄の「基幹教員等」は、大学院の研究科又は研究科の専攻の場合は、「専任教員等」と読み替えること。
- 9 「基幹教員等の配置」欄の「基幹教員以外の教員（助手を除く）」は、大学院の研究科又は研究科の専攻の場合は、「専任教員以外の教員（助手を除く）」と読み替えること。

- 10 課程を前期課程及び後期課程に区分する専門職大学若しくは専門職大学の学部等を設置する場合又は前期課程及び後期課程に区分する専門職大学の課程を設置し、若しくは変更する場合は、次により記入すること。
- (1) 各科目区分における「小計」の欄及び「合計」の欄には、当該専門職大学の全課程に係る科目数、「単位数」及び「基幹教員等の配置」に加え、前期課程に係る科目数、「単位数」及び「基幹教員等の配置」を併記すること。
 - (2) 「学位又は称号」の欄には、当該専門職大学を卒業した者に授与する学位に加え、当該専門職大学の前期課程を修了した者に授与する学位を併記すること。
 - (3) 「卒業・修了要件及び履修方法」の欄には、当該専門職大学の卒業要件及び履修方法に加え、前期課程の修了要件及び履修方法を併記すること。

教 育 課 程 等 の 概 要																	
(理工学部宇宙理学・量子物理工学科 文理融合コース)																	
科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考		
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		基幹（助手を除く）教員	
基礎共通科目（人文科学系）	A群 リベラルアーツ	哲学	1前			2		○								1	オムニバス
		倫理学	1前			2		○								1	
		心理学	1前・後			2		○								3	
		歴史学	1前			2		○								1	
		文学	1前			2		○								3	
		哲学プラクティス	1後			2		○								1	
		女性学	1後			2		○								1	
		現代の芸術	1前			2		○								1	
		宗教学	1後			2		○								1	
	B群 人間を学ぶ	生態人類学	1前			2		○								1	オムニバス
		環境と文学	1前			2		○								1	
		芸術と社会	1前			2		○								1	
		生命と倫理	1前			2		○								1	
		人権（同和）の問題	1後			2		○								1	
		感情・人格心理学	1後			2		○								2	
		DE&I入門	1後			2		○								9	
	C群 文化を学ぶ	ことばと社会	1前			2		○								3	オムニバス
		コミュニケーション論	1後			2		○								1	
		イメージと文化	1後			2		○								1	
		日本語の諸相	1前			2		○								1	
		比較文化	1後			2		○								1	
		芸術学基礎論	1後			2		○								1	
		現代思想	1後			2		○								1	
		近現代の文学	1後			2		○								1	
		日本研究	1前			2		○								1	
		越境する文化と文学	1後			2		○								3	
	伝統文化を学ぶ	1後			2		○								5		
	D群 歴史を学ぶ	社会思想史	1前			2		○								1	オムニバス・共同（一部）
		歴史と文化	1前			2		○								1	
		文学と歴史	1後			2		○								1	
		地域と文化	1後			2		○								1	
		芸術史	1前			2		○								1	
		歴史とメディア	1前			2		○								1	
		国際化の歴史	1後			2		○								1	
生活の歴史		1前			2		○								1		
小計（35科目）	—	—	0	70	0	—	—	—	—	—	—	—	—	—	50	—	
基礎共通科目（社会科学系）	A群 アーベラル	社会学	1前			2		○								1	
		法学	1後			2		○								1	
		経済学	1後			2		○								1	
		経営学	1前			2		○								1	
		政治学	1後			2		○								1	
		地理学	1前			2		○								1	
		国際関係論	1前			2		○								1	
	B群 経済を学ぶ	産業と経済	1前			2		○								1	
		企業と情報	1前			2		○								1	
		歴史と経済	1後			2		○								1	
		現代社会と企業	1後			2		○								1	
		世界と経済	1前			2		○								1	
		暮らしと経済	1前			2		○								1	
		福祉と経済	1後			2		○								1	
		社会とファイナンス	1前			2		○								1	
SDGsとISO国際標準	1後			2		○								1			

科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考			
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		基幹(助手を除く)教員以外の教員		
基礎共通科目(社会科学系)	C群 社会を学ぶ	現代社会論	1前			2		○								1	共同(一部)	
		現代都市論	1前			2		○								1		
		公共哲学	1後			2		○								1		
		環境人間学	1後			2		○								1		
		社会福祉論	1前			2		○								1		
		家族関係論	1後			2		○								1		
		歴史と社会	1前			2		○								1		
		ボランティア論	1前			2		○								1		
		グローバルイノベーションと文化	1前			2		○								1		
		地域連携入門	1後			2		○								1		
	地域とメディア	1後			2		○								2			
	D群 法と政治を学ぶ	日本国憲法	1前・後			2		○								1		
		社会生活と法	1前			2		○								1		
		現代政治論	1後			2		○								1		
		法と情報	1前			2		○								1		
		環境法学	1後			2		○								1		
		家族関係と法	1前・後			2		○								1		
		少子高齢社会と法	1前・後			2		○								2		
		財産と法	1前・後			2		○								1		
		消費者問題	1前・後			2		○								1		
市場と法		1後			2		○								1			
組織と法	1前			2		○								1				
まちづくりと行政	1後			2		○								1				
地域創生	1前			2		○								1				
	小計(40科目)	—	—	0	80	0	—	—	—	—	0	0	0	0	0	36	—	
基礎共通科目(自然科学系)	A群 アーベツラル	数学	1前			2		○								1	オムニバス・共同(一部)	
		物理学	1後			2		○			1					1		
		化学	1後			2		○								1		
		生物学	1前			2		○								1		
		地学	1前			2		○								1		
		生命化学	1後			2		○								7		
	B群 史を学ぶ歴史	地球の歴史	1後			2		○								1		
		生物の歴史	1後			2		○								1		
		自然と人間	1前			2		○								1		
		自然科学史	1前			2		○								1		
		技術の歴史	1前			2		○								1		
	環境と地理	1後			2		○								1			
	C群 現代科学を学ぶ	現代生活と物理学	1前			2		○								4		オムニバス
		現代生活と生物学	1後			2		○								1		
		現代生活と数理学	1後			2		○								1		
		現代生活と最先端科学	1前			2		○								3		オムニバス
		核と環境	1後			2		○								1		
		環境の化学	1後			2		○								1		
		大気と海洋	1前			2		○								1		
		国際化と情報ネットワーク	1後			2		○								1		
国際社会における最先端科学		1後			2		○								3	オムニバス		
現代生活と生命化学		1後			2		○								8	オムニバス		
Science in the World Today	1前			2		○								1				
Science, Technology and SDGs	1後			2		○								1				
Science News	1後			2		○								1				
D群 学情報を	知能情報	1後			2		○								1	オムニバス		
	生体情報	1後			2		○								1			
	感性情報	1後			2		○								1			
	生命情報	1後			2		○								2			
	認知科学	1後			2		○								1			
	小計(30科目)	—	—	0	60	0	—	—	—	—	1	0	0	0	0	44	—	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		基幹教員(助手を除く)以外の教員
基礎共通科目	学際融合系	ケアの倫理	1後		2		○								1	オムニバス
		ライフプラン教育	1後		2		○								9	
		癒しの諸相	1前・後		2		○								2	
		自己の探求	1後		2		○								5	
		心の健康科学	1前		2		○								1	
		保健衛生	1後		2		○								1	
		人体の構造と機能及び疾病	1後		2		○								1	
		環境教育の実践	1前		2		○								5	
		食品科学	1前		2		○								1	
		フロントランナー講座	1後		2		○								13	
		情報社会のセキュリティ	1前・後		2		○								1	
		社会を読み解く(クリティカルシンキング)	1後		2		○								1	
		文章表現論	1前・後		2		○								1	
		小計(13科目)	—	—	0	26	0	—	—	—	0	0	0	0	0	
国際言語文化系	国際言語文化系	ヨーロッパの文化を学ぶ	1前		2		○								1	
		アジアの文化を学ぶ	1前		2		○								1	
		ヨーロッパの言語と社会	1後		2		○								1	
		アジアの言語と社会	1後		2		○								1	
		国際理解	1前・後		2		○								1	
		国際理解English	1後		2		○								1	
		日本理解	1後		2		○								1	
		Japan Topics	1前		2		○								1	
		Culture Topics I	1後		2		○								1	
		Culture Topics II	1後		2		○								1	
		English for Science	1前		2		○								1	
		Science Writing	1後		2		○								1	
小計(12科目)	—	—	0	24	0	—	—	—	0	0	0	0	0	7	—	
スポーツ健康系	スポーツ健康系	スポーツ心理学	1前		2		○								1	オムニバス
		スポーツ運動学	1前		2		○								1	
		スポーツ文化論	1後		2		○								1	
		スポーツマネジメント	1後		2		○								1	
		生涯スポーツ論	1後		2		○								1	
		スポーツ社会学	1後		2		○								1	
		スポーツ医学	1後		2		○								1	
		運動生理学	1前		2		○								1	
		健康と生命科学	1後		2		○								1	
		スポーツコーチング論	1前		2		○								4	
		トレーニング論	1後		2		○								1	
		基礎スポーツ健康科学	1後		2		○								1	
小計(12科目)	—	—	0	24	0	—	—	—	0	0	0	0	0	8	—	
導科入目共通	導科入目共通	甲南大学と平生鈞三郎	1前・後	○		2		○							4	オムニバス
		共通基礎演習	1前・後	○		2			○						15	共同
		A I・データサイエンス入門	1後	○		2		○							3	オムニバス
		小計(3科目)	—	—	0	6	0	—	—	—	0	0	0	0	0	18

科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考			
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		基幹(助手を除く)の教員		
外国語科目(基礎外国語)	Skill-based	College English Reading	1前・後	○	1			○								11		
		College English Writing	1前・後	○	1			○								11		
		College English Listening	1前・後	○	1				○							5		
		College English Speaking	1前・後	○	1				○							5		
	Content/Project-based	College English Topics I	1前	○		1			○							2		
		College English Topics II	1後	○		1			○							2		
		College English Project I	1前	○		1			○							2		
		College English Project II	1後	○		1			○							2		
	ドイツ語	基礎ドイツ語 I	1通	○		2			○							2		
		基礎ドイツ語 II	1通	○		2			○							2		
	フランス語	基礎フランス語 I	1通	○		2			○							1		
		基礎フランス語 II	1通	○		2			○							2		
	中国語	基礎中国語 I	1通	○		2			○							2		
		基礎中国語 II	1通	○		2			○							4		
	韓国語	基礎韓国語 I	1通	○		2			○							5		
		基礎韓国語 II	1通	○		2			○							5		
	日本語	大学日本語入門 I	1通・前	○		2			○							1		
		大学日本語入門 II	1通・後	○		2			○							1		
	小計(18科目)	—	—		4	24	0				0	0	0	0	0	46	—	
育保科健目体	スポーツ健康マネジメント演習 I	1前	○		1					○						4		
	スポーツ健康マネジメント演習 II	1後	○		1					○						8		
	小計(2科目)	—	—		2	0	0				0	0	0	0	0	8	—	
合計(165科目)		—	—		6	314	0				1	0	0	0	0	220	—	
専門教育科目	必修科目	基礎物理学実験	1前	○		1					○	7	1				5	オムニバス、共同(一部)
		物理学実験 1	1後	○		2					○	2	1				7	共同
		物理学実験 2	2前	○		2					○	4					6	共同
		物理学実験 3	2後	○		2					○	6					2	オムニバス、共同
		力学 I	1後			2			○								1	
		力学 II	2前			2			○			1						
		電磁気学 I	1後			2			○			1						
		電磁気学 II	2前			2			○			1						
		量子論入門	2後			2			○			1						
		天文学入門	2後			2			○								1	
		文理融合総合研究	4通	○		8					○						2	
	小計(11科目)	—	—		27	0	0				7	1	0	0	0	15	—	
	選択必修科目 A	トピカル・フィジクス	1前			2			○			7	1				4	オムニバス
		力学基礎	1前			2			○				1					
		電磁気学基礎	1前			2			○								1	
		振動・波動	1後			2			○								1	
		微分積分学 I	1前			2			○								1	
		微分積分学 II	1後			2			○								1	
		線形代数学 I	1前			2			○								1	
線形代数学 II		1後			2			○								1		
プログラミング・AIのためのIT入門	1後			2					○	1					1	共同		
ベクトル解析	2前			2			○								1			
複素関数論	2後			2			○								1			
解析力学	2後			2			○			1								
電磁気学 III	2後			2			○								1			
熱・統計力学	2後			2			○								1			
プログラミング・AI実習 I	2後			2					○		1				2	共同		
小計(15科目)	—	—		0	30	0				7	1	0	0	0	10	—		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		基幹教員(助手を除く)以外の教員
専門教育科目	選択必修科目B	統計力学Ⅰ	3前		2		○								1	
		統計力学Ⅱ	3後		2		○			1						
		量子力学Ⅰ	3前		2		○			1						
		量子力学Ⅱ	3後		2		○			1						
		相対性理論	3前		2		○								1	
		電気・電子回路	3前		2		○								1	
		特殊関数論	3前		2		○			1						
		物性物理学Ⅰ	3後		2		○			1						
		物性物理学Ⅱ	4前		2		○			1						
		流体力学Ⅰ	3後		2		○								1	
		流体力学Ⅱ	4前		2		○								1	
		プログラミング・AI実習Ⅱ	3前		2				○						2	共同
		英語で学ぶ物理学	3後		2			○			1					
		科学英語	4前		2			○							1	
		確率統計学Ⅰ	2前		2			○							1	
		確率統計学Ⅱ	2後		2			○							1	
		解析学Ⅰ	3前		2			○							1	
		解析学Ⅱ	3後		2			○							1	
		コンピュータサイエンス	2前		2			○							1	
		地学通論Ⅰ	1前		2			○							1	
		地学通論Ⅱ	1後		2			○							1	
		化学通論Ⅰ	1前		2			○							1	
		化学通論Ⅱ	1後		2			○							1	
		生物学通論Ⅰ	2前		2			○							2	オムニバス
		生物学通論Ⅱ	2後		2			○							1	
		地学実験	2通		3					○					3	オムニバス・共同(一部)
		基礎化学実験	2前		3					○					4	共同
		基礎生物学実験	2前		3					○					11	オムニバス・共同(一部)
		素粒子物理学	3・4後		2			○				1				隔年
		原子核物理学	3・4前		2			○							1	隔年
		天文学概論	3・4後		2			○			1					隔年
		宇宙物理学	3・4前		2			○							1	隔年
		量子線計測学	3・4前		2			○			1					隔年
		電子物性工学	3・4前		2			○							1	隔年
		光・量子エレクトロニクス	3・4前		2			○			1					隔年
		量子情報工学	3・4前		2			○			1					隔年
		光物性工学	3・4後		2			○			1				1	隔年・共同(一部)
		半導体デバイス	3・4後		2			○							1	隔年・共同(一部)
		博物館資料論	2休		2			○							2	共同
		博物館情報・メディア論	3休		2			○							2	共同
小計(40科目)		—	—	0	83	0			—	6	1	0	0	0	35	—
科目C-3	コース別	共通応用演習Ⅰ	3前	○	2				○						2	
		共通応用演習Ⅱ	3後	○	2				○						2	
		文理融合リサーチ	3後	○	4			○			7	1			2	共同
		小計(3科目)	—	—	8	0	0			—	7	1	0	0	0	6
少人数・参加型科目		数学演習Ⅰa	1前		1				○		4				7	共同
		数学演習Ⅰb	1後		1				○		4				7	共同
		力学・電磁気学演習Ⅰ	1後		1				○		1				1	オムニバス・共同(一部)
		力学・電磁気学演習Ⅱ	2前		1				○		2				7	オムニバス・共同(一部)
		ワークショップⅡa	2前		1				○		4				7	共同
		ワークショップⅡb	2後		1				○		4				6	共同
		ワークショップⅢa	3前		1				○		4				7	共同
		ワークショップⅢb	3後		1				○		4				7	共同
		ワークショップⅣa	4前		1				○		4				7	共同
		ワークショップⅣb	4後		1				○		4				6	共同
		天体観測ワークショップ	2休		2					○					2	共同
		プログラミング・AI実践	3後		3					○		1			1	共同
小計(12科目)	—	—	0	15	0			—	6	0	0	0	0	10	—	
合計(81科目)		—	—	35	128	0			—	7	1	0	0	0	53	—

学位又は称号	学士(理学)	学位又は学科の分野	理学関係、工学関係																		
卒業・修了要件及び履修方法		授業期間等																			
<p>1 理工学部宇宙物理学・量子物理工学科文理融合コースの学生は、次に定めるところに従って合計128単位以上修得しなければならない。</p> <table border="0"> <tr> <td>基礎共通科目</td> <td>16単位(*1)</td> </tr> <tr> <td>外国語科目</td> <td>8単位(*2)</td> </tr> <tr> <td>保健体育科目</td> <td>2単位(*3)</td> </tr> <tr> <td>専門教育科目</td> <td>102単位以上</td> </tr> <tr> <td> 必修科目</td> <td>27単位</td> </tr> <tr> <td> 選択必修科目A</td> <td>20単位以上</td> </tr> <tr> <td> 選択必修科目B</td> <td>8単位以上</td> </tr> <tr> <td> コース別科目C-3</td> <td>8単位</td> </tr> <tr> <td> 少人数・参加型科目</td> <td></td> </tr> </table> <hr/> <p>合計 128単位以上</p> <p>(*1) (1) 人文科学系、社会科学系、自然科学系の授業科目の中から、それぞれ4単位 (2) 学際融合系、国際言語文化系、スポーツ健康系の授業科目の中から、2単位 (3) 導入共通科目「甲南大学と平生鈆三郎」「共通基礎演習」「AI・データサイエンス入門」の中から、2単位</p> <p>(*2) (1) 基礎外国語のうち、英語 (Skill-based) 4単位を修得しなければならない。 (2) 基礎外国語のうち、英語 (Content/Project-based)、ドイツ語、フランス語、中国語、韓国語について1外国語4単位を修得しなければならない。 (3) 上記(2)にかかわらず、外国人留学生(正規留学生)入学試験に合格して入学した学生は、基礎外国語のうち、英語 (Skill-based) 4単位及び日本語4単位を修得しなければならない。</p> <p>(*3) 「スポーツ健康マネジメント演習Ⅰ」及び「スポーツ健康マネジメント演習Ⅱ」2単位を修得しなければならない。</p>		基礎共通科目	16単位(*1)	外国語科目	8単位(*2)	保健体育科目	2単位(*3)	専門教育科目	102単位以上	必修科目	27単位	選択必修科目A	20単位以上	選択必修科目B	8単位以上	コース別科目C-3	8単位	少人数・参加型科目		1 学年の学期区分	2学期
基礎共通科目	16単位(*1)																				
外国語科目	8単位(*2)																				
保健体育科目	2単位(*3)																				
専門教育科目	102単位以上																				
必修科目	27単位																				
選択必修科目A	20単位以上																				
選択必修科目B	8単位以上																				
コース別科目C-3	8単位																				
少人数・参加型科目																					
<p>2 中級英語、「外国留学科目Ⅰ～Ⅳ」、「English RegionsⅢ・Ⅳ」、「海外語学講座Ⅰ・Ⅳ」、「エアスタディーズⅠ～Ⅹ」、「大学日本語中級Ⅰ・Ⅱ」、「大学日本語上級Ⅰ・Ⅱ」、「海外ボランティアⅠ・Ⅱ」については、専門教育科目として8単位以内を卒業必要単位数に充てることができる。ただし、必修又は選択必修のいずれの単位数にも充てることができない。</p> <p>3 大学日本語科目(大学日本語入門Ⅰ・Ⅱ、大学日本語中級Ⅰ・Ⅱ、大学日本語上級Ⅰ・Ⅱ)は、外国人留学生(正規留学生)入学試験に合格して入学した学生及び日本語を母語としない学生が履修することができる。</p> <p>4 「IT基礎」、「ベーシック・キャリアデザイン」及び「データサイエンス基礎」については、専門教育科目として卒業必要単位数に充てることができる。ただし、必修又は選択必修のいずれの単位数にも充てることができない。</p> <p>5 キャリア創生共通科目(エアスタディーズⅠ～Ⅹ、海外ボランティアⅠ・Ⅱ、ベーシック・キャリアデザイン、データサイエンス基礎を除く)については、専門教育科目として22単位以内を卒業必要単位数に充てることができる。ただし、必修又は選択必修のいずれの単位数にも充てることができない。</p> <p>6 関係学部長の許可を得た他学部の専門教育科目は、専門教育科目として16単位以内を卒業必要単位数に充てることができる。ただし、必修又は選択必修のいずれの単位数にも充てることができない。</p> <p>7 文理融合コースの卒業要件を充足した者には「学士(理学)」を授与する。</p> <p>(履修科目の登録の上限：年間49単位以内)</p>		1 学期の授業期間	15週																		
		1 時限の授業の標準時間	90分																		

(注)

- 学部等、研究科等若しくは高等専門学校学科の設置又は大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科における通信教育の開設の届出を行うおとする場合には、授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等、研究科等若しくは高等専門学校学科(学位の種類及び分野の変更等に関する基準(平成十五年文部科学省告示第三十九号)別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。)についても作成すること。
- 私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行うおとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行うおとする場合は、この書類を作成する必要はない。
- 開設する授業科目に応じて、適宜科目区分の枠を設けること。
- 「主要授業科目」の欄は、授業科目が主要授業科目に該当する場合、「○」を記入すること。なお、高等専門学校の学科を設置する場合は、「主要授業科目」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 「単位数」の欄は、各授業科目について、「必修」、「選択」、「自由」のうち、該当する履修区分に単位数を記入すること。
- 「授業形態」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。

- 7 「授業形態」の欄は、各授業科目について、該当する授業形態の欄に「○」を記入すること。ただし、専門職大学等又は専門職学科を設ける大学若しくは短期大学の授業科目のうち、臨地実務実習については「実験・実習」の欄に「臨」の文字を、連携実務演習等については「演習」又は「実験・実習」の欄に「連」の文字を記入すること。
- 8 「基幹教員等の配置」欄の「基幹教員等」は、大学院の研究科又は研究科の専攻の場合は、「専任教員等」と読み替えること。
- 9 「基幹教員等の配置」欄の「基幹教員以外の教員（助手を除く）」は、大学院の研究科又は研究科の専攻の場合は、「専任教員以外の教員（助手を除く）」と読み替えること。
- 10 課程を前期課程及び後期課程に区分する専門職大学若しくは専門職大学の学部等を設置する場合又は前期課程及び後期課程に区分する専門職大学の課程を設置し、若しくは変更する場合は、次により記入すること。
 - (1) 各科目区分における「小計」の欄及び「合計」の欄には、当該専門職大学の全課程に係る科目数、「単位数」及び「基幹教員等の配置」に加え、前期課程に係る科目数、「単位数」及び「基幹教員等の配置」を併記すること。
 - (2) 「学位又は称号」の欄には、当該専門職大学を卒業した者に授与する学位に加え、当該専門職大学の前期課程を修了した者に授与する学位を併記すること。
 - (3) 「卒業・修了要件及び履修方法」の欄には、当該専門職大学の卒業要件及び履修方法に加え、前期課程の修了要件及び履修方法を併記すること。

教育課程等の概要																
(理工学部生物学科)																
科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		基幹教員以外(助手を除く)
基礎共通科目(人文科学系)	A群 リベラルアーツ	哲学	1前		2		○								1	オムニバス
		倫理学	1前		2		○								1	
		心理学	1前・後		2		○								3	
		歴史学	1前		2		○								1	
		文学	1後		2		○								3	
		哲学プラクティス	1後		2		○								1	
		女性学	1後		2		○								1	
		現代の芸術	1前		2		○								1	
		宗教学	1後		2		○								1	
	B群 学人間を	生態人類学	1前		2		○								1	オムニバス
		環境と文学	1後		2		○								1	
		芸術と社会	1前		2		○								1	
		生命と倫理	1前		2		○								1	
		人権(同和)の問題	1後		2		○								1	
		感情・人格心理学	1後		2		○								2	
		DE&I入門	1後		2		○								9	
	C群 文化を学ぶ	ことばと社会	1前		2		○								3	オムニバス
		コミュニケーション論	1後		2		○								1	
		イメージと文化	1後		2		○								1	
		日本語の諸相	1前		2		○								1	
		比較文化	1後		2		○								1	
		芸術学基礎論	1後		2		○								1	
		現代思想	1後		2		○								1	
		近現代の文学	1後		2		○								1	
		日本研究	1前		2		○								1	
		越境する文化と文学	1後		2		○								3	
	伝統文化を学ぶ	1後		2		○								6		
	D群 歴史を学ぶ	社会思想史	1前		2		○								1	オムニバス・共同(一部)
		歴史と文化	1前		2		○								1	
		文学と歴史	1後		2		○								1	
		地域と文化	1前		2		○								1	
		芸術史	1前		2		○								1	
		歴史とメディア	1後		2		○								1	
		国際化の歴史	1後		2		○								1	
	生活の歴史	1前		2		○								1		
小計(35科目)		—	—	0	70	0	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
基礎共通科目(社会科学系)	A群 アーベラル	社会学	1後		2		○								1	共同
		法学	1後		2		○								1	
		経済学	1前		2		○								1	
		経営学	1前		2		○								1	
		政治学	1後		2		○								1	
		地理学	1前		2		○								1	
		国際関係論	1前		2		○								1	
	B群 経済を学ぶ	産業と経済	1前		2		○								1	
		企業と情報	1前		2		○								1	
		歴史と経済	1前		2		○								1	
		現代社会と企業	1後		2		○								1	
		世界と経済	1前		2		○								1	
		暮らしと経済	1後		2		○								1	
		福祉と経済	1後		2		○								1	
		社会とファイナンス	1後		2		○								1	
		SDGsとISO国際標準	1後		2		○								2	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考		
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		基幹教員(助手を除く)	
基礎共通科目(社会科学系)	C群 社会を学ぶ	現代社会論	1前		2		○								1	共同(一部)	
		現代都市論	1後		2		○								1		
		公共哲学	1前		2		○								1		
		環境人間学	1後		2		○								1		
		社会福祉論	1前		2		○								1		
		家族関係論	1後		2		○								1		
		歴史と社会	1前		2		○								1		
		ボランティア論	1前		2		○								1		
		グローバル化と文化	1前		2		○								1		
		地域連携入門	1後		2		○								1		
	地域とメディア	1後		2		○								2			
	D群 法と政治を学ぶ	日本国憲法	1前・後		2		○								1		
		社会生活と法	1前		2		○								1		
		現代政治論	1後		2		○								1		
		法と情報	1前		2		○								1		
		環境法学	1後		2		○								1		
		家族関係と法	1前・後		2		○								1		
		少子高齢社会と法	1前		2		○								2		
		財産と法	1前・後		2		○								1		
		消費者問題	1前		2		○								1		
市場と法		1後		2		○								1			
組織と法	1前		2		○								1				
まちづくりと行政	1後		2		○								1				
地域創生	1前		2		○								1				
小計(40科目)	—	—	0	80	0	—	—	—	0	0	0	0	0	38	—		
基礎共通科目(自然科学系)	A群 ア リ ベ ラ ツ ル	数学	1前		2		○								1	オムニバス・共同(一部)	
		物理学	1後		2		○								2		
		化学	1後		2		○								1		
		生物学	1前		2		○								1		
		地学	1前		2		○								1		
	B群 史 自 然 の 歴 史	生命科学	1後		2		○								7		オムニバス
		地球の歴史	1後		2		○								1		
		生物の歴史	1前		2		○								1		
		自然と人間	1前		2		○								1		
		自然科学史	1前		2		○								1		
	C群 現 代 科 学 を 学 ぶ	技術の歴史	1前		2		○								1		
		環境と地理	1後		2		○								1		
		現代生活と物理学	1前		2		○								5		オムニバス
		現代生活と生物学	1後		2		○								1		
		現代生活と数理学	1後		2		○								1		
		現代生活と最先端科学	1前		2		○								3		オムニバス
		核と環境	1後		2		○								1		
		環境の化学	1後		2		○								1		
		大気と海洋	1前		2		○								1		
		国際化と情報ネットワーク	1後		2		○								1		
D群 学 情 報 を 学 ぶ	国際社会における最先端科学	1後		2		○								3	オムニバス		
	現代生活と生命化学	1後		2		○								8	オムニバス		
	Science in the World Today	1前		2		○								1			
	Science, Technology and SDGs	1後		2		○								1			
	Science News	1後		2		○								1			
D群 学 情 報 を 学 ぶ	知能情報	1後		2		○								1	オムニバス		
	生体情報	1後		2		○								1			
	感性情報	1後		2		○								1			
	生命情報	1後		2		○								2			
	認知科学	1後		2		○								1			
小計(30科目)	—	—	0	60	0	—	—	—	0	0	0	0	0	46	—		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考			
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		基幹教員以外の教員		
基礎共通科目	学際融合系	ケアの倫理	1後		2			○								1	オムニバス	
		ライフプラン教育	1後		2			○								9		
		癒しの諸相	1前・後		2				○							2		
		自己の探求	1後		2				○							5		
		心の健康科学	1前		2				○							1		
		保健衛生	1前		2				○							1		
		人体の構造と機能及び疾病	1後		2				○							1		
		環境教育の実践	1前		2				○							6		オムニバス・共同 (一部)
		食品科学	1前		2				○							1		
		フロントランナー講座	1後		2				○							13		オムニバス・共同
		情報社会のセキュリティ	1前・後		2				○							1		
		社会を読み解く (クリティカルシンキング)	1前		2				○							1		
		文章表現論	1前		2				○							2		
小計 (13科目)	—	—	—	0	26	0	—	—	—	0	0	0	0	0	41	—		
国際言語文化系	ヨーロッパの文化を学ぶ	1前		2			○								2			
	アジアの文化を学ぶ	1前		2			○								2			
	ヨーロッパの言語と社会	1後		2				○							2			
	アジアの言語と社会	1後		2				○							2			
	国際理解	1前・後		2				○							2			
	国際理解English	1後		2				○							1			
	日本理解	1後		2				○							1			
	Japan Topics	1前		2				○							1			
	Culture Topics I	1後		2				○							1			
	Culture Topics II	1後		2				○							1			
	English for Science	1前		2				○							1			
	Science Writing	1後		2				○							1			
小計 (12科目)	—	—	—	0	24	0	—	—	—	0	0	0	0	0	11	—		
スポーツ健康系	スポーツ心理学	1前		2			○								1	オムニバス		
	スポーツ運動学	1前		2			○								1			
	スポーツ文化論	1前		2				○							1			
	スポーツマネジメント	1後		2				○							1			
	生涯スポーツ論	1後		2				○							1			
	スポーツ社会学	1後		2				○							1			
	スポーツ医学	1後		2				○							1			
	運動生理学	1前		2				○							1			
	健康と生命科学	1後		2				○							1			
	スポーツコーチング論	1前		2				○							3			
	トレーニング論	1後		2				○							1			
	基礎スポーツ健康科学	1後		2				○							1			
小計 (12科目)	—	—	—	0	24	0	—	—	—	0	0	0	0	0	8	—		
導科目共通	甲南大学と平生飢三郎	1前・後	○		2			○							6	オムニバス		
	共通基礎演習	1前・後	○		2				○						19	共同		
	A I・データサイエンス入門	1後	○		2			○							3	オムニバス		
	小計 (3科目)	—	—	—	0	6	0	—	—	—	0	0	0	0	0	25	—	
外国語科目 (基礎外国語)	英語	College English Reading and Writing	1通	○	2			○								17		
		College English Listening	1前・後	○	1											8		
		College English Speaking	1前・後	○	1				○							7		
	ドイツ語	基礎ドイツ語 I	1通	○	2			○								4		
		基礎ドイツ語 II	1通	○	2			○								6		
	フランス語	基礎フランス語 I	1通	○	2			○								3		
		基礎フランス語 II	1通	○	2			○								4		
	中国語	基礎中国語 I	1通	○	2			○								3		
		基礎中国語 II	1通	○	2			○								4		
	韓国語	基礎韓国語 I	1通	○	2			○								7		
		基礎韓国語 II	1通	○	2			○								6		
	日本語	大学日本語入門 I	1通・前	○	2			○								2		
		大学日本語入門 II	1通・後	○	2			○								2		
小計 (13科目)	—	—	—	4	20	0	—	—	—	0	0	0	0	0	62	—		
育保科健目体	スポーツ健康マネジメント演習 I	1前・休	○	1											5			
	スポーツ健康マネジメント演習 II	1後・休	○	1											10			
	小計 (2科目)	—	—	—	2	0	0	—	—	—	0	0	0	0	0		10	—
合計 (160科目)		—	—	—	6	310	0	—	—	—	0	0	0	0	0	258	—	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考						
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		基幹教員以外の教員					
専門教育科目	選択必修科目④	細胞生物学		2前		2			○												
		生態学		2後		2			○												
		植物生化学		2前		2			○			1									
		植物細胞工学		2後		2			○			1									
		遺伝学概論		1前		2			○			1									
		分子遺伝学		1後		2			○			1									
		発生学概論		1前		2			○			1									
		発生生物学		1後		2			○			1									
		生物物理化学		1前		2			○			1									
		酵素化学		1後		2			○			1									
		環境生物学		1前		2			○			1									
		系統分類学		1後		2			○			1									
		動物生理学		1後		2			○			1									
		比較生理学		1前		2			○			1									
		植物細胞生物学		2前		2			○			1									
		植物分子生物学		2後		2			○			1									
		微生物生理学		2前		2			○			1									
		微生物遺伝学		2後		2			○			1									
		生物学入門		1通		2			○			8	1					4	オムニバス・共同(一部)		
		基礎生物学Ⅰ		1前		2			○			2							オムニバス		
		基礎生物学Ⅱ		1後		2			○			1	1						オムニバス		
		科学英語演習Ⅰ		1前		2			○										1		
		科学英語演習Ⅱ		1後		2			○										1		
		基礎生物学演習Ⅰ		2前		2			○			2							オムニバス		
		基礎生物学演習Ⅱ		2後		2			○			3							オムニバス		
小計(25科目)		—	—	0	50	0		—		8	1						6	—			
選択必修科目⑤		基礎生物学実験		2前	○	3				○	8	1						2	オムニバス・共同(一部)		
		生物学臨海実習		3休		2					○	1						1	共同		
		生物学専門実験及び演習Ⅰ		3前	○	5					○	2	1						オムニバス		
		生物学専門実験及び演習Ⅱ		3前	○	5					○	2							1	オムニバス	
		生物学専門実験及び演習Ⅲ		3後	○	5					○	2								オムニバス	
		生物学専門実験及び演習Ⅳ		3後	○	5					○	2								オムニバス	
小計(6科目)		—	—	0	25	0		—		8	1						3	—			
選択必修科目⑥	①	生物学卒業実験		4通	○	12				○	8	1									
		生物学特殊講義Ⅰ		3休		2			○										1		
		生物学特殊講義Ⅱ		3休		2			○			1							1		
		生物学特殊講義Ⅲ		3休		2			○										1		
		生物学特殊講義Ⅳ		3休		2			○										1		
		生物学特殊講義Ⅴ		2休		2			○										1		
		生物学特殊講義Ⅵ		2休		2			○										1		
		生物学特設科目Ⅰ		3通		1					○	1									
		生物学特設科目Ⅱ		3通		2					○	1									
		Biological ScienceⅠ		2通		1			○											1	
		Biological ScienceⅡ		2通		1			○											1	
		Biological ScienceⅢ		2通		2			○											1	
		Biological ScienceⅣ		2通		2			○											1	
		化学通論Ⅰ		1前		2			○											1	
		化学通論Ⅱ		1後		2			○											1	
		有機化学A		2前		2			○											1	
		有機化学B		2後		2			○											1	
		物理化学A		2前		2			○											1	
		物理化学B		2後		2			○											1	
		基礎化学実験		2前		3														5	共同
		分析化学A		2前		2			○											1	
		分析化学B		2後		2			○											1	
		物理学通論Ⅰ		1前		2			○											2	
		物理学通論Ⅱ		1後		2			○											2	
		熱力学		2前		2			○											1	
		ラボラトリー・フィジックス		2後		3														4	共同
		地学通論Ⅰ		1前		2			○											1	
		地学通論Ⅱ		1後		2			○											1	
		地学実験		2通		3														6	オムニバス・共同(一部)
		コンピュータサイエンス		1前		2			○											2	
線形代数A		1前		2			○											1			

科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		基幹教員以外の教員 (助手を除く)
専門教育科目	◎ 1	線形代数B	1後		2		○								1	オムニバス・共同 (一部) 共同
		微分積分A	1前		2		○								1	
微分積分B		1後		2		○								1		
確率統計学Ⅰ		2前		2		○								1		
確率統計学Ⅱ		2後		2		○								1		
博物館資料論		2通		2		○				1				6		
博物館情報・メディア論		3休		2		○				1				1		
情報通信テクノロジーⅠ		1前		2		○								1		
IT応用		1後		2					○						4	
統計基礎		1前		2		2		○							1	
データサイエンス基礎	2前		2		2		○							1		
◎ 2	文化人類学	1前・後		2		○								3		
	多文化共生論	1前・後		2		○								3		
	自然地理学	1前・休		2		○								2		
	人文地理	2前		2		○								2		
	人文地理特論Ⅰ	2後		2		○								2		
	環境学入門	2前		2		○								1		
環境学	2後		2		2		○							1		
選択必修科目◎ ◎ 3	中級英語Speaking	2通・前		4		○									12	
	中級英語Presentation	2通・後		4		○									11	
	中級英語Listening	2通		4		○									8	
	中級英語Reading	2通		4		○									5	
	中級英語Writing	2通・後		4		○									14	
	中級英語Pronunciation	2前・後		2		○									5	
	中級英語TOEIC	2通		4		○									6	
	中級英語Global TopicsⅠ	2前		2		○									5	
	中級英語Global TopicsⅡ	2前・後		2		○									5	
	中級英語Life TopicsⅠ	2前		2		○									3	
	中級英語Life TopicsⅡ	2後		2		○									2	
	中級英語Career EnglishⅠ	2前		2		○									3	
	中級英語Career EnglishⅡ	2後		2		○									2	
	上級英語TOEIC	3通		4		○									3	
	上級英語Global TopicsⅠ	3前		2		○									1	
	上級英語Global TopicsⅡ	3後		2		○									1	
	上級英語Life TopicsⅠ	3前		2		○									1	
	上級英語Life TopicsⅡ	3後		2		○									1	
	上級英語Career EnglishⅠ	3前		2		○									1	
	上級英語Career EnglishⅡ	3後		2		○									1	
	海外語学講座Ⅰ	1休		4						○					1	
	海外語学講座Ⅱ	1休		4						○					1	
	海外語学講座Ⅲ	1休		2						○					1	
	海外語学講座Ⅳ	1休		2						○					1	
	TOEFLⅠ	1休		2			○								5	
	TOEFLⅡ	2前・後		2			○								2	
	IELTSⅠ	1休		2			○								3	
	IELTSⅡ	2前・後		2			○								2	
	English RegionsⅠ	1後		2			○								4	
	English RegionsⅡ	1後		2			○								3	
	English RegionsⅢ	2通		2						○					1	
	English RegionsⅣ	2通		2						○					1	
	外国留学科目Ⅰ	2通		4						○					1	
	外国留学科目Ⅱ	2通		4						○					1	
	外国留学科目Ⅲ	2通		4						○					1	
	外国留学科目Ⅳ	2通		4						○					1	
上級外国留学科目Ⅰ	2通		4						○					1		
上級外国留学科目Ⅱ	2通		4						○					1		
大学日本語中級Ⅰ	2通		4			○								1		
大学日本語中級Ⅱ	2通		4			○								1		
大学日本語上級Ⅰ	3通		4			○								1		
大学日本語上級Ⅱ	3通		4			○								1		
海外ボランティアⅠ	1休		4						○					2		
海外ボランティアⅡ	1休		2						○					2		
小計(93科目)		—	—	0	236	0	—			8	1	0	0	0	103	—

科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考		
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		基幹教員以外の教員	
専門教育科目 博物館学芸員科目	生涯学習概論	1後・休				2	○								2		
	博物館概論	1前				2	○			1					1		
	博物館経営論	2休				2	○								1		
	博物館資料保存論	3休				2	○			1					3	オムニバス・共同(一部)	
	博物館教育論	1後				2	○								2	共同	
	博物館展示論	3休				2	○			1					1		
	博物館実習Ⅰ	2通				1			○	4					2	オムニバス・共同(一部)	
	博物館実習Ⅱ	3通				1			○	1					3	オムニバス・共同(一部)	
	博物館実習Ⅲ	4通				1			○	1					2	共同	
小計(9科目)		—	—	0	0	15				4	0	0	0	0	14	—	
合計(133科目)				—	—	0	311	15			8	1	0	0	0	122	—
学位又は称号		学士(理学)		学位又は学科の分野			理学関係										
卒業・修了要件及び履修方法							授業期間等										
<p>1. 理工学部生物学科の学生は、次に定めるところに従って合計128単位以上修得しなければならない。</p> <p>基礎共通科目 16単位(*1) 外国語科目 8単位(*2) 保健体育科目 2単位(*3) 専門教育科目 102単位以上 選択必修科目④より 32単位以上 選択必修科目⑥より 23単位以上 選択必修科目⑦より 30単位以上(*4)</p> <p>合計 128単位以上</p> <p>(*1) (1)人文科学系、社会科学系、自然科学系の授業科目の中から、それぞれ4単位 (2)学際融合系、国際言語文化系、スポーツ健康系の授業科目の中から、2単位 (3)導入共通科目「甲南大学と平生 眞三郎」「共通基礎演習」「AI・データサイエンス入門」の中から、2単位</p> <p>(*2) (1)基礎外国語のうち、英語4単位を修得しなければならない。 (2)基礎外国語のうち、ドイツ語、フランス語、中国語、韓国語について1外国語4単位を修得しなければならない。 (3)上記(2)にかかわらず、外国人留学生(正規留学生)入学試験に合格して入学した学生は、基礎外国語のうち、英語4単位及び日本語4単位を修得しなければならない。</p> <p>(*3) 「スポーツ健康マネジメント演習Ⅰ」及び「スポーツ健康マネジメント演習Ⅱ」2単位を修得しなければならない。</p> <p>(*4) ⑥-2からは8単位、⑦-3からは16単位を限度として含めることができる。</p> <p>2. 「エリアスタディーズⅠ～Ⅹ」については2単位を上限とし、専門教育科目として卒業必要単位数に充てることできる。ただし、選択必修の単位数に充てることはできない。</p> <p>3. 大学日本語科目(「大学日本語入門Ⅰ・Ⅱ」、「大学日本語中級Ⅰ・Ⅱ」、「大学日本語上級Ⅰ・Ⅱ」)は、外国人留学生(正規留学生)入学試験に合格して入学した学生及び日本語を母語としない学生が履修することできる。</p> <p>(履修科目の登録の上限：49単位(年間))</p>							1学年の学期区分					2学期					
							1学期の授業期間					15週					
							1時限の授業の標準時間					90分					

(注)

- 学部等、研究科等若しくは高等専門学校等の学科の設置又は大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科における通信教育の開設の届出を行うおとする場合には、授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等、研究科等若しくは高等専門学校等の学科(学位の種類及び分野の変更等に関する基準(平成十五年文部科学省告示第三十九号)別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。)についても作成すること。
- 私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科若しくは高等専門学校等の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行うおとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行うおとする場合は、この書類を作成する必要がある。
- 開設する授業科目に応じて、適宜科目区分の枠を設けること。
- 「主要授業科目」の欄は、授業科目が主要授業科目に該当する場合、欄に「○」を記入すること。なお、高等専門学校等の学科を設置する場合は、「主要授業科目」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 「単位数」の欄は、各授業科目について、「必修」、「選択」、「自由」のうち、該当する履修区分に単位数を記入すること。
- 「授業形態」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。
- 「授業形態」の欄は、各授業科目について、該当する授業形態の欄に「○」を記入すること。ただし、専門職大学等又は専門職学科を設ける大学若しくは短期大学の授業科目のうち、臨地実務実習については「実験・実習」の欄に「臨」の文字を、連携実務実習等については「演習」又は「実験・実習」の欄に「連」の文字を記入すること。

- 8 「基幹教員等の配置」欄の「基幹教員等」は、大学院の研究科又は研究科の専攻の場合は、「専任教員等」と読み替えること。
- 9 「基幹教員等の配置」欄の「基幹教員以外の教員（助手を除く）」は、大学院の研究科又は研究科の専攻の場合は、「専任教員以外の教員（助手を除く）」と読み替えること。
- 10 課程を前期課程及び後期課程に区分する専門職大学若しくは専門職大学の学部等を設置する場合又は前期課程及び後期課程に区分する専門職大学の課程を設置し、若しくは変更する場合は、次により記入すること。
 - (1) 各科目区分における「小計」の欄及び「合計」の欄には、当該専門職大学の全課程に係る科目数、「単位数」及び「基幹教員等の配置」に加え、前期課程に係る科目数、「単位数」及び「基幹教員等の配置」を併記すること。
 - (2) 「学位又は称号」の欄には、当該専門職大学を卒業した者に授与する学位に加え、当該専門職大学の前期課程を修了した者に授与する学位を併記すること。
 - (3) 「卒業・修了要件及び履修方法」の欄には、当該専門職大学の卒業要件及び履修方法に加え、前期課程の修了要件及び履修方法を併記すること。
- 11 高等専門学校の学科を設置する場合は、高等専門学校設置基準第17条第4項の規定により計算することのできる授業科目については、備考欄に「☆」を記入すること。

教育課程等の概要																
(知能情報学部知能情報学科)																
科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		基幹教員以外を除く
基礎共通科目(人文科学系)	A群 リベラルアーツ	哲学	1前		2		○								1	オムニバス
		倫理学	1前		2		○								1	
		心理学	1前・後		2		○								3	
		歴史学	1前		2		○								1	
		文学	1後		2		○								3	
		哲学プラクティス	1後		2		○								1	
		女性学	1後		2		○								1	
		現代の芸術	1前		2		○								1	
	宗教学	1後		2		○								1		
	B群 学人間を	生態人類学	1前		2		○								1	オムニバス
		環境と文学	1後		2		○								1	
		芸術と社会	1前		2		○								1	
		生命と倫理	1前		2		○								1	
		人権(同和)の問題	1後		2		○								1	
		感情・人格心理学	1後		2		○								2	
		DE&I入門	1後		2		○								9	
	C群 文化を学ぶ	ことばと社会	1前		2		○								3	オムニバス
		コミュニケーション論	1後		2		○								1	
		イメージと文化	1後		2		○								1	
		日本語の諸相	1前		2		○								1	
		比較文化	1後		2		○								1	
		芸術学基礎論	1後		2		○								1	
		現代思想	1後		2		○								1	
		近現代の文学	1後		2		○								1	
		日本研究	1前		2		○								1	
		越境する文化と文学	1後		2		○								3	
	伝統文化を学ぶ	1後		2		○								6		
	D群 歴史を学ぶ	社会思想史	1前		2		○								1	オムニバス・共同(一部)
		歴史と文化	1前		2		○								1	
		文学と歴史	1後		2		○								1	
		地域と文化	1前		2		○								1	
		芸術史	1前		2		○								1	
		歴史とメディア	1後		2		○								1	
		国際化の歴史	1後		2		○								1	
		生活の歴史	1前		2		○								1	
小計(35科目)		—	—	0	70	0	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
基礎共通科目(社会科学系)	A群 アーベラル	社会学	1後		2		○								1	共同
		法学	1後		2		○								1	
		経済学	1前		2		○								1	
		経営学	1前		2		○								1	
		政治学	1後		2		○								1	
		地理学	1前		2		○								1	
		国際関係論	1前		2		○								1	
	B群 経済を学ぶ	産業と経済	1前		2		○								1	
		企業と情報	1前		2		○								1	
		歴史と経済	1前		2		○								1	
		現代社会と企業	1後		2		○								1	
		世界と経済	1前		2		○								1	
		暮らしと経済	1後		2		○								1	
		福祉と経済	1後		2		○								1	
		社会とファイナンス	1後		2		○								1	
		SDGsとISO国際標準	1後		2		○								2	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		基幹教員以外を除く
基礎共通科目（社会科学系）	C群 社会を学ぶ	現代社会論	1前		2		○								1	共同（一部）
		現代都市論	1後		2		○								1	
		公共哲学	1前		2		○								1	
		環境人間学	1後		2		○								1	
		社会福祉論	1前		2		○								1	
		家族関係論	1後		2		○								1	
		歴史と社会	1前		2		○								1	
		ボランティア論	1前		2		○								1	
		グローバリゼーションと文化	1前		2		○								1	
		地域連携入門	1後		2		○								1	
	地域とメディア	1後		2		○								2		
	D群 法と政治を学ぶ	日本国憲法	1前・後		2		○								1	
		社会生活と法	1前		2		○								1	
		現代政治論	1後		2		○								1	
		法と情報	1前		2		○								1	
		環境法学	1後		2		○								1	
		家族関係と法	1前・後		2		○								1	
		少子高齢社会と法	1前		2		○								2	
		財産と法	1前・後		2		○								1	
		消費者問題	1前		2		○								1	
市場と法		1後		2		○								1		
組織と法	1前		2		○								1			
まちづくりと行政	1後		2		○								1			
地域創生	1前		2		○								1			
小計（40科目）	—	—	0	80	0	—	—	—	0	0	0	0	0	38	—	
基礎共通科目（自然科学系）	A群 ア リ ベ ラ ツ ル	数学	1前		2		○			1						オムニバス・共同（一部） オムニバス
		物理学	1後		2		○								2	
		化学	1後		2		○								1	
		生物学	1前		2		○								1	
		地学	1前		2		○								1	
	生命化学	1後		2		○								7		
	B群 史 自 然 の 歴 史	地球の歴史	1後		2		○								1	
		生物の歴史	1前		2		○								1	
		自然と人間	1前		2		○								1	
		自然科学史	1前		2		○								1	
		技術の歴史	1前		2		○								1	
	環境と地理	1後		2		○								1		
	C群 現 代 科 学 を 学 ぶ	現代生活と物理学	1前		2		○								5	
		現代生活と生物学	1後		2		○								1	
		現代生活と数理学	1後		2		○								1	
		現代生活と最先端科学	1前		2		○								3	
		核と環境	1後		2		○								1	
		環境の化学	1後		2		○								1	
		大気と海洋	1前		2		○								1	
		国際化と情報ネットワーク	1後		2		○								1	
国際社会における最先端科学		1後		2		○								3		
現代生活と生命化学		1後		2		○								8		
Science in the World Today	1前		2		○								1			
Science, Technology and SDGs	1後		2		○								1			
Science News	1後		2		○								1			
D群 学 情 報 を	知能情報	1後		2		○								1		
	生体情報	1後		2		○								1		
	感性情報	1後		2		○			1							
	生命情報	1後		2		○								2		
	認知科学	1後		2		○								1		
小計（30科目）	—	—	0	60	0	—	—	—	2	0	0	0	0	44	—	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考			
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		基幹教員(助手を除く)		
基礎共通科目	学際融合系	ケアの倫理	1後			2		○								1	オムニバス オムニバス・共同(一部) オムニバス・共同	
		ライフプラン教育	1後			2		○								9		
		癒しの諸相	1前・後			2		○								2		
		自己の探求	1後			2		○								5		
		心の健康科学	1前			2		○								1		
		保健衛生	1前			2		○								1		
		人体の構造と機能及び疾病	1後			2		○								1		
		環境教育の実践	1前			2		○								6		
		食品科学	1前			2		○								1		
		フロントランナー講座	1後			2		○								13		
		情報社会のセキュリティ	1前・後			2		○								1		
		社会を読み解く(クリティカルシンキング)	1前			2		○								1		
		文章表現論	1前			2		○								2		
小計(13科目)	—	—	—	0	26	0	—	—	—	0	0	0	0	0	41	—		
国際言語文化系	ヨーロッパの文化を学ぶ	1前			2		○								2			
	アジアの文化を学ぶ	1前			2		○								2			
	ヨーロッパの言語と社会	1後			2		○								2			
	アジアの言語と社会	1後			2		○								2			
	国際理解	1前・後			2		○								2			
	国際理解English	1後			2		○								1			
	日本理解	1後			2		○								1			
	Japan Topics	1前			2		○								1			
	Culture Topics I	1後			2		○								1			
	Culture Topics II	1後			2		○								1			
	English for Science	1前			2		○								1			
	Science Writing	1後			2		○								1			
小計(12科目)	—	—	—	0	24	0	—	—	—	0	0	0	0	0	11	—		
スポーツ健康系	スポーツ心理学	1前			2		○								1	オムニバス		
	スポーツ運動学	1前			2		○								1			
	スポーツ文化論	1前			2		○								1			
	スポーツマネジメント	1後			2		○								1			
	生涯スポーツ論	1後			2		○								1			
	スポーツ社会学	1後			2		○								1			
	スポーツ医学	1後			2		○								1			
	運動生理学	1前			2		○								1			
	健康と生命科学	1後			2		○								1			
	スポーツコーチング論	1前			2		○								3			
	トレーニング論	1後			2		○								1			
	基礎スポーツ健康科学	1後			2		○								1			
小計(12科目)	—	—	—	0	24	0	—	—	—	0	0	0	0	0	8	—		
導科目共通	甲南大学と平生飢三郎	1前・後	○		2		○								6	オムニバス		
	共通基礎演習	1前・後	○		2			○				1			18	共同		
	A I・データサイエンス入門	1後	○		2		○				1				2	オムニバス		
	小計(3科目)	—	—	—	0	6	0	—	—	—	1	1	0	0	0	23	—	
外国語科目(基礎外国語)	英語	College English Reading and Writing	1通	○	2		○								17			
		College English Listening	1前・後	○	1		○								8			
		College English Speaking	1前・後	○	1		○								8			
	ドイツ語	基礎ドイツ語 I	1通	○	2		○								4			
		基礎ドイツ語 II	1通	○	2		○								6			
	フランス語	基礎フランス語 I	1通	○	2		○								3			
		基礎フランス語 II	1通	○	2		○								4			
	中国語	基礎中国語 I	1通	○	2		○								4			
		基礎中国語 II	1通	○	2		○								4			
	韓国語	基礎韓国語 I	1通	○	2		○								7			
		基礎韓国語 II	1通	○	2		○								6			
	日本語	大学日本語入門 I	1通・前	○	2		○								2			
		大学日本語入門 II	1通・後	○	2		○								2			
小計(13科目)	—	—	—	4	20	0	—	—	—	0	0	0	0	0	64	—		
育保科健目体	スポーツ健康マネジメント演習 I	1前・休	○	1											5			
	スポーツ健康マネジメント演習 II	1後・休	○	1											10			
	小計(2科目)	—	—	—	2	0	0	—	—	—	0	0	0	0	0		10	—
合計(160科目)				—	—	6	310	0	—	—	—	3	1	0	0	0	256	—

科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考		
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		基幹教員以外(除く)	
専門教育科目 必修科目	知能情報学概論及び基礎演習	1前	○	2						12	4	2					オムニバス・共同 (一部)
	プログラミング演習Ⅰ	1前		2				○		2	3					3	共同
	プログラミング演習Ⅱ	1後		2				○		3	1					4	共同
	微分積分及び演習Ⅰ	1前		3				○		1						3	
	微分積分及び演習Ⅱ	1後		3				○		1						3	
	線形代数及び演習Ⅰ	1前		3				○								4	
	線形代数及び演習Ⅱ	1後		3				○								4	
	確率統計Ⅰ	1後		2				○		1						1	共同
	アドバンスプログラミング演習	2前		2					○	3						4	共同
	知能情報学セミナーⅠ	3前	○	2					○	11	4	1					オムニバス・共同 (一部)
	知能情報学セミナーⅡ	3後	○	2					○	11	4	1					
	卒業研究及び演習	4通	○	8					○	12	3	1					
	小計(12科目)	—	—	—	34	0	0		—	12	4	2	0	0	0	11	—
選択必修科目 ㉔	コンピュータサイエンス	1前			2			○		1						1	
	情報通信ネットワーク	2前			2			○		1							
	情報理論	2前			2			○								1	
	データ構造とアルゴリズムⅠ	2前			2			○		1							
	コンピュータアーキテクチャ	2前			2			○		1							
	オペレーティングシステム	2前			2			○		1							
	人工知能	2前			2			○		1							
	ヒューマンインタフェース	2前			2			○		1							
	データ構造とアルゴリズムⅡ	2後			2			○		1							
	データベース	2後			2			○		1							
小計(10科目)	—	—	—	0	20	0		—	8	0	0	0	0	0	2	—	
選択必修科目 ㉕	コース演習：クラウドシステム	2後			2			○		1							
	コース演習：AIデータサイエンス	2後			2			○		2	1						オムニバス
	コース演習：知能ロボット	2後			2			○		1	2						オムニバス
	コース演習：メディアデザイン	2後			2			○		4	1						共同
	コース演習：ヒューマンセンシング	2後			2			○		4	1						共同
	コース演習：数値情報	2後			2			○		1		1					共同
小計(6科目)	—	—	—	0	12	0		—	9	4	1	0	0	0	—	—	
選択科目	IT基礎	1前・後			2				○							9	
	情報社会と情報倫理	2前			2			○								1	
	確率統計Ⅱ	2前			2			○		1						1	共同
	応用統計学	2後			2			○		1							
	オブジェクト指向プログラミング	2後			2			○		1							
	信号解析	2後			2			○		1							
	ブレインサイエンスⅠ	2休			2			○			1						
	コンパイラ・インタプリタ	2後			2			○		1							
	ブレインサイエンスⅡ	2後			2			○			1						
	数値プログラミング技法	2後			2			○		1							
	最適化	2前			2			○								1	
	情報セキュリティ	2後			2			○			1						
	センサー工学	2後			2			○		1							
	電気電子回路入門	2後			2			○			1						
	グラフ理論	2後			2			○								1	
	離散数学	2前			2			○								1	
	集合と論理	2前			2			○								1	
	プロジェクト演習	2後			2				○	5	1						
	情報英語	2前・後			2			○								1	
	人間工学	3前			2			○			1						
	ロボティクス	3前			2			○		1							
	メディア情報処理	3後			2			○								1	
	Webコンピューティング	3前			2			○		1							
	コンピュータグラフィックス	3前			2			○		1							
	ソフトウェア工学	3前			2			○		1							
	機械学習	3前			2			○			1						
システム解析	3前			2			○			1							
行動計測学	3前			2			○		1								
生理計測学	3後			2			○			1							
自然言語処理	3前			2			○			1							
実験デザインとデータ処理	3前			2			○		1								
画像工学	3前			2			○		1								
感性計測学	3後			2			○			1							

科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考		
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		基幹教員以外の教員	
専門教育科目 選択科目	メディアデザイン	3後			2												
	代数学Ⅰ	3前			2			○			1	1				1	
	代数学Ⅱ	3後			2			○								2	
	解析学Ⅰ	3前			2			○				1				1	
	解析学Ⅱ	3後			2			○				1				1	
	幾何学Ⅰ	3前			2			○			1						
	幾何学Ⅱ	3後			2			○			1						
	情報と職業	3前			2			○								1	
小計(41科目)	—	—	—	0	82	0	—	—	—	10	5	2	0	0	19	—	
合計(69科目)		—	—	34	114	0	—	—	—	12	5	2	0	0	25	—	
学位又は称号		学士(知能情報学)			学位又は学科の分野			理学関係、工学関係									
卒業・修了要件及び履修方法							授業期間等										
<p>1. 知能情報学部知能情報学科の学生は、次に定めるところに従って合計128単位以上修得しなければならない。</p> <p>基礎共通科目 16単位(*1) 外国語科目 8単位(*2) 保健体育科目 2単位(*3) 専門教育科目 102単位以上 必修科目 34単位 選択必修科目④より 14単位以上 選択必修科目⑥より 2単位以上 選択科目</p> <p>合計 128単位以上</p>							1学年の学期区分					2学期					
<p>(*1) (1) 人文科学系、社会科学系、自然科学系の授業科目の中から、それぞれ4単位 (2) 学際融合系、国際言語文化系、スポーツ健康系の授業科目の中から、2単位 (3) 導入共通科目「甲南大学と平生夙三郎」「共通基礎演習」「AI・データサイエンス入門」の中から、2単位</p> <p>(*2) (1) 基礎外国語のうち、英語4単位を修得しなければならない。 (2) 基礎外国語のうち、ドイツ語、フランス語、中国語、韓国語について1外国語4単位を修得しなければならない。 (3) 上記(2)にかかわらず、外国人留学生(正規留学生)入学試験に合格して入学した学生は、基礎外国語のうち、英語4単位及び日本語4単位を修得しなければならない。</p> <p>(*3) 「スポーツ健康マネジメント演習Ⅰ」及び「スポーツ健康マネジメント演習Ⅱ」2単位を修得しなければならない。</p>							1学期の授業期間					15週					
<p>2. 「データサイエンス基礎」の2単位については、専門教育科目として選択科目に充てることができる。</p> <p>3. 「ベーシック・キャリアデザイン」、「キャリア実習」、「プラクティカル・キャリアデザインⅠ」、「プラクティカル・キャリアデザインⅡ」については、合計4単位までを専門教育科目として選択科目に充てることができる。</p> <p>4. 中級外国語(英語・ドイツ語・フランス語・中国語・韓国語・外国留学科目・日本語)、上級外国語(英語・ドイツ語・フランス語・中国語・韓国語・外国留学科目・日本語)、海外語学講座・留学支援科目(うち、海外語学講座のみ。)、キャリア創生共通科目(国際系)のうちエリアスタディーズ、キャリア創生共通科目(ボランティア・地域連携系)のうち地域連携系科目については、専門教育科目として8単位以内を選択科目に充てることできる。ただし、上記の専門教育科目の選択科目に充てることできるエリアスタディーズおよびキャリア創生共通科目(ボランティア・地域連携系)のうち地域連携系科目の修得単位数の上限は、それぞれ2単位とする。</p> <p>5. 大学日本語科目(大学日本語入門Ⅰ・Ⅱ、大学日本語中級Ⅰ・Ⅱ、大学日本語上級Ⅰ・Ⅱ)は、外国人留学生(正規留学生)入学試験に合格して入学した学生及び日本語を母語としない学生が履修することできる。</p> <p>(履修科目の登録の上限：49単位(年間))</p>							1時限の授業の標準時間					90分					

(注)

- 学部等、研究科等若しくは高等専門学校等の学科の設置又は大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科における通信教育の開設の届出を行おうとする場合には、授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等、研究科等若しくは高等専門学校等の学科(学位の種類及び分野の変更等に関する基準(平成十五年文部科学省告示第三十九号)別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。)についても作成すること。
- 私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科若しくは高等専門学校等の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。

- 3 開設する授業科目に応じて、適宜科目区分の枠を設けること。
- 4 「主要授業科目」の欄は、授業科目が主要授業科目に該当する場合、欄に「○」を記入すること。なお、高等専門学校を学科を設置する場合は、「主要授業科目」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 5 「単位数」の欄は、各授業科目について、「必修」、「選択」、「自由」のうち、該当する履修区分に単位数を記入すること。
- 6 「授業形態」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。
- 7 「授業形態」の欄は、各授業科目について、該当する授業形態の欄に「○」を記入すること。ただし、専門職大学等又は専門職学科を設ける大学若しくは短期大学の授業科目のうち、臨地実務実習については「実験・実習」の欄に「臨」の文字を、連携実務演習等については「演習」又は「実験・実習」の欄に「連」の文字を記入すること。
- 8 「基幹教員等の配置」欄の「基幹教員等」は、大学院の研究科又は研究科の専攻の場合は、「専任教員等」と読み替えること。
- 9 「基幹教員等の配置」欄の「基幹教員以外の教員（助手を除く）」は、大学院の研究科又は研究科の専攻の場合は、「専任教員以外の教員（助手を除く）」と読み替えること。
- 10 課程を前期課程及び後期課程に区分する専門職大学若しくは専門職大学の学部等を設置する場合又は前期課程及び後期課程に区分する専門職大学の課程を設置し、若しくは変更する場合は、次により記入すること。
 - (1) 各科目区分における「小計」の欄及び「合計」の欄には、当該専門職大学の全課程に係る科目数、「単位数」及び「基幹教員等の配置」に加え、前期課程に係る科目数、「単位数」及び「基幹教員等の配置」を併記すること。
 - (2) 「学位又は称号」の欄には、当該専門職大学を卒業した者に授与する学位に加え、当該専門職大学の前期課程を修了した者に授与する学位を併記すること。
 - (3) 「卒業・修了要件及び履修方法」の欄には、当該専門職大学の卒業要件及び履修方法に加え、前期課程の修了要件及び履修方法を併記すること。
- 11 高等専門学校の学科を設置する場合は、高等専門学校設置基準第17条第4項の規定により計算することのできる授業科目については、備考欄に「☆」を記入すること。

教育課程等の概要																
（フロンティアサイエンス学部生命化学科 先進科学コース）																
科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		基幹（助手を除く）以外の教員
基礎共通科目（人文科学系）	A群 リベラルアーツ	哲学	1前		2		○							1	オムニバス	
		倫理学	1前		2		○							1		
		心理学	1前・後		2		○							3		
		歴史学	1前		2		○							1		
		文学	1後		2		○							3		
		哲学プラクティス	1後		2		○							1		
		女性学	1後		2		○							1		
		現代の芸術	1前		2		○							1		
		宗教学	1後		2		○							1		
		B群 学人ぶを	生態人類学	1前		2		○								1
	環境と文学		1後		2		○							1		
	芸術と社会		1前		2		○							1		
	生命と倫理		1前		2		○							1		
	人権（同和）の問題		1後		2		○							1		
	感情・人格心理学		1後		2		○							2		
	DE&I入門		1後		2		○							9		
	C群 文化を学ぶ	ことばと社会	1前		2		○							3	オムニバス	
		コミュニケーション論	1後		2		○							1		
		イメージと文化	1後		2		○							1		
		日本語の諸相	1前		2		○							1		
		比較文化	1後		2		○							1		
		芸術学基礎論	1後		2		○							1		
		現代思想	1後		2		○							1		
		近現代の文学	1後		2		○							1		
		日本研究	1前		2		○							1		
		越境する文化と文学	1後		2		○							3		
	伝統文化を学ぶ	1後		2		○							6			
	D群 歴史を学ぶ	社会思想史	1前		2		○							1	オムニバス・共同（一部）	
		歴史と文化	1前		2		○							1		
		文学と歴史	1後		2		○							1		
		地域と文化	1前		2		○							1		
		芸術史	1前		2		○							1		
		歴史とメディア	1後		2		○							1		
国際化の歴史		1後		2		○							1			
生活の歴史		1前		2		○							1			
小計（35科目）		—	—	0	70	0	—	—	—	0	0	0	0	0	52	—
基礎共通科目（社会科学系）	A群 アーベラル	社会学	1後		2		○							1		
		法学	1後		2		○							1		
		経済学	1前		2		○							1		
		経営学	1前		2		○							1		
		政治学	1後		2		○							1		
		地理学	1前		2		○							1		
		国際関係論	1前		2		○							1		
		B群 経済を学ぶ	産業と経済	1前		2		○								1
	企業と情報		1前		2		○							1		
	歴史と経済		1前		2		○							1		
	現代社会と企業		1後		2		○							1		
	世界と経済		1前		2		○							1		
	暮らしと経済		1後		2		○							1		
	福祉と経済		1後		2		○							1		
	社会とファイナンス		1後		2		○							1		
	SDGsとISO国際標準		1後		2		○							2		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考		
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		基幹(助手を除く) 以外の教員	
基礎共通科目(社会科学系)	C群 社会を学ぶ	現代社会論	1前		2		○								1	共同(一部)	
		現代都市論	1後		2		○								1		
		公共哲学	1前		2		○								1		
		環境人間学	1後		2		○								1		
		社会福祉論	1前		2		○								1		
		家族関係論	1後		2		○								1		
		歴史と社会	1前		2		○								1		
		ボランティア論	1前		2		○								1		
		グローバリゼーションと文化	1前		2		○								1		
		地域連携入門	1後		2		○								1		
	地域とメディア	1後		2		○								2			
	D群 法と政治を学ぶ	日本国憲法	1前・後		2		○								2		
		社会生活と法	1前		2		○								1		
		現代政治論	1後		2		○								1		
		法と情報	1前		2		○								1		
		環境法学	1後		2		○								1		
		家族関係と法	1前・後		2		○								1		
		少子高齢社会と法	1前		2		○								2		
		財産と法	1前・後		2		○								1		
		消費者問題	1前		2		○								1		
市場と法		1後		2		○								1			
組織と法	1前		2		○								1				
まちづくりと行政	1後		2		○								1				
地域創生	1前		2		○								1				
小計(40科目)		—	—	0	80	0	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
基礎共通科目(自然科学系)	A群 アービタル	数学	1前		2		○							1	オムニバス・共同(一部)		
		物理学	1後		2		○							2			
		化学	1後		2		○									1	
		生物学	1前		2		○									1	
		地学	1前		2		○									1	
		生命化学	1後		2		○			6	1					1	
	B群 史を学ぶ	地球の歴史	1後		2		○									1	
		生物の歴史	1前		2		○									1	
		自然と人間	1前		2		○									1	
		自然科学史	1前		2		○									1	
		技術の歴史	1前		2		○									1	
	環境と地理	1後		2		○								1			
	C群 現代科学を学ぶ	現代生活と物理学	1前		2		○									5	オムニバス
		現代生活と生物学	1後		2		○									1	
		現代生活と数理科学	1後		2		○									1	
		現代生活と最先端科学	1前		2		○									3	
		核と環境	1後		2		○									1	
		環境の化学	1後		2		○									1	
		大気と海洋	1前		2		○									1	
		国際化と情報ネットワーク	1後		2		○									1	
国際社会における最先端科学		1後		2		○								3			
現代生活と生命化学		1後		2		○			7	1				1			
Science in the World Today	1前		2		○								1				
Science, Technology and SDGs	1後		2		○								1				
Science News	1後		2		○								1				
D群 学情報を	知能情報	1後		2		○								1	オムニバス		
	生体情報	1後		2		○								1			
	感性情報	1後		2		○								1			
	生命情報	1後		2		○								2			
	認知科学	1後		2		○								1			
小計(30科目)		—	—	0	60	0	—	—	10	2	0	0	0	34		—	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考			
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		基幹(助手を除く)教員		
基礎共通科目	学際融合系	ケアの倫理	1後			2		○								1	オムニバス オムニバス・共同(一部)	
		ライフプラン教育	1後			2		○								9		
		癒しの諸相	1前・後			2		○								2		
		自己の探求	1後			2		○								5		
		心の健康科学	1前			2		○								1		
		保健衛生	1前			2		○								1		
		人体の構造と機能及び疾病	1後			2		○								1		
		環境教育の実践	1前			2		○								6		
		食品科学	1前			2		○								1		
		情報社会のセキュリティ	1前・後			2		○								1		
		社会を読み解く(クリティカルシンキング)	1前			2		○								1		
		文章表現論	1前			2		○								1		
小計(12科目)	—	—	—	0	24	0	—	—	—	—	—	—	—	—	27	—		
国際言語文化系		ヨーロッパの文化を学ぶ	1前			2		○								2		
		アジアの文化を学ぶ	1前			2		○								2		
		ヨーロッパの言語と社会	1後			2		○								2		
		アジアの言語と社会	1後			2		○								2		
		国際理解	1前・後			2		○								2		
		国際理解English	1後			2		○								1		
		日本理解	1後			2		○								1		
		Japan Topics	1前			2		○								1		
		Culture Topics I	1後			2		○								1		
		Culture Topics II	1後			2		○								1		
		English for Science	1前			2		○								1		
		Science Writing	1後			2		○								1		
小計(12科目)	—	—	—	0	24	0	—	—	—	—	—	—	—	—	11	—		
スポーツ健康系		スポーツ心理学	1前			2		○								1	オムニバス	
		スポーツ運動学	1前			2		○								1		
		スポーツ文化論	1前			2		○								1		
		スポーツマネジメント	1後			2		○								1		
		生涯スポーツ論	1後			2		○								1		
		スポーツ社会学	1後			2		○								1		
		スポーツ医学	1後			2		○								1		
		運動生理学	1前			2		○								1		
		健康と生命科学	1後			2		○								1		
		スポーツコーチング論	1前			2		○								3		
		トレーニング論	1後			2		○								1		
		基礎スポーツ健康科学	1後			2		○								1		
小計(12科目)	—	—	—	0	24	0	—	—	—	—	—	—	—	—	8	—		
導科目共通		甲南大学と平生鈆三郎	1前・後	○		2		○								5	オムニバス	
		共通基礎演習	1前・後	○		2			○							19	共同	
		A I・データサイエンス入門	1後	○		2		○								3	オムニバス	
		小計(3科目)	—	—	0	6	0	—	—	—	—	—	—	—	—	24	—	
外国語科目	英語	College English Reading and Writing	1通	○		2		○								1		
		College English Listening	1後	○		1		○								1		
		College English Speaking	1前	○		1		○								1		
		小計(3科目)	—	—	4	0	0	—	—	—	—	—	—	—	—	2		—
育保科健目体		スポーツ健康マネジメント演習Ⅰ	1前	○		1				○						3		
		スポーツ健康マネジメント演習Ⅱ	1後	○		1				○						10		
		小計(2科目)	—	—	2	0	0	—	—	—	—	—	—	—	—	10		—
合計(149科目)		—	—	6	288	0	—	—	—	—	—	—	—	—	—	206	—	
必修科目	教養科目	フロントランナー講座	1後		2		○									11	オムニバス・共同	
		科学英語コミュニケーション1	1前		1		○											
	基礎科目	科学英語コミュニケーション2	2前		1		○											オムニバス
		プレゼンテーション演習1	1後		1			○										
		プレゼンテーション演習2	2後		1			○										
		数学及び演習	1通		3			○				1						
		日本語表現及び演習	1前		3			○										
		1後		3				○										
	基礎科目専門		バイオサイエンス序論	1前		2		○				3	1					オムニバス
			ナノサイエンス序論	1前		2		○				1	1					オムニバス
ナノバイオサイエンス序論			1前		2		○				2	1		1		オムニバス		
ケミカルサイエンス序論			1前		2		○				2					オムニバス		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考			
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		基幹(助手を除く) 教員以外の教員		
必修科目	専門科目	ナノバイオラボベーシックA	1前	○	2					○	10	4						
		ナノバイオラボベーシックB	1後	○	2					○	10	4						
		ナノバイオラボ1A	2前	○	4					○	10	4						
		ナノバイオラボ1B	2後	○	4					○	10	4						
		小計(15科目)	—	—	32	0	0			—	10	4	0	1	0	11	—	
選択必修科目A群	専門科目	バイオサイエンスA1	分子生物学	1後		2			○									
			遺伝子工学・バイオテクノロジー	1後		2			○			1	1					
			生命機能科学	2前		2			○			1						
			細胞工学	2後		2			○			1						
			薬理学	2前		2			○			1						
		発生学	3前		2			○			1							
		ナノサイエンスA2	無機化学	1後		2			○				1					
			量子物理化学	1後		2			○				1					
			固体光化学	2前		2			○				1					
			ナノテクノロジー	2前		2			○				1					
	電気化学		3前		2			○			1							
	生物無機化学	2後		2			○			1								
	ナノバイオサイエンスA3	生化学	1後		2			○				1						
		生命分析化学	1後		2			○			1	1						
		生命物理化学	2前		2			○			1			1				
		バイオ計測工学	2前		2			○			1							
		高分子化学	2後		2			○			1							
	生体分子工学	3前		2			○			1								
	ケミカルサイエンスA4	構造有機化学	1後		2			○			1							
		有機電子論	1後		2			○			1							
有機反応各論		2前		2			○			1								
有機化学と分光法		2前		2			○			1								
生物有機化学		2後		2			○			1								
有機合成化学	3前		2			○			1									
小計(24科目)	—	—	0	48	0			—	10	4	0	1	0	0	—			
キャリア科目	キャリア	ベーシック・キャリアデザイン	1通		2				○	1					1	オムニバス		
		理系キャリアデザイン	2通		2				○	1								
		キャリア実習	2通		2				○	1								
		小計(3科目)	—	—	0	6	0		—	2	0	0	0	0	1	—		
選択必修科目B群	応用専門科目	メディカルサイエンス概論	2前・通		2			○			1				1	オムニバス		
		メディカルバイオテクノロジー	2後		2			○			1		1		1	オムニバス		
		バイオ・食品関連研究開発論	2後		2			○							1			
		知財マネジメント	3後		2			○			1	1			1	共同		
		バイオセンシングと環境	2後		2			○			1				1	オムニバス		
		アドバンスドマテリアル	2後		2			○				1			1	オムニバス		
		国際産学コーディネーター	3後		2			○							1			
		創薬テクノロジー	3前・通		2			○			1				1	オムニバス		
		ケミカルバイオロジー	3前		2			○			1							
		先端ナノ・マイクロ材料科学	3後		2			○			1				1	オムニバス		
	医療関連研究開発論	3通		2			○			1				2	オムニバス			
	エリアスタディーズV	1通		2					○	2	1							
	科教目養	科学と健康	2後		2			○								1		
科学と産業政策		3通		2			○			2					1	オムニバス		
小計(14科目)	—	—	0	28	0			—	7	2	0	1	0	13	—			
コース必修科目	基礎科目	科学英語プレゼンテーション演習1	3前		1				○	10	4		1					
		科学英語プレゼンテーション演習2	3後		1				○	10	4		1					
		科学英語プレゼンテーション演習3	4前		1				○	10	4							
		安全倫理工学	3後		2			○							1			
	専門科目	ナノバイオラボ2A	3前	○	6					○	10	4		1				
		ナノバイオラボ2B	3後	○	6					○	10	4		1				
		ナノバイオ卒業研究	4通	○	15					○	10	4						
小計(7科目)	—	—	32	0	0			—	10	4	0	1	0	1	—			
合計(63科目)		—	—	64	82	0		—	10	4	0	1	0	26	—			

学位又は称号	学士（理工学）	学位又は学科の分野	理学関係、工学関係
卒業・修了要件及び履修方法		授業期間等	
<p>1. フロンティアサイエンス学部の学生は、次に定めるところに従って合計128単位以上を修得しなければならない。</p> <p>基礎共通科目 10単位(*1) 外国語科目 4単位(*2) 保健体育科目 2単位(*3) 専門教育科目 102単位以上</p> <p>必修科目 教養科目 2単位 基礎科目 10単位 基礎専門科目 8単位 専門科目 12単位</p> <p>選択必修科目 A群（専門科目）より 24単位以上 B群（応用専門科目・教養科目）より 14単位以上</p> <p>コース必修科目 基礎科目 5単位 専門科目 27単位</p> <p>自由選択科目</p> <hr/> <p>合計 128単位以上</p> <p>(*1) (1) 人文科学系、社会科学系、学際融合系（「フロントランナー講座」を除く。）、国際言語文化系、スポーツ健康系の授業科目 (2) 導入共通科目「甲南大学と平生飢三郎」「共通基礎演習」「AI・データサイエンス入門」</p> <p>(*2) 「College English Reading and Writing」、「College English Listening」、「College English Speaking」の計4単位を修得しなければならない。</p> <p>(*3) スポーツ健康マネジメント演習Ⅰ・Ⅱ2単位を修得しなければならない。</p> <p>2. 次の科目については、専門教育科目（自由選択科目）として卒業単位数に充てることができる。ただし、必修または選択必修科目、コース必修科目の単位数に充てることができない。</p> <p>(1) 基礎共通科目（岡本開講科目）のうち自然科学系の授業科目およびキャリア創生共通科目（「ベーシック・キャリアデザイン」、「キャリア実習」、「エアスタディーズⅤ」は除く）。</p> <p>(2) 基礎ドイツ語、基礎フランス語、基礎中国語、基礎韓国語、大学日本語入門については、いずれか1外国語4単位以内。</p> <p>(3) 配当年次2・3・4年次科目で(2)で掲げた科目以外の科目および「海外語学講座・留学支援科目」は、卒業必要単位数に充てることができない。</p> <p>(4) 「エアスタディーズⅠ～Ⅳ」および「エアスタディーズⅥ～Ⅹ」については、2単位以内。</p>		1学年の学期区分	2学期
		1学期の授業期間	15週
		1時限の授業の標準時間	90分

(注)

- 学部等、研究科等若しくは高等専門学校等の学科の設置又は大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科における通信教育の開設の届出を行うおうとする場合には、授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等、研究科等若しくは高等専門学校等の学科（学位の種類及び分野の変更等に関する基準（平成十五年文部科学省告示第三十九号）別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。）についても作成すること。
- 私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。
- 開設する授業科目に応じて、適宜科目区分の枠を設けること。
- 「主要授業科目」の欄は、授業科目が主要授業科目に該当する場合、欄に「○」を記入すること。なお、高等専門学校等の学科を設置する場合は、「主要授業科目」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 「単位数」の欄は、各授業科目について、「必修」、「選択」、「自由」のうち、該当する履修区分に単位数を記入すること。
- 「授業形態」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。
- 「授業形態」の欄は、各授業科目について、該当する授業形態の欄に「○」を記入すること。ただし、専門職大学等又は専門職学科を設ける大学若しくは短期大学の授業科目のうち、臨地実務実習については「実験・実習」の欄に「臨」の文字を、連携実務演習等については「演習」又は「実験・実習」の欄に「連」の文字を記入すること。
- 「基幹教員等の配置」欄の「基幹教員等」は、大学院の研究科又は研究科の専攻の場合は、「専任教員等」と読み替えること。
- 「基幹教員等の配置」欄の「基幹教員以外の教員（助手を除く）」は、大学院の研究科又は研究科の専攻の場合は、「専任教員以外の教員（助手を除く）」と読み替えること。
- 課程を前期課程及び後期課程に区分する専門職大学若しくは専門職大学の学部等を設置する場合又は前期課程及び後期課程に区分する専門職大学の課程を設置し、若しくは変更する場合は、次により記入すること。
 - 各科目区分における「小計」の欄及び「合計」の欄には、当該専門職大学の全課程に係る科目数、「単位数」及び「基幹教員等の配置」に加え、前期課程に係る科目数、「単位数」及び「基幹教員等の配置」を併記すること。
 - 「学位又は称号」の欄には、当該専門職大学を卒業した者に授与する学位に加え、当該専門職大学の前期課程を修了した者に授与する学位を併記すること。
 - 「卒業・修了要件及び履修方法」の欄には、当該専門職大学の卒業要件及び履修方法に加え、前期課程の修了要件及び履修方法を併記すること。
- 高等専門学校等の学科を設置する場合は、高等専門学校設置基準第17条第4項の規定により計算することのできる授業科目については、備考欄に「☆」を記入すること。

教育課程等の概要																
（フロンティアサイエンス学部生命化学科 学際科学コース）																
科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		基幹（助手を除く）以外の教員
基礎共通科目（人文科学系）	A群 リベラルアーツ	哲学	1前		2		○							1	オムニバス	
		倫理学	1前		2		○							1		
		心理学	1前・後		2		○							3		
		歴史学	1前		2		○							1		
		文学	1後		2		○							3		
		哲学プラクティス	1後		2		○							1		
		女性学	1後		2		○							1		
		現代の芸術	1前		2		○							1		
		宗教学	1後		2		○							1		
		B群 学人ぶを	生態人類学	1前		2		○								1
	環境と文学		1後		2		○							1		
	芸術と社会		1前		2		○							1		
	生命と倫理		1前		2		○							1		
	人権（同和）の問題		1後		2		○							1		
	感情・人格心理学		1後		2		○							2		
	DE&I入門		1後		2		○							9		
	C群 文化を学ぶ	ことばと社会	1前		2		○							3	オムニバス	
		コミュニケーション論	1後		2		○							1		
		イメージと文化	1後		2		○							1		
		日本語の諸相	1前		2		○							1		
		比較文化	1後		2		○							1		
		芸術学基礎論	1後		2		○							1		
		現代思想	1後		2		○							1		
		近現代の文学	1後		2		○							1		
		日本研究	1前		2		○							1		
		越境する文化と文学	1後		2		○							3		
	伝統文化を学ぶ	1後		2		○							6			
	D群 歴史を学ぶ	社会思想史	1前		2		○							1	オムニバス・共同（一部）	
		歴史と文化	1前		2		○							1		
		文学と歴史	1後		2		○							1		
		地域と文化	1前		2		○							1		
		芸術史	1前		2		○							1		
		歴史とメディア	1後		2		○							1		
国際化の歴史		1後		2		○							1			
生活の歴史		1前		2		○							1			
小計（35科目）		—	—	0	70	0	—	—	—	0	0	0	0	0	52	—
基礎共通科目（社会科学系）	A群 アーベラル	社会学	1後		2		○							1		
		法学	1後		2		○							1		
		経済学	1前		2		○							1		
		経営学	1前		2		○							1		
		政治学	1後		2		○							1		
		地理学	1前		2		○							1		
		国際関係論	1前		2		○							1		
		B群 経済を学ぶ	産業と経済	1前		2		○								1
	企業と情報		1前		2		○							1		
	歴史と経済		1前		2		○							1		
	現代社会と企業		1後		2		○							1		
	世界と経済		1前		2		○							1		
	暮らしと経済		1後		2		○							1		
	福祉と経済		1後		2		○							1		
	社会とファイナンス		1後		2		○							1		
	SDGsとISO国際標準		1後		2		○							2		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考		
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		基幹(助手を除く) 教員以外の教員	
基礎共通科目(社会科学系)	C群 社会を学ぶ	現代社会論	1前		2		○								1	共同(一部)	
		現代都市論	1後		2		○								1		
		公共哲学	1前		2		○								1		
		環境人間学	1後		2		○								1		
		社会福祉論	1前		2		○								1		
		家族関係論	1後		2		○								1		
		歴史と社会	1前		2		○								1		
		ボランティア論	1前		2		○								1		
		グローバリゼーションと文化	1前		2		○								1		
		地域連携入門	1後		2		○								1		
	地域とメディア	1後		2		○								2			
	D群 法と政治を学ぶ	日本国憲法	1前・後		2		○								2		
		社会生活と法	1前		2		○								1		
		現代政治論	1後		2		○								1		
		法と情報	1前		2		○								1		
		環境法学	1後		2		○								1		
		家族関係と法	1前・後		2		○								1		
		少子高齢社会と法	1前		2		○								2		
		財産と法	1前・後		2		○								1		
		消費者問題	1前		2		○								1		
市場と法		1後		2		○								1			
組織と法	1前		2		○								1				
まちづくりと行政	1後		2		○								1				
地域創生	1前		2		○								1				
小計(40科目)		—	—	0	80	0	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
基礎共通科目(自然科学系)	A群 アービタル	数学	1前		2		○							1	オムニバス・共同(一部)		
		物理学	1後		2		○							2			
		化学	1後		2		○									1	
		生物学	1前		2		○									1	
		地学	1前		2		○									1	
		生命化学	1後		2		○			6	1					1	
	B群 史を学ぶ	地球の歴史	1後		2		○									1	
		生物の歴史	1前		2		○									1	
		自然と人間	1前		2		○									1	
		自然科学史	1前		2		○									1	
		技術の歴史	1前		2		○									1	
	環境と地理	1後		2		○								1			
	C群 現代科学を学ぶ	現代生活と物理学	1前		2		○									5	オムニバス
		現代生活と生物学	1後		2		○									1	
		現代生活と数理科学	1後		2		○									1	
		現代生活と最先端科学	1前		2		○									3	
		核と環境	1後		2		○									1	
		環境の化学	1後		2		○									1	
		大気と海洋	1前		2		○									1	
		国際化と情報ネットワーク	1後		2		○									1	
国際社会における最先端科学		1後		2		○								3			
現代生活と生命化学		1後		2		○			7	1				1			
Science in the World Today	1前		2		○								1				
Science, Technology and SDGs	1後		2		○								1				
Science News	1後		2		○								1				
D群 学情を学ぶ	知能情報	1後		2		○								1	オムニバス		
	生体情報	1後		2		○								1			
	感性情報	1後		2		○								1			
	生命情報	1後		2		○								2			
	認知科学	1後		2		○								1			
小計(30科目)		—	—	0	60	0	—	—	10	2	0	0	0	34	—		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置					備考		
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		基幹(助手を除く) 教員	
基礎共通科目	学際融合系	ケアの倫理	1後		2		○								1	オムニバス オムニバス・共同(一部)	
		ライフプラン教育	1後		2		○								9		
		癒しの諸相	1前・後		2		○								2		
		自己の探求	1後		2		○								5		
		心の健康科学	1前		2		○								1		
		保健衛生	1前		2		○								1		
		人体の構造と機能及び疾病	1後		2		○								1		
		環境教育の実践	1前		2		○								6		
		食品科学	1前		2		○								1		
		情報社会のセキュリティ	1前・後		2		○								1		
		社会を読み解く(クリティカルシンキング)	1前		2		○								1		
		文章表現論	1前		2		○								1		
小計(12科目)	—	—	0	24	0	—	—	—	0	0	0	0	0	27	—		
国際言語文化系		ヨーロッパの文化を学ぶ	1前		2		○								2		
		アジアの文化を学ぶ	1前		2		○								2		
		ヨーロッパの言語と社会	1後		2		○								2		
		アジアの言語と社会	1後		2		○								2		
		国際理解	1前・後		2		○								2		
		国際理解English	1後		2		○								1		
		日本理解	1後		2		○								1		
		Japan Topics	1前		2		○								1		
		Culture Topics I	1後		2		○								1		
		Culture Topics II	1後		2		○								1		
		English for Science	1前		2		○								1		
		Science Writing	1後		2		○								1		
小計(12科目)	—	—	0	24	0	—	—	—	0	0	0	0	0	11	—		
スポーツ健康系		スポーツ心理学	1前		2		○								1	オムニバス	
		スポーツ運動学	1前		2		○								1		
		スポーツ文化論	1前		2		○								1		
		スポーツマネジメント	1後		2		○								1		
		生涯スポーツ論	1後		2		○								1		
		スポーツ社会学	1後		2		○								1		
		スポーツ医学	1後		2		○								1		
		運動生理学	1前		2		○								1		
		健康と生命科学	1後		2		○								1		
		スポーツコーチング論	1前		2		○								3		
		トレーニング論	1後		2		○								1		
		基礎スポーツ健康科学	1後		2		○								1		
小計(12科目)	—	—	0	24	0	—	—	—	0	0	0	0	0	8	—		
導科目共通		甲南大学と平生飢三郎	1前・後	○	2		○								5	オムニバス	
		共通基礎演習	1前・後	○	2			○							19	共同	
		A I・データサイエンス入門	1後	○	2		○								3	オムニバス	
		小計(3科目)	—	—	0	6	0	—	—	—	0	0	0	0	0	24	—
外国語科目	英語	College English Reading and Writing	1通	○	2		○								1		
		College English Listening	1後	○	1		○								1		
		College English Speaking	1前	○	1		○								1		
		小計(3科目)	—	—	4	0	0	—	—	—	0	0	0	0	0		2
育保科健目体		スポーツ健康マネジメント演習Ⅰ	1前	○	1					○					3		
		スポーツ健康マネジメント演習Ⅱ	1後	○	1					○					10		
		小計(2科目)	—	—	2	0	0	—	—	—	0	0	0	0	0		10
合計(149科目)		—	—	6	288	0	—	—	—	10	2	0	0	0	206	—	
必修科目	教養科目	フロントランナー講座	1後		2		○				2					オムニバス・共同	
		科学英語コミュニケーション1	1前		1		○				1						
	科学英語コミュニケーション2	2前		1		○				1							
	プレゼンテーション演習1	1後		1			○			2							
	プレゼンテーション演習2	2後		1			○			2							
	数学及び演習	1通		3			○			1	1						
	日本語表現及び演習	1前		3			○			1							
	基礎科目専門		バイオサイエンス序論	1前		2		○			3	1					オムニバス
			ナノサイエンス序論	1前		2		○			1	1					オムニバス
			ナノバイオサイエンス序論	1前		2		○			2	1		1			オムニバス
ケミカルサイエンス序論			1前		2		○			2					オムニバス		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	主要授業科目	単位数			授業形態			基幹教員等の配置						備考		
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	基幹(助手を除く) 教員以外の教員			
必修科目	専門科目 ナノバイオラボベーシックA ナノバイオラボベーシックB ナノバイオラボ1A ナノバイオラボ1B	1前	○	2						○	10	4						
		1後	○	2						○	10	4						
		2前	○	4						○	10	4						
		2後	○	4						○	10	4						
		小計(15科目)	—	—	32	0	0				—	10	4	0	1	0	11	—
選択必修科目A群	バイオサイエンスA1 分子生物学 遺伝子工学・バイオテクノロジー 生命機能科学 細胞工学 薬理学 発生学	1後			2			○					1					
		1後			2			○			1							
		2前			2			○			1							
		2後			2			○			1							
		2前			2			○			1							
	3前			2			○			1								
	ナノサイエンスA2 無機化学 量子物理化学 固体光化学 ナノテクノロジー 電気化学 生物無機化学	1後			2			○					1					
		1後			2			○					1					
		2前			2			○					1					
		2前			2			○			1							
		2後			2			○			1							
	ナノバイオサイエンスA3 生化学 生命分析化学 生命物理化学 バイオ計測工学 高分子化学 生体分子工学	1後			2			○					1					
		1後			2			○			1	1						
		2前			2			○			1			1				
		2前			2			○			1							
		2後			2			○			1							
	3前			2			○			1								
	ケミカルサイエンスA4 構造有機化学 有機電子論 有機反応各論 有機化学と分光法 生物有機化学 有機合成化学	1後			2			○					1					
		1後			2			○					1					
		2前			2			○					1					
2前				2			○					1						
2後				2			○					1						
3前			2			○					1							
小計(24科目)	—	—	0	48	0				—	10	4	0	1	0	0	—		
キャリア科目	ベーシック・キャリアデザイン 理系キャリアデザイン キャリア実習	1通			2					○	1					1	オムニバス	
		2通			2					○	1							
		2通			2					○	1							
		小計(3科目)	—	—	0	6	0				—	2	0	0	0	0	1	—
選択必修科目B群	応用専門科目 メディカルサイエンス概論 メディカルバイオテクノロジー バイオ・食品関連研究開発論 知財マネジメント バイオセンシングと環境 アドバンストマテリアル 国際産学コーディネーター 創薬テクノロジー ケミカルバイオロジー 先端ナノ・マイクロ材料科学 医療関連研究開発論 エリアスタディーズV	2前・通			2			○				1					1	オムニバス
		2後			2			○			1			1			1	オムニバス
		2後			2			○									1	
		3後			2			○			1	1					1	共同
		2後			2			○			1						1	オムニバス
		2後			2			○				1					1	オムニバス
		3後			2			○									1	
		3前・通			2			○			1						1	オムニバス
		3前			2			○			1							
		3後			2			○			1						1	オムニバス
	3通			2			○			1					2	オムニバス		
	1通			2					○	2	1							
	科教目養	科学と健康 科学と産業政策	2後			2			○								1	
3通					2			○			2					1	オムニバス	
小計(14科目)	—	—	0	28	0				—	7	2	0	1	0	13	—		
コース必修科目	科基礎 学際科学プレゼンテーション演習1 学際科学プレゼンテーション演習2	3通			1				○		1	1						
		3通			1				○		2							
	科専門 共通応用演習I 共通応用演習II 文理融合総合研究	3前	○	2					○								1	
		3後	○	2					○								2	
		4通	○	8						○							3	
小計(5科目)	—	—	14	0	0			—	3	1	0	0	0	0	3	—		
合計(61科目)	—	—	46	82	0			—	10	4	0	1	0	28	—			

学位又は称号	学士（理工学）	学位又は学科の分野	理学関係、工学関係																																		
卒業・修了要件及び履修方法		授業期間等																																			
<p>1. フロンティアサイエンス学部の学生は、次に定めるところに従って合計128単位以上を修得しなければならない。</p> <table border="0"> <tr> <td>基礎共通科目</td> <td>10単位（*1）</td> </tr> <tr> <td>外国語科目</td> <td>8単位以上（*2）</td> </tr> <tr> <td>保健体育科目</td> <td>2単位（*3）</td> </tr> <tr> <td>キャリア創生共通科目</td> <td>20単位以上（*4）</td> </tr> <tr> <td>専門教育科目</td> <td>66単位以上</td> </tr> <tr> <td>必修科目</td> <td></td> </tr> <tr> <td> 教養科目</td> <td>2単位</td> </tr> <tr> <td> 基礎科目</td> <td>10単位</td> </tr> <tr> <td> 基礎専門科目</td> <td>8単位</td> </tr> <tr> <td> 専門科目</td> <td>12単位</td> </tr> <tr> <td>選択必修科目</td> <td></td> </tr> <tr> <td> A群（専門科目）より</td> <td>12単位以上</td> </tr> <tr> <td> B群（応用専門科目・教養科目）より</td> <td>8単位以上</td> </tr> <tr> <td>コース必修科目</td> <td></td> </tr> <tr> <td> 基礎科目</td> <td>2単位</td> </tr> <tr> <td> 専門科目</td> <td>12単位</td> </tr> <tr> <td>自由選択科目</td> <td></td> </tr> </table> <hr/> <p>合計 128単位以上</p>		基礎共通科目	10単位（*1）	外国語科目	8単位以上（*2）	保健体育科目	2単位（*3）	キャリア創生共通科目	20単位以上（*4）	専門教育科目	66単位以上	必修科目		教養科目	2単位	基礎科目	10単位	基礎専門科目	8単位	専門科目	12単位	選択必修科目		A群（専門科目）より	12単位以上	B群（応用専門科目・教養科目）より	8単位以上	コース必修科目		基礎科目	2単位	専門科目	12単位	自由選択科目		1 学年の学期区分	2学期
基礎共通科目	10単位（*1）																																				
外国語科目	8単位以上（*2）																																				
保健体育科目	2単位（*3）																																				
キャリア創生共通科目	20単位以上（*4）																																				
専門教育科目	66単位以上																																				
必修科目																																					
教養科目	2単位																																				
基礎科目	10単位																																				
基礎専門科目	8単位																																				
専門科目	12単位																																				
選択必修科目																																					
A群（専門科目）より	12単位以上																																				
B群（応用専門科目・教養科目）より	8単位以上																																				
コース必修科目																																					
基礎科目	2単位																																				
専門科目	12単位																																				
自由選択科目																																					
<p>（*1） (1) 人文科学系、社会科学系、学際融合系（「フロントランナー講座」を除く。）、国際言語文化系、スポーツ健康系の授業科目 (2) 導入共通科目「甲南大学と平生鈞三郎」「共通基礎演習」「AI・データサイエンス入門」</p> <p>（*2） (1) 「College English Reading and Writing」、「College English Listening」、 「College English Speaking」の計4単位を修得しなければならない。 (2) 「中級英語Speaking」、「中級英語Presentation」、「中級英語Writing」、「中級英語Pronunciation」、「中級英語Global Topics I・II」、「中級英語Life Topics I・II」を卒業必要単位に充てることができる（3年次より履修可能、4単位以上修得が必要）。 (3) 配当年次2・3・4年次科目で(2)で掲げた科目以外の科目および「海外語学講座・留学支援科目」は、卒業必要単位に充てることができない。</p> <p>（*3） スポーツ健康マネジメント演習 I・II 2単位を修得しなければならない。</p> <p>（*4） 専門教育科目として卒業必要単位に充てることができる（「ベーシック・キャリアデザイン」、「キャリア実習」、「エアスタディーズV」を除く）。ただし、必修または選択必修科目の単位数に充てることができない。</p>		1 学期の授業期間	15週																																		
<p>2. 次の科目については、専門教育科目（自由選択科目）として卒業単位に充てることができる。ただし、必修または選択必修科目、コース必修科目の単位数に充てることができない。</p> <p>(1) 基礎共通科目（岡本開講科目）のうち自然科学系の授業科目およびキャリア創生共通科目（「ベーシック・キャリアデザイン」、「キャリア実習」、「エアスタディーズV」は除く）。</p> <p>(2) 基礎ドイツ語、基礎フランス語、基礎中国語、基礎韓国語、大学日本語入門については、いずれか1外国語4単位以内。</p> <p>(3) 「エアスタディーズ I～IV」および「エアスタディーズVI～X」については、2単位以内。</p> <p>(4) 学際科学コース選択者は関係学部長の許可を得た他学部の専門教育科目については、16単位以内。</p>		1 時限の授業の標準時間	90分																																		

(注)

- 学部等、研究科等若しくは高等専門学校等の学科の設置又は大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科における通信教育の開設の届出を行うおうとする場合には、授与する学位の種類及び分野又は学科の分野が同じ学部等、研究科等若しくは高等専門学校の学科（学位の種類及び分野の変更等に関する基準（平成十五年文部科学省告示第三十九号）別表第一備考又は別表第二備考に係るものを含む。）についても作成すること。
- 私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。
- 開設する授業科目に応じて、適宜科目区分の枠を設けること。
- 「主要授業科目」の欄は、授業科目が主要授業科目に該当する場合、欄に「○」を記入すること。なお、高等専門学校の学科を設置する場合は、「主要授業科目」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 「単位数」の欄は、各授業科目について、「必修」、「選択」、「自由」のうち、該当する履修区分に単位数を記入すること。
- 「授業形態」の欄の「実験・実習」には、実技も含むこと。
- 「授業形態」の欄は、各授業科目について、該当する授業形態の欄に「○」を記入すること。ただし、専門職大学等又は専門職学科を設ける大学若しくは短期大学の授業科目のうち、臨地実務実習については「実験・実習」の欄に「臨」の文字を、連携実務演習等については「演習」又は「実験・実習」の欄に「連」の文字を記入すること。
- 「基幹教員等の配置」欄の「基幹教員等」は、大学院の研究科又は研究科の専攻の場合は、「専任教員等」と読み替えること。
- 「基幹教員等の配置」欄の「基幹教員以外の教員（助手を除く）」は、大学院の研究科又は研究科の専攻の場合は、「専任教員以外の教員（助手を除く）」と読み替えること。

- 10 課程を前期課程及び後期課程に区分する専門職大学若しくは専門職大学の学部等を設置する場合又は前期課程及び後期課程に区分する専門職大学の課程を設置し、若しくは変更する場合は、次により記入すること。
- (1) 各科目区分における「小計」の欄及び「合計」の欄には、当該専門職大学の全課程に係る科目数、「単位数」及び「基幹教員等の配置」に加え、前期課程に係る科目数、「単位数」及び「基幹教員等の配置」を併記すること。
 - (2) 「学位又は称号」の欄には、当該専門職大学を卒業した者に授与する学位に加え、当該専門職大学の前期課程を修了した者に授与する学位を併記すること。
 - (3) 「卒業・修了要件及び履修方法」の欄には、当該専門職大学の卒業要件及び履修方法に加え、前期課程の修了要件及び履修方法を併記すること。
- 11 高等専門学校を設置する場合は、高等専門学校設置基準第17条第4項の規定により計算することのできる授業科目については、備考欄に「☆」を記入すること。

授 業 科 目 の 概 要				
(理工学部宇宙理学・量子物理工学科 宇宙理学コース)				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
基礎 共通 科目 (人文 科学 系)	哲学		この科目では、「哲学」という学問の入門的な講義を行う。哲学の代表的トピックのひとつである「自由意志」をテーマとし、デカルト、ホッブズ、スピノザ、ライブニッツ、ヒューム、カント、ベルクソン、サルトル、ストローソンなど、自由意志を論じた(近世以降の)代表的な哲学者の立場を見ていくことにより、テーマに関する理解を深める。この科目を通じ、過去および現在の哲学者たちが何を考えそして何を悩んできたのかを知ることができると同時に、先の見えない将来を主体的に生き抜くための「思考力」を養う。	
	倫理学		この科目では、倫理学の基本的な考え方を学んだ上で、より具体的かつ現実に即した問題として、安楽死・尊厳死、脳死・臓器移植、生殖補助医療といった生命・医療倫理学上の諸問題、世界の貧困、公衆衛生、気候変動、生物多様性といった地球規模の倫理的諸問題、および情報倫理や報道倫理といった現代の社会で考えるべき倫理的諸問題について学習する。	
	心理学		この科目では、われわれ人間の心の働きや行動について科学的に理解し、自分自身と他者についての理解を深める学問である心理学に関して、心の働きを支える生理的基盤はどのようなものか、私たちは世界をどのように知覚し、どのように新しい行動を獲得し、その行動を継続させていくのか、また感情を感じるということが心身にどのような影響をもたらすかについて学ぶ。	
	歴史学		この科目では、11世紀を中心に、平安京を舞台とした貴族や庶民の生活(都市衛生、トイレ事情、貴族邸宅と庶民住居など)や、当該期の社会状況(疫病、祭礼、賭博など)について、貴族が書き残した日記などの文字史料や絵巻物などの絵画資料を用いて、できるだけ具体的に時代像を描く。	
	文学		この科目では、イギリスおよびアメリカを中心とした文学作品を取り上げる。さまざまな文学作品を味わい、その作品を通して自分の生き方、考え方、愛について考えることで、自分の生活を豊かにすることができるようになることを目標とする。 (オムニバス方式/全15回) (51 岩井 学/5回) アメリカの文学思潮についてダイジェストで解説を行い、文学を「読む」ことを実践し、ミニレポートの講評を行う。 (109 大谷祐二/5回) ウォルト・ホイットマン、エミリー・ディキンソン、ラングストン・ヒューズ等を取り上げて解説していく。 (70 杉浦裕子/5回) 『ジェイン・エア』、『オリヴァー・ツイスト』、『人間とは何か』等を取り上げて、文化背景を織り交ぜながら解説していく。	オムニバス
	哲学プラクティス		この科目では、哲学の歴史や知識を学ぶのではなく、自分自身で且つ他人とともに哲学することを目指すため、哲学とは何か、その歴史はどのようなものかといった講義形式とはらず、自分自身に向き合い、他者の声に耳を傾ける姿勢や態度をもち、様々な課題や対話に取り組みながら、自己と他者に向き合い気づきを得ることを目的とする。	
	女性学		この科目では、働き方や子育てなどのケアへの関わり方、スポーツや恋愛、飲み会、就職活動の経験などのキーワードから、性別の違いにより身近で起こっている社会問題を「じぶんごと」として捉え、ジェンダー視点から批判的に考えていく。その際、女性学はもちろん、男性学も取り上げ、両性の立場から考えられるよう問題提起する。	
	現代の芸術		この科目では、美術館や文化施設が密集する全国でも有数のエリアである阪神間の美術館で見ることができる現代アートを主に取り上げ、地域の芸術文化への理解を深める。また国際美術展や地域の芸術祭などの動向もあわせて紹介することで、今日の芸術のあり方を学び、各自がアート作品を主体的に見る力を養う。	
	宗教学		この科目では、キリスト教や仏教など、諸宗教にかんする宗教学の基礎知識を学習することにより、現代社会や人間への視座を広げる。ヨーロッパ思想の源流の一つであるキリスト教の思想や文化への理解を宗教「学」ないしは宗教「哲学」という観点から深める。身体に注目することにより、身をもって聖書を読むことに挑戦する。日本語で宗教学を学ぶことを通じて、日本文化への自覚や反省を深める。	

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
基礎共通科目（人文科学系）	B群 人間を学ぶ			
	生態人類学		この科目では、人が自然とどのように付き合ってきたのかを知る学問である生態人類学に関して、その歴史、人類が行ってきた狩猟採集、牧畜、農耕など生業活動や環境への適応などの基礎知識をつけた後、人と自然環境の関係やそこで起きる私たちの生活により身近な問題や葛藤について考える。	
	環境と文学		この科目では、環境にかかわるさまざまな分野の文章やそれに付随する歴史的事実を学び、環境問題への意識や価値観を、共有し、正確に学ぶことを通じて、近頃のフェイクニュースや偏見などに惑わされない知見の基盤を作る。また、グループワークや発表を通じて自ら発言し行動する人材となるための体験を積んでいく。	
	芸術と社会		この科目では、企業と文化施設、アーティストランの組織と行政の文化政策、そして芸術とコミュニティについて、できるだけ具体的に紹介し、学生の生活と芸術の関係を考える機会とするとともに、芸術家や芸術とコミュニティの関わりについて自分の視点を形成することを旨とする。	
	生命と倫理		この科目では、医療や生命科学をめぐる急速な技術の発展により生じる、生命をめぐる倫理的諸問題について概観し、応用倫理学の一分野としての生命倫理学ではどのような筋道・発想で考えてきたかを見ることを通じて、生命と倫理とが交叉する領域について考察する。	
	人権（同和）の問題		この科目では、これから社会人になるにあたって必要な人権感覚や人権問題について知り、解決へ向けて展望を持てるようになるため、社会の具体的な人権問題を知る。そして教育との関連の中でどのようにその問題に向き合い、解決を図るかについて、自分で考えることができるようになる。	
	感情・人格心理学		この科目ではまず、感情に関する理論及び感情喚起の機序について、感情が行動に及ぼす影響という観点から解説する。次に、人格の概念及び形成過程について基本的な理論を説明した後、人格の類型や特性等の考え方について解説する。また、感情が行動や適応に及ぼす影響、人格が対人関係や適応・健康に及ぼす影響について、最新の知見を含めて紹介する。	
DE&I入門		この科目では、ダイバーシティ（多様性）、エクイティ（公正）&インクルージョン（包摂）（以下、DE&Iと記す）について、多様な観点から学ぶことによって、多様化する現代社会で共生する知恵を学ぶ。本学の建学の精神・教育理念である「個性の尊重」や「共働互助」を、これからの社会でどう実現できるかについて受講者が深く考え理解を高めることを目的とする。 (オムニバス方式／全15回) (74 阿部真大／2回) 授業の中心メンバーとして講義全体の目標について説明を行うとともに、居場所づくりをテーマに講義する。 (45 北川 恵／2回) 育ちのなかのDE&Iをテーマに講義するとともに、授業の中心メンバーとして講義全体の総括を行う。 (80 笹倉香奈／3回) 犯罪・えん罪と社会的弱者、グローバル化とDE&I、DE&Iに関して学生ができることをテーマに講義する。 (104 開めぐみ／2回) 性的マイノリティと人権、スポーツとジェンダーをテーマに講義する。 (39 中里英樹／1回) 家族とジェンダーをテーマに講義する。 (52 奥野明子／1回) 労働とジェンダーをテーマに講義する。 (83 大西彩子／1回) 学校と職場のいじめ問題をテーマに講義する。 (54 石川路子／1回) 障がい者と働き方をテーマに講義する。 (45 北川 恵／1回) グローバル化と在日外国人をテーマに講義する。 (65 中町信孝／1回) イスラームと共生をテーマに講義する。	オムニバス	

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
基礎共通科目（人文科学系） C群 文化を学ぶ	ことばと社会		ことばというものは我々にとっては当たり前の、固定された「ツール」のようなものと考えられがちであるが、一方で時代とともに変遷し、また同時代的にもさまざまな影響力を持つ「生き物」のように捉えられることもある。この科目では、ことばが変遷したり、あるいは社会現象を形作ったりするという事実の背後にどのような人文科学的な営みがあるのか、特に国際的な標準言語と考えられている英語に焦点を当てて紹介する。 (オムニバス方式／全15回) (41 中谷健太郎／5回) ことばの変遷～過去の再構築から方言までをテーマに解説を行い、確認テストを通じて授業の理解度を深める。 (44 MARTIN Andrew Thomas／5回) 社会階層やジェンダー年齢といった社会的な要素の言語への影響をテーマに解説を行い、確認テストを通じて授業の理解度を深める。 (110 上林朋広／5回) 複数のことば～植民地主義がつくりだす多言語状況を考えるをテーマに解説を行い、確認テストを通じて授業の理解度を深める。	オムニバス
	コミュニケーション論		この科目では、「社会学」の視点に基づいて、コミュニケーションの前提となる「自己」と「他者」に関する知見を学び、それらが織り成す「コミュニケーションの複雑さ」について理解・分析できる素養を身につけることを目標とする。	
	イメージと文化		この科目では、私たちの身近にあふれるイメージ＝映像文化について理解を深めるため、①映像の原点・原理 ②映像と表現の方法 ③映像と社会の3点を軸にし、歴史的視点を土台として多数の実例（視聴覚資料）を紹介しながら、映像文化の諸相を検討していく。また、専門を問わず様々な学問に取り組み上で基礎となる知識と思考法を提示する。	
	日本語の諸相		この科目では、日本語の音声・文字表記・語彙・意味・文法・方言・表現に関する話題をもとに、「日本語という言語」のさまざまな姿について解説し、現在から近い将来に向けて「日本語」が直面している（しかし、日本人は意識していない）課題について考える。	
	比較文化		この科目では、明治時代の小泉八雲（ラファディオ・ハーン）が記した『日本の面影』という作品を読んでいく。この作品を通して、小泉八雲が日本文化や、それと対峙（あいたい）する文化をどのように捉えていたか、同時代の資料を基に考えていく。	
	芸術学基礎論		この科目では、美術館や展覧会に関心がある方、あるいは美学や美術史を学びたい方のための芸術に対する基礎的な知識を得るための授業である。芸術家の具体的な制作プロセスや展覧会の歴史・変遷を通して、美術を楽しむ・作品を味わうための眼差しや知識について学び、作家・作品・鑑賞者との関わりについての理解を深める。	
	現代思想		この科目では、フランス・フェミニスト哲学入門である。「女性」が「人間＝男性」に対する「他者」として劣位に位置付けられてきたという伝統的な西洋哲学を踏まえ、20世紀半ばから現代フランスにおいて、性差に基づいた社会的な抑圧構造に、思想および実践の両面からどのような批判的考察が加えられたのかを辿る。	
	近現代の文学		この科目では、宮沢賢治の文学を中心に上げ、食べて生きるとはどのようなことか、宇宙や自然と人間はどのように関わり合えばいいのか、本当の幸せとは何か等について考えていく。また、賢治の童話が生まれてくるまでの、明治から大正にかけての童話ジャンルの形成についてもふれる。さらに賢治の文学が、現代のアニメーション文化などにも大きな影響を与えていることについても学ぶ。	
	日本研究		日本の古典文学の中には、異能、異形、異類、異界（異郷）、異国など、「異」と表象される存在が描かれる。この科目では、この「異」というキーワードをもとに、日本の古典文学（鎌倉時代の説話文学を中心に上げる）を支える価値観や思想を知ったうえで、物語を通して、自らと他者を考えるための視点を持つことを目的とする。	

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
基礎 共通科目 (人文科学系)	C 群 文化を学ぶ	越境する文化と文学	人や文化が様々な移動するグローバル化した現代の世界で明らかになりつつあることは、国家や国民、国語、あるいは民族や文化といった旧来固定化されたものだと思われてきたカテゴリーの境界を越えたり、複数を混じり合わせたり、間を流動するような現象が当たり前になったという事実である。文化や文学も例外ではなく、○○文化や○○文学の空欄に国家や民族の名前を入れた表現ではこぼれ落ちてしまうような現象が様々なところに見られる。この科目では、そのような「越境する」現象として、大英帝国発の文化や移民の歴史、ユダヤ文学や現代日本の文学、南アフリカの歴史、言語、文学までを、3人の担当者がそれぞれの専門を軸として講義を行う。 (オムニバス方式/全15回) (53 秋元孝文/5回) 芸術ジャンルを越境するをテーマに、「Harry Potter 原作 vs 映画」「『風の谷のナウシカ』原作 vs アニメ」等の事例を使って講義する。 (110 上林朋広/5回) 植民地主義と文学、酒と漂流をテーマに、シェイクスピアやJ.M. クツェーなどを事例として取り上げながら講義する。 (98 浜本隆三/5回) 越境する文化と「帝国」だったイギリスの過去について、「奴隷貿易の過去」や「ウィンドラッシュ号到達70年」などのトピックを用いて講義する。	オムニバス
	伝統文化を学ぶ	甲南大学は日本の伝統文化で活躍する卒業生が輩出している。能楽・お花・お茶の分野を中心に、各界で活躍する卒業生が講師として、それぞれの領域について特色や魅力を紹介していく。この科目を通して、日本の伝統文化に関する理解を深めるとともに、グローバル人材に求められる自国の文化を語ることができる基礎的素養を養うことを目指す。またこの科目を通じて「甲南の文化力」を伝える。 (オムニバス方式/全15回) (25 佐藤泰弘/2回) 能楽と文化史に関する講義を行い、日本の伝統文化に関する理解を深め基礎的素養を養う。 (25 佐藤泰弘、15 伊庭 緑/6回) (共同) 能楽や神社、寺院をテーマに講義を行い、これらの文化が現代にどのような形で息づいているのかを対談形式の授業を通じて理解していく。 (25 佐藤泰弘、15 伊庭 緑/2回) (共同) 能楽をテーマに講義を行い、それが現代にどのような形で息づいているのかを対談形式の授業を通じて理解していく。 (25 佐藤泰弘、283 福田龍庵/1回) (共同) 日本の茶道家元の一つである藪内流について講義を行い、茶道という伝統文化が現代にどのような形で息づいているのかを対談形式の授業を通じて理解していく。 (25 佐藤泰弘、282 小原宏貴/1回) (共同) お花をテーマに、いけばな小原流を事例に上げながら実演や講義を行い、お花という伝統文化が現代にどのような形で息づいているのかを対談形式の授業を通じて理解していく。 (25 佐藤泰弘、282 小原宏貴、15 伊庭 緑/1回) (共同) お花をテーマに、いけばな小原流を事例に上げながら実演や講義を行い、お花という伝統文化が現代にどのような形で息づいているのかを対談形式の授業を通じて理解していく。 (25 佐藤泰弘、201 小笠原秀邦 /1回) (共同) 小笠原流煎茶道をテーマに講義を行い、煎茶という伝統文化が現代にどのような形で息づいているのかを対談形式の授業を通じて理解していく。 (25 佐藤泰弘、282 小原宏貴、15 伊庭 緑/1回) (共同) これまでの授業を振り返り、「伝統文化を学ぶ」ことの意義について、対談形式の授業を通じて総括する。	オムニバス・共同 (一部)	
D 群 歴史を学ぶ	社会思想史		この科目では、デカルト、ロックからカントまでの代表的な近世哲学者の思想を紹介し、西洋近代的な思考スタイルに通底するいくつかの特色をつかむとともに、私たち自身が無意識的にとっている思考態度を見直す機会とする。	
	歴史と文化		この科目では、中世を舞台とした小説ウンベルト・エーコ『薔薇の名前』を手がかりとして、中世文化にまつわるさまざまな問題を取り上げながら、過去の世界を読み解く術を探り、中世ヨーロッパという過去の世界がいかなるプロセスを経て明らかにされるのか、史実とフィクションの間にどのような違いがあるのか、現代社会において「中世」を理解することにどんな意味があるのかを考える。	
	文学と歴史		この科目では、鎌倉時代に編纂された説話集の『宇治拾遺物語』を中心に、中世の説話集を読んでいく。鎌倉時代に、どのような物語が語られていたかを読むことで、当時の文学に通底する思想や価値観を考えるきっかけとする。	
	地域と文化		この科目では、地域の文化がどのようにして生まれるのか、どのように変化したのか(あるいは変化しないのか)、今後どうなるのか、景観、物語(フィクション)性、遊び、生活、観光・・・さまざまな角度から、現在、過去・未来の時間軸をたてて、具体的な例を現場のスライドを示しながら、考える。	

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
基礎共通科目（人文科学系）	D群 歴史を学ぶ	芸術史	「美術館」の成立過程を概観した後、「美術館」をめぐる様々な言説を検討することで「近代（モダン）」という時代が見えてくるといえる。この科目では、「モダン」から「ポスト・モダン」への思想の移行を読み解くとともに、現代のアート・シーンでの「美術館」の役割、その可能性も検証する。	
	歴史とメディア		7世紀の西アジアに生まれたイスラームという宗教、およびその文明は、世界史において大きな役割を担い続け、現在における国際情勢の中でも鍵としての存在感を保っている。この科目では、メディアの果たした役割に注目して、この広大な文明圏の歴史を辿る。	
	国際化の歴史		この科目では、いわゆる「鎖国」下の「日本」における国際交流の様相を紹介し、従来の「鎖国」イメージではなく、意外と閉ざされていなかった江戸時代について理解を深めることを目的とする。現代日本が置かれた国際的位置についても考える際に、近代の開国から国際交流を考えるのではなく、江戸時代の国際交流の有り様を踏まえて理解できることを目指す。	
	生活の歴史		私たちの生活は、どのようなモノ、行為、関係で成り立っているのか。この科目では、ヨーロッパと日本の近代を対象にしつつ、衣食住を中心的なテーマとしつつ、結婚、出産、育児、教育、介護などの生活行為、および感染症の歴史についても触れながら、生活を構成する事象と関係性について講義する。	
基礎共通科目（社会科学系）	A群 リベラルアーツ	社会学	この科目では、私たちの最も身近なものであると同時に最も認識しにくいものとされる「社会」という概念を社会学の基本的な理論とともに学び、また実際の社会現象の解釈の実例を理解することで知識を定着させると目的とする。	
	法学		法はしばしば自分とは縁遠いもの、何か堅苦しいものであるかのように捉えられがちであるが、実は私たちの日常生活の多くの場面に息づいており、基本的な法律の素養を持つことはこれから社会人となっていく中で、多様な場面で護身にもなり、武器にもなる。この科目では、①法を身近なものとして認識し、基礎的な素養を身につけること、②基本的な法的思考（リーガル・マインド）を理解し、基本的な実践ができるようになること、の2つの習得を到達目標とする。	
	経済学		この科目では、経済学の基礎を学ぶことで、新聞やテレビで報道されている経済用語や経済ニュースをより深く理解できるようになり、かつ適切に使用できるようになることを目指す。	
	経営学		この科目では、経営学の学説における管理過程論、人間関係論、近代組織論を中心に学習し、経営学という学問がどのような社会問題を解決するために生まれてきたのか、具体的にどのような学説が生まれ、発展してきたのかについて、具体的事例に基づいて学んでいく。	
	政治学		この科目では、政治学の基礎的な知識・理論の習得を目標とする。また、「歴史・思想」「現代政治」「国際政治」の学びを通して、現代社会を生き抜いていくうえで必須の素養である「政治」を学問的に理解しつつ、習得した知識や理論を基に、現代の具体的な政治現象や課題を主体的に考察し、自らの言葉で説明ができるようになることも目標とする。	
	地理学		この科目では、人文地理学に関連する情報について、映画やドキュメンタリーといった情報を交えて紹介しながら、施設の立地、食と地域、都市と農村などのテーマを取り上げ、これらについて自ら考えることを目的として実施する。	
	国際関係論		この科目では、最初に、関係性の捉え方をいくつかの伝統的な手法から最近の多重な関係性理論を学び、そのうえで、具体的な国際問題を取り上げ、その解決を図るために動いている国家と国際機構のあり方を考えていく。	

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
基礎共通科目（社会科学系）	B群 経済を学ぶ	産業と経済	この科目では、情報通信産業・エネルギー産業の現状や今後の動向、問題点等について、さまざまなケーススタディを通じて経済学の観点から考察することを目的とする。	
	企業と情報	近年、企業レポートにおいて、年次報告書（財務情報）やサステナビリティ報告書、CSR報告書（非財務情報）のボリュームが増えたことで、一般的なステークホルダー（投資家などの情報利用者）の情報処理能力をはるかに超えるとの指摘がなされるようになってきている。これを背景として、既存の様々な報告書のエッセンスを簡潔な一つの報告書(One Report)に統合しようとする試みである「統合報告」(Integrated Reporting)が英国で提唱され、グローバルに普及しつつある。この科目では、新しい時代の企業レポートや「統合報告」について解説する。		
	歴史と経済	この科目では、20世紀前半に日本が領有していた「植民地」における政治・社会・経済の展開について、台湾を事例に講義を行い、歴史学（日本植民地研究）の成果を学び、それに基づいて、書籍・テレビ・インターネットなどを通じて提供される植民地に関する言説を批判的に検討できる「目」を養うことを目指す。		
	現代社会と企業	この科目では、日本企業の戦略・管理・組織・取引という概念を中心に、日本企業の経営行動にどのように特徴があるのか？それが欧米企業に比して、どのように異なっているのか？また、このような相違がどのような機能と逆機能を生んだのかを学習していく。		
	世界と経済	この科目では、毎回、前週の時事経済問題をおもに日本経済新聞を材料にした資料を使って解説する。また、経済学部以外の受講生を念頭に置き、市場、景気、金融、財政、為替、貿易などといった経済学の基本について解説する。		
	暮らしと経済	この科目では、前半に経済学の視点から環境問題の本質は何か、対処法としての環境政策の現状と課題、最新の環境問題とその経済的アプローチについて紹介し、後半で、環境の価値と評価する方法についての説明に加え、これらの評価手法が実際の環境政策にどのように応用されているかを紹介する。		
	福祉と経済	今日の日本社会においては、少子高齢化や所得格差に対して、年金、医療、介護、生活保護等の社会保障制度を統合的、総合的なシステムとして構築することが喫緊の課題となっている。この科目では、日本の社会保障制度を理解するための基本事項について解説を行なう。		
	社会とファイナンス	現在の日常生活において、貨幣（お金）は財貨・サービスに共通する尺度であり、社会生活を支える交換手段になっており、信用経済のもとでは、個人であれ企業であれ、常にコスト意識をもつことは重要であるといえる。この科目では、コスト意識とキャッシュ・フローの重要性を理解し、履修者が合理的な経済人として活躍できる基礎知識を身につけることを目標とする。		
	SDGsとISO国際標準	この科目では、地球環境課題に対するSDGsの取り組みを理解するとともに、国際標準であるISO/IECの内容を理解することで、地球環境保全を推進するにあたり、品質管理、サイバーセキュリティ、地球環境・エネルギー保全という課題解決に向けた役割を理解することを目標とする。		
C群 社会を学ぶ	現代社会論	この科目では、「自己と他者」「多様な性」「労働」「家族」「医療」「介護」など、自分たちが生きている現代社会に関するさまざまなトピックについて、社会学の観点から理解・分析できる素養を身につけることを目標とする。		
	現代都市論	この科目では、都市が生み出す現象の解明や、都市を生み出す力の所在を探索する学問分野である都市社会学について、その理論と方法のもとに、現代都市の構造と文化について概説し、「都市的なるもの」についての理解を深めることを目的とする。		
	公共哲学	この科目では、功利主義と呼ばれる現代の有力な立場を紹介したうえで、その問題点を検討し、後半では、日本の功利主義者・市井三郎による、水俣をめぐる考察の問題点を検討することで、功利主義とは別の哲学の可能性を探る。		

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
基礎共通科目（社会科学系）	C 群 社会を学ぶ	環境人間学	人間をとりまく環境は、身体と行動を介しながら自然環境、社会環境、文化環境、生活環境、精神（心の）環境などから構成されており、これらの環境は、人間と無関係ではなく、人間とかわるることによって成立しているといえる。この科目では、環境人間学（および環境と社会）のアプローチから環境と人間との関係、地球環境および地域環境をとりまく環境問題の構造、環境問題の解決のための方向づけについて、理解を深める。	
	社会福祉論		この科目では、社会福祉の基盤となるソーシャルワークに関連する内容として、社会福祉やソーシャルワークの形成過程、現代の社会福祉関連法や制度、社会福祉の実際について学び、それらの内容を踏まえて、現代における社会福祉について理解する。	
	家族関係論		現代社会では、少子高齢化や人口減少、グローバル化や情報化など、めまぐるしい社会の変化や価値観の多様化の中で、家族もそれに関する課題も多様化している。この科目では、現代社会における家族のゆくえを、社会学およびジェンダー論の視点から考察する。	
	歴史と社会		この科目では、遊牧民である鮮卑（せんび）によって建国され、支配下に漢人・突厥人・ソグド人などを抱え込んだ多民族国家である中国の唐王朝で暮らした人々の一年を、その年中行事を追いかけながら見ていき、中国の文化についても適宜トピックをたてて取り上げながら、異なる時代・地域に生きた人々への興味・関心を深める。	
	ボランティア論		阪神淡路大震災、そして東日本大震災を経験した日本社会では、「ボランティア」に対するとらえ方、参加の仕方も変化を遂げてきている。この科目では、1995年から現在までの「ボランティア」や「社会貢献」などのとらえ方、活動について事例をあげながら、日本社会や私たちの身近にある「ボランティア」活動の動向について学ぶ。また、SDGs・企業・災害・寄付・国際協力といった多様な場面の中でボランティアはどのような期待を持たれているのかについて考える。	
	グローバリゼーションと文化		この科目では、グローバリゼーションがどのような影響を社会に与えているのかについて、身近な生活文化の片葉、それらをもたらす企業活動、さらに難民の発生、国際移住労働者をとりまく政治的経済的な社会問題、そのなかで重要視される人権保障の取り組みなどを通して理解したうえで、国家・地域間の相互関係について考察を深める。	
	地域連携入門		この科目では、まちの問題について学習者が事前に下調べをしたうえで、自治体や地域団体で問題解決に取り組む実践者をゲストに迎え、自治体や地域団体、教育機関等との連携による取り組み事例を学ぶ。観光、まちづくり、子育て、地方創生など、各地の多様な取り組みの連携による効果を検証し、課題を展望する。	
	地域とメディア		この科目では、メディア・リテラシーの力が問われる情報化社会において、幅広い知識を身につけた上で、メディアから正確な情報を選び出せるよう、接する情報に対して批判的な見方を養い、自らの考えを的確に持ち、他者に伝えるコツを身につける。 (61 久保はるか、169 富居雅人/5回) (共同) 神戸新聞社に勤務する講師が、ネット社会とメディア・リテラシー、「伝える」を考える、防災と減災のリテラシーなどをテーマに解説を行い、もう一人の講師が対談形式で授業を進行することで学生の理解を深めていく。	共同（一部）
D 群 法と政治を学ぶ	日本国憲法		日本国憲法は、表現の自由や思想・良心の自由などの基本的な人権を私たち一人ひとりに対して保障しつつ、国会・内閣・裁判所などの統治機構の組織・権限について定めており、簡潔で抽象的な条文しか備えていないものの、私たちが生きる社会の基盤となるルールである。この科目では、日本国憲法が示す基本的な考え方や仕組みについて、主要な学説と最高裁判所の判例に則って概説しつつ、憲法学の入門的知識を提供する。	
社会生活と法			この科目では、雇用と就業形態、労働条件の決定と変更、労働者に支払われる金銭、労働と時間、災害と失業、雇用の終了など、労働をめぐる法制度を中心に解説する。	
現代政治論			この科目では、正義に関する抽象的・哲学的な理論の大枠を押さえた上で、近年のマイケル・サンデル「白熱教室」ブームなどを通じて関心が高まりつつある現代政治哲学の議論を手掛かりに、これらの議論に関係する具体的な応用的な論点として、福祉国家・多文化主義・ジェンダーの平等などの問題も考えることにより、現代政治の問題を分析する基本的な視点を習得することを目標とする。	

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
基礎 共通科目 (社会科学系)	D群 法と政治を学ぶ			
	法と情報		この科目では、自ら気軽に情報や意見を発信し、また受け取ることが可能になった現代社会において、これら情報の取り扱いをめぐって生じてくる様々な法的問題について、とりわけ憲法学の観点を中心に置きつつ、幅広く学ぶ。	
	環境法学		この科目では、都市景観、自然環境、水環境、廃棄物など、私たちの生活における環境問題と行政との関係を法的な観点から考え、環境法学に関する基礎的知識を習得することを目標とする。	
	家族関係と法		家族を形成することにより人はさまざまな問題に向き合うことになる。この科目では、家族に関する問題を、日項目にする新聞やインターネットの記事、文献などを通して、法律がそれらの問題をどのように解決すべきと考えているのかを学び、現行法がそれらの問題に十分な手当ができていないかを考える。	
	少子高齢社会と法		この科目では、少子社会と超高齢社会に分けて講義し、これらの社会の現状と課題について理解する。	
	財産と法		現代社会では、財産との関係をもたないで生活することはできない。この科目では、財産と人間との関係が法的にはどのように理解されるのかを明らかにしていく。また、財産といってもその種類はたくさんあり、その種類に応じて規制が異なる。そうした点についても、概略的な知識を持てるようになることを目標とする。	
	消費者問題		この科目では、消費者契約法や特定商取引法の解説を踏まえたうえで、壺感商法やネットトラブル、詐欺的商法など各種の消費者トラブルを取り上げ、それらへの対処について検討する。	
	市場と法		この科目では、在学中に日本経済新聞や東洋経済などの雑誌を読んで、ビジネスやマーケットというものを身近に感じることができるよう、一週間の間に生じたビジネス関係の事件や出来事についても取り上げながら、法と規制という側面に絞って学ぶ。	
	組織と法		この科目では、法学部学生以外を念頭に置き、一週間の間に生じたビジネス関係の事件や出来事についても、授業で簡潔に説明を加えながら、株式会社の法的基礎を理解できるよう解説する。	
	まちづくりと行政		まちづくりは、行政だけではなく住民が重要な担い手と位置づけられており、行政と住民との協働の仕組みが施されている。さらには、それに協力する企業や専門家など、多くのアクターが関わっている。この科目では、まちづくりの法制度とそこにおける行政の役割について、まちづくりの実例を紹介して具体的なイメージを持ってもらいながら、まちづくりの法制度の仕組み・運用・課題について学ぶ。	
地域創生		この科目では、地方自治体の制度、人口減少・少子高齢化社会、国と地方の財政状況などについての現状を理解するための基礎的な知識を習得し、なぜ今「地域創生」が必要とされるのか、現状について考える。その後、地域創生の方向性をめぐる議論や具体的な取組み事例を材料に、地域創生のあり方について考える。		

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
基礎共通科目（自然科学系）	A群 リベラルアーツ	数学	この科目では、文系にはなじみの薄い線形代数を前半に取り上げ、線形代数と微積分が理系で必須とされている理由について考えながら、高等学校までの数学と一味違う（大学での）数学を味わうことを目指す。また、数学というものの理解を深めるため、数学の歴史の変遷などを解説する。	
		物理学	この科目では、教員が毎回行う「演示実験」を学生が見て結果について考えていくという授業形態をとる。演示実験を元に平易な解説を行うことで、高校で十分に物理学を学んでいない文系の学生を含めた、幅広い受講者に対して物理学の楽しさを伝えていく。さらに、実験結果から構築された物理学の体系を把握することや、身近で起こる様々な現象の多くは物理学で説明できることについて理解を深めることを目的とする。 (オムニバス方式／全15回) (5 市田正夫／6回) 授業の目標についてガイダンスを行った後、振動・波動、電磁気学の分野に関する「演示実験」をもとに平易な解説を行い、物理学の楽しさを伝えていくと共に、様々な現象の多くが物理学で説明できることについての理解を深めていく。 (1 梅津郁朗／7回) 力学、熱力学、原子物理学の分野に関する「演示実験」をもとに平易な解説を行い、物理学の楽しさを伝えていくと共に、様々な現象の多くが物理学で説明できることについての理解を深めていく。また、学生の理解度を測る確認テストの解説を行う。 (5 市田正夫、1 梅津郁朗／2回) (共同) 授業の目標についてガイダンスを行う。また、学生の理解度を測る確認テストとその解説を行う。	オムニバス・共同 (一部)
		化学	エネルギーの安定供給、マイクロプラスチック、地球温暖化など環境悪化の問題、新型ウイルスの蔓延などが言われる中、安全で安心な社会の実現には新しいエネルギー変換、環境浄化、医療、省エネルギー素子、IoTセンサーなど科学及び技術の進歩が必要である。この科目では、種々の材料や素子、機器の機能の基本原則を理解し、科学及び技術の進歩において心臓部ともいえる、機能物質を作り出す化学について学ぶ。	
		生物学	この科目では、微生物から植物、動物まで自然界のあらゆる生命現象を対象とする自然科学の一分野である生物学について、複雑に構成される生物を再現する方法で把握するための基礎的な手法を押しえつつ、それらの知識のなりたちを学習することで、将来にわたって日常生活や専門的な場面で最新の情報を活用して判断に生かしていくことができるようになることを目標とする。	
		地学	この科目では、我々が住んでいる地球を、①現在の姿、②誕生から現在までの変遷、③広い宇宙の中でどのような惑星であるのかの3つの視点で捉えて理解を深めていく。また、理解を深めるにあたり、事実を示すだけではなく、それらがどのように明らかになったかについての観測方法や解析原理を含めて講義することで、“地球”についての正しい知識を習得し、それらに基づいて深く考察する力を習得することを目的とする。	
		生命化学	私たちのからだは細胞できている。その細胞の中では何千種類もの物質が化学反応を起こしており、その組み合わせによって生命活動を営むことが可能になる。したがって、細胞（生物学）と物質（化学）の知識をもつことで、生命の仕組みをより深く理解することができる。この科目では、生物学と化学を同時並行的に学ぶことによって、さまざまな生命現象を分子レベルで理解する力を養うことを目標とする。 (オムニバス方式／全15回) (29 村嶋貴之／3回) からだの中の分子の構造、からだの中の化学反応、想像を創造に変える化学者たちをテーマに講義する。 (19 西方敬人／3回) 細胞の構造とはたらき、細胞のさまざまな形態と身体の中でのたらき、細胞間の情報伝達と細胞内での情報の流れをテーマに講義する。 (58 三好大輔／3回) セントラルドグマ「生命の中心教義」、核酸の構造と働き、遺伝子鑑定、核酸医薬等の遺伝子工学をテーマに講義する。 (42 松井 淳／2回) 生命現象の鍵を握る高分子化合物、高分子化合物の構造とはたらきをテーマに講義する。 (57 中野修一／2回) さまざまな生命現象について、物理現象として捉えたり、数値化して考えたりすることで理解を深められるように講義する。 (95 臼井健二／1回) 酵素などを人為的に改変・利用するタンパク質工学テーマに講義する。 (60 赤松謙祐／1回) ナノマテリアルをテーマとして取り上げて講義する。	オムニバス

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
基礎共通科目（自然科学系）	B群 自然の歴史を学ぶ	地球の歴史	この科目では、地球の誕生から現在までの歴史をたどり、大陸移動などの変動現象、生命の発生・進化と地球環境の深い関係、さらに、その歴史の中で起こった、酸素の発生・生物の大量絶滅・全球凍結などの大事件について解説する。また、それらの歴史を示す様々な科学的証拠や最近の研究についても解説を行う。	
	生物の歴史		この科目では、生物の基本的な知識と、本来個別の学問となる古生物や現生動物、現代に起きている生物に関わる問題等、幅広く「歴史」として説明を行う。さらにそれらの知識を用いた考察も行うことで、知識の獲得に加えて分析する力を身につけることを目的とする。	
	自然と人間		この科目では、人間が自然に求めてきたものは何なのか、人間はどのように自然に働きかけ、それによりどのような弊害や利益がもたらされたのかなど、身近な問題や世界の多様な事例を通して人間と自然の関係について考えを深める。	
	自然科学史		この科目では、発展過程でその本質的意味を大幅に変化させていった科学・技術について、約二千年前のギリシャから遡り解説し、現在の科学・技術の社会的影響力の増大の根源について、その思想的・現代哲学的意義から肉薄していく。	
	技術の歴史		この科目では、金属材料の代表である鉄系材料について、その製鉄・精錬の技術、鋼・鋳鉄の作製技術、ならびに、これらを支える熱科学について解説を行い、製鉄技術の発展の歴史を振り返りながら、人の生活に技術の発展がどのように影響してきたのか、また現代の科学技術の観点から歴史的に重要な技術の開発が行われたのかを見ていく。	
	環境と地理		この科目では、近年の東南アジアにおける政治・経済・社会的な変化による、水田や焼畑といった伝統的な農業の変容とそれに伴う問題や、都市における人々の日常生活と大気汚染などの環境問題について取り上げながら、人と環境の関わり合いの問題について学ぶ。	
C群 現代科学を学ぶ	現代生活と物理学		この科目では、代表的な物理学上の話題を取り上げて解説を行い、物理学が現代生活とどのような関係を持っているかを理解し、そのような視点から、我々が将来にわたって持続可能な社会をいかに実現するべきかを自ら考えられるようになることを目的としている。 (オムニバス方式／全15回) (184 島田武司／4回) 授業の代表教員として、授業の概略や目標を説明すると共に、生活の中の熱現象(熱エネルギーの利用)、電気エネルギーの利用と電力システムをテーマに講義する。 (184 島田武司／3回) 天体運動(力学)、マイクロ世界の物理(量子論)、原子力利用(量子と相対論)をテーマに講義する。 (154 松沼 悟／3回) 気候変動(流体)、情報の記録(データストレージ)、電池と充電(電池が変える社会)をテーマに講義する。 (177 中澤慶久／3回) バイオミメティクス、生物と光と電子(光と生物学・農業応用)をテーマに講義する。 (195 遠藤英樹／2回) 波の物理をテーマに、「波」の性質や音波、地震波・水面波・電磁波などを取り上げながら講義する。	オムニバス
	現代生活と生物学		この科目では、現代生活でよく知られている疾病の発症メカニズムや免疫のような外敵から身を守る機構などを理解するのに必要な生物学の基本的な考え方を学ぶ。また、生命科学分野の発展により多大な恩恵を享受することになった一方で、それに伴い発生している問題点についても考えていく。	
	現代生活と数理科学		現代は科学技術や情報技術の発展によりますます便利になりつつある。この科目では、現代生活に関わる社会システム、情報ネットワーク、AI、データサイエンスなどにおける数理科学的な思考法について理解し、そのうえで数理科学的発想を応用できることを目的とする。	

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
基礎 共通科目 (自然科学系)	C 群 現代科学を学ぶ	現代生活と最先端科学	この科目では、多岐にわたる最先端科学の中から、ナノバイオテクノロジーに焦点を当てて、それらが現代の国際化社会において果たす役割について理解することを目的とする。また、国際的な共同作業と競争の中で発展する最先端科学の研究開発について、国内や諸外国における科学動向なども紹介しながら、最先端科学について考える。 (オムニバス方式/全15回) (94 遠藤玉樹/5回) 遺伝子・タンパク質・細胞の関連性、遺伝子配列解析(ヒトの設計図を読み解く)、細胞を操る(再生医療と万能細胞)(遠藤)、ウイルスと疾患(外敵から体を守る免疫)をテーマに講義する。 (100 高橋俊太郎/5回) ナノテクノロジー、生物から学ぶスマート技術、生活を豊かにする分子設計、生命をデザインする科学、生命科学と倫理をテーマに講義する。 (97 建石寿枝/5回) 生命分子、個性を決める遺伝子、分子レベルで健康を考える、生命分子の新機能をテーマに講義する。	オムニバス
		核と環境	この科目では、エネルギーをめぐる原子核エネルギーの利用とそれに伴って引き起こされた問題について振り返り、我々の生活を成り立たせているエネルギーについて核物理学の知識を深めながら考える力をつけていくこと、地球温暖化について物理学の知識を蓄えることにより解決の道筋を考えて議論を進める力をつけることを目的とする。	
		環境の化学	この科目では、環境化学の専門家が、環境問題の最前線と最先端をできるだけ分かりやすく解説する。マスコミ等で刷り込まれた誤った環境問題の知識を覆した、最新のエビデンスに基づく講義を多く行うことで、柔軟な思考力で環境問題の本質を見抜く力を身につけることを目指す。	
		大気と海洋	この科目では、地球を取り巻く大気や海洋の、その構造、地球規模の運動のメカニズム、相互作用などを理解する。また、降水のメカニズムや、世界や日本の気候についても学ぶことで、地球環境の変動を論理的に考察する力を身につけ、自律的に思考し行動する能力を身につける。	
		国際化と情報ネットワーク	この科目では、コンピュータとネットワークならびにコミュニケーションの国際的な現状をできる限り新しいデータとそのデータサイエンス的な分析結果を使いながら紹介する。それにより、社会の様々な問題に情報ネットワーク技術や人工知能などがどのように貢献できるのかを考える。	
		国際社会における最先端科学	国際化が進む現代社会においてはどのような産業分野においても、最先端科学の素養なしには市場や経済の動向を理解し、予測することもままならなくなっている。21世紀の基幹技術になると考えられているバイオテクノロジーとナノテクノロジー、ナノバイオテクノロジーは、材料から健康まで、多様な産業分野から注目を集める技術であり、国際的な共同作業と競争の中で研究開発が進められている。この科目では、日本国内や諸外国における科学動向なども紹介しながら、これら最先端科学の重要性について考えていく。 (オムニバス方式/全15回) (94 遠藤玉樹/5回) 生命科学の基礎、細胞と遺伝子の関連性、ウイルス感染症に関連する最先端科学、免疫とアレルギー、生命進化と分子進化をテーマに講義する。 (100 高橋俊太郎/5回) くらしに役立つナノテクノロジー、ナノの世界から見る生命、生物から模倣する新ナノ技術、生物の分子を活用した技術革新、物質と生命の境界線をテーマに講義する。 (97 建石寿枝/5回) 生命分子の化学、遺伝子が操る個人の体質、生命分子を材料として使う、分子レベルで健康を科学するをテーマに講義する。	オムニバス

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
基礎 共通科目 (自然科学系)	C 群 現代科学を学ぶ	現代生活と生命化学	<p>私たちのからだや現代生活に関する事柄～例えば健康、医療、診断、薬、食、環境、先端科学など～を深く理解するためには、分子や化学の観点から、生命や現代生活に溢れる物質を見直してみることが有効である。この科目では、私たちの生活における化学と生物学の展開事例や応用事例を学び、現代生活における生命化学の重要性を理解することを目標とする。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(19 西方敬人/1回) ES細胞やiPS細胞、がん細胞が示す細胞の可能性をテーマに講義する。 (91 川内敬子/2回) がん細胞について解説し、がん治療を知ることをテーマに講義する。 (42 松井 淳/1回) 酵素や抗体を使って“病気の目印”を見つけるたんぱく質と診断技術をテーマに講義する。 (37 川上純司/4回) 核酸と診断技術、薬、分子間相互作用の親和性と特異性、創薬と医薬品開発をテーマに講義する。 (60 赤松謙祐/1回) エネルギー問題をテーマに講義する。 (67 甲元一也/2回) バイオ資源・グリーンケミストリー・環境、化学と生物学から見た食の最先端をテーマに講義する。 (28 藤井敏司/2回) 分子システム、アルツハイマー病をテーマに講義する。 (77 長濱宏治/2回) ドラッグデリバリーシステムや再生医療の分野で活躍する材料をテーマに講義する。</p>	オムニバス
		Science in the World Today	<p>This course has two main units. In Unit 1, utilizing a research worksheet, students will research and present to the class about a leading scientist or IT innovator. In Unit 2, students will research and present about a leading research university or research institution. In order to build confidence for the class presentations, students will be given many opportunities to practice orally reporting research results and making presentations in pairs and small groups.</p> <p>この科目では、リサーチ・ワークシートを用いて一流の科学者やITイノベーターについて調べ、発表したり、一流の研究大学や研究機関について調べ発表する。その過程で、研究結果を口頭で報告する機会や、ペアやグループでのプレゼンテーションなどの練習の機会を多くもつことで、発表するための力を身につける。</p>	
		Science, Technology and SDGs	<p>Students will make two presentations. First, they will choose a problem related to science/technology and SDGs, and then research the problem and make a presentation about its causes and effects. Then, for their second presentation, students will research and present about possible scientific/technological solutions to the problems.</p> <p>学生は2つのプレゼンテーションを行う。まず、科学技術やSDGsに関連する問題を選び、その問題について調べ、その原因や影響についてプレゼンテーションを行う。次に、その問題に対して考えられる科学的な解決策について調べ、発表する。</p>	
		Science News	<p>In this course we will read general articles and watch videos about some current topics related to various scientific fields including AI, astronomy, biology, IT, physics, nanotechnology, and so on. In addition, we will get some practice making oral reports and participating in simple discussions related to the topics being covered. In the early part of the course, the topics will be chosen by the instructor, but in the later part of the course students will be asked to choose and prepare news topics that they are especially interested in, and make oral presentations about those topics. Most tasks will require accessing the Internet, so it will be necessary for students to bring their computer or tablet to every class (BYOD with earphones).</p> <p>この科目では、AI、天文学、生物学、IT、物理学、ナノテクノロジーなど、さまざまな科学分野に関連する最新のトピックについて、一般的な記事を読み、ビデオを視聴する。また、トピックに関連した口頭での報告や簡単なディスカッションに参加する練習をする。序盤は講師がトピックを選ぶが、後半は受講生が特に興味のあるニューストピックを選んで準備し、そのトピックについて口頭発表する。</p>	
D 群 情報を学ぶ	知能情報		<p>この科目では、AIを動作させるコンピュータの発展の歴史を通じて、ヒトと機械の関係について講述する。前半ではコンピュータアーキテクチャとヒトの情報処理のプロセスを比較し、コンピュータ開発当初の人工知能開発について概説する。さらに1980年代以降のマイクロプロセッサ開発がAIの新しい方法論を生み出し、それが現在のネットワーク技術、知能ロボット技術にどのように応用されてきたかを紹介する。最後にいま話題となっている現代のAI技術によって社会がいまどのように変わろうとしているのかについて考えていく。</p>	

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
基礎共通科目（自然科学系）	D群 情報を学ぶ	生体情報	この科目では、我々が外界をどのように捉えて行動に結びつけているのかを心理学や関連領域の立場から明らかにしていくことで、環境から取り入れられた情報の処理の仕方や知覚と認知のメカニズムについて説明することができ、情報処理の働きが行動にどのように結びつくのかについて考えることができることを目標とする。	
		感性情報	この科目では、「モノ」を作るときに必要な従来の工学的な考え方、捉え方を見直し、ユーザの立場に立つ新しい工学として提唱されている“感性工学”とそのカギとなる“感性情報”について、初学者向けに解説を行う。	
		生命情報	この科目では、生物の進化の歴史を踏まえ、遺伝情報の伝達、感覚器による環境情報の取得、細胞内外での情報伝達のような生物にみられる普遍的な属性について理解を深め、多様な生命現象について関心を持ち、自分の考えをもつことを目指す。 (オムニバス方式／全15回) (244 飯田聡子／8回) 生物の進化の歴史をテーマとして、初期の生命の進化、地球上の生物多様性、生物の共通属性と進化、遺伝情報から探る生命史等について解説する。また、遺伝情報の伝達をテーマとして、有性生殖、植物の繁殖生態、自殖や無性生殖、クローン技術といった特別な生殖様式について解説する。 (239 上尾達也／7回) 遺伝情報の伝達をテーマとして、動物の繁殖生態、寄生性生物の生活環と生殖について解説する。また、環境情報の取得とシグナル伝達、代謝をテーマとして、外部情報の取得については視覚（光情報）、嗅覚、味覚（化学感覚）、聴覚、平衡感覚、体性感覚、その他の感覚の面から、生体内での情報伝達についてはエネルギー代謝の制御の面から、それぞれ解説する。	オムニバス
		認知科学	この科目では、心の情報処理過程を中心とした、心理学・哲学・人工知能・教育学・言語学・神経科学などにまたがる学際領域である認知科学の基礎的な理論や研究方法などについて学び、認知科学が扱う問題と日常生活での経験とをリンクさせながら、人の心が持つ特徴についての理解を深めていく。	
基礎共通科目	学際融合系	ケアの倫理	この科目では、伝統的な倫理学ないし倫理理論に異を唱える形で現れたのがケアの倫理に関し、ケアの倫理が現れるまでの経緯、ケアの倫理がどのようなものなのか、そしてケアの倫理が対象とする問題がどのようなもので、それに対してどのようなアプローチをするのかを学習する。	
		ライフプラン教育	「少子・高齢社会」の到来とともに、子育てを「ライフプラン」にいかに関わり込むかが問題となっている。この科目では、子育て問題に関わっている研究者である諸分野の教員が、それぞれ異なった切り口で、現代の子育てをめぐる様々な状況を踏まえた「ライフプラン」について講義する。その中で受講生が自らのライフプランについて考えることを求める。 (オムニバス方式／全15回) (116 宮川貴美子／3回) 授業の代表教員として授業の目標についてのオリエンテーションと授業のまとめ講評を行う。「子育てがうまくいかないとき」をテーマに、教育臨床の立場から解説する。 (83 大西彩子／1回) 「子どもを産む選択」をテーマに、発達臨床の視点から解説する。 (45 北川 恵／1回) 「親子関係への心理学的支援」をテーマに講義する。 (11 前田正子／1回) 「ライフプランにおける職業と家庭」をテーマに講義する。 (291 谷口あや／1回) 「父母による相補的子育てから見る現代の家庭」をテーマに、グループディスカッションを行い学びを深める。 (107 フェョル入江容子／2回) 「女性の多様なライフプランのためにフランスを参照して」、「人生史の振り返りから見たライフプラン」をテーマに講義する。 (66 足立泰美／1回) 「雇用・結婚・出産における財源と給付」をテーマに講義する。 (39 中里英樹／3回) 社会学、家族社会学、ジェンダー、労働社会学といった観点から講義を行う。 (108 西尾千尋／2回) 乳幼児の発達、発達の環境、遊び、運動発達と認知発達といった観点から講義を行う。	オムニバス
		癒しの諸相	この科目では、臨床心理学をベースに、身近な映画やアニメーションを題材として取り上げながら、人間の「こころ」や「歴史」について学び、受講生が自分を知り、現代社会や人との関係を読み解く「眼」を養い、「考える力」を育むことを目的とする。	

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
基礎共通科目 学際融合系	自己の探求		学生時代は、自己のアイデンティティを形成していく上で重要な時期であり、そのために、さまざまな自己表現や、他者とのコミュニケーションを通じて、自己理解を深めることが求められている。この科目では、できるだけ体験的・実習的要素を取り入れながら、臨床心理学の枠組を用いて、自己の内的世界を探求していき、無意識的な領域を含めた、新たな自分の一面に気づいていくことを目的とする。	
	心の健康科学		この科目では、「心」とはどのような構造をもち、どのように機能するか、また心を健康に保ち、育てていくためにはどのようなことが必要かという問題について、主として臨床心理学の観点から探っていく。さらに、現代人が抱えやすい心の病や障害について、その発生のメカニズムや、症状、治療法等について学ぶ。コロナ禍が及ぼした心の健康や成長への影響、現代的なストレスへの対処法といった実際的な内容についても取り上げる。	
	保健衛生		この科目では、公衆衛生学の歴史を振り返り、健康問題は時代とともに変化する事や我が国の人口構成や死因、疾病構造の現状ならびに国際保健におけるWHOの役割や活動、母子保健制度、生活習慣病とその危険因子を学ぶ。さらに、微生物による健康障害に対する理解を深めるために、微生物および感染症の基礎知識、感染症の制御に関わる我が国の取り組みや感染症流行の現状について学ぶ。	
	人体の構造と機能及び疾病		この科目では、身体の構造と機能、様々な疾病や障害、よくある身体症状など生物学のごく基本的な事項、および心身医学の基本（心身相関など）を学ぶ。併せて、医療現場でも役に立つ臨床検査と画像診断の基礎的事項や、緩和医療・人生の最終段階の医療を支えるための基本的事項も学ぶ。	
	環境教育の実践		環境教育の基本は、自然と人間とのかかわりの理解にある。今日起こっているさまざまな環境問題の解決のためには、まず地球環境について”グローバルな（地球規模の）視点”から考えて、“ローカルな（足もとや身近な地域）視点”から行動することが大切である。この科目では、私たちの身近な暮らしのなかで起きている環境問題について学び、環境問題についての基本的な知識を学習した上で、フィールドワークによって環境教育の理論と実践について学ぶ。 (オムニバス方式/全15回) (253 渡辺理和/5回) 授業の代表教員として授業の目標について説明する他、里やまフィールドワークの準備学習として、里やま保全と環境教育について講義し、学生の学習成果について講評する。 (253 渡辺理和/1回) 里やまの植物と食文化についての解説と春の山野草エコクッキング体験のフィールドワークを踏まえて、里やまの資源管理と地域循環型農業について講義する。 (181 天野雅夫/1回) 生物多様性の保全について行政法、環境法の観点から講義する。 (165 北村 真/1回) 「自然の権利訴訟」をテーマに講義する。 (167 大久保規子/1回) 有害化学物質と環境への影響をテーマに講義する。 (150 藤岡達也/1回) 自然災害・防災教育と環境教育をテーマに講義する。 (253 渡辺理和、181 天野雅夫/2回) (共同) フィールドワークを担当し、里やまの植物と食文化について解説を交えながら、春の山野草エコクッキング体験を行う。 (253 渡辺理和、181 天野雅夫、165 北村 真/3回) (共同) フィールドワークを担当し、田植え体験学習を行い、その体験を通じ環境教育プログラムの意義についてグループワークを行う。	オムニバス・共同 (一部)
	食品科学		食品には栄養面のはたらきとしての第1次機能、嗜好面ではたらきとしての第2次機能、疾病予防面ではたらきとしての第3次機能などがある。この科目では、これらの機能に関与する食品成分の構造・性質・化学変化について学ぶ。	

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
基礎 共通 科目	学際融合系	フロントランナー講座	この科目では、産業界をリードする企業の経営者や世界で活躍する第一線の研究者、新進気鋭の起業家など、社会の第一線で活躍する方々を講師として招き、先駆者（フロントランナー）としての“ものの捉え方”、“斬新な考え方”、“成功の秘話や教訓”などを学ぶ。 (オムニバス方式/全15回) (19 西方敬人、60 赤松謙祐/4回) 共同 授業の代表教員として授業の目標について説明する他、学生のキャリアの指針作りや持続的成長を目指してをテーマに対談形式で講義する。 (19 西方敬人、60 赤松謙祐、57 中野修一/1回) 共同 甲南に学ぶをテーマに対談形式で講義する。 (19 西方敬人、60 赤松謙祐、32 中井伊都子/1回) 共同 大学での学びとSDGsをテーマに対談形式で講義する。 (19 西方敬人、60 赤松謙祐、225 有井康博/1回) 共同 大学で学ぶを考えるをテーマに対談形式で講義する。 (19 西方敬人、60 赤松謙祐、285 国広潮里/1回) 共同 神戸と沖縄の研究生生活をテーマに対談形式で講義する。 (19 西方敬人、60 赤松謙祐、189 長濱 徹/1回) 共同 医薬品、医薬部外品、化粧品の開発と開発事例をテーマに対談形式で講義する。 (19 西方敬人、60 赤松謙祐、208 牧野秀樹/1回) 共同 日本酒文化の魅力を語るをテーマに対談形式で講義する。 (19 西方敬人、60 赤松謙祐、217 柳本 博/1回) 共同 自らの成長と幸せに繋がる素養をテーマに対談形式で講義する。 (19 西方敬人、60 赤松謙祐、187 松本智成/1回) 共同 新型コロナウイルス感染症への挑戦をテーマに対談形式で講義する。 (19 西方敬人、60 赤松謙祐、228 片山博之/1回) 共同 これからの産業界を生き抜いてゆくことをテーマに対談形式で講義する。 (19 西方敬人、60 赤松謙祐、183 塚本洋子/1回) 共同 大企業からフリーランスへの転身をテーマに対談形式で講義する。 (19 西方敬人、60 赤松謙祐、230 遠藤浩平/1回) 共同 映画とテクノロジーと起業をテーマに対談形式で講義する。	オムニバス・共同
		情報社会のセキュリティ	企業あるいは組織が活動していくためには、アプリケーションの使い方なども重要であるが、セキュリティに対する正しい考え方はそれら以上に重要である。この科目では、独立行政法人情報処理推進機構から公開されている資料を用いて、企業あるいは組織に所属する構成員が身につける必要のあるセキュリティ対策について詳述する。	
		社会を読み解く（クリティカルシンキング）	さまざまな情報が飛び交う現代社会において、情報を鵜呑みにせず、多角的に捉えることができる「クリティカルシンキング（CT）」というスキルは、大学での学びだけではなく、社会においても求められる。この科目では、受講生の身近な映像や新聞記事などの題材を用い、演習形式で検討することで、クリティカルシンキングのスキルを高めていく。	
		文章表現論	自分の考えを他者に分かりやすく伝える力は、大学での学びの基礎となるだけでなく、就職活動の際や社会においても不可欠なスキルである。この科目では、大学生活で必要な文章を書く力を高めるため、実際にさまざまなジャンルの文章を書く作業を体験しながら、情報収集の方法やその活用方法、資料の読解の仕方、文献の引用方法、自分の考えを整理する方法、論理的で説得力のある文章を書く方法などを具体的に学んでいく。	
		国際言語文化系	ヨーロッパの文化を学ぶ	この科目では、ヨーロッパの文化、歴史とその背景について、主にドイツやフランスを事例に挙げながら、さまざまな観点から解説していく。これを行うことにより、現在のヨーロッパ文化についての理解を深めることを目標とする。
		アジアの文化を学ぶ	この科目では、アジアの文化、歴史とその背景について、主に中華人民共和国や大韓民国を事例に挙げながら、さまざまな観点から解説していく。これを行うことにより、現在のアジア文化についての理解を深めることを目標とする。	
		ヨーロッパの言語と社会	この科目では、ヨーロッパの言語、社会とその背景について、主にドイツやフランスを事例に挙げながら、さまざまな観点から解説していく。これを行うことにより、現在のヨーロッパの言語と社会についての理解を深めることを目標とする。	
		アジアの言語と社会	この科目では、アジアの言語、社会とその背景について、主に中華人民共和国や大韓民国を事例に挙げながら、さまざまな観点から解説していく。これを行うことにより、現在のアジアの言語と社会についての理解を深めることを目標とする。	

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
基礎共通科目 国際言語文化系	国際理解		この科目では、グローバル化時代の国際関係や現状認識、そしてグローバル化と日本社会という観点に立って問題意識を見つけ出し、質疑応答を行いつつ、グローバル化時代の理解を深めていくことで、国際情勢や国際的な時事問題に関心を持つ姿勢を育成することを目標とする。	
	国際理解English		This course is about understanding more deeply some basic cultural attitudes and values in various countries including Japan. However, rather than studying intercultural understanding from an abstract and theoretical viewpoint, we will approach it concretely by focusing on three major social issues being faced by many countries and cultures throughout the world: the happiness index, poverty, and education. We will also learn about cultural attitudes in various countries (including Japan) toward these issues and their possible solutions. In addition, we will touch briefly on some other related topics such as relevant SDGs, the social safety net, child labor, the gender gap, attitudes toward LGBTQ, international aid, international volunteering, and social businesses. Through studying common social issues in various cultures, students will develop deeper understanding, empathy, and respect for the cultural values of other countries as well as a more objective understanding and appreciation of their own culture. Lessons will be conducted mainly in English. この科目では、主に英語を使用して、日本を含む様々な国の基本的な文化的態度や価値観をより深く理解することを目的としており、世界の多くの国や文化が直面している3つの大きな社会問題、幸福度指数、貧困、教育に焦点を当て、具体的にアプローチしていく。	
	日本理解		この科目では、日本人などの一般学生と外国人留学生在がいっしょになり異文化と接することによって、日本の社会全般についての様々なテーマをめぐって日本語でディスカッションをしながら、異文化の機微を知ること、異文化に抱く誤解や葛藤を未然に防ぐための国際理解力を身につけ、大学生として、また、卒業後に国際社会において国際人として生活していく上で必要とされるグローバル・コミュニケーション力を養い、学業のみならず就業においても有用となる異文化間交流の能力やその活用能力を身につけることを目標とする。	
	Japan Topics		This single-semester integrated skills course aims to deepen understanding of selected aspects of Japan, with a strong emphasis on developing the skills needed to describe elements of Japanese society and culture accurately and effectively in English to non-Japanese. この科目では、日本についての理解を深めることを目的とした科目で、特に外国人に対して、日本の社会と文化について、正確かつ効果的に英語で説明できる能力を身につけることに重点を置いている。	
	Culture Topics I		Culture Topics courses are single-semester integrated skills courses that aims to deepen cross-cultural awareness and understanding through focusing on a specific country or region where English is either the mother tongue or the primary official language. Culture Topics I covers the North American region (USA and/or Canada). Culture Topics II focuses on the UK, Australia, and/or other English-speaking regions. While primarily taught in English, the learning objectives of these courses prioritize mastery of the content covered. Culture Topics I 及び II は英語を母語とする国や地域に焦点を当て、異文化に対する認識と理解を深めることを目的とした科目である。この科目では、北米地域(アメリカ及びカナダ)に焦点を当てる。講義は主に英語で行われるが、内容の習得を重視する。	
	Culture Topics II		Each of these single-semester integrated skills courses aims to deepen cross-cultural awareness and understanding through focusing on a specific country or region where English is either the mother tongue or the primary official language. Culture Topics I covers the North American region (USA and/or Canada). Culture Topics II focuses on UK, Australia, and/or other English-speaking regions. While primarily taught in English, the learning objectives of these courses prioritize mastery of the content covered. Culture Topics I 及び II は英語を母語とする国や地域に焦点を当て、異文化に対する認識と理解を深めることを目的とした科目である。この科目では、イギリス、オーストラリア、その他の英語圏の地域に焦点を当てる。講義は主に英語で行われるが、内容の習得を重視する。	

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
基礎共通科目 国際言語文化系	English for Science		This course mainly deals with reading comprehension and vocabulary building for understanding science and technology media, but students will also have opportunities to improve their listening comprehension through online video exercises. Various general topics in science and technology will be covered and materials will consist of articles and online videos with task worksheets. この科目では、主に科学技術の文脈における読解と聴解を扱う。またリーディング、ボキャブラリー習得に重点を置くが、オンラインビデオ演習を通してリスニングの理解度を高める機会もある。科学技術に関する様々な一般的トピックを取り上げ、教材は記事とオンラインビデオで構成される。	
	Science Writing		The course will cover basic writing skills including grammar, paragraph structure, and essay structure, as well as some basic genres used in scientific writing such as describing a process, cause and effect, comparison and contrast etc. Students will write several types of paragraphs and an essay about various general topics related to science and technology. Although this is primarily a writing course, some class time will be spent orally sharing research data and presenting our writing to partners and small groups. この科目では、センテンス、パラグラフ、エッセイの各レベルでの基本的なライティングスキル及びプロセスの記述、原因と結果、比較と対象など、科学ライティングで用いられる幾つかの基本ジャンルを学ぶ。また、科学技術に関連する様々な一般的な話題について、数種類の段落とエッセイを書く。主にライティングの講義であるが、研究内容について口頭で共有したり、書いたものをパートナーや小グループに発表したりすることもある。	
スポーツ健康系	スポーツ心理学		スポーツには「見る」「する」「支える」など多様な関わり方があり、いずれの関わりによっても人の心は動くものとされる。この科目では、心理学的観点からスポーツを捉える方法について学ぶ。また、スポーツにおける人の心を記述・予測・説明・制御する知見について学ぶことで、自身のスポーツライフを豊かなものにするを目指す。	
	スポーツ運動学		この科目では、スポーツ運動学の独自性、人間の運動の独自性、動感身体知の体系とその充実についてという三つのテーマについて扱い、「人間が運動を学ぶ営み」の内実をスポーツ運動学（発生運動学/現象学的運動学）の立場から明らかにする。	
	スポーツ文化論		この科目では、人々の生活の中から生み出されアイデンティティを受け継ぐ一担を担っているともいえる「伝統スポーツ」と、我々のスポーツ観に大きく影響を与えている「近代スポーツ」が誕生した過程を学ぶことを通じて、スポーツとは何かを考えていく。	
	スポーツマネジメント		現代におけるスポーツは「見る」「する」「支える」「調べる」というかわりのもとでさまざまな産業の発達に影響を与えてきた。スポーツ産業は経済活動に大きな影響を及ぼしており、スポーツと経済は切っても切り離すことができない状況にあるといえる。この科目では、オリンピックをはじめとしたスポーツマネジメントのかかわりについて様々な角度から学び、自ら「調べる」ことによって、より現状理解を深める。	
	生涯スポーツ論		この科目では、「スポーツは人生を楽しむ手段として有意義なものである」という立場から生涯スポーツに関連する現状および今日的な課題について検討する。講義で紹介するテーマを足掛かりにして、受講生自身が生涯スポーツに関連する今日的課題を発見できることを期待する。	
	スポーツ社会学		スポーツをめぐるさまざまな課題や問題は、それを取り巻くより大きな社会課題や問題を反映している。この科目では、こうしたスポーツと社会に関わる現象についての実態や構造、その現象が起こるメカニズムなどを研究する。また、スポーツ社会学で取り扱われる多様なテーマに沿って、その視点や方法、基礎的な概念、研究知見や事例について概説する。	
	スポーツ医学		この科目では、ヒトの動きのメカニズムとスポーツ医学の基礎を学び、ケガや疾患の対処法を学ぶことで、安全にスポーツ活動を実践するための知識を身につけることを目的とする。スポーツ現場で生じる外傷、障害、疾患の予防法、評価法、治療法を学習し、傷害や内科的疾患に罹患した場合にでも、できるだけ早期にスポーツ現場へ復帰できるよう自分自身で考える力を身につけるようにすることを目的とする。	
	運動生理学		運動が身体にどのような影響を与えるのかといったことを生理学的な立場から学習する運動生理学は、健康のためだけでなく一流のアスリートにとってもトレーニング・プログラムを作成するための重要な学問領域である。この科目では、スポーツ医学やトレーニング科学の基礎学問として、運動と身体への応答について学習していく。	

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
基礎共通科目	健康と生命科学		この科目では、ヒトの生理学・医学的メカニズムを理解するとともに個人の身体的特徴を把握し、自分だけの健康マネジメントプログラムを作成できるようにすることを目的に、私たちの生活の中で、健康を理解するために必要な15のトピックスを厳選し、最新の研究内容も織り交ぜながら講義の中で説明する。	
	スポーツコーチング論		この科目では、目的となるパフォーマンスレベルにアスリートを導く活動に関する理論であるコーチング学について、その知見に基づき、今後、受講生が自身のスポーツ活動ならびに、他者へのスポーツ指導に携わる際に知り得ておくべき最低限の知識について説明していく。 (オムニバス方式/全15回) (47 伊東浩司/9回) 授業の代表教員として授業の目標についてのオリエンテーションと授業のまとめ講評を行う他、コーチング学の対象領域について解説する。また、「試合の計画・準備、試合中の指揮」「トレーニング(パフォーマンス形成)の目標設定と期分け」「トレーニングの期分け(ピリオダイゼーション)」「チームの組織化、選手発掘、スカウティング」「測定スポーツにおけるコーチング」をテーマに講義する。 (16 桂 豊/2回) 「判定スポーツにおけるコーチング」をテーマに、球技を取り上げて講義する。 (79 吉本忠弘/2回) 「評定スポーツにおけるコーチング」をテーマに講義する。 (59 曾我部晋哉/2回) 「判定スポーツにおけるコーチング」をテーマに、武道を取り上げて講義する。	オムニバス
	トレーニング論		この科目では、トレーニングの中でも「体力トレーニング」に焦点をあて、体力トレーニングの原理・原則や各種トレーニングの理論を理解し、スポーツパフォーマンスの向上や、健康および体力増進のためのトレーニング方法について概説する。また、各種体力や運動能力のデータを分析・評価し、授業で解説した内容や方法を基に、トレーニング計画やプログラムを立案し、スポーツ現場の課題解決のためのプロセスを体得する。	
	基礎スポーツ健康科学		この科目では、「コーチング環境の特徴」「スポーツの価値を守るスポーツ権」、「スポーツ事故におけるスポーツ指導者の法的責任」、「体力のトレーニング」、「社会の中のスポーツ 地域におけるスポーツ振興」、「対象に応じたスポーツとの関わり」などのテーマを取り上げ、スポーツ・健康に関する基礎知識を学ぶ。	
	導入共通科目	甲南大学と平生鈺三郎	○	この科目では、甲南大学の母体であった旧制甲南高等学校の創設に尽力した平生鈺三郎の生涯と事業、さらに新制甲南大学をも含めて、甲南を巣立っていった人材に焦点を当て、改めて甲南大学の建学の精神と教育理念、さらには伝統を認識し、甲南大学で学ぶことの意味を考えることを目的とする。 (オムニバス方式/全15回) (12 高 龍秀/9回) 「あなたの「天から与えられた才能」は何ですか」をテーマに講義する 他、授業の代表教員として「甲南大学生として平生鈺三郎から学ぶ」「甲南大学の歴史と文化を知る」「映像で学ぶ甲南大学」「多様性を阻む思い込みを知る」「東京海上時代の平生鈺三郎」をテーマとしたゲストスピーカーによる授業や卒業生を招いた「甲南大学と私」の授業を担当する。 (32 中井伊都子/1回) 「甲南大学で学ぶ」をテーマに講義する。 (12 高 龍秀/1回) 「現代社会と切り結ぶ平生鈺三郎」をテーマに講義する。 (12 高 龍秀/1回) 「平生鈺三郎の社会的偉業の概要と甲南OBからのメッセージ」をテーマに講義する。 (12 高 龍秀/1回) 「平生鈺三郎と政財界」をテーマに講義する。 (222 諸岡知徳/1回) 「平生鈺三郎と新聞事業」をテーマに講義する。 (115 武田佳久/1回) 「平生の考えを共有し、プレゼンテーションする」ことを目的にグループワークを行う。

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
基礎共通科目	導入共通科目	共通基礎演習	○ この演習では、甲南大学の建学の精神や教育理念について認識を深め、“甲南大学での学び”の意義を考え、学生生活を“より良き”ものとし、社会人・成人へつながる生活のスタンスを形成し、自らのキャリア創生（人生のデザイン）に対する認識を醸成していく。プロジェクト型学習の形態をとり、いろいろな学部が、どの学部かを意識せずに一つのテーマに多様にアプローチし、互いにコミュニケーションを図り、自然に多様なものの方を身につけ、日本語力（考える、表現する、聞いて理解する、記憶し考え方を身につける）を大学・社会人レベルにアップしていく機運を次第に作っていくことを目指す。 (12 高 龍秀、24 梅本剛正、31 吉川 歩、61 久保はるか、88 小西幸男、89 野村幸宏、93 山本貴揚、96 篠田有史、103 千葉美保子、113 高砂孝緒、115 武田佳久、116 宮川貴美子、118 山本シャーリ、119 岡村こず恵、117 平井一樹/5回) (共同) 授業の目標を全体で共有した後、ミニプロジェクトを2回大教室で実施する。前半の3回分の授業時間を使って、課題解決に必要な知識や技能を高めるための研修「自己探求」を行い、そこでの気づきを活かして、7回分の授業時間を使って実施する、課題解決のための「プロジェクト学習」に取り組む。この「自己探求」と「プロジェクト学習」では学生は少人数グループに分かれるが、複数の教員が学生を指導する体制を維持して授業を行う。最後の2回の授業では大教室で研究発表会を実施する。	共同
		AI・データサイエンス入門	○ この科目では、はじめに最新のAI・データサイエンスの基礎知識を学び、どのような社会変化が進行中なのか、どのようなことが課題であり、どのような解決がもたらされているかを理解する。そのうえで、コンピュータを使った基礎的な実習に取り組み、データから知見を見いだすための方法の基礎について、体験を通じて学ぶ。さらに、様々なデータを安全に扱うためのセキュリティについて学び、情報を適正に管理するための原則についても学ぶ。最後に、最先端のAI・データサイエンス技術がどのように用いられているか、最新の研究トピックもふくめて学ぶ。 (オムニバス方式/全15回) (64 関 和広/7回) 社会で起きている変化と活用されているデータ、データ・AIの活用領域とそのため技術、データ・AI利用の現場と最新動向をテーマに授業する他、Pythonによるプログラミング、データ活用実践と題して、簡単なプログラミング実習を行い理解を深める。 (96 篠田有史/5回) 表計算ソフトを活用したデータの整理と可視化、データの説明のための統計処理の基本、データの説明のための統計処理の試行、表計算ソフトを活用したデータの説明をテーマに、簡単な統計処理を交えながら解説する。 (31 吉川 歩/3回) 「データ・AIを扱う上での留意事項」、「データを守る上での留意事項」をテーマに講義する。	オムニバス
外国語科目（基礎外国語）	英語（Skill-based）	College English Reading	○ この科目では、英語で書かれた文章を読み、作者の意図を読み取る能力を伸ばすとともに、基本的なパラグラフ・リーディングの技能を身につける。これにより、基礎的英語読解力の向上を目指し、学部専門教育科目を受講するための基礎力と思考力を養うことを目標とする。	
		College English Writing	○ この科目では、英語で書かれた文章の構造について学び、作者の意図を英文で効果的に表現する能力を伸ばすとともに、センテンス・ライティングと基本的なパラグラフ・ライティングの技能を身につける。これにより、基礎的英語文章表現力の向上を目指し、学部専門教育科目を受講するための基礎力と思考力を養うことを目標とする。	
		College English Listening	○ この科目では、学習者の先行知識を生かして実際に話される英語を聞き取り、内容を理解する能力を養う。英語が実際に話されるときに音がどう変化するか学習することを目的とする。	
		College English Speaking	○ この科目では、英語を母語とする教員の指導によるCommunicativeな学習環境の中で、英語を話す能力の伸長を目指す。オーラル・コミュニケーションを基礎とし、相手の意向を理解し、自分の意見を英語で話す実践的な英語運用能力を養うことを目的とする。	

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
外国語科目 (基礎外国語)	College English Topics I	○	この科目では、「数と計算」「図形」「物質の状態」「グラフと関数」「人体」などの理系のトピックについて英語で文献を読み、理解を深める内容言語統合型学習(Content and Language Integrated Learning(CLIL))を行うことで、理系の専門分野において、数式やグラフ・図・表の英語表現などを含む英語の文章の大意を理解する力と、自律的な学習習慣のスキルの獲得を目指す。	
	College English Topics II	○	この科目では、「電気・電子」「熱」「星と惑星」「イオン」「エネルギー」などの理系のトピックについて英語で文献を読み、理解を深める内容言語統合型学習(Content and Language Integrated Learning(CLIL))を行うことで、理系の専門分野において、数式やグラフ・図・表の英語表現などを含む英語の文章の大意を理解する力と、自律的な学習習慣のスキルの獲得を目指す。	
	College English Project I	○	この科目では、理系のトピックについて英語で文献を読み、調査した結果等を意見交換したり、発表したりする内容言語統合型学習(Content and Language Integrated Learning(CLIL))を行うことで、理系の専門分野において、基本的な概念を学び、興味のある内容について比較的平易な英語で口頭発表ができる力と、自律的な学習習慣のスキルの獲得を目指す。	
	College English Project II	○	この科目では、理系のトピックについて英語で文献を読み、調査した結果等を意見交換したり、発表したりする内容言語統合型学習(Content and Language Integrated Learning(CLIL))を行うことで、理系の専門分野において、基本的な概念を学び、興味のある内容について比較的平易な英語で口頭発表ができる力と、自律的な学習習慣のスキルの獲得を目指す。	
ドイツ語	基礎ドイツ語 I	○	ドイツ語を用いて「聞く・読む・話す・書く」の基本的なコミュニケーション能力を養成することを目的とした基礎ドイツ語について、基礎Iではとくに「読む・書く」の基礎を身につけるために文法事項の理解と習得に重点を置くとともに、ドイツ語圏の社会や文化についても学習する。	
	基礎ドイツ語 II	○	ドイツ語を用いて「聞く・読む・話す・書く」の基本的なコミュニケーション能力を養成することを目的とした基礎ドイツ語について、基礎IIではとくに「聞く・話す」の基礎を身につけるために、ペアワークやグループワークも取り入れて口頭練習に重点を置いて授業する。	
フランス語	基礎フランス語 I	○	この科目では、フランス語文法の基礎をゆっくりと学ぶ。発音、文字と綴り字の関係、基本的な文の構造を理解させ、「読む」「書く」面を中心としてフランス語を習得させる。また、正確な(音読)ができるようにすることを目指す。	
	基礎フランス語 II	○	この科目では、フランス語でコミュニケーションするための基礎能力を養う。CDやDVDなどの視聴覚教材も活用し、日常会話の初歩を学ぶ。「聞く」「話す」を中心とした講義ではあるが、基本的な表現は「書く」こともできるように指導する。	
中国語	基礎中国語 I	○	この科目では、中国語の入門科目として、文法事項をできるだけ分かりやすく解説した後で、簡単な中文和訳、和文中訳、中国語の「ピンイン」を漢字に、漢字を「ピンイン」に書き換える練習、中国語の文を作る練習、文法問題の練習をすることで、発音から基礎的な表現、文法、作文を習得し、読解や会話の基礎となる中国語の「読み・書く」能力を養成することを目指す。	
	基礎中国語 II	○	この科目では、日本人学習者にとって難しい中国語の有気音と無気音「-n」と「-ng」、そり舌音、前鼻音と後鼻音、声調(四声)の学習を通じて、中国語を初歩的な「リスニング、スピーキング、パフォーマンス」能力の養成を目指す。	
韓国語	基礎韓国語 I	○	この科目では、読解(読む・書く)を中心とする初修韓国語の学習に欠かせない母音字と子音字の組み立て、文章の構造、用言の活用などの文法事項の理解に重点を置く。辞書の引き方を習得し、単語の学習、初歩的な文章の翻訳、簡単な文章の作文を行う。	
	基礎韓国語 II	○	この科目では、会話(話す・聞く)を中心とする初修韓国語の学習に必要な平音・激音・濃音・鼻音・流音の正確な発音、連音化に伴うさまざまな発音の変化を学習する。正確な発音の習得に基づいて、会話文を習い、初歩的な日常会話の能力を身につけることに重点を置く。	

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
外国語科目 (基礎外国語)	大学日本語入門Ⅰ	○	この科目では、大学での勉学に支障なく参加できることを到達目標とし、大学において外国人学部正規留学生として求められる高度な日本語能力をより向上させるため、アカデミック・レベルの日本語能力の習得と定着に重点を置いて訓練を行う。	
	大学日本語入門Ⅱ	○	この科目では、大学での勉学に支障なく参加できることを到達目標とし、大学において外国人学部正規留学生として求められる高度な日本語能力をより向上させるため、アカデミック・レベルの日本語能力の習得と定着に重点を置いて訓練を行なう。	
保健体育科目	スポーツ健康マネジメント演習Ⅰ	○	この科目では、生涯健康に生きるための理論、評価、実践を学び、自身の身体に向き合うことで心と体の基礎知識を身につける。体力テスト、健康リテラシー講義、対面形式での実技を組み合わせ、総合的な学習を行う。体力テストでは文部科学省推奨の新体力テストを実施し、自己の体力現状を客観的に把握する。健康リテラシー講義では、健康に関する正しい知識を学び、健康や体力向上への意識を高める。さらに、体を動かす楽しさや、スポーツを通じた仲間との協働やコミュニケーション能力を養い、授業を通して、将来的に健康で活力に満ちた生活を送るためのスポーツライフマネジメントを考えることに取り組む。	
	スポーツ健康マネジメント演習Ⅱ	○	この科目では、生涯健康に生きるための理論、評価、実践を学び、自身の身体に向き合うことで心と体の基礎知識を身につける。体力テスト、健康リテラシー講義、対面形式での実技を組み合わせ、総合的な学習を行う。体力テストでは文部科学省推奨の新体力テストを実施し、自己の体力現状を客観的に把握する。健康リテラシー講義では、健康に関する正しい知識を学び、健康や体力向上への意識を高める。さらに、目的別に2種類の領域を設け、その中から一つの領域を選択し半年間実践することで、それぞれの領域の目的を達成する。個別スポーツ教育領域では、選択した専門種目のスキルを更に向上させるための領域とし、選択したスポーツを卒業後も長く継続できる技術を学ぶことで生涯QOLの向上に寄与することを目的とする。総合スポーツ教育領域では、専門的なスキルがなくても、誰もが気軽に身体活動を実施することができるような種目領域とし、さらに積極的に学生同士のコミュニケーションを図れるような機会を創出することで心と体の健康増進に寄与することを目的とする。	
専門教育科目	基礎物理学実験	○	物理学の基礎、すなわち「力学」、「電磁気学」、「原子物理学」、「振動・波動」に関連する11種類の入門的実験を体験し、これらの実験を通して、これまで曖昧であった物理の基本的概念を整理し、この後受講することになる必修講義科目「力学」、「電磁気学」等の基礎科目の理解を図る。 (オムニバス形式/全15回) (4 青木珠緒、5 市田正夫、1 梅津郁朗、2 小堀裕己、9 高吉慎太郎、7 山崎篤志、3 秋宗秀俊、8 井上剛志、212 須佐元、10 田中孝明、268 松田洋平、6 山本常夏、188 長谷川能三/1回) (共同) 本実験のガイダンスを行う。また、各回の紹介を行う。 (2 小堀裕己/1回) レポートの書き方や実験の心得について説明を行う。 (5 市田正夫、1 梅津郁朗、9 高吉慎太郎、3 秋宗秀俊、10 田中孝明、188 長谷川能三/6回) (共同) 各担当者が「重力加速度を測定する」「万有引力を調べる」「電流の作る磁場を調べる」「プランク定数を求める」「超音波で波動現象を調べる」の各テーマの実験を担当する。 (4 青木珠緒、7 山崎篤志、268 松田洋平、6 山本常夏、2 小堀裕己、188 長谷川能三/6回) (共同) 各担当者が「エネルギー保存則を確かめる」「電磁誘導現象を調べる」「電子の比電荷を求める」「光の速度を求める」の各テーマの実験を担当する。また実験ノート・レポートの書き方の指導を行う。 (8 井上剛志、212 須佐元/1回) (共同) 計算物理、シミュレーションについて実習を行う。	オムニバス・共同 (一部)
	物理学実験 1	○	力学、電磁気をはじめとして物理学全般にわたる項目について基礎的な実験を行う。主な実験題目は、ボルダの振り子、波の干渉、等電位線、弦の振動などである。ビデオによる予習を取り入れレポートや報告会を通してプレゼンテーション能力も養う。	共同
	物理学実験 2	○	力学、電磁気をはじめとして物理学全般にわたる項目について基礎的な実験を行う。主な実験題目は物理学実験よりも高度な回折格子、光電効果、電気回路、共振現象等である。一部に指導書のない自分で考える実験も取り入れる。ビデオによる予習を取り入れレポートや報告会を通してプレゼンテーション能力も養う。	共同

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門教育科目 必修科目	物理学実験3	○	物理学実験1、2の基礎的な実験を通して身につけた技術に応用し、物理学の専門的な研究に関連する基本的な5テーマの実験を行う。より発展的な物理の内容を理解し、より高度な実験技術を習得することにより、卒業研究を自ら考えながら進めていくことのできる力を養う。受講者は4グループに分かれ、所属するグループ毎に6回ずつ各テーマを受講し、全30回で5テーマを受講する。 (オムニバス形式/全30回) (4 青木珠緒、7 山崎篤志、3 秋宗秀俊、6 山本常夏/6回) (共同) 各担当者が「半導体と光」「電子物性」「原子核物理」「素粒子の検出」の各テーマの実験を担当する。 (4 青木珠緒、5 市田正夫、3 秋宗秀俊、7 山本常夏/6回) (共同) 各担当者が「半導体と光」「自動制御と自動計測」「原子核物理」「素粒子の検出」の各テーマの実験を担当する。 (1 梅津郁朗、5 市田正夫、7 山崎篤志、7 山本常夏/6回) (共同) 各担当者が「半導体と光」「自動制御と自動計測」「電子物性」「素粒子の検出」の各テーマの実験を担当する。 (1 梅津郁朗、9 高吉慎太郎、2 小堀裕己、3 秋宗秀俊/6回) (共同) 各担当者が「半導体と光」「自動制御と自動計測」「電子物性」「原子核物理」の各テーマの実験を担当する。 (9 高吉慎太郎、2 小堀裕己、3 秋宗秀俊、6 山本常夏/6回) (共同) 各担当者が「自動制御と自動計測」「電子物性」「素粒子の検出」の各テーマの実験を担当する。	オムニバス・共同
	力学Ⅰ		「運動」とは何かについて理解し、力学の基礎である「運動の法則」、「運動量と力積」について学び、「運動とエネルギー」について相互の関係を学ぶ。応用として、「惑星の運動と中心力」について学び、力学の理解を深める。	
	力学Ⅱ		質点系および剛体のような拡がりを持つ系では回転の自由度が加わり、力のモーメントや角運動量および慣性モーメントの概念が重要となる。また、異なる座標系の間の運動方程式の変換を扱い、特に回転系での遠心力やコリオリ力を含む運動について学ぶ。	
	電磁気学Ⅰ		電磁気学Ⅰでは、電磁気学の基礎にあたる静電気学について講義を行い、適宜演習を取り入れながら様々な問題を解く力をつける。電荷によって発生する電場についてガウスの法則や、静電ポテンシャルについて学ぶ。	
	電磁気学Ⅱ		電磁気学Ⅱでは、定常電流と静磁場について講義する。静磁場では静電場で得た法則に似た法則が得られるが、両者には重要な違いがある。即ち、磁場では単独の磁荷が存在せず、したがって磁場に関するガウスの法則からは磁場は発生せず、電場の渦なしの法則は磁場ではアンペールの法則となり、定常電流から静磁場が発生する。このような、電場と磁場の違いと深い関連について理解する。	
	量子論入門		本科目では、量子力学の前段階である前期量子論の黒体放射、光電効果、ボーアモデルを扱ったのちに量子力学の導入を丁寧に行い、1次元の無限井戸型ポテンシャル問題を理解して解くことができるようになることを目標とする。量子力学の理解を助けるとともに、量子力学の知識を必要とする他の専門科目の理解を助けることを目的としており、量子物理学コースの入門科目となっている。	
	天文学入門		天文学に関する最も基礎的な知識を獲得することを目的とする。具体的には太陽系の天体の運動、太陽エネルギー、一般の恒星の性質と進化、銀河系と膨張宇宙論について概要を理解する。本科目では、宇宙物理学コースへの入門科目となっている。	
	物理学卒業研究	○	分属した研究室において、特定のテーマについて教員の指導を受けながら1年間にわたり研究を行い、研究計画の企画・立案、実験装置の設計・製作、試料・文献収集、実験技術の習得、実験データ収集・解析等、研究の進め方を習得しつつ与えられたテーマの解決を図る。	共同

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門教育科目 選択必修科目 A	トピカル・フィジックス		<p>学科基幹教員の専門分野(原子核物理、天体物理、理論天文、X線・ガンマ線天文、エキゾチック核物理、宇宙粒子物理、光物性工学、光・量子エレクトロニクス、半導体工学、スピネレクトロニクス、量子物性理論、量子マテリアル)の最近のトピックスをオムニバス形式で紹介し、物理学の学びの動機づけや3年次からのコース選択の参考とする。</p> <p>(オムニバス形式/全15回)</p> <p>(7 山崎篤志/2回) この講義のガイダンスおよび量子物理工学コースの研究全般についての紹介を行う。</p> <p>(10 田中孝明/1回) 宇宙物理学コースの研究全般についての紹介を行う。</p> <p>(4 青木珠緒/1回) 有機半導体の光励起状態の研究についての紹介を行う。</p> <p>(5 市田正夫/1回) 低次元系における非線形光学応答の研究についての紹介を行う。</p> <p>(1 梅津郁朗/1回) ナノ構造半導体の創成と再生可能エネルギー材料への応用についての紹介を行う。</p> <p>(2 小堀裕己/1回) スピネレクトロニクスに関連した多機能デバイス材料の物性探索について紹介を行う。</p> <p>(9 高吉慎太郎/1回) レーザーによる動的現象・物性制御の理論的研究について紹介を行う。</p> <p>(7 山崎篤志/1回) 新奇量子物質や超伝導体の電子構造と特異物性の起源に関する実験的研究について紹介を行う。</p> <p>(3 秋宗秀俊/1回) 極限状態における原子核の物性について紹介を行う。</p> <p>(8 井上剛志/1回) 星の形成や超新星爆発における粒子加速現象の理論的研究について紹介を行う。</p> <p>(212 須佐元/1回) 初期宇宙での星・銀河の形成の理論的研究について紹介を行う。</p> <p>(10 田中孝明/1回) 天文衛星を使った宇宙の観測について紹介を行う。</p> <p>(268 松田洋平/1回) エキゾチック核の基礎研究と加速器開発について紹介を行う。</p> <p>(6 山本常夏/1回) 宇宙の高精度観測と爆発現象の研究について紹介を行う。</p>	オムニバス
	力学基礎		1年次の後期から始まる必修科目「力学Ⅰ、Ⅱ」に先立ち、それらの準備学習として、高校の学習で不十分な物理量のベクトルとしての数学的取り扱いから始め、電場、電位等の電磁気学における必須の基本概念を学習する。	
	電磁気学基礎		1年次の後期から始まる必修科目「電磁気学Ⅰ、Ⅱ」に先立ち、それらの準備学習として、高校の学習で不十分な物理量のベクトルとしての数学的取り扱いから始め、電場、電位等の電磁気学における必須の基本概念を学習する。	
	振動・波動		振動と波動の現象は力学・電磁気学を初めとする物理学の領域だけでなく、工学などの分野にまで広く関連している。本科目では、振動と波動についての基礎を学び、様々な場面で現れる振動・波動現象についての理解を深め、その後の専門分野への応用につなげていく。	
	微分積分Ⅰ		物理学において、微分積分は最も基本となる数学であり、力学・電磁気学を初めあらゆる物理学の分野で必要であり、微分積分抜きには様々な物理現象を記述することができない。本科目では、微分積分の基礎のうち、一変数関数の微分積分について学習する。	
	微分積分Ⅱ		物理学において、微分積分は最も基本となる数学であり、力学・電磁気学を初めあらゆる物理学の分野で必要であり、微分積分抜きには様々な物理現象を記述することができない。本科目では、微分積分の基礎のうち、多変数関数の微分積分について学習する。	
	線形代数学Ⅰ		物理学において線形代数学は、微分積分に並んで重要な数学である。本科目では、行列の概念を利用した連立一次方程式の解法とその背景にあるベクトル空間の概念について学ぶ。この概念は、特に量子力学などで重要となる。	
	線形代数学Ⅱ		物理学において線形代数学は、微分積分に並んで重要な数学である。本科目では、線形代数学Ⅰに引き続き、行列式の概念とその応用、および正方行列の対角化とその応用について学ぶ。この手法は、特に量子力学などで重要となる。	

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門教育科目 選択必修科目 A	プログラミング・AIのためのIT入門		本科目では、コンピュータを初めて使用する学生に、コンピュータの仕組みやWindowsについての基本的な知識を習得するとともに、科学技術計算の初歩を経験し、プログラミング・AIに関するよりアドバンスなコンピュータ科目を学ぶための基礎固めを行う。	共同
	ベクトル解析		物理学でよく用いられる数学的な道具を体系的に習得することを目標とする。数学的なスキルを身につけることにより、様々な物理現象の理解が容易になる。本科目では、常微分方程式とベクトル解析について学習する。	
	複素関数論		本科目では、物理学で用いる数学である、複素解析とフーリエ解析を扱う。複素解析では、複素数を変数とする関数の微分・積分を学ぶ。フーリエ解析では、関数を様々な周波数の三角関数で展開するフーリエ級数展開とフーリエ変換を学び、これらの手法を応用した、偏微分方程式の解法を学ぶ。	
	解析力学		本科目では、これまでに学んできたニュートン力学をより発展させることで、どのような座標系でも同じ形に運動方程式（ラグランジュ方程式）を書くことができること、運動方程式が最小作用の原理と呼ばれるより高位の自然法則から導かれることの2つのポイントを理解し、解析力学で導入されるハミルトニアンという関数や位相空間という概念や、量子力学や統計力学を学ぶ上で欠くことのできない概念を理解することを目標にする。	
	電磁気学Ⅲ		「電磁気学Ⅲ」では、電場と磁場を統一的に表す電磁場について学ぶ。まず特殊相対性理論を用い、動いている電荷がつくる場を記述することで、電場と磁場が互いに独立でないことを理解する。そして、電磁場を定式化したマクスウェル方程式を理解する。さらに、真空中を光速で伝わる電磁波や物質中の電磁場がどのように記述されるかマクスウェル方程式を用いて学ぶ。	
	熱・統計力学		本科目では、熱力学全般と統計力学の基礎を定量的に扱う手法を学び、その手法を用いて熱現象を巨視的および微視的な観点の双方から理解する。熱力学については、概念の理解も重要であるが、応用範囲が広く、エンジンなどの熱機関、結晶成長、化学反応等の議論に有用である。さらに、環境問題では熱エネルギーの有効利用に熱力学は有用な知見を与える。統計力学については、主にカノニカル集合に焦点をあて、分配関数から自由エネルギーなどの熱力学関数の導出の方法を学ぶ。出来るだけ具体例をあげてイメージしやすいようにする。	
	プログラミング・AI実習Ⅰ		本科目では、Pythonによるプログラミングを学び、物理学の研究が必要となるコンピュータに関する基礎的能力を身につけるとともに、昨今、発展著しい人工知能(AI)技術である機械学習の基礎についても学習する。	共同
選択必修科目 B	統計力学Ⅰ		統計力学では「確率的に一番実現しそうな状態」を計算し、それによって物理系全体の（マクロな）物理量（温度、圧力など）を計算する方法を学ぶ。確率を用いた議論によって物理状態を導き出すので、力学や電磁気学とはかなり異なった新たな考え方を学ぶことになる。本科目では、ミクロカノニカル分布・カノニカル分布・古典近似の方法について理解することを目標とする。	
	統計力学Ⅱ		「統計力学Ⅰ」に引き続き、物質のミクロな構造がマクロな物理量にどのように結びつくかについて学ぶ。特に量子力学的な効果が与える影響について詳しく調べ、具体的な系に適用する。また、相転移現象についての理解も深める。	
	量子力学Ⅰ		古典力学の範囲で説明できなかった物理現象が、どの様な考え方のもとで説明可能となり、それらの解釈がどのように量子力学の確立に繋がったのかを、講義形式で説明し、具体的な計算を体験しながら理解する。また、量子力学がどのような学問であるかという知識だけでなく、より専門的な内容を学ぶ際に自身で「道具として使える」量子力学の習得を目指す。	
	量子力学Ⅱ		水素原子などの中心対称ポテンシャル問題で量子化した角運動量が現れたように、微小な磁性の素であるスピンも角運動量としての性質を持つことを見る。また摂動論を中心とした近似解法や粒子の散乱理論などについても取り扱う。	
	相対性理論		本科目では、相対論の中でも特殊相対性理論について学ぶ。特殊相対性理論の理解が進むにつれて奇妙な現象も「腑に落ちる」ことを目指す。さらに、特殊相対性理論を重力を含むように拡張した一般相対性理論の概要の理解する。	

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門教育科目 B	電気・電子回路		電気回路理論の基礎について、最初に、直流回路におけるオームの法則、キルヒホッフの法則、直流の電力などについて学ぶ。次に、正弦波交流の取り扱いについて説明し、簡単な回路の解析法、回路の諸定理を学ぶ。最後に基本的な電子回路についても学ぶ。	
	特殊関数論		物理学のさまざまな局面に現れる偏微分方程式について、その解法・性質について学ぶ。同時に、そこで現れる特殊関数に関して学ぶ。特に量子力学を中心とする物理学を理解するために必要となる曲座標、円筒座標のもとでの2階偏微分方程式の解法を理解することを目標とする。	
	物性物理学 I		物質が示す諸性質について、力学・電磁気学・量子力学・熱力学・統計力学・物理数学などの知識に基づいて考察する。本科目では、伝導電子の基本的性質、相互作用するフェルミ粒子系、周期構造内の電子、電子の運動と輸送現象を学ぶ。	
	物性物理学 II		物質が示す諸性質について、力学・電磁気学・量子力学・熱力学・統計力学・物理数学などの知識に基づいて考察する。本科目では、結晶と弾性体、弾性波、絶縁体の熱的性質、絶縁体の磁気的性質、超伝導の性質を学ぶ。	
	流体力学 I		弾性体力学および流体力学からなる連続体力学は、宇宙・地球におけるマクロな自然現象を記述する際に頻りに用いられる。本科目では、連続体力学・流体力学の基本概念を理解し、その簡単な応用を習得することを目的とする。	
	流体力学 II		私たちの世界を構成する物質には、固体、液体、気体の三態に加えて、プラズマと呼ばれる電離気体の状態が存在する。本科目では、プラズマの単一荷電粒子の運動から、プラズマの集団的振る舞い、磁化プラズマの流体としての扱いまでの基礎を学ぶ。地球周辺の宇宙空間で発生する関連現象の紹介を交えながら、具体的な現象と関連づけた理解を深めていく。	
	プログラミング・AI実習 II		機械学習は自然科学分野でなくてはならないツールになっている。本科目では、プログラミング・AI実習 I に引き続き、機械学習や自然科学分野の研究で用いられる数学とデータ解析の基礎的な手法について学習する。	共同
	英語で学ぶ物理学		物理学において英語の能力は国際会議での発表や論文執筆などにおいて重要である。この授業では「英語を学ぶ」のではなく「英語で学ぶ」ことを通じて、理工系のスキルとして必須である英語の能力を向上させるとともに、物理の授業を英語で受けることにより、海外留学への準備も行う。	
	科学英語		本科目では、理工系専攻の学生が取り組みやすい教材を用いて、専門分野の基礎語彙、聴き取り、読解、プレゼンテーション、討論などの基礎能力を伸ばす。専門分野において英語で発信する効果的なプレゼンテーションツールの作成法についても概略し、学生が実践発表を行う。	
コース別科目 C 1	素粒子物理学		自然界にある全ての物質は基本的粒子である素粒子によって構成されている。素粒子物理学はこれらの素粒子の基本的な性質を明らかにし、物質とは何であるか、また宇宙はどのようにして始まったのかなどを解明する先端の学問である。本科目では、素粒子の理論と実験の基礎的な問題を取りあげ、その全体像を把握できるようにする。また、最先端の研究にも触れることにより、興味を喚起する。	隔年
	原子核物理学		「原子核物理学」では、陽子と中性子を構成要素とする有限量子多体系の基本的な描像について学習する。講義の前半では、原子核が見せる多様な側面を説明するために作られてきた模型について学ぶ。後半では、原子核と粒子が衝突して起こる様々な反応を説明するために作られてきた模型について学ぶ。	隔年
	天文学概論		本科目では、まず光度や光のスペクトル、また天体までの距離の測定法といった天文学を学ぶ上で必要不可欠となる基礎を学ぶ。さらに、宇宙の中で星がどのようにして生まれるのかについて、天体の動的な性質を記述する宇宙流体力学の基礎とともに学んでいく。	隔年

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門教育科目	宇宙物理学		現在の宇宙物理学の基礎となる事項についてその概要を学ぶ。まずビッグバン宇宙論の枠組み、宇宙の歴史と宇宙の構造の大きな形成について学び、次いで銀河の形成、星の構造の理論について学ぶ。さらに、ブラックホールや白色矮星といった極限的な天体についても学ぶ。	隔年
	量子線計測学		量子線（放射線、高いエネルギーをもった粒子）の計測は、原子核物理学、高エネルギー物理学の研究にとどまらず、環境、医療など幅広い分野で用いられる技術である。本科目では、量子線の計測に用いられる測定器の動作原理、特徴、用途を解説する。また、実験により得られた量子化された実験データの物理学的、統計的な解釈についても考察する。	隔年
	宇宙理学リサーチ	○	物理学卒業研究の準備のための講義科目である。各研究室に所属し、各研究室でどのような研究がなされているのか理解する。その上で、4年次での物理学卒業研究を履修する際にどのような研究テーマを選ぶかを考え、そのためにはどのような知識や技術が必要かを理解して身につける。	共同
少人数・参加型科目	数学演習 I a		数学は物理学を理解する上で欠かせないツールであり、大学での物理学の学びには必要不可欠である。本科目では、大学で物理を理解する上で必要となる基礎的な数学力や計算力を具体的な物理の問題演習を通じて身につける。	共同
	数学演習 I b		数学は物理学を理解する上で欠かせないツールであり、大学での物理学の学びには必要不可欠である。本科目では、大学で物理を理解する上で必要となる基礎的な数学力や計算力を具体的な物理の問題演習を通じて身につける。	共同
	力学・電磁気学演習 I		必修科目である力学 I、電磁気学 I を理解する上で必要な数学的知識と計算力を実際に演習問題を解くことにより身につける。特に力学 I と電磁気学 I の授業で現れる微分積分および微分方程式やベクトルおよびベクトル解析などの力をつける。 (オムニバス形式/全15回) (2 小堀裕己/7回) 力学 I の授業の進度に合わせた演習を行う。 (7 山崎篤志/7回) 電磁気学 I の授業の進度に合わせた演習を行う。 (2 小堀裕己、7 山崎篤志/1回) (共同) 理解度の確認を行う。	オムニバス・共同 (一部)
	力学・電磁気学演習 II		必修科目である力学 II、電磁気学 II を理解する上で必要な数学的知識と計算力を実際に演習問題を解くことにより身につける。特に力学 II と電磁気学 II の授業で現れる微分積分および微分方程式やベクトルおよびベクトル解析などの力をつける。 (オムニバス形式/全15回) (6 山本常夏/7回) 力学 II の授業の進度に合わせた演習を行う。 (5 市田正夫/7回) 電磁気学 II の授業の進度に合わせた演習を行う。 (6 山本常夏、5 市田正夫/1回) (共同) 理解度の確認を行う。	オムニバス・共同 (一部)
	ワークショップ II a		これまでに受講した講義科目（力学、電磁気学、数学関連の科目）の基礎学力を強化する。物理を理解する上で必要な知識と計算力を、実際に演習問題を解くことにより身につける。各自の理解度に応じて基礎から進んだ内容まで学習する。	共同
	ワークショップ II b		これまでに受講した講義科目（力学、電磁気学、数学関連の科目）の基礎学力を強化する。物理を理解する上で必要な知識と計算力を、実際に演習問題を解くことにより身につける。各自の理解度に応じて基礎から進んだ内容まで学習する。	共同
	ワークショップ III a		これまでに受講した講義科目（力学、電磁気学、統計力学、量子力学、数学関連の科目）の基礎学力を強化する。物理を理解する上で必要な知識と計算力を実際に演習問題を解くことにより身につける。各自の理解度に応じて基礎から進んだ内容まで学習する。	共同
	ワークショップ III b		これまでに受講した講義科目（力学、電磁気学、統計力学、量子力学、数学関連の科目）の基礎学力を強化する。物理を理解する上で必要な知識と計算力を、実際に演習問題を解くことにより身につける。各自の理解度に応じて基礎から進んだ内容まで学習する。	共同

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門教育科目 少人数・参加型科目	ワークショップIVa		これまでに受講した講義科目（力学、電磁気学、統計力学、量子力学、数学関連の科目）の基礎学力を強化する。物理を理解する上で必要な知識と計算力を実際に演習問題を解くことにより身につける。各自の理解度に応じて基礎から進んだ内容まで学習する。	共同
	ワークショップIVb		これまでに受講した講義科目（力学、電磁気学、統計力学、量子力学、数学関連の科目）の基礎学力を強化する。物理を理解する上で必要な知識と計算力を 実際に演習問題を解くことにより身につける。各自の理解度に応じて基礎から進んだ内容まで学習する。	共同
	天体観測ワークショップ		本科目では、観測天文学を实践を通して学ぶ。まず大学において事前講義・学習を行い、観測天文学とは何たるかを学び、観測テーマさらにそのテーマを調べるにあたって最適な観測天体を学生自身が選択し、観測計画を立案し観測準備を行う。その後、天体観測所に数日間滞在し、実際に望遠鏡を動かして、天体観測、さらに得られた観測データの解析に基づき、その結果の解釈を行い、報告書を完成させる。以上の過程を通して天文学・宇宙物理学における観測的研究を体験し、観測計画立案から観測データ取得、解析、さらには結果の解釈という一貫した観測天文学を学ぶ。	共同
	プログラミング・AI実践		本科目では、さまざまな物理現象を題材として取り上げ、その方程式をコンピューターを使って数値的に解き、可視化する。またAIを用いたデータ解析の実践的な演習を行う。その過程で物理現象を感覚的に理解するとともに、数値解析の手法・アルゴリズムについても学び、より進んだ勉強、研究のための糧を得る。	共同
選択科目	電子物性工学		電子物性は物性物理学を形成する重要な分野のひとつである。本科目では、電子物性の中でも、特に、超伝導と超流動、磁気的性質、誘電的性質に焦点をあて、その現象と物理的機構についてできるだけわかりやすく説明する。	隔年
	光・量子エレクトロニクス		本科目では、光そのものの性質に始まり、光と物質との相互作用、レーザーの基礎、光の検出法や光の強度・偏光・波長の制御方法などについて学ぶ。さらに、これらを応用した測定技術や身の回りの機器についての理解を深める。	隔年
	量子情報工学		本科目では、そもそも情報とは何かということから始めて、情報の単位であるビットが古典と量子の場合でどのような違いが生じるのかを議論し、量子的なビットを用いて演算を行う方法や、それを実際にどのような物理系に実装すればよいのかについて学ぶ。	隔年
	光物性工学		本科目では、物質を構成する原子・分子のスペクトルから導入し、固体中の不純物のスペクトル、固体のスペクトルを取り上げる。物質内の電子は特有のエネルギー準位を持つが、これがどのようなしくみで決まっているか、その結果スペクトルがどのような特徴を表すかを解説する。これらを基礎として光通信、発光ダイオード、太陽電池等の設計への応用に関しての実践的な講義も行う。 (4 青木珠緒/14回) 原子から始まり分子、固体について、物質中の電子のエネルギー準位、および、その光学スペクトルの特徴について講義する。 (4 青木珠緒、179 石橋明彦/1回) (共同) 半導体レーザー、LEDなど光デバイスの基礎から応用までのレビューを開発者の視点から講義する。	隔年、共同（一部）
	半導体デバイス		半導体デバイスとは半導体を用いた電子素子のことであり、パソコンの中核的な部品として使用されているだけでなく、太陽電池、発光ダイオード、各種センサーとして広い分野で使用されている。本科目では、実際の半導体デバイスを題材としその構造と動作原理を物理学的な立場から解説する。半導体を例にとって現代物理学を学ぶのが大きな目的である。 (1 梅津郁朗/14回) 半導体デバイスの構造と動作原理を物理学的な立場から解説する (1 梅津郁朗、155 藤原伸夫/1回) (共同) 半導体デバイスの最先端の製造過程を解説する。	隔年、共同（一部）
	確率統計学 I		今後学ぶ専門科目や卒業研究において必要となる確率統計の基本について、確率の基礎概念や確率変数、代表的な分布を理解し、確率変数の和や積の平均と分散を学習する。実験によって収集したデータから何らかの結論を導出する際に用いられる統計処理について、その基礎を理解し、実行方法を習得することを目指す。	

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門教育科目 選択科目	確率統計学Ⅱ		今後学ぶ専門科目や卒業研究において必要となる確率統計の基本について、1次元と多次元のデータ処理を通してデータの分析手法を理解し、統計的推測(推定・検定)を学習する。実験によって収集したデータから何らかの結論を導出する際に用いられる統計処理について、その基礎を理解し、実行方法を習得することを旨とする。	
	解析学Ⅰ		本科目では、解析学の基礎として実数の基本性質、極限の概念、連続関数などについて再確認し、それを踏まえ、1変数関数の微分および積分を学習する。厳密な定義や定理の証明を理解することを重要な目的とし、理論を中心として再構築を行う。そして、自明と認めてきたことや形式的な証明に止まっていた性質等に対して「なぜ」を追求し、その問いかけに対し、確証を持って説明できる力を着実に身につけることを旨とする。	
	解析学Ⅱ		本科目では、これまでに学習してきた微分積分の応用として、微分方程式の解法と現実問題への応用・関連を学習する。単に数学的に微分方程式が解けるようになるだけでなく、実際の現象との関連付け、求めた解の持つ意味を説明できるようになることを目指し、解法と実際の実験を行き来し、両方の理解を深める。また、微分方程式を用いた数理モデルの手法についても学ぶ。	
	コンピュータサイエンス		コンピュータは様々な理論や技術の集積で構成されている。これらの個々の知識の詳細は今後専門分野を学習することで習得することとなるが、本科目では、それぞれの項目について深く学ぶのではなく、これらの「情報」がどのように表現され、蓄積され、通信されているのかの基礎について示すことを目的とする。	
	地学通論Ⅰ		本科目では、宇宙と地球の構造や進化について学び、地学分野の研究対象や方法を理解することを目指す。講義形式を主とするが、標本セットなどを用いた岩石・鉱物の事象を観察する実習や、火山活動や天体の運動を動画で観察する活動を中心とする回もある。授業構成を「宇宙の構造と進化」、「地球の構成」、「地殻の構成」の三部に分け、宇宙の階層構造や地球の形、大気と海洋の大循環、鉱物の分類、火山活動などを扱う。	
	地学通論Ⅱ		本科目では、宇宙と地球の構造や進化について学び、地学分野の研究対象や方法を理解することを目指す。講義形式を主とするが、標本セットなどを用いた岩石・鉱物の事象を観察する実習や、火山活動や天体の運動を動画で観察する活動を中心とする回もある。授業構成を「プレートテクトニクス」、「地球と日本列島の歴史」、「恒星の種類と進化」の三部に分け、大陸移動説や海洋底拡大説、プレート境界の種類とその影響、火成活動や変成作用、日本列島の形成過程、恒星の光度や進化について学ぶ。	
	化学通論Ⅰ		物理化学、無機化学、核化学、有機化学、生化学等の化学全般の内容を解説し、様々な「物質」の分子レベルでの解釈と、私たちが観察する巨視的レベルでの性質を結び付け、現代化学の発展と現代生活との関わりについて考究する。そして、物理学や医学・生命科学との関わり合いに化学が必要であり、化学の理論と手法が自然現象の解明に有用であることをともに考究する。 化学史にはじまり、科学的測定、元素・化合物・周期表、モルと化学量論、水溶液における反応、酸化還元反応、エネルギーと化学変化といったテーマを通じて、化学の理論と手法を用い、物質のふるまいの解明のためのプロセスをマスターすることを目指す。	
	化学通論Ⅱ		物理化学、無機化学、核化学、有機化学、生化学等の化学全般の内容を解説し、様々な「物質」の分子レベルでの解釈と、私たちが観察する巨視的レベルでの性質を結び付け、現代化学の発展と現代生活との関わりについて考究する。そして、物理学や医学・生命科学との関わり合いに化学が必要であり、化学の理論と手法が自然現象の解明に有用であることをともに考究する。 化学結合の基礎、気体の性質、分子間力・液体の性質、溶液の物理的性質、化学平衡、水溶液における酸塩基平衡、有機化合物・ポリマー・生体物質といったテーマを通じて、化学の理論と手法を用い、物質のふるまいの解明のためのプロセスをマスターすることを目指す。	
	生物学通論Ⅰ		地球上の生物はすべて核酸を遺伝子として受けつぎながら、そこから必要な遺伝情報を取り出して核酸、タンパク質、炭水化物、脂質などのさまざまな機能分子を合成し、これらを巧妙に制御することで生命を維持し、増殖・進化してきた。すべての生命活動は細胞を単位として行われており、また一部の生物群は多細胞体制を進化させ組織分化を行うことで、1つの細胞では不可能な多様な機能を実現してきた。本科目では、これらの、生物に共通する生命の基本的な仕組みを学ぶ。 (オムニバス方式/全15回) (288 樋口里樹/8回) 細胞の形態や機能について解説する。 (287 樋口真之輔/7回) 生物の多様性と進化について解説する。	オムニバス

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門教育科目	生物学通論Ⅱ		生物学と医学におけるヒトやマウスの遺伝学を中心に扱う。本科目では、毎回テーマを決めて生物学の基礎から応用としての医学、工学、社会学等の分野までの幅広い話題を提供し、特に専門外の人々にとって意外に感じられるようなテーマを解説する。各講義のテーマとして、生物学と医学の基礎から始まり、生命の起源、遺伝子の役割、進化のプロセス、放射線の影響までを幅広く探求し、科学と社会の関わりを深く理解するための知識を提供する。	
	地学実験		宇宙科学・天文学、大気圏の科学、固体地球物理学、地質学・古生物学など、地学分野全般にわたる実験・観測とそのデータ処理方法を習得する。授業においては、観察・実験の概念と基礎的操の解説、レポート作成の指導は一斉授業で実施する（前期14回、後期9回）。この他に、地質野外実習（前期4回、後期4回）、地質学の応用的実習（前期2回）、天体観測（前期2回）、気象観察（後期3回）を一斉授業で実施する。また、観察・実験、観測は3グループに分割し実施する（前期12回、後期18回）。さらに、大学施設を使用し宿泊を伴う2日間の実習（地質野外実習、天体観測実習）を、集中講義（前期8回分、後期8回分）で実施する。 （オムニバス方式／全76回） （90 小荒井千人／2回）※一斉授業 地学分野の観察・実験の特性を含め、地質調査の必要性と求められる基礎的知識を解説する。 （90 小荒井千人／6回）※一斉授業 岩石（火成岩、堆積岩）の成因などの解説、標本を用いた観察方法と分類方法を修得する。 （90 小荒井千人／4回） 天体観測に用いる時間の概念の解説、観測方法と用いる機器の特性と取り扱い方を教室内で実機を用いて修得する。 （90 小荒井千人、156 松本邦勝／13回）（共同）※一斉授業 自身の観察・観測で得たデータを用いて、地質調査、天体観測のデータ整理と分析方法を実践的に修得し、レポートを作成する。 （90 小荒井千人／2回） 地質学の応用的実習として立体地質図模型を作成する。 （90 小荒井千人、156 松本邦勝／3回）（共同） 気象観測用ゾンデを用いて低層大気を観測し、大気の動きを解析する。 （90 小荒井千人、156 松本邦勝、164 三木雅子／30回）（共同） 3グループに分割し、地磁気の測定と観測データを用いた解析方法の修得、天気図の作成と読み取り方の修得及び数値予報の実践、火成岩の薄片標本作製と観察、同定方法の修得、化石標本を用いた各個古生態の考察、赤道儀を用いた太陽観察、回転水槽を用いた低気圧発生メカニズムの理解について修得する。 （90 小荒井千人、156 松本邦勝／14回）（共同）※集中講義 大学宿泊施設（白川台キャンパス）周辺に分布する地層を用いて事前の授業で学んだ手法を用いて地質調査の方法を実践的に学修する（前期）。そして、修得した地質調査の手法を用いて再度調査し、同地域の古環境を復元し地史の考察を試みる（後期）。 （90 小荒井千人、156松本邦勝、164 三木雅子／2回）（共同）※集中講義 大学宿泊施設（白川台キャンパス）の天体観測に良好な環境を活かし、事前の授業で学んだ天体観測法を用いて天体観測の手法を実践的に学修する。	オムニバス・共同 （一部）
	基礎化学実験		化学実験において、物質の定性と定量は基礎中の基礎であり、その理論の正しい理解と実験操作の意義、正確な実験技術の習得はどのような分野の化学実験を行う場合でも必須となる。本実験科目では、無機定性分析および酸塩基反応、沈殿生成反応、錯体生成反応などを用いる容量分析の各実験を行う。これにより、無機定性反応と溶液内化学平衡を理解するとともに、実験器具と薬品の取扱い、および化学実験の基本的な操作と技術を習得する。また実験ノートへの書き方、レポートの書き方などについても学ぶ。	共同

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門教育科目 選択科目	基礎生物学実験		<p>本実験科目では、高等学校時代に生物に接する機会の少ない現状のもと、初めて生物学を学ぼうとする人々にとって、「自然から学ぶ」姿勢を養う目的で実験を設定している。はじめに、ミクロとマクロの形態観察を中心とした実験を行い、次いで、生理的また生化学的手法による生体反応や生体成分の実験を行う。生体の基本構造の観察、理解に始まって、その機能的な面まで、系統的に理解し、専門的な段階に移行する基礎段階として位置付け、各回の実験を通じて生体の基本構造や機能の理解を深める。</p> <p>(オムニバス方式/全45回)</p> <p>(40 向 正則/3回) 顕微鏡の取り扱い方に関する講義を行う。 (36 本多大輔/3回) 淡水産プランクトンの観察を行う。 (26 今井博之/3回) 生物学で使用するガラス器具の取扱いについての説明を行う。 (71 武田鋼二郎/3回) 様々な微生物の観察を行う。 (63 上田晴子/3回) 植物組織の観察を行う。 (68 渡辺洋平/3回) 酵素の活性についての実験を行う。 (75 久原 篤、257 太田 茜/3回) (共同) 土壌生物の観察を行う。 (40 向 正則/3回) ショウジョウバエの観察を行う。 (99 後藤彩子/3回) アリの観察を行う。 (35 日下部岳広/3回) ホヤの観察を行う。 (288 樋口里樹/12回) シロアリ腸内寄生生物、ゾウリムシ、ユープロテス、動物組織の観察を行う。 (40 向 正則/3回) まとめ</p>	オムニバス・共同 (一部)
	博物館資料論		博物館活動の根幹の一つである、資料の収集・整理と整理の実際、資料の活用のある方などを学び、その基礎知識と技術の習得を図ることを目的とする。具体的には週間講義(学内)と博物館・美術館(学外)での現地講義を行う。	共同
	博物館情報・メディア論		博物館運営と情報・メディアとの関わり、その意義を理解する。収集・管理・研究・展示・広報等、博物館の各運営業務における情報とは何か、そしてメディアが果たす役割や可能性、そして課題について学び考察する。VRやAR等、メディアの発展に伴って、今日の博物館を取り巻く環境は急速に変化しつつあり、そのような動向を捉え、自分なりのメディアリテラシーを身につけ、思考・活用するための基礎的な能力を養う。	共同

(注)

- 開設する授業科目の数に応じ、適宜枠の数を増やして記入すること。
- 専門職大学等又は専門職学科を設ける大学若しくは短期大学の授業科目であって同時に授業を行う学生数が40人を超えることを想定するものについては、その旨及び当該想定する学生数を「備考」の欄に記入すること。
- 私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくはは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。
- 「主要授業科目」の欄は、授業科目が主要授業科目に該当する場合、欄に「○」を記入すること。なお、高等専門学校の学科を設置する場合は、「主要授業科目」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 高等専門学校の学科を設置する場合は、高等専門学校設置基準第17条第4項の規定により計算することのできる授業科目については、備考欄に「☆」を記入すること。

授 業 科 目 の 概 要				
(理工学部宇宙理学・量子物理工学科 量子物理工学コース)				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
基礎共通科目（人文科学系） A群 リベラルアーツ	哲学		この科目では、「哲学」という学問の入門的な講義を行う。哲学の代表的トピックのひとつである「自由意志」をテーマとし、デカルト、ホブズ、スピノザ、ライブニッツ、ヒューム、カント、ベルクソン、サルトル、ストローソンなど、自由意志を論じた（近世以降の）代表的な哲学者の立場を見ていくことにより、テーマに関する理解を深める。この科目を通じ、過去および現在の哲学者たちが何を考えそして何を悩んできたのかを知ることができると同時に、先の見えない将来を主体的に生き抜くための「思考力」を養う。	
	倫理学		この科目では、倫理学の基本的な考え方を学んだ上で、より具体的かつ現実に即した問題として、安楽死・尊厳死、脳死・臓器移植、生殖補助医療といった生命・医療倫理学上の諸問題、世界の貧困、公衆衛生、気候変動、生物多様性といった地球規模の倫理的諸問題、および情報倫理や報道倫理といった現代の社会で考えるべき倫理的諸問題について学習する。	
	心理学		この科目では、われわれ人間の心の働きや行動について科学的に理解し、自分自身と他者についての理解を深める学問である心理学に関して、心の働きを支える生理的基盤はどのようなものか、私たちは世界をどのように知覚し、どのように新しい行動を獲得し、その行動を持続させていくのか、また感情を感じることが心身にどのような影響をもたらすかについて学ぶ。	
	歴史学		この科目では、11世紀を中心に、平安京を舞台とした貴族や庶民の生活（都市衛生、トイレ事情、貴族邸宅と庶民住居など）や、当該期の社会状況（疫病、祭礼、賭博など）について、貴族が書き残した日記などの文字史料や絵巻物などの絵画資料を用いて、できるだけ具体的に時代像を描く。	
	文学		この科目では、イギリスおよびアメリカを中心とした文学作品を取り上げる。さまざまな文学作品を味わい、その作品を通して自分の生き方、考え方、愛について考えることで、自分の生活を豊かにすることができるようになることを目標とする。 (オムニバス方式/全15回) (51 岩井 学/5回) アメリカの文学思潮についてダイジェストで解説を行い、文学を「読む」ことを実践し、ミニレポートの講評を行う。 (109 大谷祐二/5回) ウォルト・ホイットマン、エミリー・ディキンソン、ラングストン・ヒューズ等を取り上げて解説していく。 (70 杉浦裕子/5回) 『ジェイン・エア』、『オリヴァー・ツイスト』、『人間とは何か』等を取り上げて、文化背景を織り交ぜながら解説していく。	オムニバス
	哲学プラクティス		この科目では、哲学の歴史や知識を学ぶのではなく、自分自身で且つ他人とともに哲学することを目指すため、哲学とは何か、その歴史はどのようなものかといった講義形式はとらず、自分自身に向き合い、他者の声に耳を傾ける姿勢や態度をもち、様々な課題や対話に取り組みながら、自己と他者に向き合い気づきを得ることを目的とする。	
	女性学		この科目では、働き方や子育てなどのケアへの関わり方、スポーツや恋愛、飲み会、就職活動の経験などのキーワードから、性別の違いにより身近で起こっている社会問題を「じぶんごと」として捉え、ジェンダー視点から批判的に考えていく。その際、女性学はもちろん、男性学も取り上げ、両性の立場から考えられるよう問題提起する。	
	現代の芸術		この科目では、美術館や文化施設が密集する全国でも有数のエリアである阪神間の美術館で見る事ができる現代アートを主に取り上げ、地域の芸術文化への理解を深める。また国際美術展や地域の芸術祭などの動向もあわせて紹介することで、今日の芸術のあり方を学び、各自がアート作品を主体的に見る力を養う。	
	宗教学		この科目では、キリスト教や仏教など、諸宗教にかんする宗教学の基礎知識を学習することにより、現代社会や人間への視座を広げる。ヨーロッパ思想の源流の一つであるキリスト教の思想や文化への理解を宗教「学」ないしは宗教「哲学」という観点から深める。身体に注目することにより、身をもって聖書を読むことに挑戦する。日本語で宗教学を学ぶことを通じて、日本文化への自覚や反省を深める。	

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
基礎共通科目（人文科学系）	B群 人間を学ぶ	生態人類学	この科目では、人が自然とどのように付き合ってきたのかを知る学問である生態人類学に関して、その歴史、人類が行ってきた狩猟採集、牧畜、農耕など生業活動や環境への適応などの基礎知識をつけた後、人と自然環境の関係やそこで起る私たちの生活により身近な問題や葛藤について考える。	
	環境と文学		この科目では、環境にかかわるさまざまな分野の文章やそれに付随する歴史的事実を学び、環境問題への意識や価値観を、共有し、正確に学ぶことを通じて、近頃のフェイクニュースや偏見などに惑わされない知見の基盤を作る。また、グループワークや発表を通じて自ら発言し行動する人材となるための体験を積んでいく。	
	芸術と社会		この科目では、企業と文化施設、アーティストランの組織と行政の文化施策、そして芸術とコミュニティについて、できるだけ具体的に紹介し、学生の生活と芸術の関係を考える機会とするとともに、芸術家や芸術とコミュニティの関わりについて自分の視点を形成することを目指す。	
	生命と倫理		この科目では、医療や生命科学をめぐる急速な技術の発展により生じる、生命をめぐる倫理的諸問題について概観し、応用倫理学の一分野としての生命倫理学ではどのような筋道・発想で考えてきたかをみることを通じて、生命と倫理とが交差する領域について考察する。	
	人権（同和）の問題		この科目では、これから社会人になるにあたって必要な人権感覚や人権問題について知り、解決へ向けて展望を持てるようになるため、社会の具体的な人権問題を知る。そして教育との関連の中でどのようにその問題に向き合い、解決を図るかについて、自分で考えることができるようになる。	
	感情・人格心理学		この科目ではまず、感情に関する理論及び感情喚起の機序について、感情が行動に及ぼす影響という観点から解説する。次に、人格の概念及び形成過程について基本的な理論を説明した後、人格の類型や特性等の考え方について解説する。また、感情が行動や適応に及ぼす影響、人格が対人関係や適応・健康に及ぼす影響について、最新の知見を含めて紹介する。	
	DE&I入門		この科目では、ダイバーシティ（多様性）、エクイティ（公正）&インクルージョン（包摂）（以下、DE&Iと記す）について、多様な観点から学ぶことによって、多様化する現代社会で共生する知恵を学ぶ。本学の建学の精神・教育理念である「個性の尊重」や「共働互助」を、これからの社会でどう実現できるかについて受講者が深く考え理解を高めることを目的とする。 (オムニバス方式/全15回) (74 阿部真大/2回) 授業の中心メンバーとして講義全体の目標について説明を行うとともに、居場所づくりをテーマに講義する。 (45 北川 恵/2回) 育ちのなかのDE&Iをテーマに講義するとともに、授業の中心メンバーとして講義全体の総括を行う。 (80 笹倉香奈/3回) 犯罪・えん罪と社会的弱者、グローバル化とDE&I、DE&Iに関して学生ができることをテーマに講義する。 (104 関めぐみ/2回) 性的マイノリティと人権、スポーツとジェンダーをテーマに講義する。 (39 中里英樹/1回) 家族とジェンダーをテーマに講義する。 (52 奥野明子/1回) 労働とジェンダーをテーマに講義する。 (83 大西彩子/1回) 学校と職場のいじめ問題をテーマに講義する。 (54 石川路子/1回) 障がい者と働き方をテーマに講義する。 (45 北川 恵/1回) グローバル化と在日外国人をテーマに講義する。 (65 中町信孝/1回) イスラームと共生をテーマに講義する。	オムニバス

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
基礎共通科目（人文科学系） C群 文化を学ぶ	ことばと社会		ことばというものは我々にとっては当たり前の、固定された「ツール」のようなものと考えられがちであるが、一方で時代とともに変遷し、また同時代的にもさまざまな影響力を持つ「生き物」のように捉えられることもある。この科目では、ことばが変遷したり、あるいは社会現象を形作ったりするという事実の背後にどのような人文科学的な営みがあるのか、特に国際的な標準言語と考えられている英語に焦点を当てて紹介する。 (オムニバス方式/全15回) (41 中谷健太郎/5回) ことばの変遷～過去の再構築から方言までをテーマに解説を行い、確認テストを通じて授業の理解度を深める。 (44 MARTIN Andrew Thomas/5回) 社会階層やジェンダー年齢といった社会的な要素の言語への影響をテーマに解説を行い、確認テストを通じて授業の理解度を深める。 (110 上林朋広/5回) 複数のことば～植民地主義がつくり出す多言語状況を考えるをテーマに解説を行い、確認テストを通じて授業の理解度を深める。	オムニバス
	コミュニケーション論		この科目では、「社会学」の視点に基づいて、コミュニケーションの前提となる「自己」と「他者」に関する知見を学び、それらが織り成す「コミュニケーションの複雑さ」について理解・分析できる素養を身につけることを目標とする。	
	イメージと文化		この科目では、私たちの身近にあふれるイメージ＝映像文化について理解を深めるため、①映像の原点・原理 ②映像と表現の方法 ③映像と社会の3点を軸にし、歴史的視点を土台として多数の実例（視聴覚資料）を紹介しながら、映像文化の諸相を検討していく。また、専門を問わず様々な学問に取り組み上で基礎となる知識と思考法を提示する。	
	日本語の諸相		この科目では、日本語の音声・文字表記・語彙・意味・文法・方言・表現に関する話題をもとに、「日本語という言語」のさまざまな姿について解説し、現在から近い将来に向けて「日本語」が直面している（しかし、日本人は意識していない）課題について考える。	
	比較文化		この科目では、明治時代の小泉八雲（ラファディオ・ハーン）が記した『日本の面影』という作品を読んでいく。この作品を通して、小泉八雲が日本文化や、それと対峙（あいたい）する文化をどのように捉えていたか、同時代の資料を基に考えていく。	
	芸術学基礎論		この科目では、美術館や展覧会に関心がある方、あるいは美学や美術史を学びたい方のための芸術に対する基礎的な知識を得るための授業である。芸術家の具体的な制作プロセスや展覧会の歴史・変遷を通して、美術を楽しむ・作品を味わうための眼差しや知識について学び、作家・作品・鑑賞者との関わりについての理解を深める。	
	現代思想		この科目では、フランス・フェミニスト哲学入門である。「女性」が「人間＝男性」に対する「他者」として劣位に位置付けられてきたという伝統的な西洋哲学を踏まえ、20世紀半ばから現代フランスにおいて、性差に基づいた社会的な抑圧構造に、思想および実践の両面からどのような批判的考察が加えられたのかを辿る。	
	近現代の文学		この科目では、宮沢賢治の文学を中心に取り上げ、食べて生きるとはどのようなことか、宇宙や自然と人間はどのように関わり合えばいいのか、本当の幸せとは何か等について考えていく。また、賢治の童話が生まれてくるまでの、明治から大正にかけての童話ジャンルの形成についてもふれる。さらに賢治の文学が、現代のアニメーション文化などにも大きな影響を与えていることについても学ぶ。	
	日本研究		日本の古典文学の中には、異能、異形、異類、異界（異郷）、異国など、「異」と表象される存在が描かれる。この科目では、この「異」というキーワードをもとに、日本の古典文学（鎌倉時代の説話文学を中心に上げる）を支える価値観や思想を知ったうえで、物語を通して、自らと他者を考えるための視点を持つことを目的とする。	

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
基礎共通科目（人文科学系）	C 群 文化を学ぶ	越境する文化と文学	人や文化が様々な移動するグローバル化した現代の世界で明らかになりつつあることは、国家や国民、国語、あるいは民族や文化といった旧来固定化されたものだと思われてきたカテゴリーの境界を越えたり、複数を混じり合わせたり、間を流動するような現象が当たり前になったという事実である。文化や文学も例外ではなく、○○文化や○○文学の空欄に国家や民族の名前を入れた表現ではこぼれ落ちてしまうような現象が様々なところに見られる。この科目では、そのような「越境する」現象として、大英帝国発の文化や移民の歴史、ユダヤ文学や現代日本の文学、南アフリカの歴史、言語、文学までを、3人の担当者がそれぞれの専門を軸として講義を行う。 (オムニバス方式/全15回) (53 秋元孝文/5回) 芸術ジャンルを越境するをテーマに、「Harry Potter 原作 vs 映画」「風の谷のナウシカ」原作 vs アニメ」等の事例を使って講義する。 (110 上林朋広/5回) 植民地主義と文学、酒と漂流をテーマに、シェイクスピアやJ.M. クックシーなどを事例として取り上げながら講義する。 (98 浜本隆三/5回) 越境する文化と「帝国」だったイギリスの過去について、「奴隷貿易の過去」や「ウィンドラッシュ号到達70年」などのトピックを用いて講義する。	オムニバス
	伝統文化を学ぶ	甲南大学は日本の伝統文化で活躍する卒業生が輩出している。能楽・お花・お茶の分野を中心に、各界で活躍する卒業生が講師として、それぞれの領域について特色や魅力を紹介していく。この科目を通して、日本の伝統文化に関する理解を深めるとともに、グローバル人材に求められる自国の文化を語ることができる基礎的素養を養うことを目指す。またこの科目を通じて「甲南の文化力」を伝える。 (オムニバス方式/全15回) (25 佐藤泰弘/2回) 能楽と文化史に関する講義を行い、日本の伝統文化に関する理解を深め基礎的素養を養う。 (25 佐藤泰弘、15 伊庭 緑/6回) (共同) 能楽や神社、寺院をテーマに講義を行い、これらの文化が現代にどのような形で息づいているのかを対談形式の授業を通じて理解していく。 (25 佐藤泰弘、15 伊庭 緑/2回) (共同) 能楽をテーマに講義を行い、それが現代にどのような形で息づいているのかを対談形式の授業を通じて理解していく。 (25 佐藤泰弘、283 福田龍庵/1回) (共同) 日本の茶道家元の一つである数内流について講義を行い、茶道という伝統文化が現代にどのような形で息づいているのかを対談形式の授業を通じて理解していく。 (25 佐藤泰弘、282 小原宏貴/1回) (共同) お花をテーマに、いけばな小原流を事例に上げながら実演や講義を行い、お花という伝統文化が現代にどのような形で息づいているのかを対談形式の授業を通じて理解していく。 (25 佐藤泰弘、282 小原宏貴、15 伊庭 緑/1回) (共同) お花をテーマに、いけばな小原流を事例に上げながら実演や講義を行い、お花という伝統文化が現代にどのような形で息づいているのかを対談形式の授業を通じて理解していく。 (25 佐藤泰弘、201 小笠原秀邦/1回) (共同) 小笠原流煎茶道をテーマに講義を行い、煎茶という伝統文化が現代にどのような形で息づいているのかを対談形式の授業を通じて理解していく。 (25 佐藤泰弘、282 小原宏貴、15 伊庭 緑/1回) (共同) これまでの授業を振り返り、「伝統文化を学ぶ」ことの意義について、対談形式の授業を通じて総括する。	オムニバス・共同 (一部)	
D 群 歴史を学ぶ	社会思想史		この科目では、デカルト、ロックからカントまでの代表的な近世哲学者の思想を紹介し、西洋近代的な思考スタイルに通底するいくつかの特色をつかむとともに、私たち自身が無意識的に持っている思考態度を見直す機会とする。	
	歴史と文化		この科目では、中世を舞台とした小説ウンベルト・エーコ『薔薇の名前』を手がかりとして、中世文化にまつわるさまざまな問題を取り上げながら、過去の世界を読み解く術を探り、中世ヨーロッパという過去の世界がいかなるプロセスを経て明らかにされるのか、史実とフィクションの間にどのような違いがあるのか、現代社会において「中世」を理解することにどんな意味があるのかを考える。	
	文学と歴史		この科目では、鎌倉時代に編纂された説話集の『宇治拾遺物語』を中心に、中世の説話集を読んでいく。鎌倉時代に、どのような物語が語られていたかを読むことで、当時の文学に通底する思想や価値観を考えるきっかけとする。	
	地域と文化		この科目では、地域の文化がどのようにして生まれるのか、どのように変化したのか（あるいは変化しないのか）、今後どうなるのか、景観、物語（フィクション）性、遊び、生活、観光・・・さまざまな角度から、現在、過去・未来の時間軸をたて、具体的な例を現場のスライドを示しながら、考える。	

科目区分		授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
基礎共通科目 (人文科学系)	D群 歴史を学ぶ	芸術史		「美術館」の成立過程を概観した後、「美術館」をめぐる様々な言説を検討することで「近代(モダン)」という時代が見えてくるといえる。この科目では、「モダン」から「ポスト・モダン」への思想の移行を読み解くとともに、現代のアート・シーンでの「美術館」の役割、その可能性も検証する。	
		歴史とメディア		7世紀の西アジアに生まれたイスラームという宗教、およびその文明は、世界史において大きな役割を担い続け、現在における国際情勢の中でも鍵としての存在感を保っている。この科目では、メディアの果たした役割に注目して、この広大な文明圏の歴史を辿る。	
		国際化の歴史		この科目では、いわゆる「鎖国」下の「日本」における国際交流の様相を紹介し、従来の「鎖国」イメージではなく、意外と閉ざされていなかった江戸時代について理解を深めることを目的とする。現代日本が置かれた国際的位置についても考える際に、近代の開国から国際交流を考えるのではなく、江戸時代の国際交流の有り様を踏まえて理解できることを目指す。	
		生活の歴史		私たちの生活は、どのようなモノ、行為、関係で成り立っているのか。この科目では、ヨーロッパと日本の近代を対象にしつつ、衣食住を中心的なテーマとしつつ、結婚、出産、育児、教育、介護などの生活行為、および感染症の歴史についても触れながら、生活を構成する事象と関係性について講義する。	
基礎共通科目 (社会科学系)	A群 リベラルアーツ	社会学		この科目では、私たちの最も身近なものであると同時に最も認識しにくいものとされる「社会」という概念を社会学の基本的な理論とともに学び、また実際の社会現象の解釈の実例を理解することで知識を定着させると目的とする。	
		法学		法はしばしば自分とは縁遠いもの、何か堅苦しいものであるかのように捉えられがちであるが、実は私たちの日常生活の多くの場面に息づいており、基本的な法律の素養を持つことはこれから社会人となっていく中で、多様な場面で護身にもなり、武器にもなる。この科目では、①法を身近なものとして認識し、基礎的な素養を身につけること、②基本的な法的思考(リーガル・マインド)を理解し、基本的な実践ができるようになること、の2つの習得を到達目標とする。	
		経済学		この科目では、経済学の基礎を学ぶことで、新聞やテレビで報道されている経済用語や経済ニュースをより深く理解できるようになり、かつ適切に使用できるようになることを目指す。	
		経営学		この科目では、経営学の学説における管理過程論、人間関係論、近代組織論を中心に学習し、経営学という学問がどのような社会問題を解決するために生まれてきたのか、具体的にどのような学説が生まれ、発展してきたのかについて、具体的事例に基づいて学んでいく。	
		政治学		この科目では、政治学の基礎的な知識・理論の習得を目標とする。また、「歴史・思想」「現代政治」「国際政治」の学びを通して、現代社会を生きていくうえで必須の素養である「政治」を学問的に理解しつつ、習得した知識や理論を基に、現代の具体的な政治現象や課題を主体的に考察し、自らの言葉で説明ができるようになることも目標とする。	
		地理学		この科目では、人文地理学に関連する情報について、映画やドキュメンタリーといった情報を交えて紹介しながら、施設の立地、食と地域、都市と農村などのテーマを取り上げ、これらについて自ら考えることを目的として実施する。	
		国際関係論		この科目では、最初に、関係性の捉え方をいくつかの伝統的な手法から最近の多重な関係性理論を学び、そのうえで、具体的な国際問題を取り上げ、その解決を図るために動いている国家と国際機構のあり方を考えていく。	

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
基礎共通科目 (社会科学系)	B群 経済を学ぶ	産業と経済	この科目では、情報通信産業・エネルギー産業の現状や今後の動向、問題点等について、さまざまなケーススタディを通じて経済学の観点から考察することを目的とする。	
	企業と情報	近年、企業レポートニングにおいて、年次報告書（財務情報）やサステナビリティ報告書、CSR報告書（非財務情報）のボリュームが増えたことで、一般的なステークホルダー（投資家などの情報利用者）の情報処理能力をはるかに超えるとの指摘がなされるようになってきている。これを背景として、既存の様々な報告書のエッセンスを簡潔な一つの報告書(One Report)に統合しようとする試みである「統合報告」(Integrated Reporting)が英国で提唱され、グローバルに普及しつつある。この科目では、新しい時代の企業レポートニングや「統合報告」について解説する。		
	歴史と経済	この科目では、20世紀前半に日本が領有していた「植民地」における政治・社会・経済の展開について、台湾を事例に講義を行い、歴史学（日本植民地研究）の成果を学び、それに基づいて、書籍・テレビ・インターネットなどを通じて提供される植民地に関する言説を批判的に検討できる「目」を養うことを目指す。		
	現代社会と企業	この科目では、日本企業の戦略・管理・組織・取引という概念を中心に、日本企業の経営行動にどのように特徴があるのか？それが欧米企業に比して、どのように異なっているのか？また、このような相違がどのような機能と逆機能を生んだのかを学習していく。		
	世界と経済	この科目では、毎回、前週の時事経済問題をおもに日本経済新聞を材料にした資料を使って解説する。また、経済学部以外の受講生を念頭に置き、市場、景気、金融、財政、為替、貿易などといった経済学の基本について解説する。		
	暮らしと経済	この科目では、前半に経済学の視点から環境問題の本質は何か、対処法としての環境政策の現状と課題、最新の環境問題とその経済的アプローチについて紹介し、後半で、環境の価値と評価する方法についての説明に加え、これらの評価手法が実際の環境政策にどのように応用されているかを紹介する。		
	福祉と経済	今日の日本社会においては、少子高齢化や所得格差に対して、年金、医療、介護、生活保護等の社会保障制度を整合的、総合的なシステムとして構築することが喫緊の課題となっている。この科目では、日本の社会保障制度を理解するための基本事項について解説を行なう。		
	社会とファイナンス	現在の日常生活において、貨幣（お金）は財貨・サービスに共通する尺度であり、社会生活を支える交換手段になっており、信用経済のもとでは、個人であれ企業であれ、常にコスト意識をもつことは重要であるといえる。この科目では、コスト意識とキャッシュ・フローの重要性を理解し、履修者が合理的な経済人として活躍できる基礎知識を身につけることを目標とする。		
	SDGsとISO国際標準	この科目では、地球環境課題に対するSDGsの取り組みを理解するとともに、国際標準であるISO/IECの内容を理解することで、地球環境保全を推進するにあたり、品質管理、サイバーセキュリティ、地球環境・エネルギー保全という課題解決に向けた役割を理解することを目標とする。		
	C群 社会を学ぶ	現代社会論	この科目では、「自己と他者」「多様な性」「労働」「家族」「医療」「介護」など、自分たちが生きている現代社会に関するさまざまなトピックについて、社会学の観点から理解・分析できる素養を身につけることを目標とする。	
現代都市論	この科目では、都市が生み出す現象の解明や、都市を生み出す力の所在を探索する学問分野である都市社会学について、その理論と方法をもとに、現代都市の構造と文化について概説し、「都市的なもの」についての理解を深めることを目的とする。			
公共哲学	この科目では、功利主義と呼ばれる現代の有力な立場を紹介したうえで、その問題点を検討し、後半では、日本の功利主義者・市井三郎による、水俣をめぐる考察の問題点を検討することで、功利主義とは別の哲学の可能性を探る。			

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
基礎共通科目 (社会科学系)	C群 社会を学ぶ	環境人間学	人間をとりまく環境は、身体と行動を介しながら自然環境、社会環境、文化環境、生活環境、精神(心の)環境などから構成されており、これらの環境は、人間と無関係ではなく、人間とかかわることによって成立しているといえる。この科目では、環境人間学(および環境と社会)のアプローチから環境と人間との関係、地球環境および地域環境をとりまく環境問題の構造、環境問題の解決のための方向づけについて、理解を深める。	
		社会福祉論	この科目では、社会福祉の基盤となるソーシャルワークに関連する内容として、社会福祉やソーシャルワークの形成過程、現代の社会福祉関連法や制度、社会福祉の実践について学び、それらの内容を踏まえて、現代における社会福祉について理解する。	
		家族関係論	現代社会では、少子高齢化や人口減少、グローバル化や情報化など、めまぐるしい社会の変化や価値観の多様化の中で、家族もそれに関する課題も多様化している。この科目では、現代社会における家族のゆくえを、社会学およびジェンダー論の視点から考察する。	
		歴史と社会	この科目では、遊牧民である鮮卑(せんび)によって建国され、支配下に漢人・突厥人・ソグド人などを抱え込んだ多民族国家である中国の唐王朝で暮らした人々の一年を、その年中行事を追いかけながら見ていき、中国の文化についても適宜トピックをたて取り上げながら、異なる時代・地域に生きた人々への興味・関心を深める。	
		ボランティア論	阪神淡路大震災、そして東日本大震災を経験した日本社会では、「ボランティア」に対するとらえ方、参加の仕方も変化を遂げてきている。この科目では、1995年から現在までの「ボランティア」や「社会貢献」などのとらえ方、活動について事例をあげながら、日本社会や私たちの身近にある「ボランティア」活動の動向について学ぶ。また、SDGs・企業・災害・寄付・国際協力といった多様な場面の中でボランティアはどのような期待を持たれているのかについて考える。	
		グローバリゼーションと文化	この科目では、グローバリゼーションがどのような影響を社会に与えているのかについて、身近な生活文化の片葉、それらをもたらす企業活動、さらに難民の発生、国際移住労働者をとりまく政治的経済的な社会問題、そのなかで重要視される人権保障の取り組みなどを通して理解したうえで、国家・地域間の相互関係について考察を深める。	
		地域連携入門	この科目では、まちの問題について学習者が事前に下調べをしたうえで、自治体や地域団体で問題解決に取り組む実践者をゲストに迎え、自治体や地域団体、教育機関等との連携による取り組み事例を学ぶ。観光、まちづくり、子育て、地方創生など、各地の多様な取り組みの連携による効果を検証し、課題を展望する。	
		地域とメディア	この科目では、メディア・リテラシーの力が問われる情報化社会において、幅広い知識を身につけた上で、メディアから正確な情報を選び出せるよう、接する情報に対して批判的な見方を養い、自らの考えを的確に持ち、他者に伝えるコツを身につける。 (61 久保はるか、169 富居雅人/5回) (共同) 神戸新聞社に勤務する講師が、ネット社会とメディア・リテラシー、「伝える」を考える、防災と減災のリテラシーなどをテーマに解説を行い、もう一人の講師が対談形式で授業を進行することで学生の理解を深めていく。	共同(一部)
D群 法と政治を学ぶ	日本国憲法	日本国憲法は、表現の自由や思想・良心の自由などの基本的な人権を私たち一人ひとりに対して保障しつつ、国会・内閣・裁判所などの統治機構の組織・権限について定めており、簡潔で抽象的な条文しか備えていないものの、私たちが生きる社会の基盤となるルールである。この科目では、日本国憲法が示す基本的な考え方や仕組みについて、主要な学説と最高裁判所の判例に則って概説しつつ、憲法学の入門的知識を提供する。		
	社会生活と法	この科目では、雇用と就業形態、労働条件の決定と変更、労働者に支払われる金銭、労働と時間、災害と失業、雇用の終了など、労働をめぐる法制度を中心に解説する。		
	現代政治論	この科目では、正義に関する抽象的・哲学的な理論の大枠を押さえた上で、近年のマイケル・サンデル「自熱教室」ブームなどを通じて関心が高まりつつある現代政治哲学の議論を手掛かりに、これらの議論に関係する具体的な応用的な論点として、福祉国家・多文化主義・ジェンダーの平等などの問題も考えることにより、現代政治の問題を分析する基本的な視点を習得することを目標とする。		

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考	
基礎共通科目 (社会科学系)	D群 法と政治を学ぶ	法と情報		この科目では、自ら気軽に情報や意見を発信し、また受け取ることが可能になった現代社会において、これら情報の取り扱いをめぐって生じてくる様々な法的問題について、とりわけ憲法学の観点を中心に置きつつ、幅広く学ぶ。	
		環境法学		この科目では、都市景観、自然環境、水環境、廃棄物など、私たちの生活における環境問題と行政との関係を法的な観点から考え、環境法学に関する基礎的知識を習得することを目標とする。	
		家族関係と法		家族を形成することにより人はさまざまな問題に向き合うことになる。この科目では、家族に関する問題を、日頃目にする新聞やインターネットの記事、文献などを通して、法律がそれらの問題をどのように解決すべきと考えているのかを学び、現行法がそれらの問題に十分な手当ができていないかを考える。	
		少子高齢社会と法		この科目では、少子社会と超高齢社会に分けて講義し、これらの社会の現状と課題について理解する。	
		財産と法		現代社会では、財産との関係をもたないで生活することはできない。この科目では、財産と人との関係が法的にはどのように理解されるのかを明らかにしていく。また、財産といってもその種類はたくさんあり、その種類に応じて規制が異なる。そうした点についても、概略的な知識を持てるようになることを目標とする。	
		消費者問題		この科目では、消費者契約法や特定商取引法の解説を踏まえたうえで、霊感商法やネットトラブル、詐欺的商法など各種の消費者トラブルを取り上げ、それらへの対処について検討する。	
		市場と法		この科目では、在学中に日本経済新聞や東洋経済などの雑誌を読んで、ビジネスやマーケットというものを身近に感じることができるよう、一週間の間に生じたビジネス関係の事件や出来事についても取り上げながら、法と規制という側面に絞って学ぶ。	
		組織と法		この科目では、法学部学生以外を念頭に置き、一週間の間に生じたビジネス関係の事件や出来事についても、授業で簡潔に説明を加えながら、株式会社の法的基礎を理解できるよう解説する。	
		まちづくりと行政		まちづくりは、行政だけではなく住民が重要な担い手と位置づけられており、行政と住民との協働の仕組みが施されている。さらには、それに協力する企業や専門家など、多くのアクターが関わっている。この科目では、まちづくりの法制度とそこにおける行政の役割について、まちづくりの実例を紹介して具体的なイメージを持ってもらいながら、まちづくりの法制度の仕組み・運用・課題について学ぶ。	
		地域創生		この科目では、地方自治体の制度、人口減少・少子高齢化社会、国と地方の財政状況などについての現状を理解するための基礎的な知識を習得し、なぜ今「地域創生」が必要とされるのか、現状について考える。その後、地域創生の方向性をめぐる議論や具体的な取組み事例を材料に、地域創生のあり方について考える。	

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
基礎共通科目 (自然科学系)	A群 リベラル アーツ	数学	この科目では、文系にはなじみの薄い線形代数を前半に取り上げ、線形代数と微積分が理系で必須とされている理由について考えながら、高等学校までの数学と一味違う(大学での)数学を味わうことを目指す。また、数学というものの理解を深めるため、数学の歴史の変遷などを解説する。	
		物理学	この科目では、教員が毎回行う「演示実験」を学生が見て結果について考えていくという授業形態をとる。演示実験を元に平易な解説を行うことで、高校で十分に物理学を学んでいない文系の学生を含めた、幅広い受講者に対して物理学の楽しさを伝えていく。さらに、実験結果から構築された物理学の体系を把握することや、身近で起こる様々な現象の多くは物理学で説明できることについて理解を深めることを目的とする。 (オムニバス方式/全15回) (5 市田正夫/6回) 授業の目標についてガイダンスを行った後、振動・波動、電磁気学の分野に関する「演示実験」をもとに平易な解説を行い、物理学の楽しさを伝えていくと共に、様々な現象の多くが物理学で説明できることについての理解を深めていく。 (1 梅津郁朗/7回) 力学、熱力学、原子物理学の分野に関する「演示実験」をもとに平易な解説を行い、物理学の楽しさを伝えていくと共に、様々な現象の多くが物理学で説明できることについての理解を深めていく。また、学生の理解度を測る確認テストの解説を行う。 (5 市田正夫、1 梅津郁朗/2回) (共同) 授業の目標についてガイダンスを行う。また、学生の理解度を測る確認テストとその解説を行う。	オムニバス・共同 (一部)
		化学	エネルギーの安定供給、マイクロプラスチック、地球温暖化など環境悪化の問題、新型コロナウイルスの蔓延などが言われる中、安全で安心な社会の実現には新しいエネルギー変換、環境浄化、医療、省エネルギー素子、IoTセンサーなど科学及び技術の進歩が必要である。この科目では、種々の材料や素子、機器の機能の基本原則を理解し、科学及び技術の進歩において心臓部ともいえる、機能物質を作り出す化学について学ぶ。	
		生物学	この科目では、微生物から植物、動物まで自然界のあらゆる生命現象を対象とする自然科学の一分野である生物学について、複雑に構成される生物を再現する方法で把握するための基礎的な手法を押さえつつ、それらの知識のなりたちを学習することで、将来にわたって日常生活や専門的な場面で最新の情報を活用して判断に生かしていくことができるようになることを目標とする。	
		地学	この科目では、我々が住んでいる地球を、①現在の姿、②誕生から現在までの変遷、③広い宇宙の中でどのような惑星であるのかの3つの視点で捉えて理解を深めていく。また、理解を深めるにあたり、事実を示すだけではなく、それらがどのように明らかになったかについての観測方法や解析原理を含めて講義することで、“地球”についての正しい知識を習得し、それらに基づいて深く考察する力を習得することを目的とする。	
		生命化学	私たちのからだは細胞でできている。その細胞の中では何千種類もの物質が化学反応を起こしており、その組み合わせによって生命活動を営むことが可能になる。したがって、細胞(生物学)と物質(化学)の知識をもつことで、生命の仕組みをより深く理解することができる。この科目では、生物学と化学を同時並行的に学ぶことによって、さまざまな生命現象を分子レベルで理解する力を養うことを目標とする。 (オムニバス方式/全15回) (29 村嶋貴之/3回) からだの中の分子の構造、からだの中の化学反応、想像を創造に変える化学者たちをテーマに講義する。 (19 西方敬人/3回) 細胞の構造とはたらき、細胞のさまざまな形態と身体の中でのとはたらき、細胞間の情報伝達と細胞内での情報の流れをテーマに講義する。 (58 三好大輔/3回) セントラルドグマ「生命の中心教義」、核酸の構造と働き、遺伝子鑑定、核酸医薬等の遺伝子工学をテーマに講義する。 (42 松井 淳/2回) 生命現象の鍵を握る高分子化合物、高分子化合物の構造とはたらきをテーマに講義する。 (57 中野修一/2回) さまざまな生命現象について、物理現象として捉えたり、数値化して考えたりすることで理解を深められるように講義する。 (95 臼井健二/1回) 酵素などを人為的に改変・利用するタンパク質工学テーマに講義する。 (60 赤松謙祐/1回) ナノマテリアルをテーマとして取り上げて講義する。	オムニバス

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
基礎共通科目 (自然科学系)	B群 自然の歴史を学ぶ	地球の歴史	この科目では、地球の誕生から現在までの歴史をたどり、大陸移動などの変動現象、生命の発生・進化と地球環境の深い関係、さらに、その歴史の中で起こった、酸素の発生・生物の大量絶滅・全球凍結などの大事件について解説する。また、それらの歴史を示す様々な科学的証拠や最近の研究についても解説を行う。	
	生物の歴史	この科目では、生物の基本的な知識と、本来個別の学問となる古生物や現生動物、現代に起きている生物に関わる問題等、幅広く「歴史」として説明を行う。さらにそれらの知識を用いた考察も行うことで、知識の獲得に加えて分析する力を身につけることを目的とする。		
	自然と人間	この科目では、人間が自然に求めてきたものは何なのか、人間はどのように自然に働きかけ、それによりどのような弊害や利害がもたらされたのかなど、身近な問題や世界の多様な事例を通して人間と自然の関係について考えを深める。		
	自然科学史	この科目では、発展過程でその本質的意味を大幅に変化させていった科学・技術について、約二千年前のギリシャから遡り解説し、現在の科学・技術の社会的影響力の増大の根源について、その思想的・現代哲学的意義から肉薄していく。		
	技術の歴史	この科目では、金属材料の代表である鉄系材料について、その製鉄・精錬の技術、鋼・鋳鉄の作製技術、ならびに、これらを支える熱科学について解説を行い、製鉄技術の発展の歴史を振り返りながら、人の生活に技術の発展がどのように影響してきたのか、また現代の科学技術の観点から歴史的に重要な技術の開発が行われたのかを見ていく。		
	環境と地理	この科目では、近年の東南アジアにおける政治・経済・社会的な変化による、水田や焼畑といった伝統的な農業の変容とそれに伴う問題や、都市における人々の日常生活と大気汚染などの環境問題について取り上げながら、人と環境の関わり方について学ぶ。		
C群 現代科学を学ぶ	現代生活と物理学	この科目では、代表的な物理学上の話題を取り上げて解説を行い、物理学が現代生活とどのような関係を持っているかを理解し、そのような視点から、我々が将来にわたって持続可能な社会をいかに実現するべきかを自ら考えられるようになることを目的としている。 (オムニバス方式/全15回) (184 島田武司/4回) 授業の代表教員として、授業の概略や目標を説明すると共に、生活の中の熱現象(熱エネルギーの利用)、電気エネルギーの利用と電力システムをテーマに講義する。 (184 島田武司/3回) 天体運動(力学)、マイクロ世界の物理(量子論)、原子力利用(量子と相対論)をテーマに講義する。 (154 松沼 悟/3回) 気候変動(流体)、情報の記録(データストレージ)、電池と充電(電池が変える社会)をテーマに講義する。 (177 中澤慶久/3回) バイオメテイクス、生物と光と電子(光と生物学・農業応用)をテーマに講義する。 (195 遠藤英樹/2回) 波の物理をテーマに、「波」の性質や音波、地震波・水面波・電磁波などを取り上げながら講義する。	オムニバス	
	現代生活と生物学	この科目では、現代生活でよく知られている疾病の発症メカニズムや免疫のような外敵から身を守る機構などを理解するのに必要な生物学の基本的な考え方を学ぶ。また、生命科学分野の発展により多大な恩恵を享受することになった一方で、それに伴い発生している問題点についても考えていく。		
	現代生活と数理科学	現代は科学技術や情報技術の発展によりますます便利になりつつある。この科目では、現代生活に関わる社会システム、情報ネットワーク、AI、データサイエンスなどにおける数理科学的な思考法について理解し、そのうえで数理科学的発想を応用できることを目的とする。		

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
基礎共通科目 (自然科学系)	C群 現代科学を学ぶ			
	現代生活と最先端科学		この科目では、多岐にわたる最先端科学の中から、ナノバイオテクノロジーに焦点を当てて、それらが現代の国際化社会において果たす役割について理解することを目的とする。また、国際的な共同作業と競争の中で発展する最先端科学の研究開発について、国内や諸外国における科学動向なども紹介しながら、最先端科学について考える。 (オムニバス方式/全15回) (94 遠藤玉樹/5回) 遺伝子・タンパク質・細胞の関連性、遺伝子配列解析(ヒトの設計図を読み解く)、細胞を操る(再生医療と万能細胞)(遠藤)、ウイルスと疾患(外敵から体を守る免疫)をテーマに講義する。 (100 高橋俊太郎/5回) ナノテクノロジー、生物から学ぶスマート技術、生活を豊かにする分子設計、生命をデザインする科学、生命科学と倫理をテーマに講義する。 (97 建石寿枝/5回) 生命分子、個性を決める遺伝子、分子レベルで健康を考える、生命分子の新機能をテーマに講義する。	オムニバス
	核と環境		この科目では、エネルギーをめぐる原子核エネルギーの利用とそれに伴って引き起こされた問題について振り返り、我々の生活を成り立たせているエネルギーについて核物理学の知識を深めながら考える力をつけていくこと、地球温暖化について物理学の知識を蓄えることにより解決の道筋を考えて議論を進める力をつけることを目的とする。	
	環境の化学		この科目では、環境化学の専門家が、環境問題の最前線と最先端をできるだけ分かりやすく解説する。マスコミ等で刷り込まれた誤った環境問題の知識を覆した、最新のエビデンスに基づく講義を多く行うことで、柔軟な思考力で環境問題の本質を見抜く力を身につけることを目指す。	
	大気と海洋		この科目では、地球を取り巻く大気や海洋の、その構造、地球規模の運動のメカニズム、相互作用などを理解する。また、降水のメカニズムや、世界や日本の気候についても学ぶことで、地球環境の変動を論理的に考察する力を身につけ、自立的に思考し行動する能力を身につける。	
	国際化と情報ネットワーク		この科目では、コンピュータとネットワークならびにコミュニケーションの国際的な現状をできる限り新しいデータとそのデータサイエンス的な分析結果を使いながら紹介する。それにより、社会の様々な問題に情報ネットワーク技術や人工知能などがどのように貢献できるのかを考える。	
国際社会における最先端科学		国際化が進む現代社会においてはどのような産業分野においても、最先端科学の素養なしには市場や経済の動向を理解し、予測することもままならなくなっている。21世紀の基幹技術になると考えられているバイオテクノロジーとナノテクノロジー、ナノバイオテクノロジーは、材料から健康まで、多様な産業分野から注目を集める技術であり、国際的な共同作業と競争の中で研究開発が進められている。この科目では、日本国内や諸外国における科学動向なども紹介しながら、これら最先端科学の重要性について考えていく。 (オムニバス方式/全15回) (94 遠藤玉樹/5回) 生命科学の基礎、細胞と遺伝子の関連性、ウイルス感染症に関連する最先端科学、免疫とアレルギー、生命進化と分子進化をテーマに講義する。 (100 高橋俊太郎/5回) 暮らしに役立つナノテクノロジー、ナノの世界から見る生命、生物から模倣する新ナノ技術、生物の分子を活用した技術革新、物質と生命の境界線をテーマに講義する。 (97 建石寿枝/5回) 生命分子の化学、遺伝子が操る個人の体質、生命分子を材料として使う、分子レベルで健康を科学するをテーマに講義する。	オムニバス	

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
基礎共通科目 (自然科学系)	C群 現代科学を学ぶ	現代生活と生命化学	<p>私たちのからだや現代生活に関する事柄～例えば健康、医療、診断、薬、食、環境、先端科学などを深く理解するためには、分子や化学の観点から、生命や現代生活に溢れる物質を見直してみることが有効である。この科目では、私たちの生活における化学と生物学の展開事例や応用事例を学び、現代生活における生命化学の重要性を理解することを目標とする。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(19 西方敬人/1回) ES細胞やiPS細胞、がん細胞が示す細胞の可能性をテーマに講義する。 (91 川内敬子/2回) がん細胞について解説し、がん治療を知ることをテーマに講義する。 (42 松井 淳/1回) 酵素や抗体を使って“病気の目印”を見つけるたんぱく質と診断技術をテーマに講義する。 (37 川上純司/4回) 核酸と診断技術、薬、分子間相互作用の親和性と特異性、創薬と医薬品開発をテーマに講義する。 (60 赤松謙祐/1回) エネルギー問題をテーマに講義する。 (67 甲元一也/2回) バイオ資源・グリーンケミストリー・環境、化学と生物学から見た食の最先端をテーマに講義する。 (28 藤井敏司/2回) 分子システム、アルツハイマー病をテーマに講義する。 (77 長濱宏治/2回) ドラッグデリバリーシステムや再生医療の分野で活躍する材料をテーマに講義する。</p>	オムニバス
		Science in the World Today	<p>This course has two main units. In Unit 1, utilizing a research worksheet, students will research and present to the class about a leading scientist or IT innovator. In Unit 2, students will research and present about a leading research university or research institution. In order to build confidence for the class presentations, students will be given many opportunities to practice orally reporting research results and making presentations in pairs and small groups.</p> <p>この科目では、リサーチ・ワークシートを用いて一流の科学者やITイノベーターについて調べ、発表したり、一流の研究大学や研究機関について調べ発表する。その過程で、研究結果を口頭で報告する機会や、ペアやグループでのプレゼンテーションなどの練習の機会を多くもつことで、発表するための力を身につける。</p>	
		Science, Technology and SDGs	<p>Students will make two presentations. First, they will choose a problem related to science/technology and SDGs, and then research the problem and make a presentation about its causes and effects. Then, for their second presentation, students will research and present about possible scientific/technological solutions to the problems.</p> <p>学生は2つのプレゼンテーションを行う。まず、科学技術やSDGsに関連する問題を選び、その問題について調べ、その原因や影響についてプレゼンテーションを行う。次に、その問題に対して考えられる科学的な解決策について調べ、発表する。</p>	
		Science News	<p>In this course we will read general articles and watch videos about some current topics related to various scientific fields including AI, astronomy, biology, IT, physics, nanotechnology, and so on. In addition, we will get some practice making oral reports and participating in simple discussions related to the topics being covered. In the early part of the course, the topics will be chosen by the instructor, but in the later part of the course students will be asked to choose and prepare news topics that they are especially interested in, and make oral presentations about those topics. Most tasks will require accessing the Internet, so it will be necessary for students to bring their computer or tablet to every class (BYOD with earphones).</p> <p>この科目では、AI、天文学、生物学、IT、物理学、ナノテクノロジーなど、さまざまな科学分野に関連する最新のトピックについて、一般的な記事を読み、ビデオを視聴する。また、トピックに関連した口頭での報告や簡単なディスカッションに参加する練習をする。序盤は講師がトピックを選ぶが、後半は受講生が特に興味のあるニューストピックを選んで準備し、そのトピックについて口頭発表する。</p>	
D群 情報を学ぶ	知能情報		<p>この科目では、AIを動作させるコンピュータの発展の歴史を通じて、ヒトと機械の関係について講述する。前半では計算機アーキテクチャとヒトの情報処理のプロセスを比較し、コンピュータ開発当初の人工知能開発について概説する。さらに1980年代以降のマイクロプロセッサ開発がAIの新しい方法論を生み出し、それが現在のネットワーク技術、知能ロボット技術にどのように応用されてきたかを紹介する。最後にいま話題となっている現代のAI技術によって社会がいまどのように変わろうとしているのかについて考えていく。</p>	

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
基礎共通科目 (自然科学系)	D群 情報を学ぶ	生体情報	この科目では、我々が外界をどのように捉えて行動に結びつけているのかを心理学や関連領域の立場から明らかにしていくことで、環境から取り入れられた情報の処理の仕方や知覚と認知のメカニズムについて説明することができ、情報処理の働きが行動にどのように結びつくのかについて考えることができることを目標とする。	
		感性情報	この科目では、「モノ」を作るときに必要な従来の工学的な考え方、捉え方を見直し、ユーザの立場に立つ新しい工学として提唱されている“感性工学”とそのカギとなる“感性情報”について、初学者向けに解説を行う。	
		生命情報	この科目では、生物の進化の歴史を踏まえ、遺伝情報の伝達、感覚器による環境情報の取得、細胞内外での情報伝達のような生物にみられる普遍的な属性について理解を深め、多様な生命現象について関心をもち、自分の考えをもつことを目指す。 (オムニバス方式/全15回) (244 飯田聡子/8回) 生物の進化の歴史をテーマとして、初期の生命の進化、地球上の生物多様性、生物の共通属性と進化、遺伝情報から探る生命史等について解説する。また、遺伝情報の伝達をテーマとして、有性生殖、植物の繁殖生態、自殖や無性生殖、クローン技術といった特別な生殖様式について解説する。 (239 上尾達也/7回) 遺伝情報の伝達をテーマとして、動物の繁殖生態、寄生性生物の生活環と生殖について解説する。また、環境情報の取得とシグナル伝達、代謝をテーマとして、外部情報の取得については視覚(光情報)、嗅覚、味覚(化学感覚)、聴覚、平衡感覚、体性感覚、その他の感覚の面から、生体内での情報伝達についてはエネルギー代謝の制御の面から、それぞれ解説する。	オムニバス
		認知科学	この科目では、心の情報処理過程を中心とした、心理学・哲学・人工知能・教育学・言語学・神経科学などにまたがる学際領域である認知科学の基礎的な理論や研究方法などについて学び、認知科学が扱う問題と日常生活での経験とをリンクさせながら、人の心が持つ特徴についての理解を深めていく。	
基礎共通科目	学際融合系	ケアの倫理	この科目では、伝統的な倫理学ないし倫理理論に異を唱える形で現れたのがケアの倫理に関し、ケアの倫理が現れるまでの経緯、ケアの倫理がどのようなものなのか、そしてケアの倫理が対象とする問題がどのようなもので、それに対してどのようなアプローチをするのかを学習する。	
		ライフプラン教育	「少子・高齢社会」の到来とともに、子育てを「ライフプラン」にいかに関わり込むかが問題となっている。この科目では、子育て問題に関わっている研究者である諸分野の教員が、それぞれ異なった切り口で、現代の子育てをめぐる様々の状況を踏まえた「ライフプラン」について講義する。その中で受講生が自らのライフプランについて考えることを求める。 (オムニバス方式/全15回) (116 宮川貴美子/3回) 授業の代表教員として授業の目標についてのオリエンテーションと授業のまとめ講評を行う。「子育てがうまくいかないとき」をテーマに、教育臨床の立場から解説する。 (83 大西彩子/1回) 「子どもを産む選択」をテーマに、発達臨床の視点から解説する。 (45 北川 恵/1回) 「親子関係への心理学的支援」をテーマに講義する。 (11 前田正子/1回) 「ライフプランにおける職業と家庭」をテーマに講義する。 (291 谷口あや/1回) 「父母による相補的子育てから見る現代の家庭」をテーマに、グループディスカッションを行い学びを深める。 (107 ファヨル入江容子/2回) 「女性の多様なライフプランのためにフランスを参照して」、「人生史の振り返りから見たライフプラン」をテーマに講義する。 (66 足立泰美/1回) 「雇用・結婚・出産における財源と給付」をテーマに講義する。 (39 中里英樹/3回) 社会学、家族社会学、ジェンダー、労働社会学といった観点から講義を行う。 (108 西尾千尋/2回) 乳幼児の発達、発達の環境、遊び、運動発達と認知発達といった観点から講義を行う。	オムニバス
		癒しの諸相	この科目では、臨床心理学をベースに、身近な映画やアニメーションを題材として取り上げながら、人間の「こころ」や「歴史」について学び、受講生が自分を知り、現代社会や人との関係を読み解く「眼」を養い、「考える力」を育むことを目的とする。	

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
基礎共通科目	学際融合系	自己の探求	学生時代は、自己のアイデンティティを形成していく上で重要な時期であり、そのために、さまざまな自己表現や、他者とのコミュニケーションを通じて、自己理解を深めることが求められている。この科目では、できるだけ体験的・実習的要素を取り入れながら、臨床心理学の枠組を用いて、自己の内的世界を探索していき、無意識的な領域を含めた、新たな自分の一面に気づいていくことを目的とする。	
	心の健康科学		この科目では、「心」とはどのような構造をもち、どのように機能するか、また心を健康に保ち、育てていくためにはどのようなことが必要かという問題について、主として臨床心理学の観点から探っていく。さらに、現代人が抱えやすい心の病や障害について、その発生のメカニズムや、症状、治療法等について学ぶ。コロナ禍が及ぼした心の健康や成長への影響、現代的なストレスへの対処法といった実際的な内容についても取り上げる。	
	保健衛生		この科目では、公衆衛生学の歴史を振り返り、健康問題は時代とともに変化することや我が国の人口構成や死因、疾病構造の現状ならびに国際保健におけるWHOの役割や活動、母子保健制度、生活習慣病とその危険因子を学ぶ。さらに、微生物による健康障害に対する理解を深めるために、微生物および感染症の基礎知識、感染症の制御に関わる我が国の取り組みや感染症流行の現状について学ぶ。	
	人体の構造と機能及び疾病		この科目では、身体の構造と機能、様々な疾病や障害、よくある身体症状など生物学のごく基本的な事項、および心身医学の基本（心身相関など）を学ぶ。併せて、医療現場でも役に立つ臨床検査と画像診断の基礎的事項や、緩和医療・人生の最終段階の医療を支えるための基本的事項も学ぶ。	
	環境教育の実践		環境教育の基本は、自然と人間とのかかわりの理解にある。今日起こっているさまざまな環境問題の解決のためには、まず地球環境について”グローバルな（地球規模の）視点”から考えて、“ローカルな（足もとや身近な地域）視点”から行動することが大切である。この科目では、私たちの身近な暮らしのなかで起きている環境問題について学び、環境問題についての基本的な知識を学習した上で、フィールドワークによって環境教育の理論と実践について学ぶ。 (オムニバス方式／全15回) (253 渡辺理和／5回) 授業の代表教員として授業の目標について説明する他、里やまフィールドワークの準備学習として、里やま保全と環境教育について講義し、学生の学習成果について講評する。 (253 渡辺理和／1回) 里やまの植物と食文化についての解説と春の山野草エコクッキング体験のフィールドワークを踏まえて、里やまの資源管理と地域循環型農業について講義する。 (181 天野雅夫／1回) 生物多様性の保全について行政法、環境法の観点から講義する。 (165 北村 真／1回) 「自然の権利訴訟」をテーマに講義する。 (167 大久保規子／1回) 有害化学物質と環境への影響をテーマに講義する。 (150 藤岡達也／1回) 自然災害・防災教育と環境教育をテーマに講義する。 (253 渡辺理和、181 天野雅夫／2回) (共同) フィールドワークを担当し、里やまの植物と食文化について解説を交えながら、春の山野草エコクッキング体験を行う。 (253 渡辺理和、181 天野雅夫、165 北村 真／3回) (共同) フィールドワークを担当し、田植え体験学習を行い、その体験を通じ環境教育プログラムの意義についてグループワークを行う。	オムニバス・共同 (一部)
食品科学		食品には栄養面のはたらきとしての第1次機能、嗜好面ではたらきとしての第2次機能、疾病予防面ではたらきとしての第3次機能などがある。この科目では、これらの機能に関与する食品成分の構造・性質・化学変化について学ぶ。		

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
基礎共通科目	学際融合系	フロントランナー講座	この科目では、産業界をリードする企業の経営者や世界で活躍する第一線の研究者、新進気鋭の起業家など、社会の第一線で活躍する方々を講師として招き、先駆者（フロントランナー）としての“ものの捉え方”、“斬新な考え方”、“成功の秘話や教訓”などを学ぶ。 (オムニバス方式/全15回) (19 西方敬人、60 赤松謙祐/4回) 共同 授業の代表教員として授業の目標について説明する他、学生のキャリアの指針作りや持続的成長を目指してをテーマに対談形式で講義する。 (19 西方敬人、60 赤松謙祐、57 中野修一/1回) 共同 甲南に学ぶをテーマに対談形式で講義する。 (19 西方敬人、60 赤松謙祐、32 中井伊都子/1回) 共同 大学での学びとSDGsをテーマに対談形式で講義する。 (19 西方敬人、60 赤松謙祐、225 有井康博/1回) 共同 大学で学ぶを考えるをテーマに対談形式で講義する。 (19 西方敬人、60 赤松謙祐、285 国広潮里/1回) 共同 神戸と沖縄の研究生活をテーマに対談形式で講義する。 (19 西方敬人、60 赤松謙祐、189 長濱 徹/1回) 共同 医薬品、医薬部外品、化粧品の開発と開発事例をテーマに対談形式で講義する。 (19 西方敬人、60 赤松謙祐、208 牧野秀樹/1回) 共同 日本酒文化の魅力を語るをテーマに対談形式で講義する。 (19 西方敬人、60 赤松謙祐、217 柳本 博/1回) 共同 自らの成長と幸せに繋がる素養をテーマに対談形式で講義する。 (19 西方敬人、60 赤松謙祐、187 松本智成/1回) 共同 新型コロナウイルス感染症への挑戦をテーマに対談形式で講義する。 (19 西方敬人、60 赤松謙祐、228 片山博之/1回) 共同 これからの産業界を生き抜いてゆくことをテーマに対談形式で講義する。 (19 西方敬人、60 赤松謙祐、183 塚本洋子/1回) 共同 大企業からフリーランスへの転身をテーマに対談形式で講義する。 (19 西方敬人、60 赤松謙祐、230 遠藤浩平/1回) 共同 映画とテクノロジーと起業をテーマに対談形式で講義する。	オムニバス・共同
		情報社会のセキュリティ	企業あるいは組織が活動していくためには、アプリケーションの使い方なども重要であるが、セキュリティに対する正しい考え方はそれら以上に重要である。この科目では、独立行政法人情報処理推進機構から公開されている資料を用いて、企業あるいは組織に所属する構成員が身につける必要のあるセキュリティ対策について詳述する。	
		社会を読み解く（クリティカルシンキング）	さまざまな情報が飛び交う現代社会において、情報を鵜呑みにせず、多角的に捉えることができる「クリティカルシンキング（CT）」というスキルは、大学での学びだけでなく、社会においても求められる。この科目では、受講生の身近な映像や新聞記事などの題材を用い、演習形式で検討することで、クリティカルシンキングのスキルを高めていく。	
		文章表現論	自分の考えを他者に分かりやすく伝える力は、大学での学びの基礎となるだけでなく、就職活動の際や社会においても不可欠なスキルである。この科目では、大学生活で必要な文章を書く力を高めるため、実際にさまざまなジャンルの文章を書く作業を体験しながら、情報収集の方法やその活用方法、資料の読解の仕方、文献の引用方法、自分の考えを整理する方法、論理的で説得力のある文章を書く方法などを具体的に学んでいく。	
		国際言語文化系	ヨーロッパの文化を学ぶ	この科目では、ヨーロッパの文化、歴史とその背景について、主にドイツやフランスを事例に挙げながら、さまざまな観点から解説していく。これを行うことにより、現在のヨーロッパ文化についての理解を深めることを目標とする。
		アジアの文化を学ぶ	この科目では、アジアの文化、歴史とその背景について、主に中華人民共和国や大韓民国を事例に挙げながら、さまざまな観点から解説していく。これを行うことにより、現在のアジア文化についての理解を深めることを目標とする。	
		ヨーロッパの言語と社会	この科目では、ヨーロッパの言語、社会とその背景について、主にドイツやフランスを事例に挙げながら、さまざまな観点から解説していく。これを行うことにより、現在のヨーロッパの言語と社会についての理解を深めることを目標とする。	
		アジアの言語と社会	この科目では、アジアの言語、社会とその背景について、主に中華人民共和国や大韓民国を事例に挙げながら、さまざまな観点から解説していく。これを行うことにより、現在のアジアの言語と社会についての理解を深めることを目標とする。	

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
基礎共通科目 国際言語文化系	国際理解		この科目では、グローバル化時代の国際関係や現状認識、そしてグローバル化と日本社会という観点に立って問題意識を見つけ出し、質疑応答を行いつつ、グローバル化時代の理解を深めていくことで、国際情勢や国際的な時事問題に関心を持つ姿勢を育成することを目標とする。	
	国際理解English		This course is about understanding more deeply some basic cultural attitudes and values in various countries including Japan. However, rather than studying intercultural understanding from an abstract and theoretical viewpoint, we will approach it concretely by focusing on three major social issues being faced by many countries and cultures throughout the world: the happiness index, poverty, and education. We will also learn about cultural attitudes in various countries (including Japan) toward these issues and their possible solutions. In addition, we will touch briefly on some other related topics such as relevant SDGs, the social safety net, child labor, the gender gap, attitudes toward LGBTQ, international aid, international volunteering, and social businesses. Through studying common social issues in various cultures, students will develop deeper understanding, empathy, and respect for the cultural values of other countries as well as a more objective understanding and appreciation of their own culture. Lessons will be conducted mainly in English. この科目では、主に英語を使用して、日本を含む様々な国の基本的な文化的態度や価値観をより深く理解することを目的としており、世界の多くの国や文化が直面している3つの大きな社会問題、幸福度指数、貧困、教育に焦点を当て、具体的にアプローチしていく。	
	日本理解		この科目では、日本人などの一般学生と外国人留学生がいっしょになり異文化と接することによって、日本の社会全般についての様々なテーマをめぐって日本語でディスカッションをしながら、異文化の機微を知ることで、異文化に抱く誤解や葛藤を未然に防ぐための国際理解力を身につけ、大学生として、また、卒業後に国際社会において国際人として生活していく上で必要とされるグローバル・コミュニケーション力を養い、学業のみならず就業においても有用となる異文化間交流の能力やその活用能力を身につけることを目標とする。	
	Japan Topics		This single-semester integrated skills course aims to deepen understanding of selected aspects of Japan, with a strong emphasis on developing the skills needed to describe elements of Japanese society and culture accurately and effectively in English to non-Japanese. この科目では、日本についての理解を深めることを目的とした科目で、特に外国人に対して、日本の社会と文化について、正確かつ効果的に英語で説明できる能力を身につけることに重点を置いている。	
	Culture Topics I		Culture Topics courses are single-semester integrated skills courses that aims to deepen cross-cultural awareness and understanding through focusing on a specific country or region where English is either the mother tongue or the primary official language. Culture Topics I covers the North American region (USA and/or Canada). Culture Topics II focuses on the UK, Australia, and/or other English-speaking regions. While primarily taught in English, the learning objectives of these courses prioritize mastery of the content covered. Culture Topics I 及び II は英語を母語とする国や地域に焦点を当て、異文化に対する認識と理解を深めることを目的とした科目である。この科目では、北米地域(アメリカ及びカナダ)に焦点を当てる。講義は主に英語で行われるが、内容の習得を重視する。	
	Culture Topics II		Each of these single-semester integrated skills courses aims to deepen cross-cultural awareness and understanding through focusing on a specific country or region where English is either the mother tongue or the primary official language. Culture Topics I covers the North American region (USA and/or Canada). Culture Topics II focuses on UK, Australia, and/or other English-speaking regions. While primarily taught in English, the learning objectives of these courses prioritize mastery of the content covered. Culture Topics I 及び II は英語を母語とする国や地域に焦点を当て、異文化に対する認識と理解を深めることを目的とした科目である。この科目では、イギリス、オーストラリア、その他の英語圏の地域に焦点を当てる。講義は主に英語で行われるが、内容の習得を重視する。	

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
基礎共通科目 国際言語文化系	English for Science		This course mainly deals with reading comprehension and vocabulary building for understanding science and technology media, but students will also have opportunities to improve their listening comprehension through online video exercises. Various general topics in science and technology will be covered and materials will consist of articles and online videos with task worksheets. この科目では、主に科学技術の文脈における読解と聴解を扱う。またリーディング、ボキャブラリー習得に重点を置くが、オンラインビデオ演習を通してリスニングの理解度を高める機会もある。科学技術に関する様々な一般的なトピックを取り上げ、教材は記事とオンラインビデオで構成される。	
	Science Writing		The course will cover basic writing skills including grammar, paragraph structure, and essay structure, as well as some basic genres used in scientific writing such as describing a process, cause and effect, comparison and contrast etc. Students will write several types of paragraphs and an essay about various general topics related to science and technology. Although this is primarily a writing course, some class time will be spent orally sharing research data and presenting our writing to partners and small groups. この科目では、センテンス、パラグラフ、エッセイの各レベルでの基本的なライティングスキル及びプロセスの記述、原因と結果、比較と対象など、科学ライティングで用いられる幾つかの基本ジャンルを学ぶ。また、科学技術に関連する様々な一般的な話題について、教種類の段落とエッセイを書く。主にライティングの講義であるが、研究内容について口頭で共有したり、書いたものをパートナーや小グループに発表したりすることもある。	
スポーツ健康系	スポーツ心理学		スポーツには「見る」「する」「支える」など多様な関わり方があり、いずれの関わりによっても人の心は動くものとされる。この科目では、心理学的観点からスポーツを捉える方法について学ぶ。また、スポーツにおける人の心を記述・予測・説明・制御する知見について学ぶことで、自身のスポーツライフを豊かなものにすることを目指す。	
	スポーツ運動学		この科目では、スポーツ運動学の独自性、人間の運動の独自性、動感身体知の体系とその充実についてという三つのテーマについて扱い、「人間が運動を学ぶ営み」の内実をスポーツ運動学（発生運動学/現象学的運動学）の立場から明らかにする。	
	スポーツ文化論		この科目では、人々の生活の中から生み出されアイデンティティを受け継ぐ一旦を担っているともいえる「伝統スポーツ」と、我々のスポーツ観に大きく影響を与えている「近代スポーツ」が誕生した過程を学ぶことを通して、スポーツとは何かを考えていく。	
	スポーツマネジメント		現代におけるスポーツは「見る」「する」「支える」「調べる」というかわりのもとでさまざまな産業の発達に影響を与えてきた。スポーツ産業は経済活動に大きな影響を及ぼしており、スポーツと経済は切っても切り離すことができない状況にあるといえる。この科目では、オリンピックをはじめとしたスポーツマネジメントのかわりについて様々な角度から学び、自ら「調べる」ことによって、より現状理解を深める。	
	生涯スポーツ論		この科目では、「スポーツは人生を楽しむ手段として有意義なものである」という立場から生涯スポーツに関連する現状および今日的な課題について検討する。講義で紹介するテーマを足掛かりにして、受講生自身が生涯スポーツに関連する今日的課題を発見できることを期待する。	
	スポーツ社会学		スポーツをめぐるさまざまな課題や問題は、それを取り巻くより大きな社会課題や問題を反映している。この科目では、こうしたスポーツと社会に関わる現象についての実態や構造、その現象が起こるメカニズムなどを研究する。また、スポーツ社会学で取り扱われる多様なテーマに沿って、その視点や方法、基礎的な概念、研究知見や事例について概説する。	
	スポーツ医学		この科目では、ヒトの動きのメカニズムとスポーツ医学の基礎を学び、ケガや疾患の対処法を学ぶことで、安全にスポーツ活動を実践するための知識を身につけることを目的とする。スポーツ現場で生じる外傷、障害、疾患の予防法、評価法、治療法を学習し、傷害や内科的疾患に罹患した場合にでも、できるだけ早期にスポーツ現場へ復帰できるよう自分自身で考える力を身につけるようにすることを目的とする。	
	運動生理学		運動が身体にどのような影響を与えるのかといったことを生理学的な立場から学習する運動生理学は、健康のためだけでなく一流のアスリートにとってもトレーニング・プログラムを作成するための重要な学問領域である。この科目では、スポーツ医学やトレーニング科学の基礎学問として、運動と身体の応答について学習していく。	

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
基礎共通科目	健康と生命科学		この科目では、ヒトの生理学・医学的メカニズムを理解するとともに個人の身体的特徴を把握し、自分だけの健康マネジメントプログラムを作成できるようになることを目的に、私たちの生活の中で、健康を理解するために必要な15のトピックスを厳選し、最新の研究内容も織り交ぜながら講義の中で説明する。	
	スポーツコーチング論		この科目では、目的となるパフォーマンスレベルにアスリートを導く活動に関する理論であるコーチング学について、その知見に基づき、今後、受講生が自身のスポーツ活動ならびに、他者へのスポーツ指導に携わる際に知り得ておくべき最低限の知識について説明していく。 (オムニバス方式/全15回) (47 伊東浩司/9回) 授業の代表教員として授業の目標についてのオリエンテーションと授業のまとめ講評を行う他、コーチングの対象領域について解説する。また、「試合の計画・準備、試合中の指揮」「トレーニング(パフォーマンス形成)の目標設定と期分け」「トレーニングの期分け(ピリオダイゼーション)」「チームの組織化、選手発掘、スカウティング」「測定スポーツにおけるコーチング」をテーマに講義する。 (16 桂 豊/2回) 「判定スポーツにおけるコーチング」をテーマに、球技を取り上げて講義する。 (79 吉本忠弘/2回) 「評定スポーツにおけるコーチング」をテーマに講義する。 (59 曾我部晋哉/2回) 「判定スポーツにおけるコーチング」をテーマに、武道を取り上げて講義する。	オムニバス
	トレーニング論		この科目では、トレーニングの中でも「体力トレーニング」に焦点をあて、体力トレーニングの原理・原則や各種トレーニングの理論を理解し、スポーツパフォーマンスの向上や、健康および体力増進のためのトレーニング方法について概説する。また、各種体力や運動能力のデータを分析・評価し、授業で解説した内容や方法を基に、トレーニング計画やプログラムを立案し、スポーツ現場の課題解決のためのプロセスを体得する。	
	基礎スポーツ健康科学		この科目では、「コーチング環境の特徴」「スポーツの価値を守るスポーツ権」、「スポーツ事故におけるスポーツ指導者の法的責任」、「体力のトレーニング」、「社会の中のスポーツ 地域におけるスポーツ振興」、「対象に応じたスポーツとの関わり」などのテーマを取り上げ、スポーツ・健康に関する基礎知識を学ぶ。	
導入共通科目	甲南大学と平生飢三郎	○	この科目では、甲南大学の母体であった旧制甲南高等学校の創設に尽力した平生飢三郎の生涯と事業、さらに新制甲南大学をも含めて、甲南を築立っていった人材に焦点を当て、改めて甲南大学の建学の精神と教育理念、さらには伝統を認識し、甲南大学で学ぶことの意味を考えることを目的とする。 (オムニバス方式/全15回) (12 高 龍秀/9回) 「あなたの「天から与えられた才能」は何ですか」をテーマに講義する他、授業の代表教員として「甲南大学生として平生飢三郎から学ぶ」「甲南大学の歴史と文化を知る」「映像で学ぶ甲南大学」「多様性を阻む思い込みを知る」「東京海上時代の平生飢三郎」をテーマとしたゲストスピーカーによる授業や卒業生を招いた「甲南大学と私」の授業を担当する。 (32 中井伊都子/1回) 「甲南大学で学ぶ」をテーマに講義する。 (12 高 龍秀/1回) 「現代社会と切り結ぶ平生飢三郎」をテーマに講義する。 (12 高 龍秀/1回) 「平生飢三郎の社会的偉業の概要と甲南OBからのメッセージ」をテーマに講義する。 (12 高 龍秀/1回) 「平生飢三郎と政財界」をテーマに講義する。 (222 諸岡知徳/1回) 「平生飢三郎と新聞事業」をテーマに講義する。 (115 武田佳久/1回) 「平生の考えを共有し、プレゼンテーションする」ことを目的にグループワークを行う。	オムニバス

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
基礎 共通 科目	共通基礎演習	○	この演習では、甲南大学の建学の精神や教育理念について認識を深め、“甲南大学での学び”の意義を考え、学生生活を“より良き”ものとし、社会人・成人へとつながる生活のスタンスを形成し、自らのキャリア創生（人生のデザイン）に対する認識を醸成していく。プロジェクト型学習の形態をとり、いろいろな学部の学生が、どの学部かを意識せずに一つのテーマに多様にアプローチし、互いにコミュニケーションを図り、自然に多様なものの見方を身につけ、日本語力（考える、表現する、聞いて理解する、記憶し考え方を身につける）を大学・社会人レベルにアップしていく機運を次第に作っていくことを目指す。 (12 高 龍秀、24 梅本剛正、31 吉川 歩、61 久保はるか、88 小西幸男、89 野村幸宏、93 山本貴揚、96 篠田有史、103 千葉美保子、113 高砂孝緒、115 武田佳久、116 宮川貴美子、118 山本シャーリ、119 岡村こず恵、117 平井一樹/5回) (共同) 授業の目標を全体で共有した後、ミニプロジェクトを2回大教室で実施する。前半の3回分の授業時間を使って、課題解決に必要な知識や技能を高めるための研修「自己探求」を行い、そこでの気づきを活かして、7回分の授業時間を使って実施する、課題解決のための「プロジェクト学習」に取り組む。この「自己探求」と「プロジェクト学習」では学生は少人数グループに分かれるが、複数の教員が学生を指導する体制を維持して授業を行う。最後の2回の授業では大教室で研究発表会を実施する。	共同
	AI・データサイエンス入門	○	この科目では、はじめに最新のAI・データサイエンスの基礎知識を学び、どのような社会変化が進行中なのか、どのようなことが課題であり、どのような解決がもたらされているかを理解する。そのうえで、コンピュータを使った基礎的な実習に取り組み、データから知見を見いだすための方法の基礎について、体験を通じて学ぶ。さらに、様々なデータを安全に扱うためのセキュリティについて学び、情報を適正に管理するための原則についても学ぶ。最後に、最先端のAI・データサイエンス技術がどのように用いられているか、最新の研究トピックもふくめて学ぶ。 (オムニバス方式/全15回) (64 関 和広/7回) 社会で起きている変化と活用されているデータ、データ・AIの活用領域とそのため技術、データ・AI利用の現場と最新動向をテーマに授業する他、Pythonによるプログラミング、データ活用実践と題して、簡単なプログラミング実習を行い理解を深める。 (96 篠田有史/5回) 表計算ソフトを活用したデータの整理と可視化、データの説明のための統計処理の基本、データの説明のための統計処理の試行、表計算ソフトを活用したデータの説明をテーマに、簡単な統計処理を交えながら解説する。 (31 吉川 歩/3回) 「データ・AIを扱う上での留意事項」、「データを守る上での留意事項」をテーマに講義する。	オムニバス
外国 語科 目 (基礎 外国 語)	College English Reading	○	この科目では、英語で書かれた文章を読み、作者の意図を読み取る能力を伸ばすとともに、基本的なパラグラフ・リーディングの技能を身につける。これにより、基礎的英語読解力の向上を目指し、学部専門教育科目を受講するための基礎力と思考力を養うことを目標とする。	
	College English Writing	○	この科目では、英語で書かれた文章の構造について学び、作者の意図を英文で効果的に表現する能力を伸ばすとともに、センテンス・ライティングと基本的なパラグラフ・ライティングの技能を身につける。これにより、基礎的英語文章表現力の向上を目指し、学部専門教育科目を受講するための基礎力と思考力を養うことを目標とする。	
	College English Listening	○	この科目では、学習者の先行知識を生かして実際に話される英語を聞き取り、内容を理解する能力を養う。英語が実際に話されるときに音がどう変化するのか学習することを目的とする。	
	College English Speaking	○	この科目では、英語を母語とする教員の指導によるCommunicativeな学習環境の中で、英語を話す能力の伸長を目指す。オーラル・コミュニケーションを基礎とし、相手の意向を理解し、自分の意見を英語で話す実践的な英語運用能力を養うことを目的とする。	

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
外国語科目 (基礎外国語)	College English Topics I	○	この科目では、「数と計算」「図形」「物質の状態」「グラフと関数」「人体」などの理系のトピックについて英語で文献を読み、理解を深める内容言語統合型学習(Content and Language Integrated Learning(CLIL))を行うことで、理系の専門分野において、数式やグラフ・図・表の英語表現などを含む英語の文章の大意を理解する力と、自律的な学習習慣のスキルの獲得を目指す。	
	College English Topics II	○	この科目では、「電気・電子」「熱」「星と惑星」「イオン」「エネルギー」などの理系のトピックについて英語で文献を読み、理解を深める内容言語統合型学習(Content and Language Integrated Learning(CLIL))を行うことで、理系の専門分野において、数式やグラフ・図・表の英語表現などを含む英語の文章の大意を理解する力と、自律的な学習習慣のスキルの獲得を目指す。	
	College English Project I	○	この科目では、理系のトピックについて英語で文献を読み、調査した結果等を意見交換したり、発表したりする内容言語統合型学習(Content and Language Integrated Learning(CLIL))を行うことで、理系の専門分野において、基本的な概念を学び、興味のある内容について比較的平易な英語で口頭発表ができる力と、自律的な学習習慣のスキルの獲得を目指す。	
	College English Project II	○	この科目では、理系のトピックについて英語で文献を読み、調査した結果等を意見交換したり、発表したりする内容言語統合型学習(Content and Language Integrated Learning(CLIL))を行うことで、理系の専門分野において、基本的な概念を学び、興味のある内容について比較的平易な英語で口頭発表ができる力と、自律的な学習習慣のスキルの獲得を目指す。	
ドイツ語	基礎ドイツ語 I	○	ドイツ語を用いて「聞く・読む・話す・書く」の基本的なコミュニケーション能力を養成することを目的とした基礎ドイツ語について、基礎Iではとくに「読む・書く」の基礎を身につけるために文法事項の理解と習得に重点を置くとともに、ドイツ語圏の社会や文化についても学習する。	
	基礎ドイツ語 II	○	ドイツ語を用いて「聞く・読む・話す・書く」の基本的なコミュニケーション能力を養成することを目的とした基礎ドイツ語について、基礎IIではとくに「聞く・話す」の基礎を身につけるために、ペアワークやグループワークも取り入れて口頭練習に重点を置いて授業する。	
フランス語	基礎フランス語 I	○	この科目では、フランス語文法の基礎をゆっくりと学ぶ。発音、文字と綴り字の関係、基本的な文の構造を理解させ、「読む」「書く」面を中心としてフランス語を習得させる。また、正確な〈音読〉ができるようにすることを目指す。	
	基礎フランス語 II	○	この科目では、フランス語でコミュニケーションするための基礎能力を養う。CDやDVDなどの視聴覚教材も活用し、日常会話の初歩を学ぶ。「聞く」「話す」を中心とした講義ではあるが、基本的な表現は「書く」こともできるように指導する。	
中国語	基礎中国語 I	○	この科目では、中国語の入門科目として、文法事項をできるだけ分かりやすく解説した後で、簡単な中文和訳、和文中訳、中国語の「ピンイン」を漢字に、漢字を「ピンイン」に書き換える練習、中国語の文を作る練習、文法問題の練習をすることで、発音から基礎的な表現、文法、作文を習得し、読解や会話の基礎となる中国語の「読み・書く」能力を養成することを目指す。	
	基礎中国語 II	○	この科目では、日本人学習者にとって難しい中国語の有気音と無気音「-n」と「-ng」、そり舌音、前鼻音と後鼻音、声調(四声)の学習を通じて、中国語を初歩的な「リスニング、スピーキング、パフォーマンス」能力の養成を目指す。	
韓国語	基礎韓国語 I	○	この科目では、読解(読む・書く)を中心とする初修韓国語の学習に欠かせない母音字と子音字の組み立て、文章の構造、用言の活用などの文法事項の理解に重点を置く。辞書の引き方を習得し、単語の学習、初歩的な文章の翻訳、簡単な文章の作文を行う。	
	基礎韓国語 II	○	この科目では、会話(話す・聞く)を中心とする初修韓国語の学習に必要な平音・激音・濃音・鼻音・流音の正確な発音、連音化に伴うさまざまな発音の変化を学習する。正確な発音の習得に基づいて、会話文を習い、初歩的な日常会話の能力を身につけることに重点を置く。	

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
外国語科目 日本語 (基礎外国語)	大学日本語入門Ⅰ	○	この科目では、大学での勉学に支障なく参加できることを到達目標とし、大学において外国人学部正規留学生として求められる高度な日本語能力をより向上させるため、アカデミック・レベルの日本語能力の習得と定着に重点をおいて訓練を行う。	
	大学日本語入門Ⅱ	○	この科目では、大学での勉学に支障なく参加できることを到達目標とし、大学において外国人学部正規留学生として求められる高度な日本語能力をより向上させるため、アカデミック・レベルの日本語能力の習得と定着に重点をおいて訓練を行う。	
保健体育科目	スポーツ健康マネジメント演習Ⅰ	○	この科目では、生涯健康に生きるための理論、評価、実践を学び、自身の身体に向き合うことで心と体の基礎知識を身につける。体力テスト、健康リテラシー講義、対面形式での実技を組み合わせ、総合的な学習を行う。体力テストでは文部科学省推奨の新体力テストを実施し、自己の体力現状を客観的に把握する。健康リテラシー講義では、健康に関する正しい知識を学び、健康や体力向上への意識を高める。さらに、体を動かす楽しさや、スポーツを通じた仲間との協働やコミュニケーション能力を養い、授業を通して、将来的に健康で活力に満ちた生活を送るためのスポーツライフマネジメントを考えることに取り組む。	
	スポーツ健康マネジメント演習Ⅱ	○	この科目では、生涯健康に生きるための理論、評価、実践を学び、自身の身体に向き合うことで心と体の基礎知識を身につける。体力テスト、健康リテラシー講義、対面形式での実技を組み合わせ、総合的な学習を行う。体力テストでは文部科学省推奨の新体力テストを実施し、自己の体力現状を客観的に把握する。健康リテラシー講義では、健康に関する正しい知識を学び、健康や体力向上への意識を高める。さらに、目的別に2種類の領域を設け、その中から一つの領域を選択し半年間実践することで、それぞれの領域の目的を達成する。個別スポーツ教育領域では、選択した専門種目のスキルを更に向上させるための領域とし、選択したスポーツを卒業後も長く継続できる技術を学ぶことで生涯QOLの向上に寄与することを目的とする。総合スポーツ教育領域では、専門的なスキルがなくても、誰もが気軽に身体活動を実施することができるような種目領域とし、さらに積極的に学生同士のコミュニケーションを図れるような機会を創出することで心と体の健康増進に寄与することを目的とする。	
専門教育科目 必修科目	基礎物理学実験	○	物理学の基礎、すなわち「力学」、「電磁気学」、「原子物理学」、「振動・波動」に関連する11種類の入門的実験を体験し、これらの実験を通して、これまで曖昧であった物理の基本的概念を整理し、この後受講することになる必修講義科目「力学」、「電磁気学」等の基礎科目の理解を図る。 (オムニバス形式/全15回) (4 青木珠緒、5 市田正夫、1 梅津郁朗、2 小堀裕己、9 高吉慎太郎、7 山崎篤志、3 秋宗秀俊、8 井上剛志、212 須佐元、10 田中孝明、268 松田洋平、6 山本常夏、188 長谷川能三/1回) (共同) 本実験のガイダンスを行う。また、各回の紹介を行う。 (2 小堀裕己/1回) レポートの書き方や実験の心得について説明を行う。 (5 市田正夫、1 梅津郁朗、9 高吉慎太郎、3 秋宗秀俊、10 田中孝明、188 長谷川能三/6回) (共同) 各担当者が「重力加速度を測定する」「万有引力を調べる」「電流の作る磁場を調べる」「プランク定数を求める」「超音波で波動現象を調べる」の各テーマの実験を担当する。 (4 青木珠緒、7 山崎篤志、268 松田洋平、6 山本常夏、2 小堀裕己、188 長谷川能三/6回) (共同) 各担当者が「エネルギー保存則を確かめる」「電磁誘導現象を調べる」「電子の比電荷を求める」「光の速度を求める」の各テーマの実験を担当する。また実験ノート・レポートの書き方の指導を行う。 (8 井上剛志、212 須佐元/1回) (共同) 計算物理、シミュレーションについて実習を行う。	オムニバス・共同 (一部)
	物理学実験 1	○	力学、電磁気をはじめとして物理学全般にわたる項目について基礎的な実験を行う。主な実験題目は、ボルダの振り子、波の干渉、等電位線、弦の振動などである。ビデオによる予習を取り入れレポートや報告会を通してプレゼンテーション能力も養う。	共同
	物理学実験 2	○	力学、電磁気をはじめとして物理学全般にわたる項目について基礎的な実験を行う。主な実験題目は物理学実験よりも高度な回折格子、光電効果、電気回路、共振現象等である。一部に指導書のない自分で考える実験も取り入れる。ビデオによる予習を取り入れレポートや報告会を通してプレゼンテーション能力も養う。	共同

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門教育科目	物理学実験 3	○	物理学実験 1、2 の基礎的な実験を通して身につけた技術に応用し、物理学の専門的な研究に関連する基本的な5テーマの実験を行う。より発展的な物理の内容を理解し、より高度な実験技術を習得することにより、卒業研究を自ら考えながら進めていくことのできる力を養う。受講者は4グループに分かれ、所属するグループ毎に6回ずつ各テーマを受講し、全30回で5テーマを受講する。 (オムニバス形式/全30回) (4 青木珠緒、7 山崎篤志、3 秋宗秀俊、6 山本常夏/6回) (共同) 各担当者が「半導体と光」「電子物性」「原子核物理」「素粒子の検出」の各テーマの実験を担当する。 (4 青木珠緒、5 市田正夫、3 秋宗秀俊、7 山本常夏/6回) (共同) 各担当者が「半導体と光」「自動制御と自動計測」「原子核物理」「素粒子の検出」の各テーマの実験を担当する。 (1 梅津郁朗、5 市田正夫、7 山崎篤志、7 山本常夏/6回) (共同) 各担当者が「半導体と光」「自動制御と自動計測」「電子物性」「素粒子の検出」の各テーマの実験を担当する。 (1 梅津郁朗、9 高吉慎太郎、2 小堀裕己、3 秋宗秀俊/6回) (共同) 各担当者が「半導体と光」「自動制御と自動計測」「電子物性」「原子核物理」の各テーマの実験を担当する。 (9 高吉慎太郎、2 小堀裕己、3 秋宗秀俊、6 山本常夏/6回) (共同) 各担当者が「自動制御と自動計測」「電子物性」「素粒子の検出」の各テーマの実験を担当する。	オムニバス・共同
	力学 I		「運動」とは何かについて理解し、力学の基礎である「運動の法則」、「運動量と力積」について学び、「運動とエネルギー」について相互の関係性を学ぶ。応用として、「惑星の運動と中心力」について学び、力学の理解を深める。	
	力学 II		質点系および剛体のような広がりを持つ系では回転の自由度が加わり、力のモーメントや角運動量および慣性モーメントの概念が重要となる。また、異なる座標系の間の運動方程式の変換を扱い、特に回転系での遠心力やコリオリ力を含む運動について学ぶ。	
	電磁気学 I		電磁気学 I では、電磁気学の基礎にあたる静電気学について講義を行い、適宜演習を取り入れながら様々な問題を解く力をつける。電荷によって発生する電場についてガウスの法則や、静電ポテンシャルについて学ぶ。	
	電磁気学 II		電磁気学 II では、定常電流と静磁場について講義する。静磁場では静電場で得た法則に似た法則が得られるが、両者には重要な違いがある。即ち、磁場では単独の磁荷が存在せず、したがって磁場に関するガウスの法則からは磁場は発生せず、電場の渦なしの法則は磁場ではアンペールの法則となり、定常電流から静磁場が発生する。このような、電場と磁場の違いと深い関連について理解する。	
	量子論入門		本科目では、量子力学の前段階である前期量子論の黒体放射、光電効果、ボーアモデルを扱ったのちに量子力学の導入を丁寧に行い、1次元の無限井戸型ポテンシャル問題を理解して解くことができるようになることを目標とする。量子力学の理解を助けるとともに、量子力学の知識を必要とする他の専門科目の理解を助けることを目的としており、量子物理学コースの入門科目となっている。	
	天文学入門		天文学に関する最も基礎的な知識を獲得することを目的とする。具体的には太陽系の天体の運動、太陽エネルギー、一般の恒星の性質と進化、銀河系と膨張宇宙論について概要を理解する。本科目では、宇宙物理学コースへの入門科目となっている。	
	物理学卒業研究	○	分属した研究室において、特定のテーマについて教員の指導を受けながら1年間にわたり研究を行い、研究計画の企画・立案、実験装置の設計・製作、試料・文献収集、実験技術の習得、実験データ収集・解析等、研究の進め方を習得しつつ与えられたテーマの解決を図る。	共同

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門教育科目 選択必修科目 A	トピカル・フィジックス		<p>学科基幹教員の専門分野(原子核物理、天体物理、理論天文、X線・ガンマ線天文、エキゾチック核物理、宇宙粒子物理、光物性工学、光・量子エレクトロニクス、半導体工学、スピネレクトロニクス、量子物性理論、量子マテリアル)の最近のトピックスをオムニバス形式で紹介し、物理学の学びの動機づけや3年次からのコース選択の参考とする。</p> <p>(オムニバス形式/全15回)</p> <p>(7 山崎篤志/2回) この講義のガイダンスおよび量子物理工学コースの研究全般についての紹介を行う。 (10 田中孝明/1回) 宇宙物理学コースの研究全般についての紹介を行う。 (4 青木珠緒/1回) 有機半導体の光励起状態の研究についての紹介を行う。 (5 市田正夫/1回) 低次元系における非線形光学応答の研究についての紹介を行う。 (1 梅津郁朗/1回) ナノ構造半導体の創成と再生可能エネルギー材料への応用についての紹介を行う。 (2 小堀裕己/1回) スピネレクトロニクスに関連した多機能デバイス材料の物性探索について紹介を行う。 (9 高吉慎太郎/1回) レーザーによる動的現象・物性制御の理論的研究について紹介を行う。 (7 山崎篤志/1回) 新奇量子物質や超伝導体の電子構造と特異物性の起源に関する実験的研究について紹介を行う。 (3 秋宗秀俊/1回) 極限状態における原子核の物性について紹介を行う。 (8 井上剛志/1回) 星の形成や超新星爆発における粒子加速現象の理論的研究について紹介を行う。 (212 須佐元/1回) 初期宇宙での星・銀河の形成の理論的研究について紹介を行う。 (10 田中孝明/1回) 天文衛星を使った宇宙の観測について紹介を行う。 (268 松田洋平/1回) エキゾチック核の基礎研究と加速器開発について紹介を行う。 (6 山本常夏/1回) 宇宙の高精度観測と爆発現象の研究について紹介を行う。</p>	オムニバス
	力学基礎		1年次の後期から始まる必修科目「力学Ⅰ、Ⅱ」に先立ち、それらの準備学習として、高校の力学分野の復習から始め、力、運動エネルギー、運動量等の力学における必須の基本概念、および微分、積分、ベクトル、行列など、力学で必要とされる基礎数学を学習する。	
	電磁気学基礎		1年次の後期から始まる必修科目「電磁気学Ⅰ、Ⅱ」に先立ち、それらの準備学習として、高校の学習で不十分な物理量のベクトルとしての数学的取り扱いから始め、電場、電位等の電磁気学における必須の基本概念を学習する。	
	振動・波動		振動と波動の現象は力学・電磁気学を初めとする物理学の領域だけでなく、工学などの分野にまで広く関連している。本科目では、振動と波動についての基礎を学び、様々な場面で現れる振動・波動現象についての理解を深め、その後の専門分野への応用につなげていく。	
	微分積分Ⅰ		物理学において、微分積分は最も基本となる数学であり、力学・電磁気学を初めあらゆる物理学の分野で必要であり、微分積分抜きには様々な物理現象を記述することができない。本科目では、微分積分の基礎のうち、一変数関数の微分積分について学習する。	
	微分積分Ⅱ		物理学において、微分積分は最も基本となる数学であり、力学・電磁気学を初めあらゆる物理学の分野で必要であり、微分積分抜きには様々な物理現象を記述することができない。本科目では、微分積分の基礎のうち、多変数関数の微分積分について学習する。	
	線形代数学Ⅰ		物理学において線形代数学は、微分積分学に並んで重要な数学である。本科目では、行列の概念を利用した連立一次方程式の解法とその背景にあるベクトル空間の概念について学ぶ。この概念は、特に量子力学などで重要となる。	
	線形代数学Ⅱ		物理学において線形代数学は、微分積分学に並んで重要な数学である。本科目では、線形代数学Ⅰに引き続き、行列式の概念とその応用、および正方行列の対角化とその応用について学ぶ。この手法は、特に量子力学などで重要となる。	

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門教育科目 選択必修科目 A	プログラミング・AIのためのIT入門		本科目では、コンピュータを初めて使用する学生に、コンピュータの仕組みやWindowsについての基本的な知識を習得するとともに、科学技術計算の初歩を経験し、プログラミング・AIに関するよりアドバンスなコンピュータ科目を学ぶための基礎固めを行う。	共同
	ベクトル解析		物理学でよく用いられる数学的な道具を体系的に習得することを目標とする。数学的なスキルを身につけることにより、様々な物理現象の理解が容易になる。本科目では、常微分方程式とベクトル解析について学習する。	
	複素関数論		本科目では、物理学で用いる数学である、複素解析とフーリエ解析を扱う。複素解析では、複素数を変数とする関数の微分・積分を学ぶ。フーリエ解析では、関数を様々な周波数の三角関数で展開するフーリエ級数展開とフーリエ変換を学び、これらの手法を応用した、偏微分方程式の解法を学ぶ。	
	解析力学		本科目では、これまでに学んできたニュートン力学をより発展させることで、どのような座標系でも同じ形に運動方程式（ラグランジュ方程式）を書くことができること、運動方程式が最小作用の原理と呼ばれるより高位の自然法則から導かれることの2つのポイントを理解し、解析力学で導入されるハミルトニアンという関数や位相空間という概念や、量子力学や統計力学を学ぶ上で欠くことのできない概念を理解することを目標とする。	
	電磁気学Ⅲ		「電磁気学Ⅲ」では、電場と磁場を統一的に表す電磁場について学ぶ。まず特殊相対性理論を用い、動いている電荷がつくる場を記述することで、電場と磁場が互いに独立でないことを理解する。そして、電磁場を定式化したマクスウェル方程式を理解する。さらに、真空中を光速で伝わる電磁波や物質中の電磁場がどのように記述されるかマクスウェル方程式を用いて学ぶ。	
	熱・統計力学		本科目では、熱力学全般と統計力学の基礎を定量的に扱う手法を学び、その手法を用いて熱現象を巨視的および微視的な観点の双方から理解する。熱力学については、概念の理解も重要であるが、応用範囲が広く、エンジンなどの熱機関、結晶成長、化学反応等の議論に有用である。さらに、環境問題では熱エネルギーの有効利用に熱力学は有用な知見を与える。統計力学については、主にカノニカル集合に焦点をあて、分配関数から自由エネルギーなどの熱力学関数の導出の方法を学ぶ。出来るだけ具体例をあげてイメージしやすいようにする。	
	プログラミング・AI実習Ⅰ		本科目では、Pythonによるプログラミングを学び、物理学の研究で必要となるコンピュータに関する基礎的能力を身につけるとともに、昨今、発展著しい人工知能(AI)技術である機械学習の基礎についても学習する。	共同
選択必修科目 B	統計力学Ⅰ		統計力学では「確率的に一番実現しそうな状態」を計算し、それによって物理系全体の（マクロな）物理量（温度、圧力など）を計算する方法を学ぶ。確率を用いた議論によって物理状態を導き出すので、力学や電磁気学とはかなり異なった新たな考え方を学ぶことになる。本科目では、ミクロカノニカル分布・カノニカル分布・古典近似の方法について理解することを目標とする。	
	統計力学Ⅱ		「統計力学Ⅰ」に引き続き、物質のミクロな構造がマクロな物理量にどのように結びつくかについて学ぶ。特に量子力学的な効果が与える影響について詳しく調べ、具体的な系に適用する。また、相転移現象についての理解も深める。	
	量子力学Ⅰ		古典力学の範囲で説明できなかった物理現象が、どのような考え方のもとで説明可能となり、それらの解釈がどのように量子力学の確立に繋がったのかを、講義形式で説明し、具体的な計算を体験しながら理解する。また、量子力学がどのような学問であるかという知識だけでなく、より専門的な内容を学ぶ際に自身で「道具として使える」量子力学の習得を目指す。	
	量子力学Ⅱ		水素原子などの中心対称ポテンシャル問題で量子化した角運動量が現れたように、微小な磁性の素であるスピンは角運動量としての性質を持つことを見る。また摂動論を中心とした近似解法や粒子の散乱理論などについても取り扱う。	
	相対性理論		本科目では、相対論の中でも特殊相対性理論について学ぶ。特殊相対性理論の理解が進むにつれて奇妙な現象も「腑に落ちる」ことを目指す。さらに、特殊相対性理論を重力を含むように拡張した一般相対性理論の概要の理解する。	

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門教育科目 B	電気・電子回路		電気回路理論の基礎について、最初に、直流回路におけるオームの法則、キルヒホッフの法則、直流の電力などについて学ぶ。次に、正弦波交流の取り扱いについて説明し、簡単な回路の解析法、回路の諸定理を学ぶ。最後に基本的な電子回路についても学ぶ。	
	特殊関数論		物理学のさまざまな局面に現れる偏微分方程式について、その解法・性質について学ぶ。同時に、そこで現れる特殊関数に関して学ぶ。特に量子力学を中心とする物理学を理解するために必要となる曲座標、円筒座標のもとでの2階偏微分方程式の解法を理解することを目標とする。	
	物性物理学 I		物質が示す諸性質について、力学・電磁気学・量子力学・熱力学・統計力学・物理数学などの知識に基づいて考察する。本科目では、伝導電子の基本的性質、相互作用するフェルミ粒子系、周期構造内の電子、電子の運動と輸送現象を学ぶ。	
	物性物理学 II		物質が示す諸性質について、力学・電磁気学・量子力学・熱力学・統計力学・物理数学などの知識に基づいて考察する。本科目では、結晶と弾性体、弾性波、絶縁体の熱的性質、絶縁体の磁気的性質、超伝導の性質を学ぶ。	
	流体力学 I		弾性体力学および流体力学からなる連続体力学は、宇宙・地球におけるマクロな自然現象を記述する際に頻繁に用いられる。本科目では、連続体力学・流体力学の基本概念を理解し、その簡単な応用を習得することを目的とする。	
	流体力学 II		私たちの世界を構成する物質には、固体、液体、気体の三態に加えて、プラズマと呼ばれる電離気体の状態が存在する。本科目では、プラズマの単一荷電粒子の運動から、プラズマの集団的振る舞い、磁化プラズマの流体としての扱いまでの基礎を学ぶ。地球周辺の宇宙空間で発生する関連現象の紹介を交えながら、具体的な現象と関連づけた理解を深めていく。	
	プログラミング・AI実習 II		機械学習は自然科学分野でなくてはならないツールになっている。本科目では、プログラミング・AI実習 I に引き続き、機械学習や自然科学分野の研究で用いられる数学とデータ解析の基礎的な手法について学習する。	共同
	英語で学ぶ物理学		物理学において英語の能力は国際会議での発表や論文執筆などにおいて重要である。この授業では「英語を学ぶ」のではなく「英語で学ぶ」ことを通じて、理工系のスキルとして必須である英語の能力を向上させるとともに、物理の授業を英語で受けることにより、海外留学への準備も行う。	
科学英語		本科目では、理工系専攻の学生が取り組みやすい教材を用いて、専門分野の基礎語彙、聴き取り、読解、プレゼンテーション、討論などの基礎能力を伸ばす。専門分野において英語で発信する効果的なプレゼンテーションツールの作成法についても概略し、学生が実践発表を行う。		
コース別科目 C 2	電子物性工学		電子物性は物性物理学を形成する重要な分野のひとつである。本科目では、電子物性の中でも、特に、超伝導と超流動、磁気的性質、誘電的性質に焦点をあて、その現象と物理的機構についてできるだけわかりやすく説明する。	隔年
	光・量子エレクトロニクス		本科目では、光そのものの性質に始まり、光と物質との相互作用、レーザーの基礎、光の検出法や光の強度・偏光・波長の制御方法などについて学ぶ。さらに、これらを活用した測定技術や身の回りの機器についての理解を深める。	隔年
	量子情報工学		本科目では、そもそも情報とは何かということから始めて、情報の単位であるビットが古典と量子の場合でどのような違いが生じるのかを議論し、量子的なビットを用いて演算を行う方法や、それを実際にどのような物理系に実装すればよいのかについて学ぶ。	隔年

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門教育科目	光物性工学		<p>本科目では、物質を構成する原子・分子のスペクトルから導入し、固体中の不純物のスペクトル、固体のスペクトルを取り上げる。物質内の電子は特有のエネルギー準位を持つが、これがどのようなしくみで決まっているか、その結果スペクトルがどのような特徴を表すかを解説する。これらを基礎として光通信、発光ダイオード、太陽電池等の設計への応用に関しての実践的な講義も行う。</p> <p>(4 青木珠緒/14回) 原子から始まり分子、固体について、物質中の電子のエネルギー準位、および、その光学スペクトルの特徴について講義する。</p> <p>(4 青木珠緒、179 石橋明彦/1回) (共同) 半導体レーザー、LEDなど光デバイスの基礎から応用までのレビューを開発者の視点から講義する。</p>	隔年、共同 (一部)
	半導体デバイス		<p>半導体デバイスとは半導体を用いた電子素子のことであり、パソコンの中核的な部品として使用されているだけでなく、太陽電池、発光ダイオード、各種センサーとして広い分野で使用されている。本科目では、実際の半導体デバイスを題材としその構造と動作原理を物理学的な立場から解説する。半導体を例にとって現代物理学を学ぶのが大きな目的である。</p> <p>(1 梅津郁朗/14回) 半導体デバイスの構造と動作原理を物理学的な立場から解説する</p> <p>(1 梅津郁朗、155 藤原伸夫/1回) (共同) 半導体デバイスの最先端の製造過程を解説する。</p>	隔年、共同 (一部)
	量子物理工学リサーチ	○	<p>物理学卒業研究の準備のための講義科目である。各研究室に所属し、各研究室でどのような研究がなされているのかを理解する。その上で、4年次での物理学卒業研究を履修する際にどのような研究テーマを選ぶかを考え、そのためにはどのような知識や技術が必要かを理解して身につける。</p>	共同
少人数・参加型科目	数学演習 I a		<p>数学は物理学を理解する上で欠かせないツールであり、大学での物理学の学びには必要不可欠である。本科目では、大学で物理を理解する上で必要となる基礎的な数学力や計算力を具体的な物理の問題演習を通じて身につける。</p>	共同
	数学演習 I b		<p>数学は物理学を理解する上で欠かせないツールであり、大学での物理学の学びには必要不可欠である。本科目では、大学で物理を理解する上で必要となる基礎的な数学力や計算力を具体的な物理の問題演習を通じて身につける。</p>	共同
	力学・電磁気学演習 I		<p>必修科目である力学 I、電磁気学 I を理解する上で必要な数学的知識と計算力を実際に演習問題を解くことにより身につける。特に力学 I と電磁気学 I の授業で現れる微分積分および微分方程式やベクトルおよびベクトル解析などの力をつける。</p> <p>(オムニバス形式/全15回)</p> <p>(2 小堀裕己/7回) 力学 I の授業の進度に合わせた演習を行う。 (7 山崎篤志/7回) 電磁気学 I の授業の進度に合わせた演習を行う。 (2 小堀裕己、7 山崎篤志/1回) (共同) 理解度の確認を行う。</p>	オムニバス・共同 (一部)
	力学・電磁気学演習 II		<p>必修科目である力学 II、電磁気学 II を理解する上で必要な数学的知識と計算力を実際に演習問題を解くことにより身につける。特に力学 II と電磁気学 II の授業で現れる微分積分および微分方程式やベクトルおよびベクトル解析などの力をつける。</p> <p>(オムニバス形式/全15回)</p> <p>(6 山本常夏/7回) 力学 II の授業の進度に合わせた演習を行う。 (5 市田正夫/7回) 電磁気学 II の授業の進度に合わせた演習を行う。 (6 山本常夏、5 市田正夫/1回) (共同) 理解度の確認を行う。</p>	オムニバス・共同 (一部)
	ワークショップ II a		<p>これまでに受講した講義科目 (力学、電磁気学、数学関連の科目) の基礎学力を強化する。物理を理解する上で必要な知識と計算力を、実際に演習問題を解くことにより身につける。各自の理解度に応じて基礎から進んだ内容まで学習する。</p>	共同

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門教育科目 少人数・参加型科目	ワークショップⅡb		これまでに受講した講義科目（力学、電磁気学、数学関連の科目）の基礎学力を強化する。物理を理解する上で必要な知識と計算力を、実際に演習問題を解くことにより身につける。各自の理解度に応じて基礎から進んだ内容まで学習する。	共同
	ワークショップⅢa		これまでに受講した講義科目（力学、電磁気学、統計力学、量子力学、数学関連の科目）の基礎学力を強化する。物理を理解する上で必要な知識と計算力を、実際に演習問題を解くことにより身につける。各自の理解度に応じて基礎から進んだ内容まで学習する。	共同
	ワークショップⅢb		これまでに受講した講義科目（力学、電磁気学、統計力学、量子力学、数学関連の科目）の基礎学力を強化する。物理を理解する上で必要な知識と計算力を、実際に演習問題を解くことにより身につける。各自の理解度に応じて基礎から進んだ内容まで学習する。	共同
	ワークショップⅣa		これまでに受講した講義科目（力学、電磁気学、統計力学、量子力学、数学関連の科目）の基礎学力を強化する。物理を理解する上で必要な知識と計算力を、実際に演習問題を解くことにより身につける。各自の理解度に応じて基礎から進んだ内容まで学習する。	共同
	ワークショップⅣb		これまでに受講した講義科目（力学、電磁気学、統計力学、量子力学、数学関連の科目）の基礎学力を強化する。物理を理解する上で必要な知識と計算力を、実際に演習問題を解くことにより身につける。各自の理解度に応じて基礎から進んだ内容まで学習する。	共同
	天体観測ワークショップ		本科目では、観測天文学を実践を通して学ぶ。まず大学において事前講義・学習を行い、観測天文学とは何たるかを学び、観測テーマさらにそのテーマを調べるにあたって最適な観測天体を学生自身が選択し、観測計画を立案し観測準備を行う。その後、天体観測所に数日間滞在し、実際に望遠鏡を動かし、天体観測、さらに得られた観測データの解析に基づき、その結果の解釈を行い、報告書を完成させる。以上の過程を通して天文学・宇宙物理学における観測的研究を体験し、観測計画立案から観測データ取得、解析、さらには結果の解釈という一貫した観測天文学を学ぶ。	共同
	プログラミング・AI実践		本科目では、さまざまな物理現象を題材として取り上げ、その方程式をコンピューターを使って数値的に解き、可視化する。またAIを用いたデータ解析の実践的な演習を行う。その過程で物理現象を感覚的に理解するとともに、数値解析の手法・アルゴリズムについても学び、より進んだ勉強、研究のための糧を得る。	共同
選択科目	素粒子物理学		自然界にある全ての物質は基本的粒子である素粒子によって構成されている。素粒子物理学はこれらの素粒子の基本的な性質を明らかにし、物質とは何であるか、また宇宙はどのようにして始まったのかなどを解明する先端の学問である。本科目では、素粒子の理論と実験の基礎的な問題をとりあげ、その全体像を把握できるようにする。また、最先端の研究にも触れることにより、興味を喚起する。	隔年
	原子核物理学		「原子核物理学」では、陽子と中性子を構成要素とする有限量子多体系の基本的な描像について学習する。講義の前半では、原子核が見せる多様な側面を説明するために作られてきた模型について学ぶ。後半では、原子核と粒子が衝突して起こる様々な反応を説明するために作られてきた模型について学ぶ。	隔年
	天文学概論		本科目では、まず光度や光のスペクトル、また天体までの距離の測定法といった天文学を学ぶ上で必要不可欠となる基礎を学ぶ。さらに、宇宙の中で星がどのようにして生まれるのかについて、天体の動的な性質を記述する宇宙流体力学の基礎とともに学んでいく。	隔年
	宇宙物理学		現在の宇宙物理学の基礎となる事項についてその概要を学ぶ。まずビッグバン宇宙論の枠組み、宇宙の歴史と宇宙の構造の大きな形成について学び、次いで銀河の形成、星の構造の理論について学ぶ。さらに、ブラックホールや白色矮星といった極限的な天体についても学ぶ。	隔年
	量子線計測学		量子線（放射線、高いエネルギーをもった粒子）の計測は、原子核物理学、高エネルギー物理学の研究にとどまらず、環境、医療など幅広い分野で用いられる技術である。本科目では、量子線の計測に用いられる測定器の動作原理、特徴、用途を解説する。また、実験により得られた量子化された実験データの物理学的、統計学的な解釈についても考察する。	隔年

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門教育科目 選択科目	確率統計学Ⅰ		今後学ぶ専門科目や卒業研究において必要となる確率統計の基本について、確率の基礎概念や確率変数、代表的な分布を理解し、確率変数の和や種の平均と分散を学習する。実験によって収集したデータから何らかの結論を導出する際に用いられる統計処理について、その基礎を理解し、実行方法を習得することを目指す。	
	確率統計学Ⅱ		今後学ぶ専門科目や卒業研究において必要となる確率統計の基本について、1次元と多次元のデータ処理を通してデータの分析手法を理解し、統計的推測(推定・検定)を学習する。実験によって収集したデータから何らかの結論を導出する際に用いられる統計処理について、その基礎を理解し、実行方法を習得することを目指す。	
	解析学Ⅰ		本科目では、解析学の基礎として実数の基本性質、極限の概念、連続関数などについて再確認し、それを踏まえ、1変数関数の微分および積分を学習する。厳密な定義や定理の証明を理解することを重要な目的とし、理論を中心として再構築を行う。そして、自明と認めてきたことや形式的な証明に止まっていた性質等に対して「なぜ」を追求し、その問いかけに対し、確証を持って説明できる力を着実に身につけることを目指す。	
	解析学Ⅱ		本科目では、これまでに学習してきた微分積分の応用として、微分方程式の解法と現実問題への応用・関連を学習する。単に数学的に微分方程式が解けるようになるだけでなく、実際の現象との関連付け、求めた解の持つ意味を説明できるようにすることを目指し、解法と実際の実験を行き来し、両方の理解を深める。また、微分方程式を用いた数理モデルの手法についても学ぶ。	
	コンピュータサイエンス		コンピュータは様々な理論や技術の集積で構成されている。これらの個々の知識の詳細は今後専門分野を学習することで習得することとなるが、本科目では、それぞれの項目について深く学ぶのではなく、これらの「情報」がどのように表現され、蓄積され、通信されているのかの基礎について示すことを目的とする。	
	地学通論Ⅰ		本科目では、宇宙と地球の構造や進化について学び、地学分野の研究対象や方法を理解することを目指す。講義形式を主とするが、標本セットなどを用いた岩石・鉱物の事象を観察する実習や、火山活動や天体の運動を動画で観察する活動を中心とする回もある。授業構成を「宇宙の構造と進化」、「地球の構成」、「地殻の構成」の三部に分け、宇宙の階層構造や地球の形、大気と海洋の大循環、鉱物の分類、火山活動などを扱う。	
	地学通論Ⅱ		本科目では、宇宙と地球の構造や進化について学び、地学分野の研究対象や方法を理解することを目指す。講義形式を主とするが、標本セットなどを用いた岩石・鉱物の事象を観察する実習や、火山活動や天体の運動を動画で観察する活動を中心とする回もある。授業構成を「プレートテクトニクス」、「地球と日本列島の歴史」、「恒星の種類と進化」の三部に分け、大陸移動説や海洋底拡大説、プレート境界の種類とその影響、火成活動や変成作用、日本列島の形成過程、恒星の光度や進化について学ぶ。	
	化学通論Ⅰ		物理化学、無機化学、核化学、有機化学、生化学等の化学全般の内容を解説し、様々な「物質」の分子レベルでの解釈と、私たちが観察する巨視的レベルでの性質を結び付け、現代化学の発展と現代生活との関わりについて考究する。そして、物理学や医学・生命科学との関わり合いに化学が必要であり、化学の理論と手法が自然現象の解明に有用であることをともに考究する。化学史にはじまり、科学的測定、元素・化合物・周期表、モルと化学量論、水溶液における反応、酸化還元反応、エネルギーと化学変化といったテーマを通じて、化学の理論と手法を用い、物質のふるまいの解明のためのプロセスをマスターすることを目指す。	
	化学通論Ⅱ		物理化学、無機化学、核化学、有機化学、生化学等の化学全般の内容を解説し、様々な「物質」の分子レベルでの解釈と、私たちが観察する巨視的レベルでの性質を結び付け、現代化学の発展と現代生活との関わりについて考究する。そして、物理学や医学・生命科学との関わり合いに化学が必要であり、化学の理論と手法が自然現象の解明に有用であることをともに考究する。化学結合の基礎、気体の性質、分子間力・液体の性質、溶液の物理的性質、化学平衡、水溶液における酸塩基平衡、有機化合物・ポリマー・生体物質といったテーマを通じて、化学の理論と手法を用い、物質のふるまいの解明のためのプロセスをマスターすることを目指す。	
生物学通論Ⅰ		地球上の生物はすべて核酸を遺伝子として受けつぎながら、そこから必要な遺伝情報を取り出して核酸、タンパク質、炭水化物、脂質などのさまざまな機能分子を合成し、これらを巧妙に制御することで生命を維持し、増殖・進化してきた。すべての生命活動は細胞を単位として行われており、また一部の生物群は多細胞体制を進化させ組織分化を行うことで、1つの細胞では不可能な多様な機能を実現してきた。本科目では、これらの、生物に共通する生命の基本的な仕組みを学ぶ。 (オムニバス方式/全15回) (288 樋口里樹/8回) 細胞の形態や機能について解説する。 (287 樋口真之輔/7回) 生物の多様性と進化について解説する。	オムニバス	

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門教育科目	生物学通論Ⅱ		生物学と医学におけるヒトやマウスの遺伝学を中心に扱う。本科目では、毎回テーマを決めて生物学の基礎から応用としての医学、工学、社会学等の分野までの幅広い話題を提供し、特に専門外の人々にとって意外に感じられるようなテーマを解説する。各講義のテーマとして、生物学と医学の基礎から始まり、生命の起源、遺伝子の役割、進化のプロセス、放射線の影響まで幅広く探求し、科学と社会の関わりを深く理解するための知識を提供する。	
	地学実験		宇宙科学・天文学、大気圏の科学、固体地球物理学、地質学・古生物学など、地学分野全般にわたる実験・観測とそのデータ処理方法を習得する。授業においては、観察・実験の概念と基礎的操作の解説、レポート作成の指導は一斉授業で実施する（前期14回、後期9回）。この他に、地質野外実習（前期4回、後期4回）、地質学の応用的実習（前期2回）、天体観測（前期2回）、気象観察（後期3回）を一斉授業で実施する。また、観察・実験、観測は3グループに分割し実施する（前期12回、後期18回）。さらに、大学施設を使用し宿泊を伴う2日間の実習（地質野外実習、天体観測実習）を、集中講義（前期8回分、後期8回分）で実施する。 （オムニバス方式／全76回） （90 小荒井千人／2回）※一斉授業 地学分野の観察・実験の特性を含め、地質調査の必要性と求められる基礎的知識を解説する。 （90 小荒井千人／6回）※一斉授業 岩石（火成岩、堆積岩）の成因などの解説、標本を用いた観察方法と分類方法を修得する。 （90 小荒井千人／4回） 天体観測に用いる時間の概念の解説、観測方法と用いる機器の特性と取り扱い方を教室内で実機を用いて修得する。 （90 小荒井千人、156 松本邦勝／13回）（共同）※一斉授業 自身の観察・観測で得たデータを用いて、地質調査、天体観測のデータ整理と分析方法を実践的に修得し、レポートを作成する。 （90 小荒井千人／2回） 地質学の応用的実習として立体地質図模型を作成する。 （90 小荒井千人、156 松本邦勝／3回）（共同） 気象観測用ゾンデを用いて低層大気を観測し、大気の動きを解析する。 （90 小荒井千人、156 松本邦勝、164 三木雅子／30回）（共同） 3グループに分割し、地磁気の測定と観測データを用いた解析方法の修得、天気図の作成と読み取り方の修得及び数値予報の実践、火成岩の薄片標本作製と観察、同定方法の修得、化石標本を用いた各個古生態の考察、赤道儀を用いた太陽観察、回転水槽を用いた低気圧発生メカニズムの理解について修得する。 （90 小荒井千人、156 松本邦勝／14回）（共同）※集中講義 大学宿泊施設（白川台キャンパス）周辺に分布する地層を用いて事前の授業で学んだ手法を用いて地質調査の方法を実践的に学修する（前期）。そして、修得した地質調査の手法を用いて再度調査し、同地域の古環境を復元し地史の考察を試みる（後期）。 （90 小荒井千人、156松本邦勝、164 三木雅子／2回）（共同）※集中講義 大学宿泊施設（白川台キャンパス）の天体観測に良好な環境を活かし、事前の授業で学んだ天体観測法を用いて天体観測の手法を実践的に学修する。	オムニバス・共同（一部）
	基礎化学実験		化学実験において、物質の定性と定量は基礎中の基礎であり、その理論の正しい理解と実験操作の意義、正確な実験技術の習得はどのような分野の化学実験を行う場合でも必須となる。本実験科目では、無機定性分析および酸塩基反応、沈殿生成反応、錯体生成反応などを用いる容量分析の各実験を行う。これにより、無機定性反応と溶液内化学平衡を理解するとともに、実験器具と薬品の取扱い、および化学実験の基本的な操作と技術を習得する。また実験ノートの書き方、レポートの書き方などについても学ぶ。	共同

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門 教育 科目	基礎生物学実験		<p>本実験科目では、高等学校時代に生物に接する機会の少ない現状のもと、初めて生物学を学ぼうとする人々にとって、「自然から学ぶ」姿勢を養う目的で実験を設定している。はじめに、ミクロとマクロの形態観察を中心とした実験を行い、次いで、生理的また生化学的手法による生体反応や生体成分の実験を行う。生体の基本構造の観察、理解に始まって、その機能的な面まで、系統的に理解し、専門的な段階に移行する基礎段階として位置付け、各回の実験を通じて生体の基本構造や機能の理解を深める。</p> <p>(オムニバス方式/全45回)</p> <p>(40 向 正則/3回) 顕微鏡の取り扱いに関する講義を行う。 (36 本多大輔/3回) 淡水産プランクトンの観察を行う。 (26 今井博之/3回) 生物学で使用するガラス器具の取扱いについての説明を行う。 (71 武田鋼二郎/3回) 様々な微生物の観察を行う。 (63 上田晴子/3回) 植物組織の観察を行う。 (68 渡辺洋平/3回) 酵素の活性についての実験を行う。 (75 久原 篤、257 太田 茜/3回) (共同) 土壌生物の観察を行う。 (40 向 正則/3回) ショウジョウバエの観察を行う。 (99 後藤彩子/3回) アリの観察を行う。 (35 日下部岳広/3回) ホヤの観察を行う。 (288 樋口里樹/12回) シロアリ腸内寄生生物、ゾウリムシ、ユープロテス、動物組織の観察を行う。 (40 向 正則/3回) まとめ</p>	オムニバス・共同 (一部)
	博物館資料論		博物館活動の根幹の一つである、資料の収集・整理と整理の実際、資料の活用 のあり方などを学び、その基礎知識と技術の習得を図ることを目的とする。具 体的には週間講義(学内)と博物館・美術館(学外)での現地講義を行う。	共同
	博物館情報・メディア論		博物館運営と情報・メディアとの関わり、その意義を理解する。収集・管理・ 研究・展示・広報等、博物館の各運営業務における情報とは何か、そしてメ ディアが果たす役割や可能性、そして課題について学び考察する。VRやAR等、 メディアの発展に伴って、今日の博物館を取り巻く環境は急速に変化しつつあ り、そのような動向を捉え、自分なりのメディアリテラシーを身につけ、思 考・活用するための基礎的な能力を養う。	共同

(注)

- 開設する授業科目の数に応じ、適宜枠の数を増やして記入すること。
- 専門職大学等又は専門職学科を設ける大学若しくは短期大学の授業科目であって同時に授業を行う学生数が40人を超えることを想定するものについては、その旨及び当該想定する学生数を「備考」の欄に記入すること。
- 私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科若しくは高等専門学校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。
- 「主要授業科目」の欄は、授業科目が主要授業科目に該当する場合、欄に「○」を記入すること。なお、高等専門学校の学科を設置する場合は、「主要授業科目」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 高等専門学校の学科を設置する場合は、高等専門学校設置基準第17条第4項の規定により計算することのできる授業科目については、備考欄に「☆」を記入すること。

授 業 科 目 の 概 要				
(理工学部宇宙理学・量子物理工学科 文理融合コース)				
科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
基礎 共通 科目 (人文 科学 系)	A群 リベラル アーツ	哲学	この科目では、「哲学」という学問の入門的な講義を行う。哲学の代表的トピックのひとつである「自由意志」をテーマとし、デカルト、ホッブズ、スピノザ、ライブニッツ、ヒューム、カント、ベルクソン、サルトル、ストローソンなど、自由意志を論じた（近世以降の）代表的な哲学者の立場を見ていくことにより、テーマに関する理解を深める。この科目を通じ、過去および現在の哲学者たちが何を考えそして何を悩んできたのかを知ることができると同時に、先の見えない将来を主体的に生き抜くための「思考力」を養う。	
		倫理学	この科目では、倫理学の基本的な考え方を学んだ上で、より具体的かつ現実に即した問題として、安楽死・尊厳死、脳死・臓器移植、生殖補助医療といった生命・医療倫理学上の諸問題、世界の貧困、公衆衛生、気候変動、生物多様性といった地球規模の倫理的諸問題、および情報倫理や報道倫理といった現代の社会で考えるべき倫理的諸問題について学習する。	
		心理学	この科目では、われわれ人間の心の働きや行動について科学的に理解し、自分自身と他者についての理解を深める学問である心理学に関して、心の働きを支える生理的基盤はどのようなものか、私たちは世界をどのように知覚し、どのように新しい行動を獲得し、その行動を持続させていくのか、また感情を感じるということが心身にどのような影響をもたらすかについて学ぶ。	
		歴史学	この科目では、11世紀を中心に、平安京を舞台とした貴族や庶民の生活（都市衛生、トイレ事情、貴族邸宅と庶民住居など）や、当該期の社会状況（疫病、祭礼、賭博など）について、貴族が書き残した日記などの文字史料や絵巻物などの絵画資料を用いて、できるだけ具体的に時代像を描く。	
		文学	この科目では、イギリスおよびアメリカを中心とした文学作品を取り上げる。さまざまな文学作品を味わい、その作品を通して自分の生き方、考え方、愛について考えることで、自分の生活を豊かにすることができるようになることを目標とする。 (オムニバス方式／全15回) (51 岩井 学／5回) アメリカの文学思潮についてダイジェストで解説を行い、文学を「読む」ことを実践し、ミニレポートの講評を行う。 (109 大谷祐二／5回) ウォルト・ホイットマン、エミリー・ディキンソン、ラングストン・ヒューズ等を取り上げて解説していく。 (70 杉浦裕子／5回) 『ジェイン・エア』、『オリヴァー・ツイスト』、『人間とは何か』等を取り上げて、文化背景を織り交ぜながら解説していく。	オムニバス
		哲学プラクティス	この科目では、哲学の歴史や知識を学ぶのではなく、自分自身で且つ他人とともに哲学することを目指すため、哲学とは何か、その歴史はどのようなものかといった講義形式はとらず、自分自身に向き合い、他者の声に耳を傾ける姿勢や態度をもち、様々な課題や対話に取り組みながら、自己と他者に向き合い気づきを得ることを目的とする。	
		女性学	この科目では、働き方や子育てなどのケアへの関わり方、スポーツや恋愛、飲み会、就職活動の経験などのキーワードから、性別の違いにより身近で起こっている社会問題を「じぶんごと」として捉え、ジェンダー視点から批判的に考えていく。その際、女性学はもちろん、男性学も取り上げ、両性の立場から考えられるよう問題提起する。	
		現代の芸術	この科目では、美術館や文化施設が密集する全国でも有数のエリアである阪神間の美術館で見ることができる現代アートを主に取り上げ、地域の芸術文化への理解を深める。また国際美術展や地域の芸術祭などの動向もあわせて紹介することで、今日の芸術のあり方を学び、各自がアート作品を主体的に見る力を養う。	
		宗教学	この科目では、キリスト教や仏教など、諸宗教にかんする宗教学の基礎知識を学習することにより、現代社会や人間への視座を広げる。ヨーロッパ思想の源流の一つであるキリスト教の思想や文化への理解を宗教「学」ないしは宗教「哲学」という観点から深める。身体に注目することにより、身をもって聖書を読むことに挑戦する。日本語で宗教学を学ぶことを通じて、日本文化への自覚や反省を深める。	

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
基礎共通科目（人文科学系）	B群 人間を学ぶ			
	生態人類学		この科目では、人が自然とどのように付き合ってきたのかを知る学問である生体人類学に関して、その歴史、人類が行ってきた狩猟採集、牧畜、農耕など生業活動や環境への適応などの基礎知識をつけた後、人と自然環境の関係やそこで起きる私たちの生活により身近な問題や葛藤について考える。	
	環境と文学		この科目では、環境にかかわるさまざまな分野の文章やそれに付随する歴史的事実を学び、環境問題への意識や価値観を、共有し、正確に学ぶことを通じて、近頃のフェイクニュースや偏見などに惑わされない知見の基盤を作る。また、グループワークや発表を通じて自ら発言し行動する人材となるための体験を積んでいく。	
	芸術と社会		この科目では、企業と文化施設、アーティストランの組織と行政の文化施策、そして芸術とコミュニティについて、できるだけ具体的に紹介し、学生の生活と芸術の関係を考える機会とするとともに、芸術家や芸術とコミュニティの関わりについて自分の視点を形成することを旨とする。	
	生命と倫理		この科目では、医療や生命科学をめぐる急速な技術の発展により生じる、生命をめぐる倫理的諸問題について概観し、応用倫理学の一分野としての生命倫理学ではどのような筋道・発想で考えてきたかをみることを通じて、生命と倫理とが交差する領域について考察する。	
	人権（同和）の問題		この科目では、これから社会人になるにあたって必要な人権感覚や人権問題について知り、解決へ向けて展望を持てるようになるため、社会の具体的な人権問題を知る。そして教育との関連の中でどのようにその問題に向き合い、解決を図るのかについて、自分で考えることができるようになる。	
	感情・人格心理学		この科目ではまず、感情に関する理論及び感情喚起の機序について、感情が行動に及ぼす影響という観点から解説する。次に、人格の概念及び形成過程について基本的な理論を説明した後、人格の類型や特性等の考え方について解説する。また、感情が行動や適応に及ぼす影響、人格が対人関係や適応・健康に及ぼす影響について、最新の知見を含めて紹介する。	
DE&I入門		この科目では、ダイバーシティ（多様性）、エクイティ（公正）&インクルージョン（包摂）（以下、DE&Iと記す）について、多様な観点から学ぶことによって、多様化する現代社会で共生する知恵を学ぶ。本学の建学の精神・教育理念である「個性の尊重」や「共働互助」を、これからの社会でどう実現できるかについて受講者が深く考え理解を高めることを目的とする。 （オムニバス方式／全15回） （74 阿部真大／2回） 授業の中心メンバーとして講義全体の目標について説明を行うとともに、居場所づくりをテーマに講義する。 （45 北川 恵／2回） 育ちのなかのDE&Iをテーマに講義するとともに、授業の中心メンバーとして講義全体の総括を行う。 （80 笹倉香奈／3回） 犯罪・えん罪と社会的弱者、グローバル化とDE&I、DE&Iに関して学生ができることをテーマに講義する。 （104 関めぐみ／2回） 性的マイノリティと人権、スポーツとジェンダーをテーマに講義する。 （39 中里英樹／1回） 家族とジェンダーをテーマに講義する。 （52 奥野明子／1回） 労働とジェンダーをテーマに講義する。 （83 大西彩子／1回） 学校と職場のいじめ問題をテーマに講義する。 （54 石川路子／1回） 障がい者と働き方をテーマに講義する。 （45 北川 恵／1回） グローバル化と在日外国人をテーマに講義する。 （65 中町信孝／1回） イスラームと共生をテーマに講義する。	オムニバス	

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
基礎共通科目（人文科学系） C群 文化を学ぶ	ことばと社会		ことばというものは我々にとっては当たり前の、固定された「ツール」のようなものと考えられがちであるが、一方で時代とともに変遷し、また同時代的にもさまざまな影響力を持つ「生き物」のように捉えられることもある。この科目では、ことばが変遷したり、あるいは社会現象を形作ったりするという事実の背後にどのような人文科学的な営みがあるのか、特に国際的な標準言語と考えられている英語に焦点を当てて紹介する。 (オムニバス方式/全15回) (41 中谷健太郎/5回) ことばの変遷～過去の再構築から方言までをテーマに解説を行い、確認テストを通じて授業の理解度を深める。 (44 MARTIN Andrew Thomas/5回) 社会階層やジェンダー年齢といった社会的な要素の言語への影響をテーマに解説を行い、確認テストを通じて授業の理解度を深める。 (110 上林朋広/5回) 複数のことば～植民地主義がつくりだす多言語状況を考えるをテーマに解説を行い、確認テストを通じて授業の理解度を深める。	オムニバス
	コミュニケーション論		この科目では、「社会学」の視点に基づいて、コミュニケーションの前提となる「自己」と「他者」に関する知見を学び、それらが織り成す「コミュニケーションの複雑さ」について理解・分析できる素養を身につけることを目標とする。	
	イメージと文化		この科目では、私たちの身近にあふれるイメージ＝映像文化について理解を深めるため、①映像の原点・原理 ②映像と表現の方法 ③映像と社会の3点を軸にし、歴史的視点を土台として多数の実例（視聴覚資料）を紹介しながら、映像文化の諸相を検討していく。また、専門を問わず様々な学問に取り組み上で基礎となる知識と思考法を提示する。	
	日本語の諸相		この科目では、日本語の音声・文字表記・語彙・意味・文法・方言・表現に関する話題をもとに、「日本語という言語」のさまざまな姿について解説し、現在から近い将来に向けて「日本語」が直面している（しかし、日本人は意識していない）課題について考える。	
	比較文化		この科目では、明治時代の小泉八雲（ラフカディオ・ハーン）が記した『日本の面影』という作品を読んでいく。この作品を通して、小泉八雲が日本文化や、それと相対（あいたい）する文化をどのように捉えていたか、同時代の資料を基に考えていく。	
	芸術学基礎論		この科目では、美術館や展覧会に関心がある方、あるいは美学や美術史を学びたい方のための芸術に対する基礎的な知識を得るための授業である。芸術家の具体的な制作プロセスや展覧会の歴史・変遷を通して、美術を楽しむ・作品を味わうための眼差しや知識について学び、作家・作品・鑑賞者との関わりについての理解を深める。	
	現代思想		この科目では、フランス・フェミニスト哲学入門である。「女性」が「人間＝男性」に対する「他者」として劣位に位置付けられてきたという伝統的な西洋哲学を踏まえ、20世紀半ばから現代フランスにおいて、性差に基づいた社会的な抑圧構造に、思想および実践の両面からどのような批判的考察が加えられたのかを辿る。	
	近現代の文学		この科目では、宮沢賢治の文学を中心に取り上げ、食べて生きるとはどのようなことか、宇宙や自然と人間はどのように関わり合えばいいのか、本当の幸せとは何か等について考えていく。また、賢治の童話が生まれてくるまでの、明治から大正にかけての童話ジャンルの形成についてもふれる。さらに賢治の文学が、現代のアニメーション文化などにも大きな影響を与えていることについても学ぶ。	
	日本研究		日本の古典文学の中には、異能、異形、異類、異界（異郷）、異国など、「異」と表象される存在が描かれる。この科目では、この「異」というキーワードをもとに、日本の古典文学（鎌倉時代の説話文学を中心に上げる）を支える価値観や思想を知ったうえで、物語を通して、自らと他者を考えるための視点を持つことを目的とする。	

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
基礎共通科目（人文科学系）	C群 文化を学ぶ	越境する文化と文学	人や文化が様々な移動するグローバル化した現代の世界で明らかになりつつあることは、国家や国民、国語、あるいは民族や文化といった旧来固定化されたものだと思われてきたカテゴリーの境界を越えたり、複数を混じり合わせたり、間を流動するような現象が当たり前になったという事実である。文化や文学も例外ではなく、○○文化や○○文学の空欄に国家や民族の名前を入れた表現ではこぼれ落ちてしまうような現象が様々なところに見られる。この科目では、そのような「越境する」現象として、大英帝国発の文化や移民の歴史、ユダヤ文学や現代日本の文学、南アフリカの歴史、言語、文学までを、3人の担当者がそれぞれの専門を軸として講義を行う。 (オムニバス方式／全15回) (53 秋元孝文／5回) 芸術ジャンルを越境するをテーマに、「Harry Potter 原作 vs 映画」「『風の谷のナウシカ』原作 vs アニメ」等の事例を使って講義する。 (110 上林朋広／5回) 植民地主義と文学、酒と漂流をテーマに、シェイクスピアやJ.M. クッツェーなどを事例として取り上げながら講義する。 (98 浜本隆三／5回) 越境する文化と「帝国」だったイギリスの過去について、「奴隷貿易の過去」や「ウィンドラッシュ号到達70年」などのトピックを用いて講義する。	オムニバス
	伝統文化を学ぶ	甲南大学は日本の伝統文化で活躍する卒業生が輩出している。能楽・お花・お茶の分野を中心に、各界で活躍する卒業生が講師として、それぞれの領域について特色や魅力を紹介していく。この科目を通して、日本の伝統文化に関する理解を深めるとともに、グローバル人材に求められる自国の文化を語るができる基礎的素養を養うことを目指す。またこの科目を通じて「甲南の文化力」を伝える。 (オムニバス方式／全15回) (25 佐藤泰弘／2回) 能楽と文化史に関する講義を行い、日本の伝統文化に関する理解を深め基礎的素養を養う。 (25 佐藤泰弘、15 伊庭 緑／6回) (共同) 能楽や神社、寺院をテーマに講義を行い、これらの文化が現代にどのような形で息づいているのかを対談形式の授業を通じて理解していく。 (25 佐藤泰弘、15 伊庭 緑／2回) (共同) 能楽をテーマに講義を行い、それが現代にどのような形で息づいているのかを対談形式の授業を通じて理解していく。 (25 佐藤泰弘、283 福田龍庵／1回) (共同) 日本の茶道家元の一つである数内流について講義を行い、茶道という伝統文化が現代にどのような形で息づいているのかを対談形式の授業を通じて理解していく。 (25 佐藤泰弘、282 小原宏貴／1回) (共同) お花をテーマに、いけばな小原流を事例に上げながら実演や講義を行い、お花という伝統文化が現代にどのような形で息づいているのかを対談形式の授業を通じて理解していく。 (25 佐藤泰弘、282 小原宏貴、15 伊庭 緑／1回) (共同) お花をテーマに、いけばな小原流を事例に上げながら実演や講義を行い、お花という伝統文化が現代にどのような形で息づいているのかを対談形式の授業を通じて理解していく。 (25 佐藤泰弘、201 小笠原秀邦／1回) (共同) 小笠原流煎茶道をテーマに講義を行い、煎茶という伝統文化が現代にどのような形で息づいているのかを対談形式の授業を通じて理解していく。 (25 佐藤泰弘、282 小原宏貴、15 伊庭 緑／1回) (共同) これまでの授業を振り返り、「伝統文化を学ぶ」ことの意義について、対談形式の授業を通じて総括する。	オムニバス・共同 (一部)	
D群 歴史を学ぶ	社会思想史		この科目では、デカルト、ロックからカントまでの代表的な近世哲学者の思想を紹介し、西洋近代的な思考スタイルに通底するいくつかの特色をつかむとともに、私たち自身が無意識的にとっている思考態度を見直す機会とする。	
	歴史と文化		この科目では、中世を舞台とした小説ウンベルト・エーコ『薔薇の名前』を手がかりとして、中世文化にまつわるさまざまな問題を取り上げながら、過去の世界を読み解く術を探り、中世ヨーロッパという過去の世界がいかなるプロセスを経て明らかにされるのか、史実とフィクションの間にどのような違いがあるのか、現代社会において「中世」を理解することにどんな意味があるのかを考える。	
	文学と歴史		この科目では、鎌倉時代に編纂された説話集の『宇治拾遺物語』を中心に、中世の説話集を読んでいく。鎌倉時代に、どのような物語が語られていたかを読むことで、当時の文学に通底する思想や価値観を考えるきっかけとする。	
	地域と文化		この科目では、地域の文化がどのようにして生まれるのか、どのように変化したのか（あるいは変化しないのか）、今後どうなるのか、景観、物語（フィクション）性、遊び、生活、観光・・・さまざまな角度から、現在、過去・未来の時間軸をたてて、具体的な例を現場のスライドを示しながら、考える。	

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
基礎共通科目（人文科学系）	D群 歴史を学ぶ	芸術史	「美術館」の成立過程を概観した後、「美術館」をめぐる様々な言説を検討することで「近代（モダン）」という時代が見えてくるといえる。この科目では、「モダン」から「ポスト・モダン」への思想の移行を読み解くとともに、現代のアート・シーンでの「美術館」の役割、その可能性も検証する。	
	歴史とメディア		7世紀の西アジアに生まれたイスラームという宗教、およびその文明は、世界史において大きな役割を担い続け、現在における国際情勢の中でも鍵としての存在感を保っている。この科目では、メディアの果たした役割に注目して、この広大な文明圏の歴史を辿る。	
	国際化の歴史		この科目では、いわゆる「鎖国」下の「日本」における国際交流の様相を紹介し、従来の「鎖国」イメージではなく、意外と閉ざされていなかった江戸時代について理解を深めることを目的とする。現代日本が置かれた国際的位置についても考える際に、近代の開国から国際交流を考えるのではなく、江戸時代の国際交流の有り様を踏まえて理解できることを目指す。	
	生活の歴史		私たちの生活は、どのようなモノ、行為、関係で成り立っているのか。この科目では、ヨーロッパと日本の近代を対象にしつつ、衣食住を中心的なテーマとしつつ、結婚、出産、育児、教育、介護などの生活行為、および感染症の歴史についても触れながら、生活を構成する事物と関係性について講義する。	
基礎共通科目（社会科学系）	A群 リベラルアーツ	社会学	この科目では、私たちの最も身近なものであると同時に最も認識しにくいものとされる「社会」という概念を社会学の基本的な理論とともに学び、また実際の社会現象の解釈の実例を理解することで知識を定着させると目的とする。	
	法学		法はしばしば自分とは縁遠いもの、何か堅苦しいものであるかのように捉えられがちであるが、実は私たちの日常生活の多くの場面に息づいており、基本的な法律の素養を持つことはこれから社会人となっていく中で、多様な場面で護身にもなり、武器にもなる。この科目では、①法を身近なものとして認識し、基礎的な素養を身につけること、②基本的な法的思考（リーガル・マインド）を理解し、基本的な実践ができるようになること、の2つの習得を到達目標とする。	
	経済学		この科目では、経済学の基礎を学ぶことで、新聞やテレビで報道されている経済用語や経済ニュースをより深く理解できるようになり、かつ適切に使用できるようになることを目指す。	
	経営学		この科目では、経営学の学説における管理過程論、人間関係論、近代組織論を中心に学習し、経営学という学問がどのような社会問題を解決するために生まれてきたのか、具体的にどのような学説が生まれ、発展してきたのかについて、具体的事例に基づいて学んでいく。	
	政治学		この科目では、政治学の基礎的な知識・理論の習得を目標とする。また、「歴史・思想」「現代政治」「国際政治」の学びを通して、現代社会を生きていくうえで必須の素養である「政治」を学問的に理解しつつ、習得した知識や理論を基に、現代の具体的な政治現象や課題を主体的に考察し、自らの言葉で説明ができるようになることも目標とする。	
	地理学		この科目では、人文地理学に関連する情報について、映画やドキュメンタリーといった情報を交えて紹介しながら、施設の立地、食と地域、都市と農村などのテーマを取り上げ、これらについて自ら考えることを目的として実施する。	
	国際関係論		この科目では、最初に、関係性の捉え方をいくつかの伝統的な手法から最近の多重的な関係性理論を学び、そのうえで、具体的な国際問題を取り上げ、その解決を図るために動いている国家と国際機構のあり方を考えていく。	

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
基礎 共通科目 (社会科学系)	B群 経済を学ぶ	産業と経済	この科目では、情報通信産業・エネルギー産業の現状や今後の動向、問題点等について、さまざまなケーススタディを通じて経済学の観点から考察することを目的とする。	
	企業と情報	近年、企業レポートにおいて、年次報告書（財務情報）やサステナビリティ報告書、CSR報告書（非財務情報）のボリュームが増えたことで、一般的なステークホルダー（投資家などの情報利用者）の情報処理能力をはるかに超えるとの指摘がなされるようになってきている。これを背景として、既存の様々な報告書のエッセンスを簡潔な一つの報告書(One Report)に統合しようとする試みである「統合報告」(Integrated Reporting)が英国で提唱され、グローバルに普及しつつある。この科目では、新しい時代の企業レポートや「統合報告」について解説する。		
	歴史と経済	この科目では、20世紀前半に日本が領有していた「植民地」における政治・社会・経済の展開について、台湾を事例に講義を行い、歴史学（日本植民地研究）の成果を学び、それに基づいて、書籍・テレビ・インターネットなどを通じて提供される植民地に関する言説を批判的に検討できる「目」を養うことを目指す。		
	現代社会と企業	この科目では、日本企業の戦略・管理・組織・取引という概念を中心に、日本企業の経営行動にどのように特徴があるのか？それが欧米企業に比して、どのように異なっているのか？また、このような相違がどのような機能と逆機能を生んだのかを学習していく。		
	世界と経済	この科目では、毎回、前週の時事経済問題をおもに日本経済新聞を材料にした資料を使って解説する。また、経済学部以外の受講生を念頭に置き、市場、景気、金融、財政、為替、貿易などといった経済学の基本について解説する。		
	暮らしと経済	この科目では、前半に経済学の視点から環境問題の本質は何か、対処法としての環境政策の現状と課題、最新の環境問題とその経済的アプローチについて紹介し、後半で、環境の価値と評価する方法についての説明に加え、これらの評価手法が実際の環境政策にどのように応用されているかを紹介する。		
	福祉と経済	今日の日本社会においては、少子高齢化や所得格差に対して、年金、医療、介護、生活保護等の社会保障制度を整合的、総合的なシステムとして構築することが喫緊の課題となっている。この科目では、日本の社会保障制度を理解するための基本事項について解説を行なう。		
	社会とファイナンス	現在の日常生活において、貨幣（お金）は財貨・サービスに共通する尺度であり、社会生活を支える交換手段になっており、信用経済のもとでは、個人であれ企業であれ、常にコスト意識をもつことは重要であるといえる。この科目では、コスト意識とキャッシュ・フローの重要性を理解し、履修者が合理的な経済人として活躍できる基礎知識を身につけることを目標とする。		
	SDGsとISO国際標準	この科目では、地球環境課題に対するSDGsの取り組みを理解するとともに、国際標準であるISO/IECの内容を理解することで、地球環境保全を推進するにあたり、品質管理、サイバーセキュリティ、地球環境・エネルギー保全という課題解決に向けた役割を理解することを目標とする。		
C群 社会を学ぶ	現代社会論	この科目では、「自己と他者」「多様な性」「労働」「家族」「医療」「介護」など、自分たちが生きている現代社会に関するさまざまなトピックについて、社会学の観点から理解・分析できる素養を身につけることを目標とする。		
	現代都市論	この科目では、都市が生み出す現象の解明や、都市を生み出す力の所在を探索する学問分野である都市社会学について、その理論と方法をもとに、現代都市の構造と文化について概説し、「都市的なるもの」についての理解を深めることを目的とする。		
	公共哲学	この科目では、功利主義と呼ばれる現代の有力な立場を紹介したうえで、その問題点を検討し、後半では、日本の功利主義者・市井三郎による、水俣をめぐる考察の問題点を検討することで、功利主義とは別の哲学の可能性を探る。		

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
基礎共通科目（社会科学系）	C群 社会を学ぶ	環境人間学	人間をとりまく環境は、身体と行動を介しながら自然環境、社会環境、文化環境、生活環境、精神（心の）環境などから構成されており、これらの環境は、人間と無関係ではなく、人間とかかわることによって成立しているといえる。この科目では、環境人間学（および環境と社会）のアプローチから環境と人間との関係、地球環境および地域環境をとりまく環境問題の構造、環境問題の解決のための方向づけについて、理解を深める。	
	社会福祉論	この科目では、社会福祉の基盤となるソーシャルワークに関連する内容として、社会福祉やソーシャルワークの形成過程、現代の社会福祉関連法や制度、社会福祉の実際について学び、それらの内容を踏まえて、現代における社会福祉について理解する。		
	家族関係論	現代社会では、少子高齢化や人口減少、グローバル化や情報化など、めまぐるしい社会の変化や価値観の多様化の中で、家族もそれに関する課題も多様化している。この科目では、現代社会における家族のゆくえを、社会学およびジェンダー論の視点から考察する。		
	歴史と社会	この科目では、遊牧民である鮮卑（せんび）によって建国され、支配下に漢人・突厥人・ソグド人などを抱え込んだ多民族国家である中国の唐王朝で暮らした人々の一年を、その年中行事を追いかけながら見ていき、中国の文化についても適宜トピックをたて取り上げながら、異なる時代・地域に生きた人々への興味・関心を深める。		
	ボランティア論	阪神淡路大震災、そして東日本大震災を経験した日本社会では、「ボランティア」に対するとらえ方、参加の仕方も変化を遂げてきている。この科目では、1995年から現在までの「ボランティア」や「社会貢献」などのとらえ方、活動について事例をあげながら、日本社会や私たちの身近にある「ボランティア」活動の動向について学ぶ。また、SDGs・企業・災害・寄付・国際協力といった多様な場面の中でボランティアはどのような期待を持たれているのかについて考える。		
	グローバリゼーションと文化	この科目では、グローバリゼーションがどのような影響を社会に与えているのかについて、身近な生活文化の片葉、それらをもたらす企業活動、さらに難民の発生、国際移住労働者をとりまく政治的経済的な社会問題、そのなかで重要視される人権保障の取り組みなどを通して理解したうえで、国家・地域間の相互関係について考察を深める。		
	地域連携入門	この科目では、まちの問題について学習者が事前に下調べをしたうえで、自治体や地域団体で問題解決に取り組む実践者をゲストに迎え、自治体や地域団体、教育機関等との連携による取り組み事例を学ぶ。観光、まちづくり、子育て、地方創生など、各地の多様な取り組みの連携による効果を検証し、課題を展望する。		
地域とメディア	この科目では、メディア・リテラシーの力が問われる情報化社会において、幅広い知識を身につけた上で、メディアから正確な情報を選び出せるよう、接する情報に対して批判的な見方を養い、自らの考えを的確に持ち、他者に伝えるコツを身につける。 (61 久保はるか、169 富居雅人/5回) (共同) 神戸新聞社に勤務する講師が、ネット社会とメディア・リテラシー、「伝える」を考える、防災と減災のリテラシーなどをテーマに解説を行い、もう一人の講師が対談形式で授業を進行することで学生の理解を深めていく。	共同（一部）		
D群 法と政治を学ぶ	日本国憲法	日本国憲法は、表現の自由や思想・良心の自由などの基本的人権を私たち一人ひとりに対して保障しつつ、国会・内閣・裁判所などの統治機構の組織・権限について定めており、簡潔で抽象的な条文しか備えていないものの、私たちが生きる社会の基盤となるルールである。この科目では、日本国憲法が示す基本的な考え方と仕組みについて、主要な学説と最高裁判所の判例に則って概説しつつ、憲法学の入門的知識を提供する。		
	社会生活と法	この科目では、雇用と就業形態、労働条件の決定と変更、労働者に支払われる金銭、労働と時間、災害と失業、雇用の終了など、労働をめぐる法制度を中心に解説する。		
	現代政治論	この科目では、正義に関する抽象的・哲学的な理論の大枠を押さえた上で、近年のマイケル・サンデル「白熱教室」ブームなどを通じて関心が高まりつつある現代政治哲学の議論を手掛かりに、これらの議論に関係する具体的に応用的な論点として、福祉国家・多文化主義・ジェンダーの平等などの問題も考えることにより、現代政治の問題を分析する基本的な視点を習得することを目標とする。		

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
基礎 共通科目 (社会科学系)	D 群 法と政治を学ぶ			
	法と情報		この科目では、自ら気軽に情報や意見を発信し、また受け取ることが可能になった現代社会において、これら情報の取り扱いをめぐって生じてくる様々な法的問題について、とりわけ憲法学の観点を中心に置きつつ、幅広く学ぶ。	
	環境法学		この科目では、都市景観、自然環境、水環境、廃棄物など、私たちの生活における環境問題と行政との関係を法的な観点から考え、環境法学に関する基礎的知識を習得することを目標とする。	
	家族関係と法		家族を形成することにより人はさまざまな問題に向き合うことになる。この科目では、家族に関する問題を、日項目にする新聞やインターネットの記事、文献などを通して、法律がそれらの問題をどのように解決すべきと考えているのかを学び、現行法がそれらの問題に十分な手当てができていないかを考える。	
	少子高齢社会と法		この科目では、少子社会と超高齢社会に分けて講義し、これらの社会の現状と課題について理解する。	
	財産と法		現代社会では、財産との関係をもたないで生活することはできない。この科目では、財産と人との関係が法的にはどのように理解されるのかを明らかにしていく。また、財産といってもその種類はたくさんあり、その種類に応じて規制が異なる。そうした点についても、概略的な知識を持てるようになることを目標とする。	
	消費者問題		この科目では、消費者契約法や特定商取引法の解説を踏まえたうえで、靈感商法やネットトラブル、詐欺的商法など各種の消費者トラブルを取り上げ、それらへの対処について検討する。	
	市場と法		この科目では、在学中に日本経済新聞や東洋経済などの雑誌を読んで、ビジネスやマーケットというものを身近に感じることができるよう、一週間の間に生じたビジネス関係の事件や出来事についても取り上げながら、法と規制という側面に絞って学ぶ。	
	組織と法		この科目では、法学部学生以外を念頭に置き、一週間の間に生じたビジネス関係の事件や出来事についても、授業で簡潔に説明を加えながら、株式会社の法的基礎を理解できるよう解説する。	
まちづくりと行政		まちづくりは、行政だけではなく住民が重要な担い手と位置づけられており、行政と住民との協働の仕組みが施されている。さらには、それに協力する企業や専門家など、多くのアクターが関わっている。この科目では、まちづくりの法制度とそこにおける行政の役割について、まちづくりの実例を紹介して具体的なイメージを持ってもらいながら、まちづくりの法制度の仕組み・運用・課題について学ぶ。		
地域創生		この科目では、地方自治体の制度、人口減少・少子高齢化社会、国と地方の財政状況などについての現状を理解するための基礎的な知識を習得し、なぜ今「地域創生」が必要とされるのか、現状について考える。その後、地域創生の方向性をめぐる議論や具体的な取組み事例を材料に、地域創生のあり方について考える。		

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
基礎 共通科目 (自然 科学系)	A 群 リ ベ ラ ル ア ー ツ	数学	この科目では、文系にはなじみの薄い線形代数を前半に取り上げ、線形代数と微積分が理系で必須とされている理由について考えながら、高等学校までの数学と一味違う(大学での)数学を味わうことを目指す。また、数学というものの理解を深めるため、数学の歴史の変遷などを解説する。	
		物理学	この科目では、教員が毎回行う「演示実験」を学生が見て結果について考えていくという授業形態をとる。演示実験を元に平易な解説を行うことで、高校で十分に物理学を学んでいない文系の学生を含めた、幅広い受講者に対して物理学の楽しさを伝えていく。さらに、実験結果から構築された物理学の体系を把握することや、身近で起こる様々な現象の多くは物理学で説明できることについて理解を深めることを目的とする。 (オムニバス方式/全15回) (5 市田正夫/6回) 授業の目標についてガイダンスを行った後、振動・波動、電磁気学の分野に関する「演示実験」をもとに平易な解説を行い、物理学の楽しさを伝えていくと共に、様々な現象の多くが物理学で説明できることについての理解を深めていく。 (1 梅津郁朗/7回) 力学、熱力学、原子物理学の分野に関する「演示実験」をもとに平易な解説を行い、物理学の楽しさを伝えていくと共に、様々な現象の多くが物理学で説明できることについての理解を深めていく。また、学生の理解度を測る確認テストの解説を行う。 (5 市田正夫、1 梅津郁朗/2回) (共同) 授業の目標についてガイダンスを行う。また、学生の理解度を測る確認テストとその解説を行う。	オムニバス・共同 (一部)
		化学	エネルギーの安定供給、マイクロプラスチック、地球温暖化など環境悪化の問題、新型ウィルスの蔓延などが言われる中、安全で安心な社会の実現には新しいエネルギー変換、環境浄化、医療、省エネルギー素子、IoTセンサーなど科学及び技術の進歩が必要である。この科目では、種々の材料や素子、機器の機能の基本原理を理解し、科学及び技術の進歩において心臓部ともいえる、機能物質を作り出す化学について学ぶ。	
		生物学	この科目では、微生物から植物、動物まで自然界のあらゆる生命現象を対象とする自然科学の一分野である生物学について、複雑に構成される生物を再現する方法で把握するための基礎的な手法を押さえつつ、それらの知識のなりたちを学習することで、将来にわたって日常生活や専門的な場面で最新の情報を活用して判断に生かしていくことができるようになることを目標とする。	
		地学	この科目では、我々が住んでいる地球を、①現在の姿、②誕生から現在までの変遷、③広い宇宙の中でどのような惑星であるのかの3つの視点で捉えて理解を深めていく。また、理解を深めるにあたり、事実を示すだけではなく、それらがどのように明らかになったかについての観測方法や解析原理を含めて講義することで、“地球”についての正しい知識を習得し、それらに基づいて深く考察する力を習得することを目的とする。	
		生命化学	私たちのからだは細胞でできている。その細胞の中では何千種類もの物質が化学反応を起こしており、その組み合わせによって生命活動を営むことが可能になる。したがって、細胞(生物学)と物質(化学)の知識をもつことで、生命の仕組みをより深く理解することができる。この科目では、生物学と化学を同時並行的に学ぶことによって、さまざまな生命現象を分子レベルで理解する力を養うことを目標とする。 (オムニバス方式/全15回) (29 村嶋貴之/3回) からだの中の分子の構造、からだの中の化学反応、想像を創造に変える化学者たちをテーマに講義する。 (19 西方敬人/3回) 細胞の構造とはたらき、細胞のさまざまな形態と身体の中でのはたらき、細胞間の情報伝達と細胞内での情報の流れをテーマに講義する。 (58 三好大輔/3回) セントラルドグマ「生命の中心教義」、核酸の構造と働き、遺伝子鑑定、核酸医薬等の遺伝子工学をテーマに講義する。 (42 松井 淳/2回) 生命現象の鍵を握る高分子化合物、高分子化合物の構造とはたらきをテーマに講義する。 (57 中野修一/2回) さまざまな生命現象について、物理現象として捉えたり、数値化して考えたりすることで理解を深められるように講義する。 (95 白井健二/1回) 酵素などを人為的に改変・利用するタンパク質工学テーマに講義する。 (60 赤松謙祐/1回) ナノマテリアルをテーマとして取り上げて講義する。	オムニバス

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
基礎 共通 科目 (自然 科学系)	B 群 自然 の 歴史 を 学 ぶ	地球の歴史	この科目では、地球の誕生から現在までの歴史をたどり、大陸移動などの変動現象、生命の発生・進化と地球環境の深い関係、さらに、その歴史の中で起こった、酸素の発生・生物の大量絶滅・全球凍結などの大事件について解説する。また、それらの歴史を示す様々な科学的証拠や最近の研究についても解説を行う。	
	生物の歴史	この科目では、生物の基本的な知識と、本来個別の学問となる古生物や現生動物、現代に起きている生物に関わる問題等、幅広く「歴史」として説明を行う。さらにそれらの知識を用いた考察も行うことで、知識の獲得に加えて分析する力を身につけることを目的とする。		
	自然と人間	この科目では、人間が自然に求めてきたものは何なのか、人間はどのように自然に働きかけ、それによりどのような弊害や利害がもたらされたのかなど、身近な問題や世界の多様な事例を通して人間と自然の関係について考えを深める。		
	自然科学史	この科目では、発展過程でその本質的意味を大幅に変化させていった科学・技術について、約二千年前のギリシャから遡り解説し、現在の科学・技術の社会的影響力の増大の根源について、その思想的・現代哲学的意義から肉薄していく。		
	技術の歴史	この科目では、金属材料の代表である鉄系材料について、その製鉄・精錬の技術、鋼・鋳鉄の作製技術、ならびに、これらを支える熱科学について解説を行い、製鉄技術の発展の歴史を振り返りながら、人の生活に技術の発展がどのように影響してきたのか、また現代の科学技術の観点から歴史的に重要な技術の開発が行われたのかを見ていく。		
	環境と地理	この科目では、近年の東南アジアにおける政治・経済・社会的な変化による、水田や焼畑といった伝統的な農業の変容とそれに伴う問題や、都市における人々の日常生活と大気汚染などの環境問題について取り上げながら、人と環境の関わり合いの問題について学ぶ。		
C 群 現代 科学 を 学 ぶ	現代生活と物理学	この科目では、代表的な物理学上の話題を取り上げて解説を行い、物理学が現代生活とどのような関係を持っているかを理解し、そのような視点から、我々が将来にわたって持続可能な社会をいかに実現するべきかを自ら考えられるようになることを目的としている。 (オムニバス方式／全15回) (184 島田武司／4回) 授業の代表教員として、授業の概略や目標を説明すると共に、生活の中の熱現象(熱エネルギーの利用)、電気エネルギーの利用と電力システムをテーマに講義する。 (184 島田武司／3回) 天体運動(力学)、マイクロ世界の物理(量子論)、原子力利用(量子と相対論)をテーマに講義する。 (154 松沼 悟／3回) 気候変動(流体)、情報の記録(データストレージ)、電池と充電(電池が変える社会)をテーマに講義する。 (177 中澤慶久／3回) バイオミメティクス、生物と光と電子(光と生物学・農業応用)をテーマに講義する。 (195 遠藤英樹／2回) 波の物理をテーマに、「波」の性質や音波、地震波・水面波・電磁波などを取り上げながら講義する。	オムニバス	
	現代生活と生物学	この科目では、現代生活でよく知られている疾病の発症メカニズムや免疫のような外敵から身を守る機構などを理解するのに必要な生物学の基本的な考え方を学ぶ。また、生命科学分野の発展により多大な恩恵を享受することになった一方で、それに伴い発生している問題点についても考えていく。		
	現代生活と数理科学	現代は科学技術や情報技術の発展によりますます便利になりつつある。この科目では、現代生活に関わる社会システム、情報ネットワーク、AI、データサイエンスなどにおける数理科学的な思考法について理解し、そのうえで数理科学的発想を応用できることを目的とする。		

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
基礎共通科目（自然科学系）	C群 現代科学を学ぶ			
	現代生活と最先端科学		この科目では、多岐にわたる最先端科学の中から、ナノバイオテクノロジーに焦点を当てて、それらが現代の国際化社会において果たす役割について理解することを目的とする。また、国際的な共同作業と競争の中で発展する最先端科学の研究開発について、国内や諸外国における科学動向なども紹介しながら、最先端科学について考える。 (オムニバス方式／全15回) (94 遠藤玉樹／5回) 遺伝子・タンパク質・細胞の関連性、遺伝子配列解析(ヒトの設計図を読み解く)、細胞を操る(再生医療と万能細胞)(遠藤)、ウイルスと疾患(外敵から体を守る免疫)をテーマに講義する。 (100 高橋俊太郎／5回) ナノテクノロジー、生物から学ぶスマート技術、生活を豊かにする分子設計、生命をデザインする科学、生命科学と倫理をテーマに講義する。 (97 建石寿枝／5回) 生命分子、個性を決める遺伝子、分子レベルで健康を考える、生命分子の新機能をテーマに講義する。	オムニバス
	核と環境		この科目では、エネルギーをめぐる原子核エネルギーの利用とそれに伴って引き起こされた問題について振り返り、我々の生活を成り立たせているエネルギーについて核物理学の知識を深めながら考える力をつけていくこと、地球温暖化について物理学の知識を蓄えることにより解決の道筋を考えて議論を進める力をつけることを目的とする。	
	環境の化学		この科目では、環境化学の専門家が、環境問題の最前線と最先端をできるだけ分かりやすく解説する。マスコミ等で刷り込まれた誤った環境問題の知識を覆した、最新のエビデンスに基づく講義を多く行うことで、柔軟な思考力で環境問題の本質を見抜く力を身につけることを目指す。	
	大気と海洋		この科目では、地球を取り巻く大気や海洋の、その構造、地球規模の運動のメカニズム、相互作用などを理解する。また、降水のメカニズムや、世界や日本の気候についても学ぶことで、地球環境の変動を論理的に考察する力を身につけ、自律的に思考し行動する能力を身につける。	
	国際化と情報ネットワーク		この科目では、コンピュータとネットワークならびにコミュニケーションの国際的な現状をできる限り新しいデータとそのデータサイエンス的な分析結果を使いながら紹介する。それにより、社会の様々な問題に情報ネットワーク技術や人工知能などがどのように貢献できるのかを考える。	
国際社会における最先端科学			国際化が進む現代社会においてはどのような産業分野においても、最先端科学の素養なしには市場や経済の動向を理解し、予測することもままならなくなっている。21世紀の基幹技術になると考えられているバイオテクノロジーとナノテクノロジー、ナノバイオテクノロジーは、材料から健康まで、多様な産業分野から注目を集める技術であり、国際的な共同作業と競争の中で研究開発が進められている。この科目では、日本国内や諸外国における科学動向なども紹介しながら、これら最先端科学の重要性について考えていく。 (オムニバス方式／全15回) (94 遠藤玉樹／5回) 生命科学の基礎、細胞と遺伝子の関連性、ウイルス感染症に関連する最先端科学、免疫とアレルギー、生命進化と分子進化をテーマに講義する。 (100 高橋俊太郎／5回) くらしに役立つナノテクノロジー、ナノの世界から見る生命、生物から模倣する新ナノ技術、生物の分子を活用した技術革新、物質と生命の境界線をテーマに講義する。 (97 建石寿枝／5回) 生命分子の化学、遺伝子が操る個人の体質、生命分子を材料として使う、分子レベルで健康を科学するをテーマに講義する。	オムニバス

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
基礎共通科目（自然科学系） C群 現代科学を学ぶ	現代生活と生命化学		<p>私たちのからだや現代生活に関する事柄～例えば健康、医療、診断、薬、食、環境、先端科学などを深く理解するためには、分子や化学の観点から、生命や現代生活に溢れる物質を見直してみるのが有効である。この科目では、私たちの生活における化学と生物学の展開事例や応用事例を学び、現代生活における生命化学の重要性を理解することを目標とする。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(19 西方敬人/1回) ES細胞やiPS細胞、がん細胞が示す細胞の可能性をテーマに講義する。 (91 川内敬子/2回) がん細胞について解説し、がん治療を知ることをテーマに講義する。 (42 松井 淳/1回) 酵素や抗体を使って“病気の目印”を見つけるたんぱく質と診断技術をテーマに講義する。 (37 川上純司/4回) 核酸と診断技術、薬、分子間相互作用の親和性と特異性、創薬と医薬品開発をテーマに講義する。 (60 赤松謙祐/1回) エネルギー問題をテーマに講義する。 (67 甲元一也/2回) バイオ資源・グリーンケミストリー・環境、化学と生物学から見た食の最先端をテーマに講義する。 (28 藤井敏司/2回) 分子システム、アルツハイマー病をテーマに講義する。 (77 長濱宏治/2回) ドラッグデリバリーシステムや再生医療の分野で活躍する材料をテーマに講義する。</p>	オムニバス
	Science in the World Today		<p>This course has two main units. In Unit 1, utilizing a research worksheet, students will research and present to the class about a leading scientist or IT innovator. In Unit 2, students will research and present about a leading research university or research institution. In order to build confidence for the class presentations, students will be given many opportunities to practice orally reporting research results and making presentations in pairs and small groups.</p> <p>この科目では、リサーチ・ワークシートを用いて一流の科学者やITイノベーターについて調べ、発表したり、一流の研究大学や研究機関について調べ発表する。その過程で、研究結果を口頭で報告する機会や、ペアやグループでのプレゼンテーションなどの練習の機会を多くもつことで、発表するための力を身につける。</p>	
	Science, Technology and SDGs		<p>Students will make two presentations. First, they will choose a problem related to science/technology and SDGs, and then research the problem and make a presentation about its causes and effects. Then, for their second presentation, students will research and present about possible scientific/technological solutions to the problems.</p> <p>学生は2つのプレゼンテーションを行う。まず、科学技術やSDGsに関連する問題を選び、その問題について調べ、その原因や影響についてプレゼンテーションを行う。次に、その問題に対して考えられる科学的な解決策について調べ、発表する。</p>	
	Science News		<p>In this course we will read general articles and watch videos about some current topics related to various scientific fields including AI, astronomy, biology, IT, physics, nanotechnology, and so on. In addition, we will get some practice making oral reports and participating in simple discussions related to the topics being covered. In the early part of the course, the topics will be chosen by the instructor, but in the later part of the course students will be asked to choose and prepare news topics that they are especially interested in, and make oral presentations about those topics. Most tasks will require accessing the Internet, so it will be necessary for students to bring their computer or tablet to every class (BYOD with earphones).</p> <p>この科目では、AI、天文学、生物学、IT、物理学、ナノテクノロジーなど、さまざまな科学分野に関連する最新のトピックについて、一般的な記事を読み、ビデオを視聴する。また、トピックに関連した口頭での報告や簡単なディスカッションに参加する練習をする。序盤は講師がトピックを選ぶが、後半は受講生が特に興味のあるニューストピックを選んで準備し、そのトピックについて口頭発表する。</p>	
D群 情報を学ぶ	知能情報		<p>この科目では、AIを動作させるコンピュータの発展の歴史を通じて、ヒトと機械の関係について講述する。前半では計算機アーキテクチャとヒトの情報処理のプロセスを比較し、コンピュータ開発当初の人工知能開発について概説する。さらに1980年代以降のマイクロプロセッサ開発がAIの新しい方法論を生み出し、それが現在のネットワーク技術、知能ロボット技術にどのように応用されてきたかを紹介する。最後にいま話題となっている現代のAI技術によって社会がいまどのように変わろうとしているのかについて考えていく。</p>	

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
基礎共通科目 (自然科学系)	D群 情報を学ぶ	生体情報	この科目では、我々が外界をどのように捉えて行動に結びつけているのかを心理学や関連領域の立場から明らかにしていくことで、環境から取り入れられた情報の処理の仕方や知覚と認知のメカニズムについて説明することができ、情報処理の働きが行動にどのように結びつくのかについて考えることができることを目標とする。	
		感性情報	この科目では、「モノ」を作るときに必要な従来の工学的な考え方、捉え方を見直し、ユーザの立場に立つ新しい工学として提唱されている“感性工学”とそのカギとなる“感性情報”について、初学者向けに解説を行う。	
		生命情報	この科目では、生物の進化の歴史を踏まえ、遺伝情報の伝達、感受器による環境情報の取得、細胞内外での情報伝達のような生物にみられる普遍的な属性について理解を深め、多様な生命現象について関心をもち、自分の考えをもつことを目指す。 (オムニバス方式/全15回) (244 飯田聡子/8回) 生物の進化の歴史をテーマとして、初期の生命の進化、地球上の生物多様性、生物の共通属性と進化、遺伝情報から探る生命史等について解説する。また、遺伝情報の伝達をテーマとして、有性生殖、植物の繁殖生態、自殖や無性生殖、クローン技術といった特別な生殖様式について解説する。 (239 上尾達也/7回) 遺伝情報の伝達をテーマとして、動物の繁殖生態、寄生性生物の生活環と生殖について解説する。また、環境情報の取得とシグナル伝達、代謝をテーマとして、外部情報の取得については視覚(光情報)、嗅覚、味覚(化学感覚)、聴覚、平衡感覚、体性感覚、その他の感覚の面から、生体内での情報伝達についてはエネルギー代謝の制御の面から、それぞれ解説する。	オムニバス
		認知科学	この科目では、心の情報処理過程を中心とした、心理学・哲学・人工知能・教育学・言語学・神経科学などにまたがる学際領域である認知科学の基礎的な理論や研究方法などについて学び、認知科学が扱う問題と日常生活での経験とをリンクさせながら、人の心が持つ特徴についての理解を深めていく。	
基礎共通科目	学際融合系	ケアの倫理	この科目では、伝統的な倫理学ないし倫理理論に異を唱える形で現れたのがケアの倫理に関し、ケアの倫理が現れるまでの経緯、ケアの倫理がどのようなものなのか、そしてケアの倫理が対象とする問題がどのようなもので、それに対してどのようなアプローチをするのかを学習する。	
		ライフプラン教育	「少子・高齢社会」の到来とともに、子育てを「ライフプラン」にいかにか組み込むかが問題となっている。この科目では、子育て問題に関わっている研究者である諸分野の教員が、それぞれ異なった切り口で、現代の子育てをめぐる様々の状況を踏まえた「ライフプラン」について講義する。その中で受講生が自らのライフプランについて考えることを求める。 (オムニバス方式/全15回) (116 富川貴美子/3回) 授業の代表教員として授業の目標についてのオリエンテーションと授業のまとめ講評を行う。「子育てがうまくいかないとき」をテーマに、教育臨床の立場から解説する。 (83 大西彩子/1回) 「子どもを産む選択」をテーマに、発達臨床の視点から解説する。 (45 北川 恵/1回) 「親子関係への心理学的支援」をテーマに講義する。 (11 前田正子/1回) 「ライフプランにおける職業と家庭」をテーマに講義する。 (291 谷口あや/1回) 「父母による相補的子育てから見る現代の家庭」をテーマに、グループディスカッションを行い学びを深める。 (107 ファヨル入江容子/2回) 「女性の多様なライフプランのためにフランスを参照して」、「人生史の振り返りから見たライフプラン」をテーマに講義する。 (66 足立泰美/1回) 「雇用・結婚・出産における財源と給付」をテーマに講義する。 (39 中里英樹/3回) 社会学、家族社会学、ジェンダー、労働社会学といった観点から講義を行う。 (108 西尾千尋/2回) 乳幼児の発達、発達の環境、遊び、運動発達と認知発達といった観点から講義を行う。	オムニバス
		癒しの諸相	この科目では、臨床心理学をベースに、身近な映画やアニメーションを題材として取り上げながら、人間の「こころ」や「歴史」について学び、受講生が自分を知り、現代社会や人との関係を読み解く「眼」を養い、「考える力」を育むことを目的とする。	

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
基礎共通科目 学際融合系	自己の探求		学生時代は、自己のアイデンティティを形成していく上で重要な時期であり、そのために、さまざまな自己表現や、他者とのコミュニケーションを通じて、自己理解を深めることが求められている。この科目では、できるだけ体験的・実習的要素を取り入れながら、臨床心理学の枠組を用いて、自己の内的世界を探求していき、無意識的な領域を含めた、新たな自分の一面に気づいていくことを目的とする。	
	心の健康科学		この科目では、「心」とはどのような構造をもち、どのように機能するか、また心を健康に保ち、育てていくためにはどのようなことが必要かという問題について、主として臨床心理学の観点から探っていく。さらに、現代人が抱えやすい心の病や障害について、その発生のメカニズムや、症状、治療法等について学ぶ。コロナ禍が及ぼした心の健康や成長への影響、現代的なストレスへの対処法といった実践的な内容についても取り上げる。	
	保健衛生		この科目では、公衆衛生学の歴史を振り返り、健康問題は時代とともに変化することや我が国の人口構成や死因、疾病構造の現状ならびに国際保健におけるWHOの役割や活動、母子保健制度、生活習慣病とその危険因子を学ぶ。さらに、微生物による健康障害に対する理解を深めるために、微生物および感染症の基礎知識、感染症の制御に関わる我が国の取り組みや感染症流行の現状について学ぶ。	
	人体の構造と機能及び疾病		この科目では、身体の構造と機能、様々な疾病や障害、よくある身体症状など生物学のごく基本的な事項、および心身医学の基本（心身相関など）を学ぶ。併せて、医療現場でも役に立つ臨床検査と画像診断の基礎的事項や、緩和医療・人生の最終段階の医療を支えるための基本的事項も学ぶ。	
	環境教育の実践		環境教育の基本は、自然と人間とのかかわりの理解にある。今日起こっているさまざまな環境問題の解決のためには、まず地球環境について”グローバルな（地球規模の）視点”から考えて、“ローカルな（足もとや身近な地域）視点”から行動することが大切である。この科目では、私たちの身近な暮らしのなかで起きている環境問題について学び、環境問題についての基本的な知識を学習した上で、フィールドワークによって環境教育の理論と実践について学ぶ。 (オムニバス方式/全15回) (253 渡辺理和/5回) 授業の代表教員として授業の目標について説明する他、里やまフィールドワークの準備学習として、里やま保全と環境教育について講義し、学生の学習成果について講評する。 (253 渡辺理和/1回) 里やまの植物と食文化についての解説と春の山野草エコクッキング体験のフィールドワークを踏まえて、里やまの資源管理と地域循環型農業について講義する。 (181 天野雅夫/1回) 生物多様性の保全について行政法、環境法の観点から講義する。 (165 北村 真/1回) 「自然の権利訴訟」をテーマに講義する。 (167 大久保規子/1回) 有害化学物質と環境への影響をテーマに講義する。 (150 藤岡達也/1回) 自然災害・防災教育と環境教育をテーマに講義する。 (253 渡辺理和、181 天野雅夫/2回) (共同) フィールドワークを担当し、里やまの植物と食文化について解説を交えながら、春の山野草エコクッキング体験を行う。 (253 渡辺理和、181 天野雅夫、165 北村 真/3回) (共同) フィールドワークを担当し、田植え体験学習を行い、その体験を通じ環境教育プログラムの意義についてグループワークを行う。	オムニバス・共同 (一部)
	食品科学		食品には栄養面のはたらきとしての第1次機能、嗜好面ではたらきとしての第2次機能、疾病予防面ではたらきとしての第3次機能などがある。この科目では、これらの機能に関与する食品成分の構造・性質・化学変化について学ぶ。	

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
基礎 共通 科目	学際 融合 系	フロントランナー講座	この科目では、産業界をリードする企業の経営者や世界で活躍する第一線の研究者、新進気鋭の起業家など、社会の第一線で活躍する方々を講師として招き、先駆者（フロントランナー）としての“ものの捉え方”、“斬新な考え方”、“成功の秘話や教訓”などを学ぶ。 (オムニバス方式／全15回) (19 西方敬人、60 赤松謙祐／4回) 共同 授業の代表教員として授業の目標について説明する他、学生のキャリアの指針作りや持続的成長を目指してをテーマに対談形式で講義する。 (19 西方敬人、60 赤松謙祐、57 中野修一／1回) 共同 甲南に学ぶをテーマに対談形式で講義する。 (19 西方敬人、60 赤松謙祐、32 中井伊都子／1回) 共同 大学での学びとSDGsをテーマに対談形式で講義する。 (19 西方敬人、60 赤松謙祐、225 有井康博／1回) 共同 大学で学ぶを考えるをテーマに対談形式で講義する。 (19 西方敬人、60 赤松謙祐、285 国広潮里／1回) 共同 神戸と沖縄の研究生活をテーマに対談形式で講義する。 (19 西方敬人、60 赤松謙祐、189 長濱 徹／1回) 共同 医薬品、医薬部外品、化粧品の開発と開発事例をテーマに対談形式で講義する。 (19 西方敬人、60 赤松謙祐、208 牧野秀樹／1回) 共同 日本酒文化の魅力を語るをテーマに対談形式で講義する。 (19 西方敬人、60 赤松謙祐、217 柳本 博／1回) 共同 自らの成長と幸せに繋がる素養をテーマに対談形式で講義する。 (19 西方敬人、60 赤松謙祐、187 松本智成／1回) 共同 新型コロナウイルス感染症への挑戦をテーマに対談形式で講義する。 (19 西方敬人、60 赤松謙祐、228 片山博之／1回) 共同 これからの産業界を生き抜いてゆくことをテーマに対談形式で講義する。 (19 西方敬人、60 赤松謙祐、183 塚本洋子／1回) 共同 大企業からフリーランスへの転身をテーマに対談形式で講義する。 (19 西方敬人、60 赤松謙祐、230 遠藤浩平／1回) 共同 映画とテクノロジーと起業をテーマに対談形式で講義する。	オムニバス・共同
		情報社会のセキュリティ	企業あるいは組織が活動していくためには、アプリケーションの使い方なども重要であるが、セキュリティに対する正しい考え方はそれら以上に重要である。この科目では、独立行政法人情報処理推進機構から公開されている資料を用いて、企業あるいは組織に所属する構成員が身につける必要のあるセキュリティ対策について詳述する。	
		社会を読み解く（クリティカルシンキング）	さまざまな情報が飛び交う現代社会において、情報を鵜呑みにせず、多角的に捉えることができる「クリティカルシンキング（CT）」というスキルは、大学での学びだけではなく、社会においても求められる。この科目では、受講生の身近な映像や新聞記事などの題材を用い、演習形式で検討することで、クリティカルシンキングのスキルを高めていく。	
		文章表現論	自分の考えを他者に分かりやすく伝える力は、大学での学びの基礎となるだけでなく、就職活動の際や社会においても不可欠なスキルである。この科目では、大学生活に必要な文章を書く力を高めるため、実際にさまざまなジャンルの文章を書く作業を体験しながら、情報収集の方法やその活用方法、資料の読解の仕方、文献の引用方法、自分の考えを整理する方法、論理的で説得力のある文章を書く方法などを具体的に学んでいく。	
国際 言語 文化 系	ヨーロッパの文化を学ぶ	この科目では、ヨーロッパの文化、歴史とその背景について、主にドイツやフランスを事例に挙げながら、さまざまな観点から解説していく。これを行うことにより、現在のヨーロッパ文化についての理解を深めることを目標とする。		
	アジアの文化を学ぶ	この科目では、アジアの文化、歴史とその背景について、主に中華人民共和国や大韓民国を事例に挙げながら、さまざまな観点から解説していく。これを行うことにより、現在のアジア文化についての理解を深めることを目標とする。		
	ヨーロッパの言語と社会	この科目では、ヨーロッパの言語、社会とその背景について、主にドイツやフランスを事例に挙げながら、さまざまな観点から解説していく。これを行うことにより、現在のヨーロッパの言語と社会についての理解を深めることを目標とする。		
	アジアの言語と社会	この科目では、アジアの言語、社会とその背景について、主に中華人民共和国や大韓民国を事例に挙げながら、さまざまな観点から解説していく。これを行うことにより、現在のアジアの言語と社会についての理解を深めることを目標とする。		

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
基礎 共通 科目	国際理解		この科目では、グローバル化時代の国際関係や現状認識、そしてグローバル化と日本社会という観点に立って問題意識を見つけ出し、質疑応答を行いつつ、グローバル化時代の理解を深めていくことで、国際情勢や国際的な時事問題に関心を持つ姿勢を育成することを目標とする。	
	国際理解English		This course is about understanding more deeply some basic cultural attitudes and values in various countries including Japan. However, rather than studying intercultural understanding from an abstract and theoretical viewpoint, we will approach it concretely by focusing on three major social issues being faced by many countries and cultures throughout the world: the happiness index, poverty, and education. We will also learn about cultural attitudes in various countries (including Japan) toward these issues and their possible solutions. In addition, we will touch briefly on some other related topics such as relevant SDGs, the social safety net, child labor, the gender gap, attitudes toward LGBTQ, international aid, international volunteering, and social businesses. Through studying common social issues in various cultures, students will develop deeper understanding, empathy, and respect for the cultural values of other countries as well as a more objective understanding and appreciation of their own culture. Lessons will be conducted mainly in English. この科目では、主に英語を使用して、日本を含む様々な国の基本的な文化的態度や価値観をより深く理解することを目的としており、世界の多くの国や文化が直面している3つの大きな社会問題、幸福度指数、貧困、教育に焦点を当て、具体的にアプローチしていく。	
	日本理解		この科目では、日本人などの一般学生と外国人留学生在がいつしよになり異文化と接することによって、日本の社会全般についての様々なテーマをめぐって日本語でディスカッションをしながら、異文化の機微を知ること、異文化に抱く誤解や葛藤を未然に防ぐための国際理解力を身につけ、大学生として、また、卒業後に国際社会において国際人として生活していく上で必要とされるグローバル・コミュニケーション力を養い、学業のみならず就業においても有用となる異文化間交流の能力やその活用能力を身につけることを目標とする。	
	Japan Topics		This single-semester integrated skills course aims to deepen understanding of selected aspects of Japan, with a strong emphasis on developing the skills needed to describe elements of Japanese society and culture accurately and effectively in English to non-Japanese. この科目では、日本についての理解を深めることを目的とした科目で、特に外国人に対して、日本の社会と文化について、正確かつ効果的に英語で説明できる能力を身につけることに重点を置いている。	
	Culture Topics I		Culture Topics courses are single-semester integrated skills courses that aims to deepen cross-cultural awareness and understanding through focusing on a specific country or region where English is either the mother tongue or the primary official language. Culture Topics I covers the North American region (USA and/or Canada). Culture Topics II focuses on the UK, Australia, and/or other English-speaking regions. While primarily taught in English, the learning objectives of these courses prioritize mastery of the content covered. Culture Topics I 及び II は英語を母語とする国や地域に焦点を当て、異文化に対する認識と理解を深めることを目的とした科目である。この科目では、北米地域(アメリカ及びカナダ)に焦点を当てる。講義は主に英語で行われるが、内容の習得を重視する。	
	Culture Topics II		Each of these single-semester integrated skills courses aims to deepen cross-cultural awareness and understanding through focusing on a specific country or region where English is either the mother tongue or the primary official language. Culture Topics I covers the North American region (USA and/or Canada). Culture Topics II focuses on UK, Australia, and/or other English-speaking regions. While primarily taught in English, the learning objectives of these courses prioritize mastery of the content covered. Culture Topics I 及び II は英語を母語とする国や地域に焦点を当て、異文化に対する認識と理解を深めることを目的とした科目である。この科目では、イギリス、オーストラリア、その他の英語圏の地域に焦点を当てる。講義は主に英語で行われるが、内容の習得を重視する。	

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
基礎共通科目 国際言語文化系	English for Science		This course mainly deals with reading comprehension and vocabulary building for understanding science and technology media, but students will also have opportunities to improve their listening comprehension through online video exercises. Various general topics in science and technology will be covered and materials will consist of articles and online videos with task worksheets. この科目では、主に科学技術の文脈における読解と聴解を扱う。またリーディング、ボキャブラリー習得に重点を置くが、オンラインビデオ演習を通してリスニングの理解度を高める機会もある。科学技術に関する様々な一般的トピックを取り上げ、教材は記事とオンラインビデオで構成される。	
	Science Writing		The course will cover basic writing skills including grammar, paragraph structure, and essay structure, as well as some basic genres used in scientific writing such as describing a process, cause and effect, comparison and contrast etc. Students will write several types of paragraphs and an essay about various general topics related to science and technology. Although this is primarily a writing course, some class time will be spent orally sharing research data and presenting our writing to partners and small groups. この科目では、センテンス、パラグラフ、エッセイの各レベルでの基本的なライティングスキル及びプロセスの記述、原因と結果、比較と対象など、科学ライティングで用いられる幾つかの基本ジャンルを学ぶ。また、科学技術に関連する様々な一般的な話題について、数種類の段落とエッセイを書く。主にライティングの講義であるが、研究内容について口頭で共有したり、書いたものをパートナーや小グループに発表したりすることもある。	
スポーツ健康系	スポーツ心理学		スポーツには「見る」「する」「支える」など多様な関わり方があり、いずれの関わりによっても人の心は動くものとされる。この科目では、心理学的観点からスポーツを捉える方法について学ぶ。また、スポーツにおける人の心を記述・予測・説明・制御する知見について学ぶことで、自身のスポーツライフを豊かなものにするを目指す。	
	スポーツ運動学		この科目では、スポーツ運動学の独自性、人間の運動の独自性、動感身体知の体系とその充実についてという三つのテーマについて扱い、「人間が運動を学ぶ営み」の内実をスポーツ運動学（発生運動学/現象学的運動学）の立場から明らかにする。	
	スポーツ文化論		この科目では、人々の生活の中から生み出されアイデンティティーを受け継ぐ一旦を担っているともいえる「伝統スポーツ」と、我々のスポーツ観に大きく影響を与えている「近代スポーツ」が誕生した過程を学ぶことを通じて、スポーツとは何かを考えていく。	
	スポーツマネジメント		現代におけるスポーツは「見る」「する」「支える」「調べる」というかかわりのもとさまざまな産業の発達に影響を与えてきた。スポーツ産業は経済活動に大きな影響を及ぼしており、スポーツと経済は切っても切り離すことができない状況にあるといえる。この科目では、オリンピックをはじめとしたスポーツマネジメントのかかわりについて様々な角度から学び、自ら「調べる」ことによって、より現状理解を深める。	
	生涯スポーツ論		この科目では、「スポーツは人生を楽しむ手段として有意義なものである」という立場から生涯スポーツに関連する現状および今日的な課題について検討する。講義で紹介するテーマを足掛かりにして、受講生自身が生涯スポーツに関連する今日的課題を発見できることを期待する。	
	スポーツ社会学		スポーツをめぐるさまざまな課題や問題は、それを取り巻くより大きな社会課題や問題を反映している。この科目では、こうしたスポーツと社会に関わる現象についての実態や構造、その現象が起こるメカニズムなどを研究する。また、スポーツ社会学で取り扱われる多様なテーマに沿って、その視点や方法、基礎的な概念、研究知見や事例について概説する。	
	スポーツ医学		この科目では、ヒトの動きのメカニズムとスポーツ医学の基礎を学び、ケガや疾患の対処法を学ぶことで、安全にスポーツ活動を実践するための知識を身につけることを目的とする。スポーツ現場で生じる外傷、障害、疾患の予防法、評価法、治療法を学習し、傷害や内科的疾患に罹患した場合にでも、できるだけ早期にスポーツ現場へ復帰できるよう自分自身で考える力を身につけるようにすることを目的とする。	
	運動生理学		運動が身体にどのような影響を与えるのかといったことを生理学的な立場から学習する運動生理学は、健康のためだけではなく一流のアスリートにとってもトレーニング・プログラムを作成するための重要な学問領域である。この科目では、スポーツ医学やトレーニング科学の基礎学問として、運動と身体への応答について学習していく。	

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
基礎共通科目	健康と生命科学		この科目では、ヒトの生理学・医学的メカニズムを理解するとともに個人の身体的特徴を把握し、自分だけの健康マネジメントプログラムを作成できるようにすることを目的に、私たちの生活の中で、健康を理解するために必要な15のトピックスを厳選し、最新の研究内容も織り交ぜながら講義の中で説明する。	
	スポーツコーチング論		この科目では、目的となるパフォーマンスレベルにアスリートを導く活動に関する理論であるコーチング学について、その知見に基づき、今後、受講生が自身のスポーツ活動ならびに、他者へのスポーツ指導に携わる際に知り得ておくべき最低限の知識について説明していく。 (オムニバス方式/全15回) (47 伊東浩司/9回) 授業の代表教員として授業の目標についてのオリエンテーションと授業のまとめ講評を行う他、コーチング学の対象領域について解説する。また、「試合の計画・準備、試合中の指揮」「トレーニング(パフォーマンス形成)の目標設定と期分け」「トレーニングの期分け(ピリオダイゼーション)」「チームの組織化、選手発掘、スカウティング」「測定スポーツにおけるコーチング」をテーマに講義する。 (16 桂 豊/2回) 「判定スポーツにおけるコーチング」をテーマに、球技を取り上げて講義する。 (79 吉本忠弘/2回) 「評定スポーツにおけるコーチング」をテーマに講義する。 (59 曾我部晋哉/2回) 「判定スポーツにおけるコーチング」をテーマに、武道を取り上げて講義する。	オムニバス
	トレーニング論		この科目では、トレーニングの中でも「体力トレーニング」に焦点をあて、体力トレーニングの原理・原則や各種トレーニングの理論を理解し、スポーツパフォーマンスの向上や、健康および体力増進のためのトレーニング方法について概説する。また、各種体力や運動能力のデータを分析・評価し、授業で解説した内容や方法を基に、トレーニング計画やプログラムを立案し、スポーツ現場の課題解決のためのプロセスを体得する。	
	基礎スポーツ健康科学		この科目では、「コーチング環境の特徴」「スポーツの価値を守るスポーツ権」、「スポーツ事故におけるスポーツ指導者の法的責任」、「体力のトレーニング」、「社会の中のスポーツ 地域におけるスポーツ振興」、「対象に応じたスポーツとの関わり」などのテーマを取り上げ、スポーツ・健康に関する基礎知識を学ぶ。	
導入共通科目	甲南大学と平生鈞三郎	○	この科目では、甲南大学の母体であった旧制甲南高等学校の創設に尽力した平生鈞三郎の生涯と事業、さらに新制甲南大学をも含めて、甲南を築立っていった人材に焦点を当て、改めて甲南大学の建学の精神と教育理念、さらには伝統を認識し、甲南大学で学ぶことの意味を考えることを目的とする。 (オムニバス方式/全15回) (12 高 龍秀/9回) 「あなたの「天から与えられた才能」は何ですか」をテーマに講義する 他、授業の代表教員として「甲南大学生として平生鈞三郎から学ぶ」「甲南大学の歴史と文化を知る」「映像で学ぶ甲南大学」「多様性を阻む思い込みを知る」「東京海上時代の平生鈞三郎」をテーマとしたゲストスピーカーによる授業や卒業生を招いた「甲南大学と私」の授業を担当する。 (32 中井伊都子/1回) 「甲南大学で学ぶ」をテーマに講義する。 (12 高 龍秀/1回) 「現代社会と切り結ぶ平生鈞三郎」をテーマに講義する。 (12 高 龍秀/1回) 「平生鈞三郎の社会的偉業の概要と甲南OBからのメッセージ」をテーマに講義する。 (12 高 龍秀/1回) 「平生鈞三郎と政財界」をテーマに講義する。 (222 諸岡知徳/1回) 「平生鈞三郎と新聞事業」をテーマに講義する。 (115 武田佳久/1回) 「平生の考えを共有し、プレゼンテーションする」ことを目的にグループワークを行う。	オムニバス

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
基礎 共通 科目	導入 共通 科目	共通基礎演習	○ この演習では、甲南大学の建学の精神や教育理念について認識を深め、“甲南大学での学び”の意義を考え、学生生活を“より良き”ものとし、社会人・成人へとつながる生活のスタンスを形成し、自らのキャリア創生（人生のデザイン）に対する認識を醸成していく。プロジェクト型学習の形態をとり、いろいろな学部の学生が、どの学部かを意識せずに一つのテーマに多様にアプローチし、互いにコミュニケーションを図り、自然に多様なものの見方を身につけ、日本語力（考える、表現する、聞いて理解する、記憶し考え方を身につける）を大学・社会人レベルにアップしていく機運を次第に作っていくことを目指す。 (12 高 龍秀、24 梅本剛正、31 吉川 歩、61 久保はるか、88 小西幸男、89 野村幸宏、93 山本貴揚、96 篠田有史、103 千葉美保子、113 高砂孝緒、115 武田佳久、116 宮川貴美子、118 山本シャーリ、119 岡村こず恵、117 平井一樹/5回) (共同) 授業の目標を全体で共有した後、ミニプロジェクトを2回大教室で実施する。前半の3回分の授業時間を使って、課題解決に必要な知識や技能を高めるための研修「自己探求」を行い、そこで気づきを活かして、7回分の授業時間を使って実施する、課題解決のための「プロジェクト学習」に取り組む。この「自己探求」と「プロジェクト学習」では学生は少人数グループに分かれるが、複数の教員が学生を指導する体制を維持して授業を行う。最後の2回の授業では大教室で研究発表会を実施する。	共同
		AI・データサイエンス入門	○ この科目では、はじめに最新のAI・データサイエンスの基礎知識を学び、どのような社会変化が進行中なのか、どのようなことが課題であり、どのような解決がもたらされているかを理解する。そのうえで、コンピュータを使った基礎的な実習に取り組み、データから知見を見いだすための方法の基礎について、体験を通じて学ぶ。さらに、様々なデータを安全に扱うためのセキュリティについて学び、情報を適正に管理するための原則についても学ぶ。最後に、最先端のAI・データサイエンス技術がどのように用いられているか、最新の研究トピックもふくめて学ぶ。 (オムニバス方式/全15回) (64 関 和広/7回) 社会で起きている変化と活用されているデータ、データ・AIの活用領域とそのため技術、データ・AI活用の現場と最新動向をテーマに授業する他、Pythonによるプログラミング、データ活用実践と題して、簡単なプログラミング実習を行い理解を深める。 (96 篠田有史/5回) 表計算ソフトを活用したデータの整理と可視化、データの説明のための統計処理の基本、データの説明のための統計処理の試行、表計算ソフトを活用したデータの説明をテーマに、簡単な統計処理を交えながら解説する。 (31 吉川 歩/3回) 「データ・AIを扱う上での留意事項」、「データを守る上での留意事項」をテーマに講義する。	オムニバス
外国 語科 目 (基礎 外国 語)	英語 (Skil- l- b- a- s- e- d)	College English Reading	○ この科目では、英語で書かれた文章を読み、作者の意図を読み取る能力を伸ばすとともに、基本的なパラグラフ・リーディングの技能を身につける。これにより、基礎的英語読解力の向上を目指し、学部専門教育科目を受講するための基礎力と思考力を養うことを目標とする。	
		College English Writing	○ この科目では、英語で書かれた文章の構造について学び、作者の意図を英文で効果的に表現する能力を伸ばすとともに、センテンス・ライティングと基本的なパラグラフ・ライティングの技能を身につける。これにより、基礎的英語文章表現力の向上を目指し、学部専門教育科目を受講するための基礎力と思考力を養うことを目標とする。	
		College English Listening	○ この科目では、学習者の先行知識を生かして実際に話される英語を聞き取り、内容を理解する能力を養う。英語が実際に話されるときに音がどう変化するか学習することを目的とする。	
		College English Speaking	○ この科目では、英語を母語とする教員の指導によるCommunicativeな学習環境の中で、英語を話す能力の伸長を目指す。オーラル・コミュニケーションを基礎とし、相手の意向を理解し、自分の意見を英語で話す実践的な英語運用能力を養うことを目的とする。	

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
外国語科目 (基礎外国語)	College English Topics I	○	この科目では、「数と計算」「図形」「物質の状態」「グラフと関数」「人体」などの理系のトピックについて英語で文献を読み、理解を深める内容言語統合型学習(Content and Language Integrated Learning(CLIL))を行うことで、理系の専門分野において、数式やグラフ・図・表の英語表現などを含む英語の文章の大意を理解する力と、自律的な学習習慣のスキルの獲得を目指す。	
	College English Topics II	○	この科目では、「電気・電子」「熱」「星と惑星」「イオン」「エネルギー」などの理系のトピックについて英語で文献を読み、理解を深める内容言語統合型学習(Content and Language Integrated Learning(CLIL))を行うことで、理系の専門分野において、数式やグラフ・図・表の英語表現などを含む英語の文章の大意を理解する力と、自律的な学習習慣のスキルの獲得を目指す。	
	College English Project I	○	この科目では、理系のトピックについて英語で文献を読み、調査した結果等を意見交換したり、発表したりする内容言語統合型学習(Content and Language Integrated Learning(CLIL))を行うことで、理系の専門分野において、基本的な概念を学び、興味のある内容について比較的平易な英語で口頭発表ができる力と、自律的な学習習慣のスキルの獲得を目指す。	
	College English Project II	○	この科目では、理系のトピックについて英語で文献を読み、調査した結果等を意見交換したり、発表したりする内容言語統合型学習(Content and Language Integrated Learning(CLIL))を行うことで、理系の専門分野において、基本的な概念を学び、興味のある内容について比較的平易な英語で口頭発表ができる力と、自律的な学習習慣のスキルの獲得を目指す。	
ドイツ語	基礎ドイツ語 I	○	ドイツ語を用いて「聞く・読む・話す・書く」の基本的なコミュニケーション能力を養成することを目的とした基礎ドイツ語について、基礎Iではとくに「読む・書く」の基礎を身につけるために文法事項の理解と習得に重点を置くとともに、ドイツ語圏の社会や文化についても学習する。	
	基礎ドイツ語 II	○	ドイツ語を用いて「聞く・読む・話す・書く」の基本的なコミュニケーション能力を養成することを目的とした基礎ドイツ語について、基礎IIではとくに「聞く・話す」の基礎を身につけるために、ペアワークやグループワークも取り入れて口頭練習に重点を置いて授業する。	
フランス語	基礎フランス語 I	○	この科目では、フランス語文法の基礎をゆっくりと学ぶ。発音、文字と綴り字の関係、基本的な文の構造を理解させ、「読む」「書く」面を中心としてフランス語を習得させる。また、正確な〈音読〉ができるようにすることを目指す。	
	基礎フランス語 II	○	この科目では、フランス語でコミュニケーションするための基礎能力を養う。CDやDVDなどの視聴覚教材も活用し、日常会話の初歩を学ぶ。「聞く」「話す」を中心とした講義ではあるが、基本的な表現は「書く」こともできるように指導する。	
中国語	基礎中国語 I	○	この科目では、中国語の入門科目として、文法事項をできるだけ分かりやすく解説した後で、簡単な中文和訳、和文中訳、中国語の「ピンイン」を漢字に、漢字を「ピンイン」に書き換える練習、中国語の文を作る練習、文法問題の練習をすることで、発音から基礎的な表現、文法、作文を習得し、読解や会話の基礎となる中国語の「読み・書く」能力を養成することを目指す。	
	基礎中国語 II	○	この科目では、日本人学習者にとって難しい中国語の有気音と無気音「-n」と「-ng」、そり舌音、前鼻音と後鼻音、声調（四声）の学習を通じて、中国語を初歩的な「リスニング、スピーキング、パフォーマンス」能力の養成を目指す。	
韓国語	基礎韓国語 I	○	この科目では、読解（読む・書く）を中心とする初修韓国語の学習に欠かせない母音字と子音字の組み立て、文章の構造、用言の活用などの文法事項の理解に重点を置く。辞書の引き方を習得し、単語の学習、初歩的な文章の翻訳、簡単な文章の作文を行う。	
	基礎韓国語 II	○	この科目では、会話（話す・聞く）を中心とする初修韓国語の学習に必要な平音・激音・濃音・鼻音・流音の正確な発音、連音化に伴うさまざまな発音の変化を学習する。正確な発音の習得に基づいて、会話文を習い、初歩的な日常会話の能力を身につけることに重点を置く。	

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
外国語科目 (基礎外国語)	大学日本語入門Ⅰ	○	この科目では、大学での勉学に支障なく参加できることを到達目標とし、大学において外国人学部正規留学生として求められる高度な日本語能力をより向上させるため、アカデミック・レベルの日本語能力の習得と定着に重点をおいて訓練を行う。	
	大学日本語入門Ⅱ	○	この科目では、大学での勉学に支障なく参加できることを到達目標とし、大学において外国人学部正規留学生として求められる高度な日本語能力をより向上させるため、アカデミック・レベルの日本語能力の習得と定着に重点をおいて訓練を行なう。	
保健体育科目	スポーツ健康マネジメント演習Ⅰ	○	この科目では、生涯健康に生きるための理論、評価、実践を学び、自身の身体に向き合うことで心と体の基礎知識を身につける。体力テスト、健康リテラシー講義、対面形式での実技を組み合わせ、総合的な学習を行う。体力テストでは文部科学省推奨の新体力テストを実施し、自己の体力現状を客観的に把握する。健康リテラシー講義では、健康に関する正しい知識を学び、健康や体力向上への意識を高める。さらに、体を動かす楽しさや、スポーツを通じた仲間との協働やコミュニケーション能力を養い、授業を通して、将来的に健康で活かに満ちた生活を送るためのスポーツライフマネジメントを考えることに取り組む。	
	スポーツ健康マネジメント演習Ⅱ	○	この科目では、生涯健康に生きるための理論、評価、実践を学び、自身の身体に向き合うことで心と体の基礎知識を身につける。体力テスト、健康リテラシー講義、対面形式での実技を組み合わせ、総合的な学習を行う。体力テストでは文部科学省推奨の新体力テストを実施し、自己の体力現状を客観的に把握する。健康リテラシー講義では、健康に関する正しい知識を学び、健康や体力向上への意識を高める。さらに、目的別に2種類の領域を設け、その中から一つの領域を選択し半年間実践することで、それぞれの領域の目的を達成する。個別スポーツ教育領域では、選択した専門種目のスキルを更に向上させるための領域とし、選択したスポーツを卒業後も長く継続できる技術を学ぶことで生涯QOLの向上に寄与することを目的とする。総合スポーツ教育領域では、専門的なスキルがなくても、誰もが気軽に身体活動を実施することができるような種目領域とし、さらに積極的に学生同士のコミュニケーションを図れるような機会を創出することで体と心の健康増進に寄与することを目的とする。	
専門教育科目 必修科目	基礎物理学実験	○	物理学の基礎、すなわち「力学」、「電磁気学」、「原子物理学」、「振動・波動」に関連する11種類の入門的実験を体験し、これらの実験を通して、これまで曖昧であった物理の基本的概念を整理し、この後受講することになる必修講義科目「力学」、「電磁気学」等の基礎科目の理解を図る。 (オムニバス形式/全15回) (4 青木珠緒、5 市田正夫、1 梅津郁朗、2 小堀裕己、9 高吉慎太郎、7 山崎篤志、3 秋宗秀俊、8 井上剛志、212 須佐元、10 田中孝明、268 松田洋平、6 山本常夏、188 長谷川能三/1回) (共同) 本実験のガイダンスを行う。また、各回の紹介を行う。 (2 小堀裕己/1回) レポートの書き方や実験の心得について説明を行う。 (5 市田正夫、1 梅津郁朗、9 高吉慎太郎、3 秋宗秀俊、10 田中孝明、188 長谷川能三/6回) (共同) 各担当者が「重力加速度を測定する」「万有引力を調べる」「電流の作る磁場を調べる」「プランク定数を求める」「超音波で波動現象を調べる」の各テーマの実験を担当する。 (4 青木珠緒、7 山崎篤志、268 松田洋平、6 山本常夏、2 小堀裕己、188 長谷川能三/6回) (共同) 各担当者が「エネルギー保存則を確かめる」「電磁誘導現象を調べる」「電子の比電荷を求める」「光の速度を求める」の各テーマの実験を担当する。また実験ノート・レポートの書き方の指導を行う。 (8 井上剛志、212 須佐元/1回) (共同) 計算物理、シミュレーションについて実習を行う。	オムニバス・共同 (一部)
	物理学実験1	○	力学、電磁気をはじめとして物理学全般にわたる項目について基礎的な実験を行う。主な実験題目は、ボルダの振り子、波の干渉、等電位線、弦の振動などである。ビデオによる予習を取り入れレポートや報告会を通してプレゼンテーション能力も養う。	共同
	物理学実験2	○	力学、電磁気をはじめとして物理学全般にわたる項目について基礎的な実験を行う。主な実験題目は物理学実験よりも高度な回折格子、光電効果、電気回路、共振現象等である。一部に指導書のない自分で考える実験も取り入れる。ビデオによる予習を取り入れレポートや報告会を通してプレゼンテーション能力も養う。	共同

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門教育科目 必修科目	物理学実験3	○	物理学実験1、2の基礎的な実験を通して身につけた技術を応用し、物理学の専門的な研究に関連する基本的な5テーマの実験を行う。より発展的な物理の内容を理解し、より高度な実験技術を習得することにより、卒業研究を自ら考えながら進めていくことのできる力を養う。受講者は4グループに分かれ、所属するグループ毎に6回ずつ各テーマを受講し、全30回で5テーマを受講する。 (オムニバス形式/全30回) (4 青木珠緒、7 山崎篤志、3 秋宗秀俊、6 山本常夏/6回) (共同) 各担当者が「半導体と光」「電子物性」「原子核物理」「素粒子の検出」の各テーマの実験を担当する。 (4 青木珠緒、5 市田正夫、3 秋宗秀俊、7 山本常夏/6回) (共同) 各担当者が「半導体と光」「自動制御と自動計測」「原子核物理」「素粒子の検出」の各テーマの実験を担当する。 (1 梅津郁朗、5 市田正夫、7 山崎篤志、7 山本常夏/6回) (共同) 各担当者が「半導体と光」「自動制御と自動計測」「電子物性」「素粒子の検出」の各テーマの実験を担当する。 (1 梅津郁朗、9 高吉慎太郎、2 小堀裕己、3 秋宗秀俊/6回) (共同) 各担当者が「半導体と光」「自動制御と自動計測」「電子物性」「原子核物理」の各テーマの実験を担当する。 (9 高吉慎太郎、2 小堀裕己、3 秋宗秀俊、6 山本常夏/6回) (共同) 各担当者が「自動制御と自動計測」「電子物性」「素粒子の検出」の各テーマの実験を担当する。	オムニバス・共同
	力学Ⅰ		「運動」とは何かについて理解し、力学の基礎である「運動の法則」、「運動量と力積」について学び、「運動とエネルギー」について相互の関係を学ぶ。応用として、「惑星の運動と中心力」について学び、力学の理解を深める。	
	力学Ⅱ		質点系および剛体のような拡がりを持つ系では回転の自由度が加わり、力のモーメントや角運動量および慣性モーメントの概念が重要となる。また、異なる座標系間の運動方程式の変換を扱い、特に回転系での遠心力やコリオリ力を含む運動について学ぶ。	
	電磁気学Ⅰ		電磁気学Ⅰでは、電磁気学の基礎にあたる静電気学について講義を行い、適宜演習を取り入れながら様々な問題を解く力をつける。電荷によって発生する電場についてガウスの法則や、静電ポテンシャルについて学ぶ。	
	電磁気学Ⅱ		電磁気学Ⅱでは、定常電流と静磁場について講義する。静磁場では静電場で得た法則に似た法則が得られるが、両者には重要な違いがある。即ち、磁場では単独の磁荷が存在せず、したがって磁場に関するガウスの法則からは磁場は発生せず、電場の渦なしの法則は磁場ではアンペールの法則となり、定常電流から静磁場が発生する。このような、電場と磁場の違いと深い関連について理解する。	
	量子論入門		本科目では、量子力学の前段階である前期量子論の黒体放射、光電効果、ボーアモデルを扱ったのちに量子力学の導入を丁寧に行い、1次元の無限井戸型ポテンシャル問題を理解して解くことができるようになることを目標とする。量子力学の理解を助けるとともに、量子力学の知識を必要とする他の専門科目の理解を助けることを目的としており、量子物理学コースの入門科目となっている。	
	天文学入門		天文学に関する最も基礎的な知識を獲得することを目的とする。具体的には太陽系の天体の運動、太陽エネルギー、一般の恒星の性質と進化、銀河系と膨張宇宙論について概要を理解する。本科目では、宇宙物理学コースへの入門科目となっている。	
	文理融合総合研究	○	本科目では、これまでに学習してきた理系の知識と手法を生かしつつ、社会的な課題の解決方法を卒業研究(卒業論文)としてとりまとめる。	

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門教育科目 選択必修科目 A	トピカル・フィジックス		<p>学科基幹教員の専門分野(原子核物理、天文学物理、理論天文、X線・ガンマ線天文、エキゾチック核物理、宇宙粒子物理、光物性工学、光・量子エレクトロニクス、半導体工学、スピネレクトロニクス、量子物性理論、量子マテリアル)の最近のトピックスをオムニバス形式で紹介し、物理学の学びの動機づけや3年次からのコース選択の参考とする。</p> <p>(オムニバス形式/全15回)</p> <p>(7 山崎篤志/2回) この講義のガイダンスおよび量子物理工学コースの研究全般についての紹介を行う。</p> <p>(10 田中孝明/1回) 宇宙物理学コースの研究全般についての紹介を行う。</p> <p>(4 青木珠緒/1回) 有機半導体の光励起状態の研究についての紹介を行う。</p> <p>(5 市田正夫/1回) 低次元系における非線形光学応答の研究についての紹介を行う。</p> <p>(1 梅津郁朗/1回) ナノ構造半導体の創成と再生可能エネルギー材料への応用についての紹介を行う。</p> <p>(2 小堀裕己/1回) スピネレクトロニクスに関連した多機能デバイス材料の物性探索について紹介を行う。</p> <p>(9 高吉慎太郎/1回) レーザーによる動的現象・物性制御の理論的研究について紹介を行う。</p> <p>(7 山崎篤志/1回) 新奇量子物質や超伝導体の電子構造と特異物性の起源に関する実験的研究について紹介を行う。</p> <p>(3 秋宗秀俊/1回) 極限状態における原子核の物性について紹介を行う。</p> <p>(8 井上剛志/1回) 星の形成や超新星爆発における粒子加速現象の理論的研究について紹介を行う。</p> <p>(212 須佐元/1回) 初期宇宙での星・銀河の形成の理論的研究について紹介を行う。</p> <p>(10 田中孝明/1回) 天文衛星を使った宇宙の観測について紹介を行う。</p> <p>(268 松田洋平/1回) エキゾチック核の基礎研究と加速器開発について紹介を行う。</p> <p>(6 山本常夏/1回) 宇宙の高精度観測と爆発現象の研究について紹介を行う。</p>	オムニバス
	力学基礎		1年次の後期から始まる必修科目「力学Ⅰ、Ⅱ」に先立ち、それらの準備学習として、高校の力学分野の復習から始め、力、運動エネルギー、運動量等の力学における必須の基本概念、および微分、積分、ベクトル、行列など、力学で必要とされる基礎数学を学習する。	
	電磁気学基礎		1年次の後期から始まる必修科目「電磁気学Ⅰ、Ⅱ」に先立ち、それらの準備学習として、高校の学習で不十分な物理量のベクトルとしての数学的取り扱いから始め、電場、電位等の電磁気学における必須の基本概念を学習する。	
	振動・波動		振動と波動の現象は力学・電磁気学を初めとする物理学の領域だけでなく、工学などの分野にまで広く関連している。本科目では、振動と波動についての基礎を学び、様々な場面で現れる振動・波動現象についての理解を深め、その後の専門分野への応用につなげていく。	
	微分積分学Ⅰ		物理学において、微分積分は最も基本となる数学であり、力学・電磁気学を初めあらゆる物理学の分野で必要であり、微分積分抜きには様々な物理現象を記述することができない。本科目では、微分積分の基礎のうち、一変数関数の微分積分について学習する。	
	微分積分学Ⅱ		物理学において、微分積分は最も基本となる数学であり、力学・電磁気学を初めあらゆる物理学の分野で必要であり、微分積分抜きには様々な物理現象を記述することができない。本科目では、微分積分の基礎のうち、多変数関数の微分積分について学習する。	
	線形代数学Ⅰ		物理学において線形代数学は、微分積分学に並んで重要な数学である。本科目では、行列の概念を利用した連立一次方程式の解法とその背景にあるベクトル空間の概念について学ぶ。この概念は、特に量子力学などで重要となる。	
	線形代数学Ⅱ		物理学において線形代数学は、微分積分に並んで重要な数学である。本科目では、線形代数学Ⅰに引き続き、行列式の概念とその応用、および正方行列の対角化とその応用について学ぶ。この手法は、特に量子力学などで重要となる。	

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門教育科目	選択必修科目 A	プログラミング・AIのためのIT入門	本科目では、コンピュータを初めて使用する学生に、コンピュータの仕組みやWindowsについての基本的な知識を習得するとともに、科学技術計算の初歩を経験し、プログラミング・AIに関するよりアドバンスなコンピュータ科目を学ぶための基礎固めを行う。	共同
		ベクトル解析	物理学でよく用いられる数学的な道具を体系的に習得することを目標とする。数学的なスキルを身につけることにより、様々な物理現象の理解が容易になる。本科目では、常微分方程式とベクトル解析について学習する。	
		複素関数論	本科目では、物理学で用いる数学である、複素解析とフーリエ解析を扱う。複素解析では、複素数を変数とする関数の微分・積分を学ぶ。フーリエ解析では、関数を様々な周波数の三角関数で展開するフーリエ級数展開とフーリエ変換を学び、これらの手法を応用した、偏微分方程式の解法を学ぶ。	
		解析力学	本科目では、これまでに学んできたニュートン力学をより発展させることで、どのような座標系でも同じ形に運動方程式（ラグランジュ方程式）を書くことができること、運動方程式が最小作用の原理と呼ばれるより高位の自然法則から導かれることの2つのポイントを理解し、解析力学で導入されるハミルトニアンという関数や位相空間という概念や、量子力学や統計力学を学ぶ上で欠くことのできない概念を理解することを目標にする。	
		電磁気学Ⅲ	「電磁気学Ⅲ」では、電場と磁場を統一的に表す電磁場について学ぶ。まず特殊相対性理論を用い、動いている電荷がつくる場を記述することで、電場と磁場が互いに独立でないことを理解する。そして、電磁場を定式化したマクスウェル方程式を理解する。さらに、真空中を光速で伝わる電磁波や物質中の電磁場がどのように記述されるかマクスウェル方程式を用いて学ぶ。	
		熱・統計力学	本科目では、熱力学全般と統計力学の基礎を定量的に扱う手法を学び、その手法を用いて熱現象を巨視的および微視的な観点の双方から理解する。熱力学については、概念の理解も重要であるが、応用範囲が広く、エンジンなどの熱機関、結晶成長、化学反応等の議論に有用である。さらに、環境問題では熱エネルギーの有効利用に熱力学は有用な知見を与える。統計力学については、主にカノニカル集合に焦点をあて、分配関数から自由エネルギーなどの熱力学関数の導出の方法を学ぶ。出来るだけ具体例をあげてイメージしやすいようにする。	
		プログラミング・AI実習Ⅰ	本科目では、Pythonによるプログラミングを学び、物理学の研究で必要となるコンピュータに関する基礎的能力を身につけるとともに、昨今、発展著しい人工知能(AI)技術である機械学習の基礎についても学習する。	共同
選択必修科目 B		統計力学Ⅰ	統計力学では「確率的に一番実現しそうな状態」を計算し、それによって物理系全体の（マクロな）物理量（温度、圧力など）を計算する方法を学ぶ。確率を用いた議論によって物理状態を導き出すので、力学や電磁気学とはかなり異なった新たな考え方を学ぶことになる。本科目では、ミクロカノニカル分布・カノニカル分布・古典近似の方法について理解することを目標とする。	
		統計力学Ⅱ	「統計力学Ⅰ」に引き続き、物質のミクロな構造がマクロな物理量にどのように結びつくかについて学ぶ。特に量子力学的な効果が与える影響について詳しく調べ、具体的な系に応用する。また、相転移現象についての理解も深める。	
		量子力学Ⅰ	古典力学の範囲で説明できなかった物理現象が、どのような考え方のもとで説明可能となり、それらの解釈がどのように量子力学の確立に繋がったのかを、講義形式で説明し、具体的な計算を体験しながら理解する。また、量子力学がどのような学問であるかという知識だけでなく、より専門的な内容を学ぶ際に自身で「道具として使える」量子力学の習得を目指す。	
		量子力学Ⅱ	水素原子などの中心対称ポテンシャル問題で量子化した角運動量が現れたように、微小な磁性の素であるスピンも角運動量としての性質を持つことを見る。また摂動論を中心とした近似解法や粒子の散乱理論などについても取り扱う。	
		相対性理論	本科目では、相対論の中でも特殊相対性理論について学ぶ。特殊相対性理論の理解が進むにつれて奇妙な現象も「腑に落ちる」ことを目指す。さらに、特殊相対性理論を重力を含むように拡張した一般相対性理論の概要の理解する。	

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
	電気・電子回路		電気回路理論の基礎について、最初に、直流回路におけるオームの法則、キルヒホッフの法則、直流の電力などについて学ぶ。次に、正弦波交流の取り扱いについて説明し、簡単な回路の解析法、回路の諸定理を学ぶ。最後に基本的な電子回路についても学ぶ。	
専門教育科目 選択必修科目 B	特殊関数論		物理学のさまざまな局面に現れる偏微分方程式について、その解法・性質について学ぶ。同時に、そこで現れる特殊関数に関して学ぶ。特に量子力学を中心とする物理学を理解するために必要となる曲座標、円筒座標のもとでの2階偏微分方程式の解法を理解することを目標とする。	
	物性物理学 I		物質が示す諸性質について、力学・電磁気学・量子力学・熱力学・統計力学・物理数学などの知識に基づいて考察する。本科目では、伝導電子の基本的性質、相互作用するフェルミ粒子系、周期構造内の電子、電子の運動と輸送現象を学ぶ。	
	物性物理学 II		物質が示す諸性質について、力学・電磁気学・量子力学・熱力学・統計力学・物理数学などの知識に基づいて考察する。本科目では、結晶と弾性体、弾性波、絶縁体の熱的性質、絶縁体の磁気的性質、超伝導の性質を学ぶ。	
	流体力学 I		弾性体力学および流体力学からなる連続体力学は、宇宙・地球におけるマクロな自然現象を記述する際に頻りに用いられる。本科目では、連続体力学・流体力学の基本概念を理解し、その簡単な応用を習得することを目的とする。	
	流体力学 II		私たちの世界を構成する物質には、固体、液体、気体の三態に加えて、プラズマと呼ばれる電離気体の状態が存在する。本科目では、プラズマの単一荷電粒子の運動から、プラズマの集団的振る舞い、磁化プラズマの流体としての扱いまでの基礎を学ぶ。地球周辺の宇宙空間で発生する関連現象の紹介を交えながら、具体的な現象と関連づけた理解を深めていく。	
	プログラミング・AI実習 II		機械学習は自然科学分野でなくてはならないツールになっている。本科目では、プログラミング・AI実習 I に引き続き、機械学習や自然科学分野の研究で用いられる数学とデータ解析の基礎的な手法について学習する。	共同
	英語で学ぶ物理学		物理学において英語の能力は国際会議での発表や論文執筆などにおいて重要である。この授業では「英語を学ぶ」のではなく「英語で学ぶ」ことを通じて、理工系のスキルとして必須である英語の能力を向上させるとともに、物理の授業を英語で受けることにより、海外留学への準備も行う。	
	科学英語		本科目では、理工系専攻の学生が取り組みやすい教材を用いて、専門分野の基礎語彙、聴き取り、読解、プレゼンテーション、討論などの基礎能力を伸ばす。専門分野において英語で発信する効果的なプレゼンテーションツールの作成法についても概略し、学生が実践発表を行う。	
	確率統計学 I		今後学ぶ専門科目や卒業研究において必要となる確率統計の基本について、確率の基礎概念や確率変数、代表的な分布を理解し、確率変数の和や積の平均と分散を学習する。実験によって収集したデータから何らかの結論を導出する際に用いられる統計処理について、その基礎を理解し、実行方法を習得することを旨とする。	
	確率統計学 II		今後学ぶ専門科目や卒業研究において必要となる確率統計の基本について、1次元と多次元のデータ処理を通してデータの分析手法を理解し、統計的推測（推定・検定）を学習する。実験によって収集したデータから何らかの結論を導出する際に用いられる統計処理について、その基礎を理解し、実行方法を習得することを旨とする。	
解析学 I		本科目では、解析学の基礎として実数の基本性質、極限の概念、連続関数などについて再確認し、それを踏まえ、1変数関数の微分および積分を学習する。厳密な定義や定理の証明を理解することを重要な目的とし、理論を中心として再構築を行う。そして、自明と認めてきたことや形式的な証明に止まっていた性質等に対して「なぜ」を追求し、その問いかけに対し、確証を持って説明できる力を着実に身につけることを目指す。		
解析学 II		本科目では、これまでに学習してきた微分積分の応用として、微分方程式の解法と現実問題への応用・関連を学習する。単に数学的に微分方程式が解けるようになるだけでなく、実際の現象との関連付け、求めた解の持つ意味を説明できるようになることを目指し、解法と実際の実験を行き来し、両方の理解を深める。また、微分方程式を用いた数理モデルの手法についても学ぶ。		

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
	コンピュータサイエンス		コンピュータは様々な理論や技術の集積で構成されている。これらの個々の知識の詳細は今後専門分野を学習することで習得することとなるが、本科目では、それぞれの項目について深く学ぶのではなく、これらの「情報」がどのように表現され、蓄積され、通信されているのかの基礎について示すことを目的とする。	
専門教育科目 選択必修科目B	地学通論Ⅰ		本科目では、宇宙と地球の構造や進化について学び、地学分野の研究対象や方法を理解することを目指す。講義形式を主とするが、標本セットなどを用いた岩石・鉱物の事象を観察する実習や、火山活動や天体の運動を動画で観察する活動を中心とする回もある。授業構成を「宇宙の構造と進化」、「地球の構成」、「地殻の構成」の三部に分け、宇宙の階層構造や地球の形、大気と海洋の大循環、鉱物の分類、火山活動などを扱う。	
	地学通論Ⅱ		本科目では、宇宙と地球の構造や進化について学び、地学分野の研究対象や方法を理解することを目指す。講義形式を主とするが、標本セットなどを用いた岩石・鉱物の事象を観察する実習や、火山活動や天体の運動を動画で観察する活動を中心とする回もある。授業構成を「プレートテクトニクス」、「地球と日本列島の歴史」、「恒星の種類と進化」の三部に分け、大陸移動説や海洋底拡大説、プレート境界の種類とその影響、火成活動や変成作用、日本列島の形成過程、恒星の光度や進化について学ぶ。	
	化学通論Ⅰ		物理化学、無機化学、核化学、有機化学、生化学等の化学全般の内容を解説し、様々な「物質」の分子レベルでの解釈と、私たちが観察する巨視的レベルでの性質を結び付け、現代化学の発展と現代生活との関わりについて考究する。そして、物理学や医学・生命科学との関わり合いに化学が必要であり、化学の理論と手法が自然現象の解明に有用であることをともに考究する。 化学史にはじまり、科学的測定、元素・化合物・周期表、モルと化学量論、水溶液における反応、酸化還元反応、エネルギーと化学変化といったテーマを通じて、化学の理論と手法を用い、物質のふるまいの解明のためのプロセスをマスターすることを目指す。	
	化学通論Ⅱ		物理化学、無機化学、核化学、有機化学、生化学等の化学全般の内容を解説し、様々な「物質」の分子レベルでの解釈と、私たちが観察する巨視的レベルでの性質を結び付け、現代化学の発展と現代生活との関わりについて考究する。そして、物理学や医学・生命科学との関わり合いに化学が必要であり、化学の理論と手法が自然現象の解明に有用であることをともに考究する。 化学結合の基礎、気体の性質、分子間力・液体の性質、溶液の物理的性質、化学平衡、水溶液における酸塩基平衡、有機化合物・ポリマー・生体物質といったテーマを通じて、化学の理論と手法を用い、物質のふるまいの解明のためのプロセスをマスターすることを目指す。	
	生物学通論Ⅰ		地球上の生物はすべて核酸を遺伝子として受けつぎながら、そこから必要な遺伝情報を取り出して核酸、タンパク質、炭水化物、脂質などのさまざまな機能分子を合成し、これらを巧妙に制御することで生命を維持し、増殖・進化してきた。すべての生命活動は細胞を単位として行われており、また一部の生物群は多細胞体制を進化させ組織分化を行うことで、1つの細胞では不可能な多様な機能を実現してきた。本科目では、これらの、生物に共通する生命の基本的な仕組みを学ぶ。 (オムニバス方式／全15回) (288 樋口里樹／8回) 細胞の形態や機能について解説する。 (287 樋口真之輔／7回) 生物の多様性と進化について解説する。	オムニバス
生物学通論Ⅱ		生物学と医学におけるヒトやマウスの遺伝学を中心に扱う。本科目では、毎回テーマを決めて生物学の基礎から応用としての医学、工学、社会学等の分野までの幅広い話題を提供し、特に専門外の人々にとって意外に感じられるようなテーマを解説する。各講義のテーマとして、生物学と医学の基礎から始まり、生命の起源、遺伝子の役割、進化のプロセス、放射線の影響まで幅広く探求し、科学と社会の関わりを深く理解するための知識を提供する。		

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門教育科目 選択必修科目 B	地学実験		<p>宇宙科学・天文学、大気圏の科学、固体地球物理学、地質学・古生物学など、地学分野全般にわたる実験・観測とそのデータ処理方法を習得する。授業においては、観察・実験の概念と基礎的操作の解説、レポート作成の指導を一斉授業で実施する（前期14回、後期9回）。この他に、地質野外実習（前期4回、後期4回）、地質学の応用的実習（前期2回）、天体観測（前期2回）、気象観測（後期3回）を一斉授業で実施する。また、観察・実験、観測は3グループに分割し実施する（前期12回、後期18回）。さらに、大学施設を使用し宿泊を伴う2日間の実習（地質野外実習、天体観測実習）を、集中講義（前期8回分、後期8回分）で実施する。</p> <p>（オムニバス方式／全76回）</p> <p>（90 小荒井千人／2回）※一斉授業 地学分野の観察・実験の特性を含め、地質調査の必要性と求められる基礎的知識を解説する。 （90 小荒井千人／6回）※一斉授業 岩石（火成岩、堆積岩）の成因などの解説、標本を用いた観察方法と分類方法を修得する。 （90 小荒井千人／4回） 天体観測に用いる時間の概念の解説、観測方法と用いる機器の特性と取り扱い方を教室内で実機を用いて修得する。 （90 小荒井千人、156 松本邦勝／13回）（共同）※一斉授業 自身の観察・観測で得たデータを用いて、地質調査、天体観測のデータ整理と分析方法を実践的に修得し、レポートを作成する。 （90 小荒井千人／2回） 地質学の応用的実習として立体地質図模型を作成する。 （90 小荒井千人、156 松本邦勝／3回）（共同） 気象観測用ゾンデを用いて低層大気を観測し、大気の動きを解析する。 （90 小荒井千人、156 松本邦勝、164 三木雅子／30回）（共同） 3グループに分割し、地磁気の測定と観測データを用いた解析方法の修得、天気図の作成と読み取り方の修得及び数値予報の実践、火成岩の薄片標本作製と観察、同定方法の修得、化石標本を用いた各個古生態の考察、赤道儀を用いた太陽観測、回転水槽を用いた低気圧発生メカニズムの理解について修得する。 （90 小荒井千人、156 松本邦勝／14回）（共同）※集中講義 大学宿泊施設（白川台キャンパス）周辺に分布する地層を用いて事前の授業で学んだ手法を用いて地質調査の方法を実践的に学修する（前期）。そして、修得した地質調査の手法を用いて再度調査し、同地域の古環境を復元し地史の考察を試みる（後期）。 （90 小荒井千人、156松本邦勝、164 三木雅子／2回）（共同）※集中講義 大学宿泊施設（白川台キャンパス）の天体観測に良好な環境を活かし、事前の授業で学んだ天体観測法を用いて天体観測の手法を実践的に学修する。</p>	オムニバス・共同（一部）
	基礎化学実験		<p>化学実験において、物質の定性と定量は基礎中の基礎であり、その理論の正しい理解と実験操作の意義、正確な実験技術の習得はどのような分野の化学実験を行う場合でも必須となる。本実験科目では、無機定性分析および酸塩基反応、沈殿生成反応、錯体生成反応などを用いる容量分析の各実験を行う。これにより、無機定性反応と溶液内化学平衡を理解するとともに、実験器具と薬品の取扱い、および化学実験の基本的な操作と技術を習得する。また実験ノートの書き方、レポートの書き方などについても学ぶ。</p>	共同
	基礎生物学実験		<p>本実験科目では、高等学校時代に生物に接する機会の少ない現状のもと、初めて生物学を学ぼうとする人々にとって、「自然から学ぶ」姿勢を養う目的で実験を設定している。はじめに、ミクロとマクロの形態観察を中心とした実験を行い、次いで、生理的また生化学的手法による生体反応や生体成分の実験を行う。生体の基本構造の観察、理解に始まって、その機能的な面まで、系統的に理解し、専門的な段階に移行する基礎段階として位置付け、各回の実験を通じて生体の基本構造や機能の理解を深める。</p> <p>（オムニバス方式／全45回）</p> <p>（40 向 正則／3回） 顕微鏡の取り扱いに関する講義を行う。 （36 本多大輔／3回） 淡水産プランクトンの観察を行う。 （26 今井博之／3回） 生物学で使用するガラス器具の取扱いについての説明を行う。 （71 武田鋼二郎／3回） 様々な微生物の観察を行う。 （63 上田晴子／3回） 植物組織の観察を行う。 （68 渡辺洋平／3回） 酵素の活性についての実験を行う。 （75 久原 篤、257 太田 茜／3回）（共同） 土壌生物の観察を行う。 （40 向 正則／3回） ショウジョウバエの観察を行う。 （99 後藤彩子／3回） アリの観察を行う。 （35 日下部岳広／3回） ホヤの観察を行う。 （288 樋口里樹／12回） シロアリ腸内寄生虫、ゾウリムシ、ユープロテス、動物組織の観察を行う。 （40 向 正則／3回） まとめ</p>	オムニバス・共同（一部）

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門教育科目 選択必修科目 B	素粒子物理学		自然界にある全ての物質は基本的粒子である素粒子によって構成されている。素粒子物理学はこれらの素粒子の基本的な性質を明らかにし、物質とは何であるか、また宇宙はどのようにして始まったのかなどを解明する先端の学問である。本科目では、素粒子の理論と実験の基礎的な問題を取りあげ、その全体像を把握できるようにする。また、最先端の研究にも触れることにより、興味を喚起する。	隔年
	原子核物理学		「原子核物理学」では、陽子と中性子を構成要素とする有限量子多体系の基本的な描像について学習する。講義の前半では、原子核が見せる多様な側面を説明するために作られてきた模型について学ぶ。後半では、原子核と粒子が衝突して起こる様々な反応を説明するために作られてきた模型について学ぶ。	隔年
	天文学概論		本科目では、まず光度や光のスペクトル、また天体までの距離の測定法といった天文学を学ぶ上で必要不可欠となる基礎を学ぶ。さらに、宇宙の中で星がどのようにして生まれるのかについて、天体の動的な性質を記述する宇宙流体力学の基礎とともに学んでいく。	隔年
	宇宙物理学		現在の宇宙物理学の基礎となる事項についてその概要を学ぶ。まずビッグバン宇宙論の枠組み、宇宙の歴史と宇宙の構造の大きな形成について学び、次いで銀河の形成、星の構造の理論について学ぶ。さらに、ブラックホールや白色矮星といった極限的な天体についても学ぶ。	隔年
	量子線計測学		量子線（放射線、高いエネルギーをもった粒子）の計測は、原子核物理学、高エネルギー物理学の研究にとどまらず、環境、医療など幅広い分野で用いられる技術である。本科目では、量子線の計測に用いられる測定器の動作原理、特徴、用途を解説する。また、実験により得られた量子化された実験データの物理学的、統計学的な解釈についても考察する。	隔年
	電子物性工学		電子物性は物性物理学を形成する重要な分野のひとつである。本科目では、電子物性の中でも、特に、超伝導と超流動、磁気的性質、誘電的性質に焦点をあて、その現象と物理的機構についてできるだけわかりやすく説明する。	隔年
	光・量子エレクトロニクス		本科目では、光そのものの性質に始まり、光と物質との相互作用、レーザーの基礎、光の検出法や光の強度・偏光・波長の制御方法などについて学ぶ。さらに、これらを活用した測定技術や身の回りの機器についての理解を深める。	隔年
	量子情報工学		本科目では、そもそも情報とは何かということから始めて、情報の単位であるビットが古典と量子の場合でどのような違いが生じるのかを議論し、量子的なビットを用いて演算を行う方法や、それを実際にどのような物理系に実装すればよいのかについて学ぶ。	隔年
	光物性工学		本科目では、物質を構成する原子・分子のスペクトルから導入し、固体中の不純物のスペクトル、固体のスペクトルを取り上げる。物質内の電子は特有のエネルギー準位を持つが、これがどのようなしくみで決まっているか、その結果スペクトルがどのような特徴を表すかを解説する。これらを基礎として光通信、発光ダイオード、太陽電池等の設計への応用に関しての実践的な講義も行う。 (4 青木珠緒/14回) 原子から始まり分子、固体について、物質中の電子のエネルギー準位、および、その光学スペクトルの特徴について講義する。 (4 青木珠緒、179 石橋明彦/1回) (共同) 半導体レーザ、LEDなど光デバイスの基礎から応用までのレビューを開発者の視点から講義する。	隔年、共同（一部）
	半導体デバイス		半導体デバイスとは半導体を用いた電子素子のことであり、パソコンの中核的な部品として使用されているだけでなく、太陽電池、発光ダイオード、各種センサーとして広い分野で使用されている。本科目では、実際の半導体デバイスを題材としその構造と動作原理を物理学的な立場から解説する。半導体を例にとり現代物理学を学ぶのが大きな目的である。 (1 梅津郁朗/14回) 半導体デバイスの構造と動作原理を物理学的な立場から解説する (1 梅津郁朗、155 藤原伸夫/1回) (共同) 半導体デバイスの最先端の製造過程を解説する。	隔年、共同（一部）
	博物館資料論		博物館活動の根幹の一つである、資料の収集・整理と整理の実際、資料の活用の方などを学び、その基礎知識と技術の習得を図ることを目的とする。具体的には週間講義（学内）と博物館・美術館（学外）での現地講義を行う。	共同
博物館情報・メディア論		博物館運営と情報・メディアとの関わり、その意義を理解する。収集・管理・研究・展示・広報等、博物館の各運営業務における情報とは何か、そしてメディアが果たす役割や可能性、そして課題について学び考察する。VRやAR等、メディアの発展に伴って、今日の博物館を取り巻く環境は急速に変化しつつあり、そのような動向を捉え、自分なりのメディアリテラシーを身に付け、思考・活用するための基礎的な能力を養う。	共同	

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門教育科目	共通応用演習Ⅰ	○	本科目では、特許発明、営業秘密、商標（マーク）等の知的財産に関連するTopicsを取り上げ、背景や事実関係の把握、論点の把握、法的な解決方法を含めどのように解決しようとしているかをリサーチすることで、日々にけなく見聞きしている法的なTopicsをより深く理解するためのサーチ方法やプレゼンテーションの仕方等について学ぶことを中心とする。	
	共通応用演習Ⅱ	○	これまでに学習してきた理系の知識と社会的な課題の解決方法のひとつである法的な解決手法を融合して、社会的課題をサーチし、課題の背景や事実関係の把握、論点の把握、解決方法を含めどのように解決しようとしているかをリサーチすることで、社会的課題についてより深く理解するためのリサーチ方法やプレゼンテーションの仕方等について学習する。	
	文理融合リサーチ	○	文理融合総合研究の準備のための講義科目である。各研究室に所属し、指導を受ける。その上で、4年次での文理融合総合研究を履修する際にどのような研究テーマを選ぶかを考え、そのためにはどのような知識や技術が必要かを理解して身につける。	共同
少人数・参加型科目	数学演習Ⅰa		数学は物理学を理解する上で欠かせないツールであり、大学での物理学の学びには必要不可欠である。本科目では、大学で物理学を理解する上で必要となる基礎的な数学力や計算力を具体的な物理の問題演習を通じて身につける。	共同
	数学演習Ⅰb		数学は物理学を理解する上で欠かせないツールであり、大学での物理学の学びには必要不可欠である。本科目では、大学で物理学を理解する上で必要となる基礎的な数学力や計算力を具体的な物理の問題演習を通じて身につける。	共同
	力学・電磁気学演習Ⅰ		必修科目である力学Ⅰ、電磁気学Ⅰを理解する上で必要な数学的知識と計算力を実際に演習問題を解くことにより身につける。特に力学Ⅰと電磁気学Ⅰの授業で現れる微分積分および微分方程式やベクトルおよびベクトル解析などの力をつける。 (オムニバス形式／全15回) (2 小堀裕己／7回) 力学Ⅰの授業の進度に合わせた演習を行う。 (7 山崎篤志／7回) 電磁気学Ⅰの授業の進度に合わせた演習を行う。 (2 小堀裕己、7 山崎篤志／1回) (共同) 理解度の確認を行う。	オムニバス・共同 (一部)
	力学・電磁気学演習Ⅱ		必修科目である力学Ⅱ、電磁気学Ⅱを理解する上で必要な数学的知識と計算力を実際に演習問題を解くことにより身につける。特に力学Ⅱと電磁気学Ⅱの授業で現れる微分積分および微分方程式やベクトルおよびベクトル解析などの力をつける。 (オムニバス形式／全15回) (6 山本常夏／7回) 力学Ⅱの授業の進度に合わせた演習を行う。 (5 市田正夫／7回) 電磁気学Ⅱの授業の進度に合わせた演習を行う。 (6 山本常夏、5 市田正夫／1回) (共同) 理解度の確認を行う。	オムニバス・共同 (一部)
	ワークショップⅡa		これまでに受講した講義科目（力学、電磁気学、数学関連の科目）の基礎学力を強化する。物理を理解する上で必要な知識と計算力を、実際に演習問題を解くことにより身につける。各自の理解度に応じて基礎から進んだ内容まで学習する。	共同
	ワークショップⅡb		これまでに受講した講義科目（力学、電磁気学、数学関連の科目）の基礎学力を強化する。物理を理解する上で必要な知識と計算力を、実際に演習問題を解くことにより身につける。各自の理解度に応じて基礎から進んだ内容まで学習する。	共同
	ワークショップⅢa		これまでに受講した講義科目（力学、電磁気学、統計力学、量子力学、数学関連の科目）の基礎学力を強化する。物理を理解する上で必要な知識と計算力を実際に演習問題を解くことにより身につける。各自の理解度に応じて基礎から進んだ内容まで学習する。	共同
	ワークショップⅢb		これまでに受講した講義科目（力学、電磁気学、統計力学、量子力学、数学関連の科目）の基礎学力を強化する。物理を理解する上で必要な知識と計算力を、実際に演習問題を解くことにより身につける。各自の理解度に応じて基礎から進んだ内容まで学習する。	共同

科目区分	授業科目の名称	主要授業科目	講義等の内容	備考
専門教育科目 少人数・参加型科目	ワークショップIVa		これまでに受講した講義科目（力学、電磁気学、統計力学、量子力学、数学関連の科目）の基礎学力を強化する。物理を理解する上で必要な知識と計算力を実際に演習問題を解くことにより身につける。各自の理解度に応じて基礎から進んだ内容まで学習する。	共同
	ワークショップIVb		これまでに受講した講義科目（力学、電磁気学、統計力学、量子力学、数学関連の科目）の基礎学力を強化する。物理を理解する上で必要な知識と計算力を実際に演習問題を解くことにより身につける。各自の理解度に応じて基礎から進んだ内容まで学習する。	共同
	天体観測ワークショップ		本科目では、観測天文学を実践を通して学ぶ。まず大学において事前講義・学習を行い、観測天文学とは何たるかを学び、観測テーマさらにそのテーマを調べるにあたって最適な観測天体を学生自身が選択し、観測計画を立案し観測準備を行う。その後、天体観測所に数日間滞在し、実際に望遠鏡を動かし、天体観測、さらに得られた観測データの解析に基づき、その結果の解釈を行い、報告書を完成させる。以上の過程を通して天文学・宇宙物理学における観測的研究を体験し、観測計画立案から観測データ取得、解析、さらには結果の解釈という一貫した観測天文学を学ぶ。	共同
	プログラミング・AI実践		本科目では、さまざまな物理現象を題材として取り上げ、その方程式をコンピューターを使って数値的に解き、可視化する。またAIを用いたデータ解析の実践的な演習を行う。その過程で物理現象を感覚的に理解するとともに、数値解析の手法・アルゴリズムについても学び、より進んだ勉強、研究のための糧を得る。	共同

(注)

- 開設する授業科目の数に応じ、適宜枠の数を増やして記入すること。
- 専門職大学等又は専門職学科を設ける大学若しくは短期大学の授業科目であって同時に授業を行う学生数が40人を超えることを想定するものについては、その旨及び当該想定する学生数を「備考」の欄に記入すること。
- 私立の大学の学部若しくは大学院の研究科又は短期大学の学科若しくは高等専門学校校の収容定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。
- 「主要授業科目」の欄は、授業科目が主要授業科目に該当する場合、欄に「○」を記入すること。なお、高等専門学校校の学科を設置する場合は、「主要授業科目」の欄に記入せず、斜線を引くこと。
- 高等専門学校校の学科を設置する場合は、高等専門学校校設置基準第17条第4項の規定により計算することのできる授業科目については、備考欄に「☆」を記入すること。

学校法人甲南学園 設置認可等に関わる組織の移行表

令和7年度	入学定員	編入学定員	収容定員	令和8年度	入学定員	編入学定員	収容定員	変更の事由
甲南大学				甲南大学				
文学部				文学部				
日本語日本文学科	70	-	280	日本語日本文学科	70	-	280	
英語英米文学科	90	-	360	英語英米文学科	90	-	360	
社会学科	90	-	360	社会学科	90	-	360	
人間科学科	95	-	380	人間科学科	95	-	380	
歴史文化学科	60	-	240	歴史文化学科	60	-	240	
理工学部				理工学部				
物理学科	50	-	200	物理学科	0	-	0	令和8年4月学生募集停止
生物学科	45	-	180	生物学科	45	-	180	
機能分子化学科	60	-	240	機能分子化学科	0	-	0	令和8年4月学生募集停止
				<u>宇宙物理学・量子物理工学科</u>	45	-	180	学科の設置(届出)
				<u>物質化学科</u>	45	-	180	学科の設置(届出)
				<u>環境・エネルギー工学科</u>	40	-	160	学科の設置(届出)
経済学部				経済学部				
経済学科	345	-	1,380	経済学科	335	-	1,340	定員変更(△10)
法学部				法学部				
法学科	345	-	1,380	法学科	345	-	1,380	
(内、グローバル教養学環の数)	(15)	-	(60)	(内、グローバル教養学環の数)	(15)	-	(60)	
経営学部				経営学部				
経営学科	345	-	1,380	経営学科	335	-	1,340	定員変更(△10)
知能情報学部				知能情報学部				
知能情報学科	120	-	480	知能情報学科	120	-	480	
マネジメント創造学部				マネジメント創造学部				
マネジメント創造学科	180	-	720	マネジメント創造学科	180	-	720	
(内、グローバル教養学環の数)	(10)	-	(40)	(内、グローバル教養学環の数)	(10)	-	(40)	
フロンティアサイエンス学部				フロンティアサイエンス学部				
生命化学科	45	-	180	生命化学科	45	-	180	
グローバル教養学環	(25)	-	(100)	グローバル教養学環	(25)	-	(100)	
計	1,940	-	7,760	計	1,940	-	7,760	
甲南大学大学院				甲南大学大学院				
人文科学研究科				人文科学研究科				
日本語日本文学専攻(M)	5	-	10	日本語日本文学専攻(M)	5	-	10	
日本語日本文学専攻(D)	2	-	6	日本語日本文学専攻(D)	2	-	6	
英語英米文学専攻(M)	6	-	12	英語英米文学専攻(M)	6	-	12	
英語英米文学専攻(D)	3	-	9	英語英米文学専攻(D)	3	-	9	
応用社会学専攻(M)	5	-	10	応用社会学専攻(M)	5	-	10	
応用社会学専攻(D)	2	-	6	応用社会学専攻(D)	2	-	6	
人間科学専攻(M)	10	-	20	人間科学専攻(M)	10	-	20	
人間科学専攻(D)	3	-	9	人間科学専攻(D)	3	-	9	
自然科学研究科				自然科学研究科				
物理学専攻(M)	12	-	24	物理学専攻(M)	12	-	24	
物理学専攻(D)	3	-	9	物理学専攻(D)	3	-	9	
化学専攻(M)	12	-	24	化学専攻(M)	12	-	24	
生物学専攻(M)	5	-	10	生物学専攻(M)	5	-	10	
生命・機能科学専攻(D)	3	-	9	生命・機能科学専攻(D)	3	-	9	
				<u>環境・エネルギー工学専攻(M)</u>	3	-	6	専攻の設置(届出)
				<u>環境・エネルギー工学専攻(D)</u>	1	-	3	専攻の設置(届出)
知能情報学専攻(M)	10	-	20	知能情報学専攻(M)	10	-	20	
知能情報学専攻(D)	2	-	6	知能情報学専攻(D)	2	-	6	
社会科学研究科				社会科学研究科				
経済学専攻(M)	10	-	20	経済学専攻(M)	10	-	20	
経営学専攻(M)	10	-	20	経営学専攻(M)	10	-	20	
経営学専攻(D)	3	-	9	経営学専攻(D)	3	-	9	
フロンティアサイエンス研究科				フロンティアサイエンス研究科				
生命化学専攻(M)	15	-	30	生命化学専攻(M)	15	-	30	
生命化学専攻(D)	2	-	6	生命化学専攻(D)	2	-	6	
計	123	-	269	計	127	-	278	